# やまなみ

## 第 17 号

岳人あびこ

UJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

# やまなみ

## 第１７号

# やまなみ　第１7号　目　次

やまなみ第17号発刊に寄せて　　平成30年度会長　高橋芳恵

平成29年(2017年)3月～平成30年(2018年)2月


| No | 山名 | 山域 | 月日 | 執筆者 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 989 | 谷川岳 | 谷川岳 | 3/12 | 小林　隆 | 1 |
| 990 | 扇山～百蔵山 | 中央沿線 | 3/18 | 高橋　富美子 | 3 |
| 991 | 権現山～ミツバ岳 | 丹沢 | 3/20 | 矢澤　節雄<br>矢野　裕子 | 4 |
| 992 | 樋曽山～角田山 | 上越 | 3/29 | 高橋　富美子 | 6 |
| 993 | 身延山 | 身延 | 3/29 | 大平　太計夫 | 7 |
| 994 | 甲州高尾山　新人歓迎山行 | 笹子 | 4/2 | やまたん | 8 |
| 995 | 愛宕山～難台山～吾国山 | 茨城 | 4/16 | 藤家　一仁 | 11 |
| 996 | 御正体山 | 道志 | 4/22 | 北川　勝久 | 12 |
| 997 | 三頭山 | 奥多摩 | 4/23 | 高橋　芳恵<br>矢澤　節雄 | 13 |
| 998 | 蕎麦粒山 | 奥多摩 | 4/29 | 矢野　貞子 | 15 |
| 999 | 身延山・下部温泉～毛無山～朝霧高原 | 富士周辺 | 5/7-8 | 大畠　清江 | 16 |
| 1000 | 高水三山　高水山～岩茸石山～惣岳山 | 奥多摩 | 5/14 | 桐生　恭子 | 17 |
| 1001 | 雲取山 | 奥秩父 | 5/21-22 | 矢野　裕子 | 19 |
| 1002 | 岩山 | 前日光 | 5/27 | 村松　敏彦 | 20 |
| 1003 | 飯士山・平標山 | 谷川 | 5/27-28 | 小林　隆 | 21 |
| 1004 | 雲取山～酉谷山 | 奥多摩 | 5/29-30 | 高橋　芳恵 | 22 |
| 1005 | 男体山 | 奥日光 | 5/31 | 小野　泰子 | 24 |
| 1006 | 安達太良山　　市民山行 | 福島 | 6/4 | やまたん | 25 |
| 1007 | 切込湖～刈込湖(テント泊)1000回達成記念山行 | 日光 | 6/17-18 | 齊田　記代美 | 31 |
| 1008 | 切込湖～刈込湖1000回達成記念山行 | 日光 | 6/17 | 田嶋　まり | 33 |
| 1009 | 釈迦ヶ岳～黒岳 | 御坂山塊 | 6/24 | 矢野　貞子 | 34 |
| 1010 | 上州武尊山 | 上州 | 6/24-25 | 小林　安代 | 35 |
| 1011 | 薬師岳・早池峰山 | 北上山地 | 7/5-7 | 佐藤　清宏 | 37 |
| 1012 | 南八ヶ岳縦走(硫黄岳～横岳～赤岳) | 八ヶ岳 | 7/7-8 | 藤家　一仁 | 39 |
| 1013 | 霧ヶ峰・車山 | 霧ヶ峰 | 7/14-15 | 本田　愛子 | 41 |
| 1014 | 玉原湿原～鹿俣山 | 上信越 | 7/22 | 小島　洋子 | 43 |

| No | 山名 | 山域 | 月日 | 執筆者 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1015 | 森吉山・赤水渓谷・秋田駒ケ岳 | 秋田県 | 7/28-30 | 外崎　蓮 | 44 |
| 1016 | 雪倉岳～朝日岳 | 北アルプス | 7/30-8/1 | 大山　冬臣 | 46 |
| 1017 | 烏帽子岳～水晶岳～鷲羽岳～槍ケ岳 | 北アルプス | 8/2-7 | 矢野　貞子<br>桐生　恭子<br>小島　洋子 | 50 |
| 1018 | 赤石岳～聖岳 | 南アルプス | 8/10-13 | 室崎　宏治<br>郷田　進 | 53 |
| 1019 | 利尻山・礼文岳 | 北海道 | 8/23-26 | 佐藤　清宏 | 55 |
| 1020 | 鳥海山 | 鳥海山 | 8/24-26 | 深草　茂美 | 57 |
| 1021 | 巻機山・飯士山 | 南魚沼 | 9/23-24 | 板倉　淳一 | 60 |
| 1022 | 南岳～槍ケ岳 | 北アルプス | 9/29-10/2 | 森岡　正和 | 61 |
| 1023 | 立山三山　雄山～大汝山～富士の折立 | 立山 | 10/1-2 | 中村　育子 | 63 |
| 1024 | 鈴ケ岳～地蔵岳　　公開登山 | 上州 | 10/8 | 外崎　蓮 | 65 |
| 1025 | 榛名　相馬山 | 上州 | 10/9 | 渡辺　清子 | 66 |
| 1026 | 出湯温泉～五頭山～村杉温泉 | 越後 | 11/3-4 | 吉澤　こう | 68 |
| 1027 | 手賀沼クリーンハイク及びロープワーク | 柏 | 11/5 | 外崎　蓮 | 69 |
| 1028 | 三ツ峠山 | 富士周辺 | 11/11 | 田嶋　まり | 71 |
| 1029 | 三頭山 | 奥多摩 | 11/19 | 村越　百々代 | 73 |
| 1030 | 高山不動尊～顔振峠 | 奥武蔵 | 11/26 | 林　敏生 | 74 |
| 1031 | 巣雲山・天城連山縦走(万二郎岳～万三郎岳) | 伊豆 | 11/26-27 | 矢野　貞子 | 76 |
| 1032 | 石割山　忘年山行 | 富士周辺 | 12/3 | 新谷　直恵<br>やまたん | 77 |
| 1033 | 堂平山～笠山 | 奥武蔵 | 12/17 | 蟹江　和子 | 79 |
| 1034 | 安戸山・高原山 | 日光 | 12/23-24 | 武内　勇二 | 81 |
| 1035 | 両神山 | 奥秩父 | 12/24 | 大山　冬臣 | 83 |
| 1036 | 百蔵山 | 中央線沿線 | 1/6 | 林　敏生 | 85 |
| 1037 | 篠井富屋連峰（宇都宮アルプス） | 栃木 | 1/13 | 小島　洋子 | 86 |
| 1038 | 不老山 | 丹沢 | 1/20 | 森岡　正和 | 87 |
| 1039 | 鋸山･石尊山～麻綿原高原　　県連房総ロングハイク | 房総 | 1/27-28 | 郷田　進 | 88 |
| 1040 | 北八ヶ岳　天狗岳 | 北八ヶ岳 | 1/28-29 | 田嶋　まり | 90 |
| 1041 | 乗鞍高原･上高地 | 北アルプス | 1/30-31 | 外崎　蓮 | 92 |
| 1042 | 塔ノ岳～丹沢山 | 丹沢 | 2/22-23 | 高橋　芳恵 | 94 |
| 1043 | 仏果山　新人卒業山行 | 西丹沢 | 2/24 | 板倉　淳一 | 95 |
| 1044 | 伊東アルプス・真鶴半島 | 伊豆 | 2/24-26 | 松下　寿男<br>箕輪　完二 | 97 |

# やまなみ　第１７号　目　次

平成30年(2018年)3月～平成31年(2019年)2月


| No | 山名 | 山域 | 月日 | 執筆者 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1045 | 白馬乗鞍岳 | 白馬 | 3/3-4 | 村越　百々代 | 99 |
| 1046 | 棒ノ折山～岩茸石山～惣岳山 | 奥多摩 | 3/18 | 石塚　あさ子 | 100 |
| 1047 | 火打石岳～明神ヶ岳 | 箱根 | 3/24 | 常井　猛 | 102 |
| 1048 | 神成山　新人歓迎山行 | 上州 | 4/8 | やまたん | 103 |
| 1049 | 宝篋山　　県連ウイークデー山行 | 筑波 | 4/12 | 小島　洋子 | 107 |
| 1050 | 鳴虫山 | 日光 | 4/22 | 林　敏生 | 108 |
| 1051 | 棒ノ折山～蕎麦粒山 | 奥多摩 | 4/22 | 矢野　貞子 | 109 |
| 1052 | 南大菩薩縦走 | 大菩薩 | 4/28 | 深草　茂美 | 110 |
| 1053 | 大杉谷(日出ケ岳)～大台ヶ原 | 大台ヶ原 | 5/6-8 | 白崎　哲史 | 112 |
| 1054 | 天城越え(万次郎岳～万三郎岳)・幕山 | 伊豆 | 5/13-14 | 室崎　宏治 | 114 |
| 1055 | 斑尾山～信越トレイル | 信越 | 5/26-27 | 矢野　朝水 | 115 |
| 1056 | 佐渡　金北山縦走 | 佐渡 | 5/27-29 | 小野　泰子 | 117 |
| 1057 | 大菩薩嶺～大菩薩峠　　市民山行 | 大菩薩 | 6/3 | やまたん | 120 |
| 1058 | 恵みの森(大滝沢)・山神杉 | 只見 | 6/15-16 | 小林　安代<br>田嶋　まり | 125 |
| 1059 | 三ノ木戸山 | 奥多摩 | 6/23 | 村越　百々代 | 127 |
| 1060 | 鳳凰三山(薬師岳～観音岳～地蔵岳) | 南ア北部 | 6/23-25 | 蟹江　和子 | 129 |
| 1061 | 蓼科山 | 八ヶ岳 | 6/29-30 | 小島　洋子 | 131 |
| 1062 | 檜洞丸 | 丹沢 | 6/30 | 一氏　照美 | 133 |
| 1063 | チバニアン～大福山 | 房総 | 7/2 | 箕輪　完二 | 134 |
| 1064 | 美ヶ原～王ヶ頭 | 北ア前衛 | 7/8-9 | 中村　八重子 | 136 |
| 1065 | 湯ノ沢峠～ハマイバ丸～コンドウ丸～景徳院 | 南大菩薩 | 7/12 | 吉澤　こう | 137 |
| 1066 | 大雪山(黒岳～旭岳)・十勝岳 | 北海道 | 7/18-21 | 石塚　あさ子<br>佐藤　清宏 | 138 |
| 1067 | 鳳凰三山 | 南ア北部 | 7/20-21 | 常井　猛 | 140 |
| 1068 | 塩見岳 | 南ア中央 | 7/26-28 | 佐藤　清宏 | 142 |
| 1069 | 会津駒ヶ岳 | 南会津 | 7/27-28 | 藤家　一仁 | 144 |
| 1070 | 蓮華岳～北葛岳～七倉岳～船窪岳～不動岳～前沢岳～烏帽子岳 | 北アルプス | 8/2-5 | 矢野　貞子 | 146 |
| 1071 | 平ヶ岳 | 奥只見 | 8/19-20 | 武内　勇二 | 148 |
| 1072 | 燕岳～常念岳 | 北アルプス | 8/26-29 | 外崎　蓮 | 149 |
| 1073 | 聖岳 | 南アルプス | 9/20-23 | 渡邉　香奈子 | 151 |
| 1074 | 筑波山 | 常磐 | 9/23 | 室崎　宏治 | 153 |
| 1075 | 白馬鑓ケ岳～白馬岳～小蓮華岳 | 北アルプス | 9/26-29 | 武内　勇二 | 155 |

| No | 山名 | 山域 | 月日 | 執筆者 | 頁 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1076 | 天覧山～多峯主山～巾着田 | 奥武蔵 | 9/19･9/28 | 矢野　朝水 | 158 |
| 1077 | 針ノ木岳 | 北アルプス | 10/4-6 | 深草　茂美<br>森岡　正和 | 159 |
| 1078 | 那須岳(茶臼岳) | 那須 | 10/7-8 | 吉澤　こう | 162 |
| 1079 | 仙丈ヶ岳 | 南アルプス | 10/12-13 | 桐生　恭子 | 163 |
| 1080 | 硫黄岳 | 八ヶ岳 | 10/13-14 | 高橋　富美子 | 165 |
| 1081 | 奥久慈男体山 | 奥久慈 | 10/21 | 小島　徹 | 166 |
| 1082 | 宮之浦岳 | 屋久島 | 10/30-11/3 | 林　敏生 | 167 |
| 1083 | 日の出山～御嶽山～大岳山～馬頭刈尾根 | 奥多摩 | 11/2-3 | 矢野　朝水 | 169 |
| 1084 | 桃山公園ゲレンデ | 手賀沼周辺 | 11/3 | 村松　敏彦 | 171 |
| 1085 | 明神ヶ岳・湯坂路(鎌倉古道) | 箱根 | 11/9-10 | 齊田　記代美 | 172 |
| 1086 | 本仁田山 | 奥多摩 | 11/11 | 佐藤　清宏 | 173 |
| 1087 | 岩殿山 | 中央沿線 | 11/17 | 中村　八重子 | 175 |
| 1088 | 高川山　　公開登山 | 中央沿線 | 11/18 | 森岡　正和<br>やまたん | 176 |
| 1089 | 飯盛山 | 八ヶ岳 | 11/25 | 板倉　淳:一 | 178 |
| 1090 | 宇都宮アルプス(榛名山～男体山～本山)　忘年山行 | 下野大野・大谷 | 12/2 | やまたん | 179 |
| 1091 | 手賀沼クリーンハイク | 我孫子 | 12/9 | 松下　寿男 | 181 |
| 1092 | 金時山 | 箱根 | 12/12 | 渡辺　清子 | 182 |
| 1093 | 鍋割山 | 丹沢 | 12/15 | 小島　徹 | 184 |
| 1094 | 曲岳・茅ヶ岳 | 南ア前衛 | 12/22-23 | 矢野　貞子 | 185 |
| 1095 | 丸山 | 奥武蔵 | 1/12 | 中村　育子 | 187 |
| 1096 | **チバニアン～養老渓谷・東大演習林　房総ロングハイク** | 房総 | 1/26-27 | 箕輪　完二<br>本田　愛子 | 188 |
| 1097 | 幕山～南郷山 | 湯河原 | 2/13 | 新谷　直恵 | 191 |
| 1098 | 長瀞アルプス　宝登山 | 秩父 | 2/16 | 矢野　朝水 | 192 |
| 1099 | 権現山～弘法山　　新人卒業山行 | 丹沢 | 2/24 | 松下　寿男 | 194 |
| 1100 | 黒檜山 | 赤城 | 2/24 | 小林　安代 | 195 |
| 1101 | 高松山 | 丹沢 | 2/24 | 室崎　宏治 | 196 |

# やまなみ第１７号発刊に寄せて

平成 31 年度会長　高橋芳恵

岳人あびこは 1996 年山の会を発足し、会津朝日岳を一座目としてやまなみに記録され、23 年を経て 1100 余座に達しています。これは何もないところから会を設立された先輩たちの先見性と会を継続するためにかけた熱意のすごさ、そしてそれを支える創立以来、現在までの会員の皆さんの運営への尽力と各位の能力の高さによる成果の結果と言えます。決してお世辞ではなく「よくこれだけのマンパワーが集まったなあ」と常日頃から感激しています。そして現在の岳人あびこは、さらにその力がますます高まってきていることは誠に心強いことです。

時折、既刊のやまなみを開いてみる時、過去の山行の様子が「そうだ、そうだ」と鮮明によみがえってきます。私たちの山旅は企画・計画・実施・報告・記録・振り返りを私たち自らが行っています。会報誌「やまたん」、文集「やまなみ」はいつもその経験や実施記録を整理して、必要な時には情報の引き出しの中から楽しさを提供してくれる大切な役目を果たしてくれています。人生の黄金期といえる中高年期のこの時に、巡り合った素晴らしい山々や山仲間の皆さんの存在は私たちが生きる上でどれほど貴重であるかを今回の「やまなみ 17 号」は私たちに語りかけてくれています。この 2 年間の記録をまとめ、発行するために林やまなみ編集長を中心に矢野会報部長はじめ会報部担当者の皆さんのご苦労、ご尽力はいかばかりであったかと感謝の念に堪えません。さらに執筆いただいた会員の皆様、立派に完成したこの 1 冊を書棚に加えて大切にしっかりと活用させていただきます。

本当にありがとうございました。

# 平成２９年度

平成２９年(2017 年)３月～

平成３０年(2018 年)２月

＜９８９＞

# 谷川岳
（1,963m）

小林　隆

頂上に続く人の列が１本の線に･･･

前年につづき計画された谷川岳積雪期山行に参加した。集合場所の谷川岳ロープウェイ土合口駅はすでに大混雑。乗車券購入の列がロールケーキの渦のように幾重にも回っている。ピッケル、わかんをザックに括り付けた登山者だけではなく、スノーボードやスキーを持つ若者が大勢いる。そのウェアもカラフルで混雑期のスキー場ゲレンデのようだ。

40 分ほど待ってようやくロープウェイに乗り天神平へ。そこには雪と青空が織りなす絶景が待っていた。週半ばに強い寒気を伴った低気圧が通過して、山岳地域では 20 ㎝程の積雪があり山々は再び美しく雪に覆われていた。その後に張り出した高気圧は全国的に晴天をもたらし、特にこの日関東甲信越は高気圧の中心に入り無風快晴、まさに“どピーカン”。

天神平スキー場の東側スカイラインに目指すトマの耳、オキの耳を遠望しながらアイゼンを装着し、すでに気温も上がっているのでアウタージャケットはザックにしまい準備を整える。2000m に満たない山でありながら挑む者に畏怖を感じさせるからなのか、リーダーの大山さんはじめメンバーはそれぞれの思いを抱きつつこの山に臨んでいることが眼差しから見て取れる。リーダーの指示通り、本田さんをトップに一列になって天神尾根ルートに足を踏み出した。本田さんは昨年 3 月に悪天候で撤退しているので、今回の山行への意気込みが伝わってくる。

出だし、ゲレンデ端の急斜面には確かなステップがあって階段を上るように進む。スキー場には数えるばかりの人しかいないのに、我々パーティの前後に多勢の登山者が途切れもなく登山ルートを埋めている。スノーボード、スキーを担いでいる者が多くバックカントリースキーの流行を目のあたりにした。

天神尾根と田尻尾根の分岐点の平らな雪面（大山さんの山行報告にプラトー）からは登山者が頂上まで文字通り数珠つなぎになっているのが見えた。トレースがしっかりついているのはありがたいと思う反面、これだけ混んでいると山の荘厳さが薄れてしまう気がした。

西黒沢に切れ落ちる斜面をトラバースしてから下降する箇所も難なく通過し、念のため持参したザイルは使用せずに済んだ。熊穴沢避難小屋は、ぽっかり穴だけ開いていて入り口は雪面から 2 メートルは下だろうか。左に俎嵓、オジカ沢の頭、幕岩、その奥に浅間山、苗場山、富士山、右に白毛門、笠ヶ岳、朝日岳、さらに至仏山、燧ヶ岳を見ながら尾根を登る。

次第に尾根と沢が混然としてきて広い雪の斜面になり、天狗の踊り場に向けて傾斜がきつくなってくる。齊田さんをトップにアイゼンを効かせて快調なペースで進む。すでに下ってくる登山者もいて思い思いのルートを取っているので斜面には無数のトレースがある。決まった道にとらわれずに自由なルートをたどる雪山ならではの自由さを誰もが満喫している。

大きく視界に入ってくる西黒尾根は堂々とした威容を示し、何か所も雪庇が大きく張り出していて挑戦欲を掻き立てるが、実現はいつのことになるだろうか。西黒沢に描かれたシュプールを見て、近いうちに谷川岳の沢の何れかをスキーで滑降することも心に決めた。

天神ざんげ岩に近づくにつれ傾斜は増して、のぞき込むとかなり深いクラックがいくつか出てくる。齊田さんに代わって先頭を行く田村さんの足取りは一定の速さで小気味よく着実に進み、肩の広場を目指して高度を稼ぐ。気温が上昇して雪が緩んだせいでアイゼンに団子がつきはじめるが、アンチスノープレートの効果で気になるほどではない。

次第に列が長く伸び始めたので、リーダーの指示で頂上アタックをサブリーダーの田村さんがリードする第一次チームと、大山さん率いる第二次チームに分かれて行うことになった。気象条件、時間、メンバーの技量と体調を総合的に判断したものであるが、さらに、メンバーがこの判断を即時に理解し対応できるのは、このパーティの質の高さを示しているように思われた。

ようやく肩の小屋が見えたが立ち寄らず西黒尾根、肩の小屋と頂上の分岐標識そばで第二次チームの様子を伺う。全員登頂が希望であったが二人の姿はまだ視野に入ってこないので、取り決め

通り、まず、第一次チームでトマの耳を目指すことにする。ここまで来ると冷気が感じられウィンドブレーカーをめいめい羽織る。満を持した矢野（貞）さんがトップで力強い足取りで進んでいく。頂上標識は人で見えないほどだがもう少しという気持ちで心が躍る。

トマの耳に到達。人波をかき分けるように三角点と指標に行く。みなでハイタッチ。雪焼け対策でサングラスや目出帽で良く見えないが、達成感で満面の笑顔であったことは間違いがない。変わらぬ晴天の下、主峰谷川岳から北から東へ一ノ倉岳、茂倉岳、さらに馬蹄形縦走路の峰々へと続く稜線、西の万太郎山への主稜線、そして南にたどって来た天神尾根を 360 度の視界で見渡すことができた。はるか遠くの山々までどこまでも続く白く着飾った雪山の醍醐味を感じて言葉がない。人がどんなに多くても山の荘厳さは損なわれなかった。

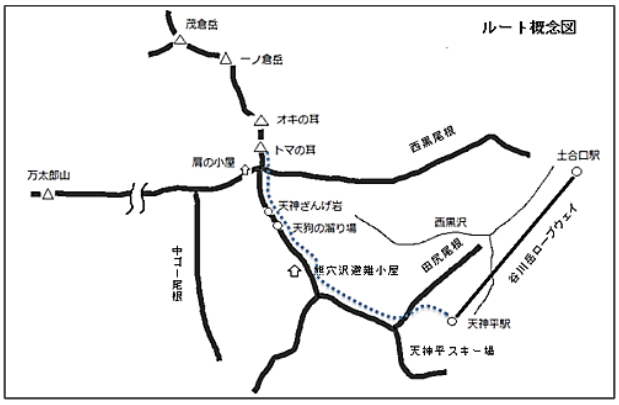
名残を惜しみつつ分岐標識まで来ると、際だって目立つ黄色のトレードマークのジャケットが見えた。大山さんと本田さんが登ってくる。全員合流できたので喜びもひとしお。
しかし、リーダーの厳しい指示が飛び、「第一次チームは速やかに下山し、第二次チームが帰還するぎりぎりまでロープウェイが運航を終了するのを引き延ばせ。」というので、齊田さんにサポートとして残ってもらい、田村さん、矢野さん、桐生さんと私の４人で下山を開始する（今もって思うが、ロープウェイは待ってくれなかっただろう）。スキーやスノーボードで下る人たちを横目で見ながら快調に下って行き、ほとんど休憩なしに 2 時間弱で天神平のベースに降りてきた。岳人あびこ最強女子と言うべきか。桐生さんは「急な雪面の下りが苦手」と言っていたが謙遜しているだけ。

天神平レストハウスで最後の斜面が見える席を確保して、大山さん達の帰りを待つ。黄色のジャケットを探しつつ、軽く飲み物やお菓子を口にする。あとで、本田さんが「名物のカレーを食べなかったの？」と尋ねたけれども、心配で喉も通らなかったということにする。予想より早く 3 人の姿を見つけることができ、レストハウスに集合して再度全員で登頂の喜びを交換した。

無事、ロープウェイで揃って土合口まで下山し 6 時間に及ぶ谷川岳滞在を終えた。私は都合でここで別れバスで出立する皆さんを見送ったが、帰路の車中や反省会の談笑に加われなかったのが心残りだった。

2106 年 4 月に入会して、行事山行以外に会の定例山行へは初めて、それも年度末にようやく参加することができた。会で信頼のおける山行のメンバーになりうるか、皆さんの判断を得る機会と思っていただけに、ただ後について行った自分の技量がどのように推し量られたのか今でも気になっている。

雪山はいいですね。大山さん、田村さん、矢野さん、桐生さん、本田さん、齊田さん、ありがとうございました。北田さん今回残念でした。
みなさん、またいずれかの山行でご一緒しましょう。




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 谷川岳 | | |
| 月日 | 平成 29 年 3 月 12 日（日） | | |
| 山域 | 上越国境・谷川岳連峰 | 地形図 1/25000 | 水上 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2C |
| 目的 | 日本を代表する豪雪地帯を登る（雪の谷川岳のダイナミックな景観と取囲むパノラマを愉しむ。） | | |
| 費用 | 約 12,000 円 | 交通機関 | JR、ﾊﾞｽ、ﾛｰﾌﾟｳｴｲ |
| 行程 | 我孫子駅 5:41→上野駅 6:14/6:42→JR→上毛高原駅 7:53/8:00→バス→ﾛｰﾌﾟｳｴｲ土合口 8:45/9:05→ﾛｰﾌﾟｳｴｲ→天神平 9:25/9:40⇒雪壁上部〔ﾌﾟﾗﾄｰ〕10:00/10:05⇒熊穴沢避難小屋 10:35/10:43⇒昼食 11:05/11:20⇒天狗の踊り場 11:35⇒肩の小屋分岐 12:20⇒谷川岳トマの耳 12:25/12:30⇒肩の小屋分岐 2:35/12:55⇒雪壁上部〔ﾌﾟﾗﾄｰ〕13:50⇒天神平ﾚｳﾄﾊｳｽ 14:10/15:25⇒ﾛｰﾌﾟｳｴｲ→土合口 15:40/15:50→上毛高原駅 16:40/17:26→JR→上野駅〔反省会〕18:35/19:39→JR→我孫子駅 20:11 ＜歩行時間：３時間４５分＞ | | |

| | |
|---|---|
| ﾙｰﾄ状況 | ・天神平積雪４ｍ１０ｃｍ〔3/12 現在〕<br>・夏道の天神峠迂回ﾙｰﾄは雪崩があるので〔実際にデブリ・雪崩の塊があった〕天神峠下のﾌﾟﾗﾄｰへﾀﾞｲﾚｸﾄﾙｰﾄ登る。かなり急峻だが、踏み固められてあり助かった<br>・山頂まで切れ目なく続く週末山行愛好者のお陰で道を外さない限りラッセル無用。<br>・ﾌﾟﾗﾄｰと熊穴沢避難小屋間､夏はロープが設置されている雪壁状は雪がしっかり付着し、明解なﾄﾚｰｽが有り、不安なく通過することが出来た〔ネット情報は、雪の付着状態が悪くザイルを使ったパーティも有り、念の為ザイルを持参した〕<br>・熊穴沢避難小屋は雪に完全に埋まり、鉄骨だけが 50ｃｍほど露出。出入り口用の穴が掘られてあった。(昨年はここまで登り、天候悪化でリタイアした)<br>・天狗の踊り場へ急坂の雪壁を登る。この雪壁もネットでは、ザイルを使ったパーティもあったが､確りとトレースが有り、呼吸は荒くなったが登りきることが出来た<br>・肩の広場の雪原は真夏まで雪田が残っているが、一見すると真っ白な雪原？雪壁状だが良く見ると数メートルの積雪がヨコに幅 50㎝ 位、長さ 10mほどの亀裂が生じ、クレバス状になっていた。その上に新雪が積もり、スノーブリッジ状の所に乗ってしまい、腰まで落ち込んでしまった。<br>・一人、クレバスに落ち込んでしまい、抜け出すのに体力を消耗、更に足が攣り登頂を断念。登頂組と待機組に分け、待機組はＬがﾌｫﾛｰ､登頂組は SL がＬとなり対応した。<br>・待機組は、肩の広場末端の小さな岩場に接した平坦地で待機、休んでいる内に体力が回復してきたので、近くにある肩の小屋までを目標に登り始めた。西黒尾根・肩の小屋・天神尾根分岐標識まで登ると登頂組の下山と出会い、皆に励まされ､登頂目指す<br>・山頂は夥しい人であったが、素晴らしい 360 度の大ﾊﾟﾉﾗﾏを愉しめた。マチガ沢への豪快な雪庇と雪壁、その雪壁の合間を縫うようにｽﾉｰﾎﾞｰﾀﾞｰのｼｭﾌﾟｰﾙがﾞ刻まれていた<br>・皆の待つ分岐点迄下り、2 班に分かれ、ＬとSL は分散して担当､下山を開始した〔登り 35 分、下り 45 分遅れた〕 |
| 参加者 | 大山 L､田村 SL､小林隆､本田､齊田､矢野貞桐生<br>＜男性２名 女性５名 計７名＞ |

＜９９０＞

## 扇山 ～ 百蔵山
（1,138m）（1,003m）

高橋　富美子

### 早春の里山　白梅満開

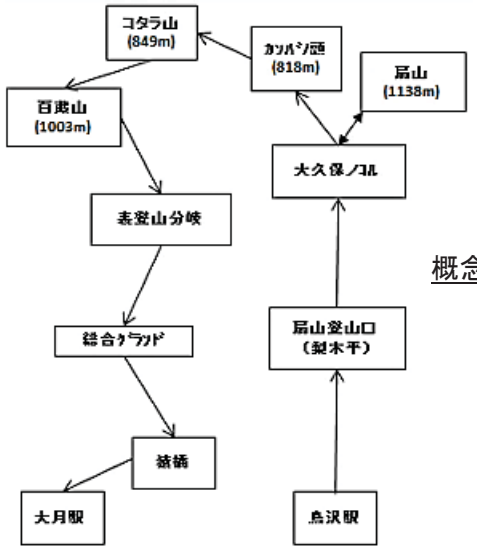
総合ｸﾞﾗﾝﾄﾞに行く途中

鳥沢駅で下車し、タクシーで梨ノ木平登山口まで行きました。
雲一つない登山日和となり、素晴らしい富士山が見られました。
登山口に着き、準備体操が終わると、地図を渡され地図読みの研修開始です。登山道を５つに区切り、一人ずつ先頭を歩き、リーダー研修を受けました。
山道は整備されているのですが、急登急坂が多く、ペースを保つのが難しかったです。
百蔵山の頂上は広場になっており、沢山の登山者が休んでいました。私たちも、目の前に富士山を見ながらゆっくりと昼食をとりました。桜はまだでしたが、下山途中白梅の美しい所で記念写真を撮り、猿橋見学に向かいました。
桂川の狭い渓谷にかかる奇妙な橋でした。国定忠治ゆかりの大黒屋というお蕎麦屋さんで反省会をして、タクシーで猿橋駅まで行きました。素晴らしい富士山に見守られ、楽しく実りある山行になりました。

国の名勝の猿橋は珍しい構造

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 扇山～百蔵山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 3 月 18 日(土) | | |
| 山域 | 中央沿線 | 地形図 | 1/25000　上野原、大月 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2A |
| 目的 | ①富士山展望　②里山の景色 | | |
| 費用 | 約 3,500 円 | 交通機関 | 電車、ﾀｸｼｰ |
| 行程 | 我孫子駅 5:33（千代田線）→新松戸（05:47/05:50）→西国分寺(06:47/06:55)→高尾（07:21/07:26）→鳥沢駅（08:07）（タクシー）→梨ノ木平登山口（08:20/08:45）⇒大久保のコル(09:55)⇒扇山山頂(10:10)⇒大久保山(10:45)⇒宮谷への分岐(11:25)⇒百蔵山(12:25~50)⇒東ルート分岐(13:05)⇒展望台⇒東ルート登山口(13:50)⇒総合グランド(14:15)⇒（猿橋見学）(反省会)→(20') (タクシー)→猿橋駅（16:36）→高尾駅(17:15)→西国分寺（17:52）→新松戸(18:55)→我孫子（19:08）<br>＜歩行時間:4 時間 10 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・梨ノ木平（扇山登山口）～大久保のコルまで約 300m、そこから扇山まで約 200m の上りだが、道もよく整備され、ゆっくり登れば特に問題はない。<br>・扇山～百蔵山へのルートは、宮谷分岐までの約 300m の下りと最後の 200m の上り返しがありかなり厳しいものであった。<br>・猿橋に向かう帰路は、標高差 700m を一気に下るかなり急峻なルートである。 | | |
| 参加者 | 郷田 L、桐生 SL、北田、小島、深草、小林安、蟹江、高橋富、村松、田嶋<br>男性 4 名、女性 6 名　計 10 名 | | |




概念図

＜９９１＞

## 権現山～ミツバ岳
(1,018m)　　(834m)

矢野　裕子
矢澤　節雄

権現山山頂

### 明るい春色ミツマタの花

矢野　裕子

山中の開花にはまだ少し早いかもしれない…。新松田から丹沢の奥へと長いバス旅。車道の脇に咲いているミツマタの花は満開だ。

スタートは丹沢湖のほとり。暖かい晴天に恵まれ、仰ぎ見ると真っ白な富士山。下方には丹沢湖の水面がキラキラと輝き、明るい尾根歩きはとても気持ちがよかった。登り詰めていくとちらほらミツマタの黄色と白が見つかった。小さく俯きで分かりにくい。満開ならばもっと華やかな山となるのだろう。早春のまだ枯れ枝ばかりの山中でほんのりかすかに色付いている。やがて明るいブナ林の権現山山頂。広くてひっそりと静かだった。

さて、左へ折れてミツバ岳へと向かう。今日ははっきりと大きな矢印の表示が、新しく取り付けられていた。ミツマタの花のシーズンを迎え、道迷いの多いこのルートの登山客へ目安としてくれたに違いない。しかしそこからミツバ岳への道は、全くはっきりせず踏み跡もばらばらでたいそう不安な道なき道だった。本当？これで合ってるの？メンバーは高度計で確認したり、地理院地図と見比べたりして慎重に進む。やがて、ほんの小さな窪地に「ミツバ岳」の木札があった。この辺り一面からやや下にかけて、ミツマタの群生地だった。とても慎ましくて可愛らしい。みんなで写真を撮った。

下山方向も判り辛くちょっと戸惑ったが直ぐに鮮明なジグザグ道になった。ひたすら急降下して一気に滝壺橋の湖のほとりに戻った。ただし、1 時間に 1 本のバス停は遠い。コースタイム 45 分を、速足でくねくね湖畔を周りトンネルも歩い

て、隊列はずいぶんと長～くなってしまったが奇跡的にバス到着と同時に最終組が追いついた。今日は春らしく気分の好い一日だった。

## 地形図を楽しみ、花を知る

矢澤　節雄

募集の山行計画書の目的欄に「ミツマタの花、**地図に歩線の無い尾根を歩く**」と記載されている。今年度（平成 29 年）の定例集会・研修講座「山行に向けて地形図を知る」の講師を担当しているので良い教材なると思い、参加することにした。

調べてみると、今回の計画ルートは、国土地理院の地形図には、全く記載がない。また、昭文社の登山地図には、浅瀬入口から権現山までは、破線ルートで、注記に**「道標はあるが不明瞭、初級者通行不可」**とあり、権現山からミツバ岳～下山口のルート記載はない。「登山道表示の無い地形図の山にどのように対処すればよいか」の内容で面白い教材が出来ると考えた。

バス停と登山入口の位置関係の確認、ルートの特定方法、そして特定したルートの地形を読み、ルートの特徴・留意点などを推定し、その結果を確認しながら山を登る。面白い講義になると思った。結果として、講義を聴かれた会員の方はどの様に思われたであろうか。感想をお聞きしたいものである。

実際の山行では、地形図を片手に登山道を楽しみながら登った。春のような暖かな陽を浴び、真っ白な富士山を望み、眼下に丹沢湖のきらきらする湖面、ぼんぼりの様な可愛らしいミツマタの花に満足し、山行参加者の会話を聴き楽しむ。好い山行であった。

地形図を読むのも楽しいが、山名の由来や山に関する諸事を調べるのもまた面白く楽しい。

丹沢には、権現山が二座あり、畦ヶ丸の東に位置する権現山（丹沢・箒沢）と区別するために、世附権現山（よづくごんげんやま）とも呼ばれる。日本全国に権現山と名のつく山は、９３座を確認したが、多分百を超えるであろう。しかし北海道には、一座も無いのは、何故かは分らないが、宗教の歴史に係るのかもしれない。沖縄県にも権現山が見当たらないのである。

権現は、日本の神の神号の一つで、仏が「仮に」神の形を取って「現れた」ことを示す。

ミツバ岳は、山頂一面のミツマタ林なのでミツマタ岳ではないのか。調べて分った。ミツバ岳の正式な山名は、大出山（おおだやま）である。紙幣の原料として植えられたミツマタが、その後は使われないまま成長してミツマタの林になり、ミツマタ畑（ばたけ）がミツバ岳に変化し、一般化されたという。山頂のミツマタは自然の群生ではなく、人の手によって植えられたものであった。

ミツマタと言えば、和紙を連想する。和紙の 3 大原料は、コウゾ（楮）・ミツマタ（三椏）・ガンピ（雁皮）。先ずは楮、クワ科の落葉樹で繊維が長く強く和紙には最も多く使われる。葉も実も桑によく似て、花は小さくあまり目立たないが、ツブツブの赤い実は甘く野鳥の好物。三椏と雁皮はともにジンチョウゲ科の落葉低木です。三椏の繊維はしなやかで、お札にも使われる。赤の花もある。一方、雁皮は栽培が難しく野生のものが使われ、なめらかで光沢のある紙が出来、和紙の王様。

**山登りも楽しいが、知るも楽しく面白い。**

ミツマタの花

概念図

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 権現山～ミツバ岳 | | |
| 月日 | 平成 29 年 3 月 20 日(月祝) | | |
| 山域 | 丹沢 | 地形図 | 1/25000 中川・山北 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ｂ |
| 目的 | ミツマタの花を見る | | |
| 費用 | 約 4,500 円 | 交通機関 | ＪＲ常磐線、小田急線、バス |
| 行程 | 我孫子　5:33→代々木上原→新松田 8:01/8:25→浅瀬入口　9:16/9:30⇒権現山 12:00/12:30⇒ミツバ岳　13:20⇒滝壺橋 14:30⇒浅瀬入口　15:00→16:10 新松田駅→代々木上原→我孫子駅 20:00 頃<br>＜歩行時間　5 時間＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・浅瀬入口バス停のすぐ南に権現山への登山口がある。上り初めは導水管の作業道でもあり、整備されている。大半は緩やかな明るい尾根だが、山頂手前の急登は厳しい。手掛かりの無い乾燥した地面がざれてズルズル滑った。<br>・権現山からミツバ岳へのルートは「踏跡不明瞭なため、初心者不向き」となっている。以前は無かったが杭や金網、分岐を示すテープ掲示が付けられていた。<br>・ミツバ岳から滝壺橋への下りはジグザグ道。最後のところで道が崩壊してなだれており、難儀した。 | | |
| 参加者 | 矢野裕 L、矢野貞、本田 SL、齊田、大山、矢澤、石塚、林、北田、吉澤<br>男性 4 名、女性 6 名、計 10 名 | | |

＜９９２＞

# 樋曽山～角田山

（297m）（482m）

高橋　富美子

## 一面に咲く雪割草　色の豊富さに驚く

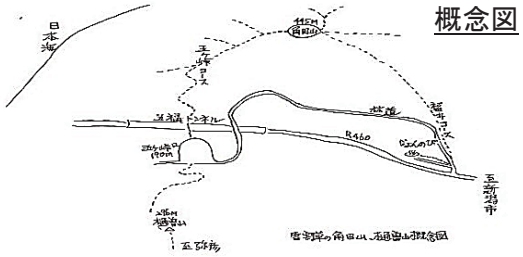
角田山　山頂にて

樋曽山、角田山は個人所有の山で地元の人以外にはあまり知られていません。日が当たらないと花が咲かないので、お天気がとても気になります。車中では、トンネルを抜けるごとに景色が変わり、雪景色になったり晴れたり、霧の中に入ったり、とても心配しましたが、燕三条駅に着くと、雨上がりでとても綺麗に晴れていました。燕三条より、タクシーで登山口まで行くと、車はほとんどが地元の車で、登山者は皆長靴を履いていました。

登山道はぬかるみ、滑りやすい上り坂で足元にはオオレンの群生が、しばらく登ると一面に雪割草が咲いていました。樋曽山を下山し、向かいの角田山を暫く登ると、色とりどりの雪割草、白、ピンク、青、ボタン色、群青色、所狭しと咲いていて、色が豊富なのに驚きました。

頂上は広く公園の様になっており、ゆっくり昼食をとりました。下山途中、マダニを採集して研究している人に会いました。

じょんのび館で休憩し、タクシーで燕三条まで行きました。楽しく実りある山行でした。




### 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 樋曽山～角田山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 3 月 29 日（水） | | |
| 山域 | 新潟<br>弥彦山系 | 地形図 | 1/25000<br>弥彦、角田山 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 色とりどりの雪割草〔ｵｵﾐｽﾐｿｳ〕、カタクリ等の山野草 | | |
| 費用 | 12,000 円 | 交通機関 | 上越新幹線、タクシ |
| 行程 | 我孫子6:01→上野6:34/7:06→燕三条8:47/8:55→五ヶ峠口9:35/9:45⇒樋曽山10:30⇒五ヶ峠口11:10/1115⇒東屋(昼食)12:10/12:30⇒浦浜コース合流点12:35⇒灯台コース合流点12:40⇒角田山山頂13:00/13:40⇒山の神分岐14:00⇒平成福寿寺(登山口)15:00⇒じょんのび館15:05/15:35→燕三条(反省会)16:20/17:35→上野19:34/20:03→我孫子20:37＜歩行時間：4時間15分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・樋曽山は、五ヶ峠から弥彦への縦走路の一部だが標識がなく、1/25,000地形図にも名前は載っていない<br>・樋曽山、角田山共に登山道はぬかるみが酷く滑り易い<br>・露岩地帯は全くなく、部分的な急傾斜とぬかるんだ急傾斜地の登下降に要注意<br>・樹林帯なので樹幹越しに展望がえられるのは三望平のみで佐渡島も見えた<br>・下山ルートを“福井ほたるの里”コースを採ったが、山頂が広く入口が判り難い。低山なのに登山ルートが主だったものだけでも 7 コース有り、下山口を探していたら女性の二人連れのベテラン〔長靴〕そうな登山者が声を掛けてくれ、案内してもらった | | |
| 参加者 | 大山L、石塚SL、矢野裕、高橋富<br>高橋潔　　男2名　女3名　計5名 | | |

＜９９３＞

# 身延山
（1,153m）

大平　太計夫

## 積雪１０ｃｍ　しだれ桜は蕾

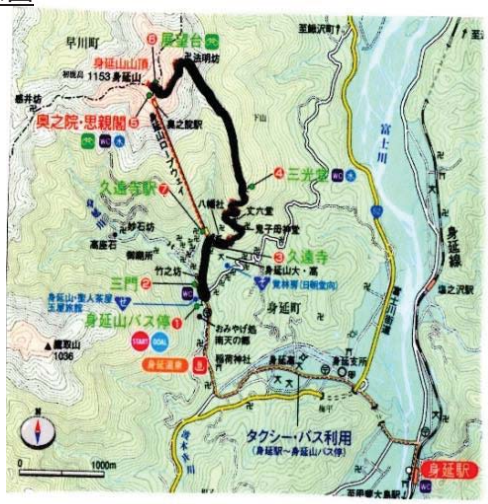
身延山登山は麓の日蓮宗総本山・久遠寺の荘厳な本堂の伽藍を起点に長い参道を登ります。
毎年３月末には全国シダレザクラ１０選に数えられる樹齢４００年のしだれ桜が咲くのが有名で数年前に訪れた際には見事な花姿に見惚れましたので再会を期して見頃なはずの日程で企画しました。悪天予報で中止になった高川山のリーダーと調整し青春 18 切符を入手して片道５時間の鈍行で安価な山行としました。

晴れましたが肌寒い身延駅まで６名で４回乗継いで着き駅前からバス１５分程で終点です。かなり手前から寺院や家屋が軒を連ねる古い街道が続いていました。緩い坂道の商店街を少し上ると日本三大門に数えられる三門の威容が現れました。正面に身延山の大額が掛かっていました。この前に２８７段の石段が急角度で立ちふさがっていました。登りきれば涅槃に達すると云う菩提梯です。段差がきつく本堂まで登りきると大汗がにじんできました。本堂の右手の目当てのしだれ桜は最近の寒さ続きで未だ蕾状態でした。

気を取り直して本堂の裏手、ロープウェイ駅右手から舗装道路を登り始めました。表参道で車も走行できる緩めな広い道を時々現れる石の道標（一丁～四十九丁）を励みにナンテンや杉、檜が立ち並ぶ参道をゆっくり登り５０分で三光堂です。参拝者用の東屋で昼食です。釈迦像や相輪塔がありトイレもありました。この先は未舗装で三十五丁からは残雪が現れ、次第に深くなってきました。先行していて追い付いたツアー客は四十丁からアイゼンを着用していました。奥の院手前の展望台から雲に覆われた富士山が見えました。１０ｃｍ位の残雪を踏んで山梨百名山の標柱が立つ山頂に向かうと白銀に輝く南アルプスと七面山が見えました

帰途は裏参道を下山予定でしたが行程が長くトレールも解らないので登って来た表参道を下山することに決めて往路を下りました。身延線の電車は本数が少なく帰途も５時間乗車なので一本早目で帰ろうと標高差８７０ｍを途中から速足で進みました。下りの菩薩梯は見下ろすとかなりの急下降で足がすくむ思いでした。参拝者用には斜行エレベーターや男坂、女坂もあるようですが我々は石段を一歩一歩慎重に下りました。石段下にいた観桜会担当者のお話では裏街道は残雪多くアイゼンが必要だったとのことで表参道ピストンに変更が正解と知りました。バスで身延駅に戻り、車内での反省会用にビールを購入しながらがらの身延線の電車に乗り込みました。富士駅までの車窓には真っ白な富士山が見送ってくれ夕焼けと共に疲れを癒してくれました。

**概念図**




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 身延山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 3 月 29 日（水） | | |
| 山域 | 身延山地 | 地形図 | 1/25000 身延 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ａ |
| 目的 | ①青春 18 切符利用で身延の名刹久遠寺に詣で、樹齢４００年「全国シダレザクラ１０選」のしだれ桜を愛でる。<br>②表参道の標高差８７０ｍを登り山梨百名山・身延山の山頂を踏み富士山、南アルプス、七面山等のパノラマの広がりを楽しみ裏参道で下山する。 | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 費用 | 青春 18 切符@2370 円<br>＋バス計 2,950 円 | 交通<br>機関 | JR、<br>バス |
| 行程 | 我孫子駅 5:31→上野駅 6:02/6:20→熱海駅 8:20/23→ 沼 津 駅 8:41/44→ 富 士 駅 9:03/12→身延駅 10:31（バス）45→身延山バス停 (250m)10:57/11:00 ⇒ 久 遠 寺 (370m)11:15/22⇒東コース（表参道）⇒三光堂（700m）12:11（昼食）30⇒奥の院 13:48⇒身延山（1153m）14:00/10⇒三光堂 15:03/10⇒久遠寺 15:35⇒身延山バス停 15:50/16:05（バス）身延駅 16:20/30→富士駅 17:51/18:01→熱海駅 18:43/53→上野駅 20:53/21:03→ 我 孫 子 駅 21:35<br>＜歩行時間４時間２０分＞ | | |
| ﾙｰﾄ<br>状況 | ・久遠寺は日蓮宗総本山でバス停の手前から寺院や店が多くバスを降りると商店街越しに奥の院が眺められる。石段を登ると日本三大三門の久遠寺の三門である。<br>・門の先に標高差１０７ｍ、２８７段の菩薩梯と呼ばれる石段が現れる。勾配がきつく段差も高くかなりきつい。足弱者の為の男坂、女坂やエレベーターも有り。<br>・菩薩梯を登ると立派な本堂があり右手に樹齢４００年のしだれ桜があるが未だ蕾でした。本堂左裏手のロープウェイ駅右手に舗装道路があり、そこが表参道入口。<br>・表参道は１丁～奥の院の四九丁まで石の標識が立っている。歩き始めは緩やかな広い車道でいくつもの堂宇が現れた。<br>・三光堂には釈尊像や相輪塔が立ち休憩場所やトイレもあり昼食休憩に最適である。<br>・三光堂から山道で三五丁から残雪が現れ、次第に深くなった。途中で追いついたクラブツーリズムのツアーは四十丁から軽アイゼンを付けて歩いていた。<br>・奥の院手前の展望台から雲に覆われた富士山、山頂からは白銀に輝く南アルプスと七面山が見られた。積雪は１０㎝ 位だった。<br>・ツアー組は裏参道下山を諦めてロープウェイで下山するそうだが、我々は裏参道の状況が不明なので表参道を下山することに決め往路を下った。<br>・身延線の電車は本数が少ない、帰途も５時間電車に乗るので予定より一本早い電車に乗ろうと帰途は速足で下山した。 | | |
| 参加者 | 大平Ｌ、武内 SL、外崎、林、板倉、吉澤<br>男性４名、女性２名　計６名 | | |

＜９９４＞

甲州高尾山（1,912m）

新人歓迎山行

やまたんより転載

勝沼ぶどうの丘で記念写真

## 早春の新人歓迎
## 遥かに望む南アルプスの峰

小野　泰子

お世話になりました。**オタクの世界の紹介**です。

大善寺脇の登山道から登山開始、すぐの道の両側に植栽されているらしい「木：落葉樹」に「実」が付いている。初見の実、「何じゃ、これ？」一見するとキク科のオヤマボクチの花に似ている。あるいは帰化植物のアメリカオニアザミが冬になって総ほうのかたまりのまま、北風にころころ転がって分布を広げている様子にそっくり。でも、「木」に付いている。それも一つ二つじゃない、「？」となる。拾って持ち帰る。

帰宅後、調査開始。まずは本を広げる。普通の実とは思えないので、植物の病気と考え、「植物医科学　上」を広げる。植物病について詳しく解説してある。でもね、「上」だけしか出版されてないんです。該当しない。うーん。では「日本原色虫えい図鑑」を取り出す。様々な虫がつくる虫こぶ類について解説してある本です。原色写真を片端から確認、あやしいと思ったら記載文に目を通す。これの繰り返し。ようやく「これぞ」と思える種に出会う。２種ある。読み比べ、持ち帰った「実」にカッターを入れ、中を調べる。結局、２種のどちらかと同定するのは厳しい結論になる。で、言い訳をする。冬芽だから、何の木かわからないんだよね。葉が付いてればわかるのに・・・。ナラメイガフシか、ナラメコイガフシか？とまあ、こんな具合です。

バーベキューを囲んで

もう、１種、「マツグミ」。アカマツに付いている「ヤドリギ」です。なかなか見られる種ではない。見つけたら、「ラッキー、やった。」という種です。一本のアカマツに数個体が着床していました。落葉樹の葉がひろがっていないのでわかりやすかったです。

以上、小野のオタク世界の一端を述べさせてもらいました。

皆さま、今後ともよろしくおねがいいたします。

B班新人　佐藤清宏

新人歓迎山行では大変お世話になりました。

久しぶりの山行でしたので、早朝から目がさえてしまい、バスの中が温かく到着するころには少し眠くなってしまいました。バスを降りて、大善寺からのいきなりの急登では、気ばかりあせって体がいうことをきかず、足元ばかり見て余裕がありませんでした。

会員の皆さんの声掛けで少しずつ周りを見ることができるようになり、振り返ってみると広い広い甲府盆地の向こうに、雲の上に浮かぶ南アルプスの白い山並みを見ることができ、山って本当にいいなあ、と思いました。下山時には春蘭も発見し得た気分になりました。

BBQも、帰りのバス内も楽しく過ごさせていただきました。今後とも宜しくお願い致します。

## 甲州高尾山山行に参加して

森岡正和

新入会員歓迎の甲州高尾山山行の４月２日、この日は前日の低気温から予報通りの好天となり、山行には絶好の天気に恵まれた。

新入会員として初めての山行に参加させて頂く事になるが、登山初心者としては何とか皆さんのご迷惑にならない様にとの緊張感と、お花見山行への期待感が入り混じった心境であった。

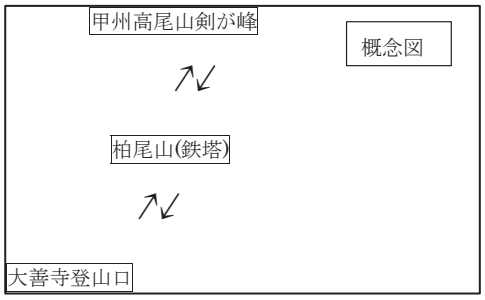
我孫子出発の後、途中高速の渋滞もなくスムースにバスは移動し、登山口の大善寺に到着。各班に別れ、登山準備と各自でウオームアップの指示あるが少し肌寒い気温にレイヤリングに手間取る。いよいよ登山開始となるが、スタートより結構な急登が続く。事前の地形図確認でも等高線が密になっており、多少キツイのかな？と漠然とは感じていたが現実はそれ以上だった。登山開始早々に体温も上がり、外着を脱ぎたくなったが休憩の声が掛かるまでは我慢。やはり登山開始は思い切って少し肌寒い位のレイヤリングが必要と感じる。

漸く送電線鉄塔（７４０ｍ近辺？）の休憩時に一息付けたが、この先、剣ヶ峰（１０９２ｍ）目標まで更に３回急坂があるとの事に気持ちも引き締まる。「新人歓迎・お花見山行」とピクニック気分ではいられない。

歩みを進める中、多少気持ちにゆとりが出始め、廻りの木々に花を求めたが北側斜面では所々に雪が残っており、期待をしていた桃の花は見る事は出来なかった。前日までの低気温の影響か？

目的地、甲州高尾山剣が峰では眺望もなく狭い場所での休憩となったが、途中先輩諸氏の年齢に関らない確りとした足取りに流石と感心させられる。自分も頑張ろう！

下りは、「より一層注意して」と言い聞かせながら下りたが登りよりも楽であった。登山休憩時に甘いものや果物を下さったり、下山後の勝沼ぶどう丘での懇親会でのご親切な御気遣いを頂き、大変感謝しています。有難うございました




## お花見山行に参加して

板倉　淳一

４月２日の新人歓迎・お花見山行では、岳人あびこの皆様方の心温まる歓迎を賜わり、心より感謝申し上げます。この山行で「晴れて岳人あびこの会員として迎え入れていただけた」という思いと「予てからの念願が叶った」という思いを実感した日でもありました。

私が、岳人あびこの存在を知ったのは２年ほど前、大雪山の黒岳石室でテント泊した時、山小屋に宿泊していた柏市出身の方と話す機会があり

ました。

当時は、定年退職後健康のために山登りを始めて２年目で、見様見真似でついていくだけの他人任せの登山をしておりまして、その方から「登山は自己責任」という言葉を聞き衝撃を受け、自身の甘さを痛感いたしました。基礎から山の知識や山登りの技術を習得したい旨の話をしたところ、迷わず岳人あびこは、確りしている会だから入会するといいよとのアドバイスを受けました。

帰宅後早速、入会したいという思いで岳人あびこのホームページを拝見したところ、年齢制限があることを知り断念した経緯がありましたので感慨一入でありました。

当日は、天候も上々、ワクワク感と緊張した気分が入り混じった状況でバスに乗り込むと「バスの奥からつい一週間前の身延山山行に同行させていただいたときのリーダー大平様から「Ｄ班はこっちだよ」とお声がけをしていただいたり、村松様からは山行計画書に纏わるお話をしていただいたり、Ｄ班の皆様からのお気遣いもあり、緊張感がほぐれ往路の車中、穏やかな気持ちで過ごすことができました。

山行では、新人に配慮したゆったりペースで歩いていただいたり、滑り易い場所ではＤ班リーダーの村越様から振り返ってその都度注意喚起をいただいたり、鉄塔や剣ヶ峰での休憩時にお声がけや差し入れをしていただいたりと、皆様からの気配りにより楽しく過ごすことができました。

また、下山後のお花見を兼ねた BQ や帰路車中ではビンゴゲーム等で盛り上げていただきまして、皆様の何気ないご配意や暖かい人柄に触れさせていただき、岳人あびこの仲間として受け入れてくださったことに対し、改めて感謝申し上げる次第です。

今後も皆様から貪欲に、山の知識や山登りの技術を学んで一人前の岳人あびこの会員になりたいと思っておりますので、忌憚のないご指導をいただきますようお願い申し上げます。また、この度の山行を実施するにあたり、大変なご苦労があったものと推察いたします。岳人あびこの皆様のご労苦に対しまして、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

早春の山を歩く

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 甲州高尾山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 4 月 2 日（日） | | |
| 山域 | 甲府盆地 | 地形図 | 1/25000 笹子、石和、塩山 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 新入（22 期生）の歓迎と会員の親睦 | | |
| 費用 | 8,100 円 | 交通機関 | 大型バス |
| 行程 | 我孫子北口 5:45→石川 P6:56/ 7:07→初雁→勝沼 IC7:53→大善寺 8:04/8:15⇒登山口 8:25⇒鉄塔 8:56 /9:06⇒森林交差 10:00⇒剣ヶ峰 10:10/10:30⇒林道交差 10:36⇒鉄塔 11:20⇒国道合流 11:50⇒駐車場 12:00→勝沼ぶどうの丘 12:20/14:30→勝沼 IC15:05→柏 IC17:08→我孫子駅 18:20<br>＜歩行時間：3 時間 30 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・大善寺の駐車場入り口で降車する。トイレもあり、班ごとに出発した。<br>・登山口から鉄塔までの 30 分間はいきなりの急登だった。下見の時は細かい砂利で滑りやすかったが、前日の雨のおかげで登山道は歩きやすかった。<br>・途中アップダウンがあり、最後の登りもきつかった。<br>・甲州高尾山のピークは、剣ヶ峰、中央峰、東峰と三つあるが今回は時間の関係もあり一番手前の剣ヶ峰までとした | | |
| 参加者 | A 班　室崎 L、武内 SL、中村八、林、北田、小林安、高橋富、小野、<br>B 班　郷田 L、外崎 SL、本田、大山、小島、横尾、吉澤、佐藤、<br>C 班　高橋英 L、高橋芳 SL、矢野裕、矢澤、渡辺、藤家、深草、森岡、<br>D 班　村越 L、村松 SL、齊田、石塚、大平、小林隆、板倉<br>＜男　16 人、女　15 人、計　31 人＞ | | |

＜９９５＞

## 愛宕山～難台山～吾国山
（305m）（553m）（518m）

藤家　一仁

### 新緑とカタクリの花を求めて

難台山頂上

初リーダーの山行は、生まれ育ったところで計画出来たら良いなと考えていたこともあり、茨城の吾国愛宕県立自然公園の南端の愛宕山から北端の吾国山までの縦走コースを計画した。常磐線岩間駅から水戸線福原駅までとなるコースなので交通の便も悪くはない。
当日は、かすみがうらマラソンも計画されていたため電車の混雑も予想されたが、時間が早かったことと我孫子始発の電車のため混雑もなく岩間駅に着いた。

まずは、岩間駅から二班に分かれて愛宕山を目指す。天気に恵まれ気温も例年より 10 度も高く暑い山行となりそうだった。

初リーダーで緊張しながら一時間程歩いて愛宕山に着く。愛宕山は桜の名所であり散りかけではあったが桜が残っており気持ちが弾んだ。愛宕神社や社殿の裏の奥ノ院等を参拝する。参加者の大平さんはこの縦走コースを 10 数回行かれておりスポット等を色々とアドバイスをして頂きとても心強く山行を進める。山上に「スカイロッジ」が建っており、巻くようにして乗越峠へ向かう。まもなくハイキングコース入口となり、難台山まで 4.4 キロ、吾国山まで 6.9 キロ、福原駅まで 12.1 キロの行程となる。見晴らしの丘、南山展望台、団子石、屏風岩を通り、この山並みの主峰である難台山へ。途中小さなコブがいくつかありその度下り坂になった。暑さもあり結構きつく感じる。後ろとの間隔を気にしなさい！と先輩方からアドバイスを受けながら進む。難台山は下りも厳しい斜度の連続でやっと道祖神峠に着いた。道祖神峠先の旧洗心館付近の広場で一息いれる。最後の急登が待っていた。30 分くらい黙々と登る。吾国山山頂では、眺望もよく一息を入れる。暑いため休憩回数を多めに取った。下りは、福原駅まで標高差約 400mをひたすら歩くことになる。途中、少し終わりかけていたがカタクリの群生地を観ることができた。沢山のカタクリの花につかの間後であったが癒された。道祖神峠まで車で来て、カタクリの群生地を観るだけでも良いなと感じた。カタクリの群生にについて後で調べてみたら地元のボランティア等で保護さているとのことだった。カタクリの群生地から離れてからは、とても長く感じられる下山路であった。地元の人に近道を聞きながら最終地、福原駅へと向かった。初リーダーとしては色々と課題が残った山行であったが、山行中の諸先輩から色々アドバイス等いただき、事故もなく山行を終えた。参加の皆さまに支えられたことを改めて深く感謝すると共に、一日も早く皆さんの期待に応えられるようなリーダーにならないといけないな・・・と考えながら帰路についた。

**概念図**

吾国山急斜面　A班

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 愛宕山～難台山～吾国山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 4 月 16 日(日) | | |
| 山域 | 茨城 | 地形図 | 1/25000　岩間・加波山・羽黒 |
| 形式 | 日帰り | グレード | １Ａ |
| 目的 | 新緑とカタクリの花を求めて | | |
| 費用 | 約 2,600 円 | 交通機関 | JR |
| 行程 | 我孫子駅 6:26→岩間駅 7:24/7:35⇒愛宕山入口 7:55⇒愛宕神社(愛宕山頂)8:40⇒天狗の森駐車場 8.55/9:00⇒見晴らしの丘 9:20/9:30⇒南山展望台 9:45/9:55⇒団子石峠 10:40⇒難台山頂 11:35/12:00⇒道祖神峠 12:50⇒吾国山頂 13:35/13:45⇒吾国山登山道入り口 14:20⇒福原駅 15:15/15:54→友部駅 16:15/16:20→我孫子駅 17:32<br>＜歩行時間：6 時間分＞ | | |
| ルート状況 | ・道標が整備されており忠実にたどれば道迷いはしにくい<br>・愛宕山の駐車場以外はトイレや水場もないので準備が必要<br>・愛宕、難台ハイキングコースは、団子石峠や道祖神峠など車道があり地形的には複数のルートが設定できる。<br>・粘土質の道のため雨の日やそれ以降の日の登山は滑りやすくなるそうである。<br>・累積標高は、約 1,000m。 | | |
| 参加者 | A：藤家 L、外崎 SL、田村、齊田、大山、大平、小林安、森岡、箕輪完<br>B：小島洋 L、桐生 SL、村松、高橋芳、本田、高橋富、室崎、箕輪カ、矢野貞<br>〈男性 7 名:女性:12　計 18 名〉 | | |

吾国山急斜面Ｂ班

＜９９６＞

## 御正体山
（1,681m）

北川　勝久

### 落ち葉の登山道、ゆっくりと

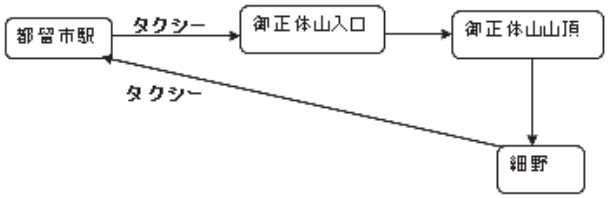
落ち葉で足首が埋まる急坂

7：26 高尾駅発の電車で山行参加メンバー10 名がそろった
約 50 分程乗って大月まで。大月からは富士急で都留市駅まで行く。

都留市からは予約していたタクシーで御正体山の入口へ向かう。30 分程で到着。

軽い準備運動をしてからゆっくりと出発する。春の残雪も特になく、急登をゆっくりと登っていく。登山道は春の山とは思えないような落ち葉がかなりあった。2 時間半ほど登って峰宮跡に到着。ここには石の祠などがある。峰宮跡から山頂に向かうがここからも多少の登りがあり 30 分程で山頂に到着。時間的には短いものであったが体感的にはもっと長い時間がかかったような気がした。山頂は広いもので他のルートへの下山道も道標で示されていた。展望はとくになし。登ってくるときには他の登山者には誰にも会わなかったが頂上では他のルートから登ってきた数名の登山者がいた。30 分程昼食をとってから登ってきた道を戻り下山を開始する。下山は順調で 2 時間程で登り口に到着した。下山中にタクシーを予約していたのでタクシーをそれほど待たせることもなくほぼ連絡した時間どおりであった。タクシーで都留市駅に向かい、15：00 過ぎの富士急で大月まで行って大月で全員無事に恒例の反省会を行うことができた。

概念図




概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 御正体山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 4 月 22 日　（土） | | |
| 山域 | 御正体山 | 地形図 1/25,000 | 御正体山、富士吉田 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2A |
| 目的 | 富士を眺める | | |
| 費用 | 7,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、富士急行、タクシー |
| 行程 | 我孫子駅 5:33（千代田線）→新松戸（武蔵野線）→西国分寺→高尾（中央線）7:21/7:26→大月 8:14/8:21（富士急）→都留市 8:40（タクシー）→御正体入口（細野） 9:05⇒林道分岐 10:20 峰宮跡 11:35/11:45⇒御正体山頂 12:20/12:45⇒13:10 峰宮跡⇒林道分岐 14:00⇒14:40 細野（タクシー）→14:55 都留市（富士急）15:11→15:29 大月（JR）16:49→立川→西国分寺→新松戸→我孫子 19:08 ※大月にて反省会<br>＜歩行時間:約 5 時間　15 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 残雪もなく特に危険と思われる場所もなかったように思います。ただ、急登が結構続く登山道で、落ち葉がかなりあり、春の山とは思えないような場所もありました。峰宮跡から山頂までは多少長いように感じました。あまり登りには使われないルートなのか、登山道では他の登山者と出会うことはありませんでした。さすがに山頂には他のルートからの登山者が数名いました。 | | |
| 参加者 | 北川 L、外崎 SL、矢野貞、矢野裕、林、小林安、蟹江、田嶋、佐藤、横尾<br>男性 3 名、女性 7 名　計 10 名 | | |

＜９９７＞

# 三頭山
（1,531m）

高橋　芳恵
矢澤　節雄

## 厳しいヌカザス尾根のアップダウン

高橋芳恵

リーダーが右指骨折のため急遽中止となった山行だが、天気がよく、他に行く山もないため、リーダーに断り予定通り実施させてもらった。日曜日のため電車内は込み合い、立川ではなく新宿から奥多摩号に乗れば楽に行くことができることが後でわかった。

都民の森は花や巨木が楽しめる多くのコースがあり、森歩きだけでも楽しめる。チップを敷いた歩道が足裏に心地よく、香りも楽しめた。三頭の大滝でしばしマイナスイオンを浴び、大滝休憩小屋から石山の路、深山の路を選び大沢山を経て山頂に至った。

計画によるとブナの路を予定していたが、その分、30 分ほど時間を要することになった。三頭山は名前の通り東西中央に三つの峰があり、中央峰が 1931m と最高峰となる。

晴天の肌寒さが歩くには心地よく、きつい登りもなんとか耐えられた。頂上で周囲を展望しながら最高の昼食となった。奥多摩の山々、御前山、大岳山、御嶽山、どれも登った山々だ。下りは鶴峠までの急坂を下り、ヌカザス尾根を選んだ。かつて奥多摩湖から登った経験がるコースだが、何やらより厳しく感じるのは歳のせいか。入小沢の峰からの急坂、途中のツネ泣峠の標識に納得した。ヌカザス山までがとにかくアップダウンの繰り返しでうんざりした。下から登ってくる登山者の中に外人カップルがいて「ココハ　キビシー　キビシー」と訴えていた。ようやくイヨ山に到着。最後の急坂にも苦しめられ、バス停まで 1 時間の予定が疲れ切った足で 1 時間 30 分かかったが、本日の標高差 900m、よく歩いた。

下山口は登山道が崩れている箇所があり迂回し、歩道につくと奥多摩湖周回道路ではサーキット場のように高速で走る車の連続で道の傍らを歩くにも危険を感じた。後日、青梅警察に厳しく取締まるよう連絡した。やっとドラム缶橋に着いた時には疲労で足が震える仲間もあり、本日の厳しい山行がようやく終了することができた。16：00 のバスは既に行ってしまった為,蜂谷橋バス停まで歩くおまけが付いていたが、歩きでのある充実した山であった。

## 山頂は頭上に見えるのに･･･

矢澤節雄

登ったことのある山をまた登る。未踏の山が沢山あるのになぜ。理由は多種多様である。

今回、この山行に参加した理由は、自分の頑張れる能力を確認したいとの思いの参加である。

2015 年 2 月、大山さんに誘われて、奥多摩湖からの三頭山を目指す二人での山行。途中のヌカザス山でリタイヤーした。目的の山頂に達成せずに疲れてリタイヤーする初めての経験であった。ショックは大きかった。登り初めに、「このルートは奥多摩三大急登ですよ」との大山さんの声を軽く聞き流して、三頭山なんて、軽く登れるとの思いで登り始めたが、途中から小生のピッチが上がらず体力ダウン。三頭山山頂が頭上に見えるのに、ヌカザス山でリタイヤーを決めた。更に良くないのは、下山途中で冬山登山靴の底が剥がれた。これも初経験。前日の出発前準備での確認不足。大山さんにキネシオテープで補修してもらいながら、何とか下山。非常にお粗末な山行となってしまった。

三頭山の初登頂は､｢岳人あびこ｣入会の年 2012 年の 11 月である。O さんリーダーによる女性 3 人と男性 1 人（私）の 4 人。私にとって心弾むウキウキ山行であった。都民の森からの登り、頂上で汁粉を食べ、向山経由奥多摩湖への下山。初冬の穏やかな陽を浴び、落ち葉と遊びながらの山行であった。そんな良い思い出の三頭山であったが、その山で、山人生初の挫折を味わう山になった。

挫折点から頂上までのルート（険しさや困難さ）が知りたい。後どのくらい頑張れば、三頭山頂上に達したのか確認したい。そんな思いが心に残っていた。その思いを解決したくての参加である。

やはり都民の森を出発し、大沢山経由で三頭山に、ここで昼食を取る。ここまで調子がいい。ヌカザス山に向けて下山開始。鶴峠分岐までは、向山へのルートと同じ道であるが、すごく急な下りだと感じる。その急な下りがヌカザス山まで続き、コースタイム 50 分を約 80 分掛かった。あの時の大山さんのリタイヤー決断は正しかったのだ。ヌカザス尾根を下るが、奥多摩湖下山口手前で、足の筋肉が硬直してブレーキを起こしてしまい、またまたメンバーに大変な迷惑を掛けてしまった。

今回の山行は、自分の頑張れる能力を知る山行となった。これからは、安易に山行に参加することは、会の方に迷惑をお掛けする」ことを自覚させられた山行であった。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 三頭山 | | | |
| 月日 | 平成 29 年 4 月 23 日（日） | | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1/25000 奥多摩湖　猪丸 | |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ｂ | |
| 目的 | 奥多摩三山の一つ　春の花を楽しむ | | | |
| 費用 | 4,200 円 | 交通機関 | ＪＲ　バス | |
| 行程 | 我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→立川→武蔵五日市 7:57 着/バス 8:10 発(西東京バス)→都民の森バス停 9:18 着/登山開始 9:30⇒大滝休憩小屋 10:05/10:10⇒深山の路⇒三頭山 12：05/12：30⇒ヌカザス山 13:55/14：00⇒イヨ山 15：05/10⇒蜂谷橋バス停 16:40/17:04→奥多摩 17:34→青梅 18：18/18:20→立川→神田→上野 19：43（反省会）/20:41→我孫子 21：15<br>歩行時間　6 時間 | | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・都民の森は花や巨樹を誰でもが楽しめるコースがあり､チップの路も歩きやすい。<br>・大滝休憩小屋から石山の路、深山の路を選んだため予定のブナ路コースより 30 分ほど歩くことになった。<br>・三頭山は東西中央の三つの峰があり、中央峰が 1931m で最高峰。<br>・ﾇｶｻﾞｽ尾根は下りもｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝの連続で急傾斜、滑りやすい個所もあり注意を要する. 下山口に崩れた箇所があり迂回した。<br>・浮橋までの公道はオートバイとスポーツカーのレーシング道路のような暴走する車を避けながら恐怖感を感じて歩かねばならず、山行中最も危険を感じた。 | | | |
| 参加者 | 高橋芳 L 本田 SL 中村八 矢澤 大山 石塚 箕輪　　男性 3 名　女性 4 名　計 7 名 | | | |

**概念図**

＜９９８＞

# 蕎麦粒山
（1,473m）

矢野　貞子

まだ冬枯れの蕎麦粒山

10 年前に青山さんが歩いたコースである。当時の私は初心者で仕事も持っていた為参加出来なかった悔しさがあり、一度は行きたいと思っていた。

川乗橋から 5 分程歩いた所に登山口がある。いきなりの急登で１００m程登ると尾根に出た。周りは植林された樹林帯である。急登がずっと続く。中でも、新緑が見られる辺りまで登るとふくらはぎが伸びきってしまうのではないかと思える坂である。そこには私達を励ますように筆リンドウが咲いていたが山行中ここだけしか咲いていなかったのは不思議である。

やっとの思いで笙の岩岳に着く。彼方に三角の蕎麦粒山が見える。10 分程休憩、行動食を取り出発。一旦下り登り返した。とにかく登りが厳しい。更に 4，5 回登り下りを繰り返し分岐にでた。15 分程登ったら木々と岩に囲まれた蕎麦粒山頂上に着いた。既に 13 時過ぎになっていた。予報通り雲行きが怪しくなったため、棒の折山に向かわず反対のヨコスズ尾根を下るコースに変更を決定。気持ち的に落着き遅い昼食を取った。

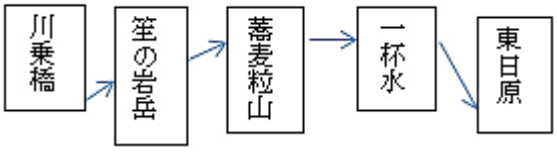
山頂から一杯水を目指し歩く。巻き道の片側が余りにも深く切り込んでいるため、ひたすら足元に集中する。途中の一杯水の水場はぽたぽたと落ちる水をペットボトルに集めていた。程なくヨコスズ尾根への分岐、一杯水避難小屋に着いた。休憩し下山開始。

ヨコスズ尾根は大きなブナやならの木が残る明るい尾根であるが、途中深く切れ込む谷を臨みながら歩く箇所もあり、気が抜けない。ジグザグの急坂を下ると人家の屋根が見えた。車道に出るまでのゴロゴロした石ころの道が疲れた足に響く。

東日原のバス停に 5 時少し前に着いた。バスを待つ間、今日はお湯を飲むのも忘れていたと仲間からの声に私も同意する。奥多摩の山は厳しい。5 時台のバスに乗り、我孫子に着いたのが 9 時前であった。

久方ぶりに歩いたという感想である。

**概念図**




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 蕎麦粒山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 4 月 29 日（土） | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1／25000　蕎麦粒山、日向沢の峰、棒ノ折山 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 3C |
| 目的 | 奥深い奥多摩を歩く | | |
| 費用 | 約 3,390 円 | 交通機関 | ＪＲ・バス |
| 行程 | 我孫子 5:31→新宿 6:30/6:46（ホリデー快速おくたま１号）→奥多摩 8:21/8:40 バス→川乗橋登山口 8:50/9:00⇒登山口⇒(休)２⇒笙の岩岳 11:30/11:40⇒分岐 13:02 通過⇒蕎麦粒山 13:20/昼食/13:40⇒一杯水避難小屋 15:00/(休)15:05⇒(休)２⇒東日原 16:50/17:22⇒奥多摩駅 17:55/18:10→ＪＲ→西国分寺→新松戸→我孫子 20:45<br>＜歩行時間７時間＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・笙ノ岩山まで厳しい登りの連続。<br>・笙の岩岳からいったん、下り登り下りを数回繰り返し蕎麦粒山頂上。<br>・頂上は岩が露出して５，６人が休めるスペースあり。<br>・笙の岩岳付近まで針葉森林帯、上部は落葉樹。<br>・山道は落ち葉が深く、岩や石などを隠しているため歩行注意<br>・蕎麦粒山から一杯水までは進行方向左手が鋭く谷にきれ、細い道のため歩行に注意が必要。<br>・ヨコスズ尾根は一杯水避難小屋から滝入ノ峰をまく辺りまで穏やかな下りが続きそこからつづら折りでいっきに下る。 | | |
| 参加者 | 矢野 L、大畠 SL、桐生、 高橋芳<br>女性４名　　計４名 | | |

＜９９９＞

## 身延山・下部温泉～毛無山～朝霧高原
(1,153m)　　(1,946m)

大畠　清江

### 富士山展望　独り占め

毛無山山頂

“みのぶさん”、“身延山”と言う響きは私にとって何とも懐かしい思い出の響きだ。両親が、その昔は祖父母が毎年のように身延山、身延山と言ってお参りに来ていたからだ。私はと言えばなんと今回が初めてである。身延駅に降り立ったのも初めてである。その身延駅前、古いイメージを持っていたが新しい感じなのである。前に停まっていたタクシーの運転手さんに聞いてみると何年か前に駅前通りを日本家屋風に家紋を付けて改装したとか。なんとビジネスホテルまで日本家屋風で家紋を付けて統一されて。私にはちょっと違和感が…。

日本３大門に数えられる立派な三門をくぐって287 段のかなり段差のある石段を、“昔の人の短足でよく登れたわね”と言いながらやっとこ登りきると、日蓮宗総本山久遠寺境内。お参りを澄ましてその裏から奥の院への表参道を行く。鬱蒼とした杉木立中、奥の院までの丁目石を励みに「やっと半分の三光堂！」「49 丁よぉ、後１こ！」と言いながら登った。登山道両脇はシャガが花盛り。途中、朝霧高原を挟んで富士山の雄姿も。
登り切った奥の院思親閣前の展望台からは久遠寺の伽藍や休憩した三光堂、たった今歩いてきた参道を見下ろして「良く歩いて来たね。」と言い合った。

奥の院の裏の身延山山頂へ行くとまだ雪を被った南アルプスのパノラマが待っていた。ミツバツツジも満開、山桜も咲いていて、この清々しい所で昼食タイムになった。
私たちだけだった。一番いい場所に陣取ってゆっくり至福の時を過ごした。リーダーの山頂でゆっくり時間を取ると言うお考えは私も大賛成だ。1時間でもあっという間だった。
下山はロープウェイを使い、今日の宿、下部温泉に向かった。

２日目、宿からタクシーで登山口に向かう。同名の毛無山が国内に２６座もあるそうで、その中の最高峰だそうだ。この山中、武田信玄が金の採掘を行った遺跡があり、登山道に遺跡の説明や大名屋敷跡、女郎屋敷跡、などの標識が立っていた。こんな山奥で採掘を行わせた戦国武将の権力の大きさに感服してしまう。その当時の女性の生活にも思いを馳せた。

毛無山山頂は広々として南面が開けていて、広大な朝霧高原を隔てて大っきな富士山が大迫力で迫ってくる。素晴らしい展望である。広々とした山頂は大好きである。しかもこの展望、また一番前に陣取った。私と富士山の間には誰もいなかった。富士山を一人占めして、そしてまたゆっくり昼食を楽しんだ。リーダー、至福の時間をありがとう！

下山は静岡県側の朝霧高原に向かう、分岐手前に背丈の倍位の大きな岩があり、隅っこに『北アルプス展望台』の小さなプレートがあった。ただの岩が展望台？よじ登ってみると真っ白い南アルプスが横一文字に隅から隅まで横たわっていた。(一見の価値あり、たぶん光岳～甲斐駒ケ岳)
分岐からの下山路は登りとは打って変わって岩の急下降道になった。つま先に神経を集中して一寸たりとも油断は出来なかった。一息つけるところで復帰して下さった箕輪さんからこの山の成り立ちの説明を受けた。何でも、太平洋プレートが押し寄せて静岡県側が急峻になりその上に山梨県側が覆いかぶさったのではないかと。皆、納得。

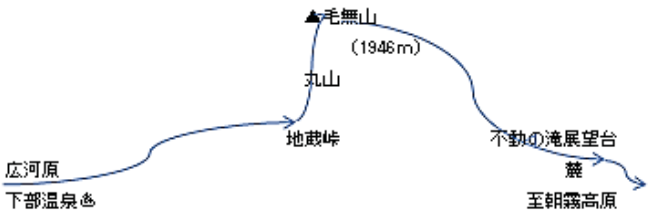
反省会は富士宮焼きそば鉄人グランプリで鉄人に輝いた虹屋ミミさんで舌鼓をうった。
2 日間に渡り晴天に恵まれ、富士山の展望、常々、リーダーがおっしゃてる温泉とグルメの山旅、満喫致しました。これからもリーダー推奨の山旅、宜しくお願い致します。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 身延山・下部温泉～毛無山～朝霧高原 | | |
| 月日 | 平成 29 年 5 月 7 日(土)～8 日(日) | | |
| 山域 | 富士周辺<br>(天子山塊) | 地形図<br>1/25000 | 人穴　身延<br>切石 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 3B |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目的 | 信玄の金鉱跡を訪ねるロングトレイルと富士山 | | |
| 費用 | 約16,000円（ジパング利用） | 交通機関 | ＪＲ中央線特急･身延線特急・身延線・東海道線･常磐線・ﾀｸｼｰ |
| 日程 1日目 | 我孫子 5:31→日暮里 6:08→新宿 6:30/7:00（特急あずさ）→甲府 8:28/44（特急ふじかわ）→身延 9:25/45→身延山バス停 10:00⇒身延山久遠時 10:30⇒奥ノ院 13:15/14:20(ロープウェイ)→身延山久遠寺 14:45⇒身延バス停 14:50/15:10 頃→身延駅 15:20/45→下部温泉 15:57（泊）<br>＜歩行時間　約４時間＞ | | |
| 日程 2日目 | 下部温泉 6:15（タクシー）→広河原登山口 6:30/40⇒長尾尾根・山の神 7:50⇒女郎屋敷跡 8:15⇒水飲み場 8:45⇒地蔵峠 8:50⇒丸山⇔毛無山 10:40/11:30⇒展望台 11:40⇒ 6 合目 12:30⇒不動の滝展望台 13:40/55⇒地蔵峠分岐⇒麓登山口ゲート 14:20⇒麓山の家 14:35（タクシー）→富士宮駅 15:10（反省会）/16:42－富士 17:00/04 - 熱海 17:43/51(東京ライン）→上野 19:51/54→我孫子 20:30 標高差（登 1000m下り 1120m）<br>＜歩行時間約６時間 30 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・身延山、奥ノ院表参道は急傾斜で途中、大光坊三光院での休憩が有難かった。<br>・毛無山への上りは急傾斜の箇所があるが中山金山の説明の表示があり、確認しながら山頂に至った。山頂は展望のよい草原で竜ヶ岳に延びる稜線が続くが途中荒れた箇所があるとのこと。静岡県側は山容が一変した岩山で下山には十分注意をした。 | | |
| 参加者 | 高橋芳 L　田村 SL　大畠　本田　高橋富　北田 小島　箕輪<br>男性２　女性６　計８名 | | |

**概念図**




＜１０００＞

高水三山

高水山～岩茸石山～惣岳山
（759m）（793m）（756m）

桐生　恭子

祝 1000 回山行達成
林新リーダー初山行

岳人我孫子 1000 回山行達成

今日の山行目的は２つ
１．千回山行達成記念
２．林リーダー初山行

参加者は、１回目の山行（会津朝日岳）に参加した村松山行部長を筆頭に初リーダーの林さん、今年の新人、など男性３名、女性５名で軍畑駅を出発した。軍畑駅は多摩川をはさんで上流の三田氏と八王子付近一帯を支配した北条氏の戦い（辛垣の合戦）に由来しているとのことだ。近くに「鎧塚」という小さな円墳があるそうだ。駅から 30 分くらい道路を歩き、高源寺を過ぎると急な登山道に入る。

昨日の雨の影響か蒸し暑く常福院までの急登を登り始めると汗がしたたり落ちた。時折の風が心地よい。急登を過ぎると高水三山の一つ高水山だ。ここでサプライズがあり、林リーダーのザックの中からお手製の「千回山行達成」と大きく書かれた横断幕が出てきて、みんなびっくり。ワイワイ言いながらリボンで飾り付けをし、記念写真を撮る。昨年創立 20 周年の記念山行が行われ、今日は「千回山行達成」だ。岳人あびこの結束力のたまものだろうし多くの先輩たちに感謝の気持ちでいっぱいだ。そしてこんなサプライズを考えてくれたリーダーにも。

大きなサルの腰掛

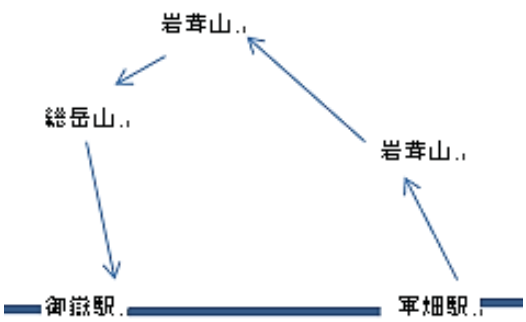
2 つの記念山行のほかに歩き方の講習会も兼ねた山行になった。先頭を歩いた矢野貞子さんが、歩幅は小さく、大きな歩幅で歩くと息切れをするので初めのうちは特に意識して歩くようにと注意があった。そのうち村松部長からも注意が飛び始め、今日は歩き方に意識がよく働いたように思われた。私もはじめのころは歩幅が大きく何度も注意してもらいやっと最近小さな歩幅で歩くことが出来るようになった。

花は少なかったが、新緑が目に優しく、緑のグラデーションを愉しんで歩くことができ、時折ツツジの花が緑の中に鮮やかに咲いていた。岩茸石山、惣岳山と多少のアップダウンを繰り返しながら、歩幅を意識して歩く。惣岳山からの長い急な下りを無事下り御岳駅で本日最後のお楽しみ、おいしい「おそば」に舌鼓を打ち終了となった。

メンバーに恵まれ、また思いもかけない千回記念山行だったり、新リーダーの楽しい企画にびっくりしたりで、楽しいけれど充実した山行になった。

林新リーダーお疲れ様でした。

**概念図**




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 高水三山　高水山～岩茸石山～惣岳山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 5 月 14 日（日） | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1/25000<br>原市場　武蔵御岳 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | JR |
| 目的 | ①　1000 回山行を祝う<br>②岳人あびこ定番の親睦コース | | |
| 費用 | 4,000 円 | 交通機関 | |
| 行程 | 我孫子駅 6:01→新松戸 6:14/6:19→西国分寺　7:16/7:22→青梅　8:05/8:10→軍畑駅 8:23/8:40⇒登山口（高源寺）9:15⇒常福寺 10:25/10:35⇒高水山 10:45⇒岩茸石山(昼食）11:20/11:45⇒惣岳山 12:25⇒御嶽駅(反省会玉川屋)14:00/14:52→青梅・西国分寺・新松戸→我孫子駅　17:24<br>歩行時間：4 時間 45 分 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・無人の軍畑駅を降りてそのまま舗装道路を 30 分程度歩いて登山口へ<br>・登山道は、森林の伐採?が進み直射日光が避けられる箇所が二年前に比べて少なくなっていた<br>・常福寺の裏手を登るとあっという間に高水山。時間的な余裕かあり岩茸石山で昼食<br>・惣岳山の登り降りはこのコースでは一番の悪路(木の根っこが邪魔、御嵩駅への下りは湧水があり粘土質のため滑り易い)<br>・鉄塔が見えるとゴール間近、三本目の鉄塔、竹やぶが見えたら下山。 | | |
| 参加者 | 林 L、蟹江、森岡、村松、桐生、矢野貞、飯合、箕輪カ<br>男性 3 名　女性 5 名　計 8 名 | | |

＜１００１＞

雲取山
（2,017m）

矢野　裕子

## 広く真新しい
## 2017 年記念モニュメント

雲取山荘の前で

関東に住むからには、いつか必ず行きたかった山。そのチャンスが来た。今回のは鴨沢から上り三峰神社へ下る。いつも行く奥多摩と、いつも行く秩父。それが雲取山を越えることでつながっている…私は地図を広げて妙に感慨深い思いがした。長い行程。国土地理院地図を 15,000 分の 1 で印刷すると 5 枚分。ゆるやかな上りだからゆっくり行きましょう、本田リーダーは明るく言った。

５月だというのに前日から夏日。山へ上がるとさぞかし涼しいだろうと期待する。奥多摩駅前は大混雑。まるで新宿駅みたいに、それぞれのバス乗り場に向かって人が交錯する。長い列を作って待ち、2 台目のバスになったので座れた。終点近くの鴨沢バス停でまた驚くことがあった。朝のこの時間、9 時 20 分すごい数の下山者が反対側のバス停の椅子に、道端に、整然と並んで待っていた。5～60 人。そうか、一泊して早朝歩き始めれば、この時間には下山できるのだ。今日は日曜の朝。昨夜の土曜の小屋の混雑ぶりが想像できた。

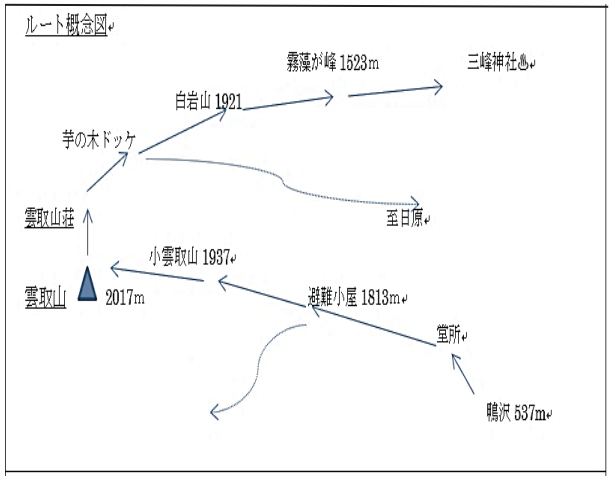
スタート。真夏日。ゆっくりでも日差しが強くすぐに大汗。たくさんの下山者と道を譲り合う。まぶしい新緑。じきに心地よい木陰の道に入った。こまめに水休憩をとりながら、辛抱してゆっくりと歩く、歩く…。2 時間たったころ堂所でお昼にしましょうね、のリーダーの声。ほっとする。実際は少し手前の大岩のある木陰が、快適なお休み所だったのでお昼となった。元気が出てまた出発。これからがまだまだ長いのだ。七ツ石山に向かっての急登が来た。大きく巻く道を選ぶ。ヤマツツジ、スミレ、キジムシロ、アマドコロ、マムシグサなどを見ながらブナ坂に着いた。ここからの石尾根はゆったりと広いブナの尾根。この大らかさ。五十人平とは…ぴったりの命名。私はこの辺りの悠々とした感じがとても気に入った。西側に落葉松。木立の姿が美しい。仲間は皆、落葉松が好きらしく一同しばし立ち尽くして眺めた。もう芽吹きではなく瑞々しい新緑のカラマツ林だった。やがてテント場、ヘリポート、そして奥多摩小屋が見えてきた。西側、水場への道から大きなザックを背負った二人、破線のバリエーションルートを来たという。長かった…と元気な女性。この方向にシャクナゲの飛龍山があるそうだ。さらに進むと右手にこんもりと笹の丘があった。小雲取山かなとその小道を上がってみると…20 ㎝ほどの「小雲取山」標示杭。このユーモアに大笑い。そして山頂直下、今日の標高差 1,467m 最後の力を振り絞って踏ん張った。着いた山頂はたおやかに広く真新しい 2017 年記念モニュメントもあった。残念ながら曇りで眺望はほんの少し。明日の朝に期待して小屋まで下る。この急降下が木の根で歩きにくく長い。やっとのことで今夜の宿に着いた。テラスで乾杯して広い一部屋をもらって寛いだ。真ん中にあった豆炭炬燵に足を入れると、あまりに心地よくて私たちはとろけそうになった。

翌朝 3 時半、リーダーが小声で合図。「行きますか。」はっと目覚めて身支度し、30 分かけて山頂へ。御来光は雲でくっきり…という訳にはいかなかったが、美しい富士が姿を見せていた。すがすがしく本当に来てよかった！小屋で朝食をとって出発。今日の下山コースは、昨日と違って岩あり、難所ありで変化に富む。ビューポイントでは南アルプスや甲斐駒を確認し、白岩山を越え新緑に浸りながら、鳥の囀りに耳を澄ます。コゲラ、キセキレイ、ルリビタキ、ヒガラ、ツツドリ、キジバト、エゾハルゼミ、ウグイス。(覚えているうちにサントリーの HP で調べてみた。)　明るいお清平での箕輪コーヒー店は最高のひと時だった。最後の三峰神社は荘厳だった。平日でも参拝客が絶えず、長い参道を経て本殿に至る。そして本殿真横に宿坊と日帰り湯がある。さっぱりと汗を流すことができた。雲取の大らかさを体中で実感した二日間だった。

かっこいいでしょう！

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 雲取山 | | |
| 月日 | 平成 17 年 5 月 21 日～5 月 22 日 | | |
| 山域 | 奥秩父 | 地形図 | 1/25000　丹波・奥多摩　三峯・秩父 |
| 形式 | 山小屋泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2A |
| 目的 | 2017 年に東京都最高峰（2017m）に登る | | |
| 費用 | 13,000 円 | 交通機関 | JR・バス・西武鉄道 |
| 日程 1日目 | 我孫子 5:31→新宿 6:30/6:46→奥多摩 8:21/8:35 → 鴨 沢 9:09/9:30 ⇒ 11:50/12:10(昼食)⇒堂所 12:25 ⇒七ツ石山迂回路 ⇒ブナ坂 14:35 /14:45 ⇒ヨモギの頭（奥多摩小屋）15:25 /15:35⇒小雲取山⇒雲取山 16:42 /16:55⇒山荘 17:20 ＜歩行時間　6 時間 40 分＞ | | |
| 日程 2日目 | 雲取山荘 3:50⇒山頂 4:20 /4:40⇒山荘(朝食/準備）6:30⇒大ダワ 6:45/6:50⇒芋の木ﾄﾞｯｸ 7:45/7:55⇒白岩山 8:05 /8:8:10 ⇒お清平 9:55/10:10⇒霧藻が峰 10:40 /10:45⇒三峰神社 12:20（入浴・食事）14:30→西武武秩父 15:45/16:08→池袋→我孫子 19:00 ＜歩行時間　5 時間 20 分＞ | | |
| ルート状況 | ・鴨沢からは緩やかな登りが続く、長いが危険な箇所はなかった。<br>・ルート上の各要所に案内板があるので迷うことはなかった。<br>・山頂直下に巻道があり 2 名が先に山荘に着いた。当日は 10 名が登頂（翌朝は 7 名が日の出を見に登頂した）<br>・翌日、三峰神社への下山は原生林の樹林帯のアップダウンを繰り返し、多少の急傾斜もあったが危険な箇所はなかった。 | | |
| 参加者 | 本田 L、矢野裕 SL、箕輪、斎田、村越、大山、石塚、小林安、深草、蟹江、板倉、室崎育　　男 4 名　女 8 名　計 12 名 | | |




＜１００２＞

## 岩山

村松　敏彦

### 霧雨止まず、神社でロープワーク

日吉神社の軒先でロープワーク

新鹿沼駅に近づくに従って霧雨のような滴が電車の窓に降り注ぎ目的の岩トレが可能かどうか不安がよぎる。新鹿沼駅についてもその状態が続いた。日吉神社迄行って様子を見ることにした。日吉神社の境内にて天候の快復を待ったが良くならず岩トレを断念。軒先を借りてロープの結び方と簡単なロープワークを学んだ。

**学んだ事**

・スリングによる、簡易ハーネスの作り方。
・ロープの結び方(フィギュアエイトノット等)
・危険なトラバースに於ける安全な通過方法。
・プルージック結びによる固定ロープの登高、宙吊りからの脱出。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 岩山 | | |
| 月日 | 29 年 5 月 27 日（土） | | |
| 山域 | 前日光 | 地形図 | 1/25000　鹿沼 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 1B |
| 目的 | 1．３点確保の登り方，降り方<br>2．ロープの結び方と使い方 | | |
| 費用 | 約 3,000 円 | 交通機関 | JR、東武鉄道 |
| 行程 | 東武北千住駅発 7:03→南栗橋着 7:52/8:00→新鹿沼着 8:49/9:00⇒日吉神社 9:30～12:50（研修）⇒新鹿沼駅前みつちゃん 13:30/15:04→春日部→柏駅→我孫子駅着 18:10 | | |
| 参加者 | 村松 L、武内 SL、藤家、深草、小島、横尾、小林安、蟹江<br>男性 4 名　女性 5 名　計 9 名 | | |

＜１００３＞

# 飯士山・平標山
（1,111m）　（1,984m）

小林　隆

新緑と残雪の美しい平標山

この山行は計画では残雪期の苗場山登山をメインにしていた。登山道の状況などネットで調べていたが、予定していた和田小屋登山口までの林道が例年より多い積雪のため閉鎖されていることを知ったのは一週間前のヤマレコのレポートであった。道路管理事務所に電話で尋ねると一か月先まで開通しないという。急遽、代替案を考え、予定のかぐらスキー場をスキー用具をレンタルしてリフトで登るか、反対側の雪で埋まった小赤沢の長い谷筋か、中止の不安も脳裏をよぎりながら SL に打診すると、「同じ湯沢ベースで行ける平標山・仙ノ倉山に行きましょう」との提案があり、メンバーの賛成も得られてようやく実施することができた。実際の山行も仙ノ倉山往復を荒天のため断念することになり、計画通りにいかないことの多い山行だったが、メンバーの理解と心強いサポートで初リーダー山行を無事完遂できたことをまず記しておかなくてはならない。

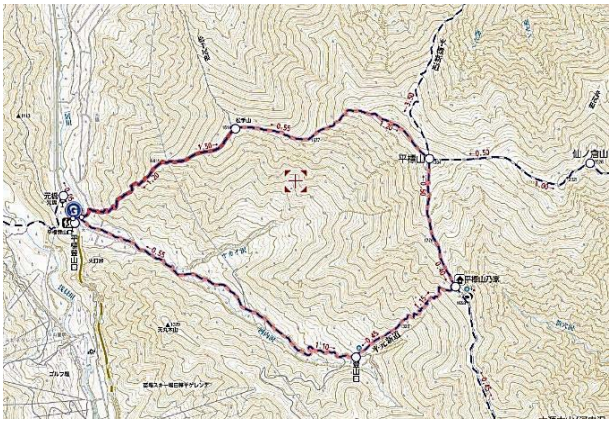
初日、飯士山。岩原スキー場のゲレンデから登りリフト終点から登山道に入る。豊かな木々で覆われているが尾根は切り立っていて小さい山容ながら凛とした感がある。花、岩、360度の展望と楽しめる要素がふんだんにあってテーマパークのようだ。

二日目、夜降っていた雨は朝方には上がり平標山登山口に向かう気持ちも高まる。すでに多くの登山者が出発していく。樹林帯の急な斜面

あれが上田富士よ

をしばらく登るが松手山を過ぎるとハイマツと笹に覆われる尾根になった。北西側から厚い雲が冷たい強風とともに押し寄せていが、時折現れる晴れ間からヤカイ沢を挟んでその先にゆったりとした尾根が大きく伸びているのが見え、新緑と残雪の光景が美しかった。やはり大きな山容は登山の楽しさを増してくれる。

シャクナゲや桜をところどころに見て急な



階段を登ってしばらくすると平標山頂上に到達した。休憩の後、雨具の上を着込んで仙ノ倉山へ向かおうとしたものの平・仙の間は視界が効かず、仙方向から来た登山者はびっしょり濡

れていたので往復は中止することにした。山乃家に向かう下りではいくつか雪田が現れ冷気が心地よい。ちょうど山開きの日で、山乃家では神事が開催されていた。平本元新道を通り平標山登山口まで行く間にすっかり晴れて、新緑の木々の間からこぼれる日差しとさわやかな風が心地よかった。途中ウドを摘んだり楽しい下山となった。下山すると登山口では地元の方から温かい野菜汁を提供され思わぬもてなしを受けた。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 飯士山・平標山 | | |
| 月日 | | 平成 29 年 5 月 27 日（土）～28 日（日） | | |
| 山域 | | 上越 | 地形図 1/25000 | 土樽・三国峠 |
| 形式 | | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 1A・２A |
| 目的 | | 上田富士の眺望と平標山天空の緑地を楽しむ | | |
| 費用 | | 約 28,000 円 | 交通機関 | 常磐線・上越新幹線・レンタカー |
| 日程 | 1日目 | 我孫子駅 7:32→上野駅 8:05/8:30→越後湯沢駅 9:44→岩原スキー場 10:30⇒登山口（第 3 リフト降り場付近）11:00⇒飯士山 12:00/1210 ⇒ 岩原スキー場 13:10/14:30(昼食・ツェルト体験)→さくら亭 15:00<br>＜歩行時間 2 時間 15 分＞ | | |
| | 2日目 | さくら亭 6:00→平標山登山口 6:30⇒松手山 8:30⇒平標山 10:00/10:45⇒平標山乃家 11:10/11:35 ⇒ 平元新道登山口 12:15/12:25⇒平標山登山口 13:35→さくら亭 14:45/15:30→越後湯沢 17:13→上野駅 18:34/18:48→我孫子駅 19:24<br>＜歩行時間　5 時間 10 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | | ・飯士山は、頂上付近に滑りやすい箇所、急な岩斜面があったが、いずれも虎ロープが貼られていて安全であった。樹木で覆われて見えないが登山道は細いリッジのような尾根で雪があると面白そうな気配である。<br>・平標山は、松手山を過ぎた地点に細い残雪の踏み跡で右側が笹で覆われた急斜面の箇所を通過した。頂上から山乃家に向かう途中に三か所大きな雪田があったが、傾斜もゆるくザラメ雪であったので難なく通過した。 | | |
| 参加者 | | 小林隆 L、外崎 SL、高橋富、矢野裕<br>男性 1 名　女性 3 名　計 4 名 | | |

＜１００４＞

## 雲取山 ～ 酉谷山

（2,017m）　（1,718m）

高橋　芳恵

## ２０１７年の酉年にちなんだ標高と山名の山

雲取山山頂（2017m）

2017 年にちなんで 2017mの雲取山、酉年にちなんで酉谷山と長大な長沢背稜を歩くというさすが大畠リーダーの計画の面白さの山行に参加させていただいた。

**1 日目（晴れ）**

鷹巣山への最短の浅間尾根を登るということで奥多摩からタクシーを利用して奥集落まで行き、由緒正しい風格のある浅間神社から上りが始まった。鷹巣山までは 4 時間の急な上りは、この間の新緑の美しさで癒され、本当に素晴らしく心地よかった。鷹巣山避難小屋からは石尾根に合流し日陰名栗峰（1725m）は巻く予定が「エエイ、登っちゃえ！」と勢いづいてみたもののこれが大変

な急な登りで顎を出しそうなところで蕨があちこちに生えており、たださえ大変な登りに山菜取りが加わった。千本ツツジからはミツバツツジが美しく、『きれいねー』の連呼。元気組の女子隊4名のにぎやかさは想像にお任せします。七つ石山（1757.3m）からの展望は360度　次の雲取山はまだはるか先である。奥多摩小屋からはザラザラの歩きにくい道となり、やっとの思いで小雲取山（1937m）、この150mの上りはとてもきつかった。雲取山山頂はさすがに登山者で賑わい、山頂の山桜がやさしく疲れを癒してくれた。東京都の立派な 2017 年記念の記念碑が立ち、埼玉県の少し地味な山頂碑が財政力の違いを表わしている。雲取山荘までの 30 分は私の力は限界かと思ったが、他の皆さんはとても元気！雲取山荘は平日にも関わらず80名の宿泊客で賑わっていた。「皆さん考えることは同じだな」と思った。山荘ではいつも気さくにかの有名な新井新太郎さんがタオルを頭に巻いて迎えてくれたが今は引退され、管理人の何かぎすぎすした雰囲気が惜しまれた。

**2日目（晴れ）**

昨日は少しばて気味であったが一晩寝てすっかり調子を戻した私は、今日の長丁場にやる気満々の朝を迎え、5 時半に出発、廃屋となった雲取ヒュッテの脇に咲くシャクナゲが美しかった。芋の木ドッケを過ぎ、桂谷ノ頭付近から自生のアヅマシャクナゲの群落に大歓声を上げた。この辺りになると登山者は少なく、今年のシャクナゲを独占した気分となった。

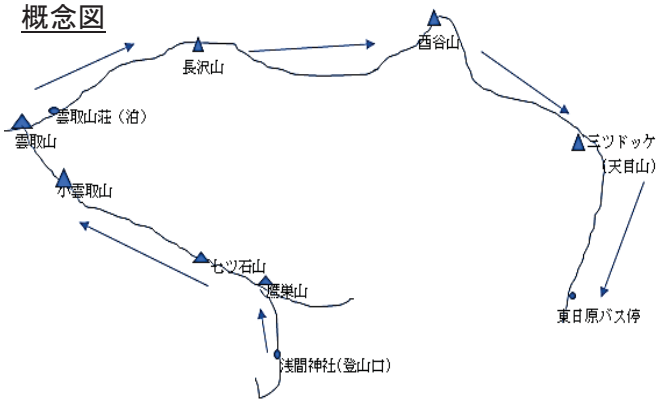
長沢山（1738m）ではミツバツツジのオンパレードで花の豊かさに疲れ知らずに歩きに歩いた。水松山（アララギ　1699.2m）分岐からは天粗山に分かれるが行ってみたい山の一つである。ハイライトの酉谷山へは2時間ほどの緩やかな登りとなり遂に目的の酉谷山（1718.3m）に至った。酉谷山はブナ林の続く山で吹く風が涼しく心地よい。ここから石尾根の展望は素晴らしく、歩いてきた距離を確認した。暑さのため山頂付近では虫にいじめられたが至福の昼食となった。この先は下りではあるがアップダウンを繰り返した。素晴らしい展望のハナド岩から昨日から今日まで歩いた行程を一望し、よく歩いてきたことをお互い讃えあった。急な登りの三ツドッケ（1576m）山頂では赤いミツバツツジがまぶしく咲いていた。一杯水避難小屋までの急な下りに注意し、疲れのせいか避難小屋に着くまでが長く感じられた

一杯水避難小屋から東日原まではヨコスズ尾根をひたすら下りとなるが登山道が狭く切れ落ちているためかなり注意を要した。4 月に蕎麦粒山の下りに使った道であるため、余裕があり、最後の 2 時間の歩きをかみしめるように歩いた。4月はまだ冬山のような景色だったが、今は新緑真っ盛りの山を楽しんでいる。同じ山も季節を替えての定点観測は今後取り組みたい課題である。予定通り5時のバスに間に合うように余裕をもって到着し、リーダーが下山報告、我われは一日中暑い中を歩いたため着替えを済ませたころ、山行部長から長沢背稜完歩のお祝いのエールの電話をいただき、再度皆で感激した。部長から計画段階で『60、70歳のばあさんたちが長沢背稜をやろうとすることだけはたいしたものだ』と褒め言葉？をもらっていただけにそうした配慮が有難かった。

私は歩行速度の速いメンバーと息が合わせられるか心配で一度は断念した経緯もあり、「生涯に一度の絶好のチャンスを逃さないように」アドバイスしていただいたリーダー、終始先頭を歩かせていただいた同行の皆さんの友情を強く感じた。この経験は私の人生の中で決して忘れられない山の一つとなった。同行の皆様に重ねて感謝します。

七ツ石山山頂

**概念図**




**概　要**

| | |
|---|---|
| 山名 | 雲取山～酉谷山 |
| 月日 | 平成29年5月29日（月）～30日（火） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山域 | 奥多摩湖 | 地形図 1/25000 | 雲取山　丹波　武蔵日原　奥多摩湖 | |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 3B | |
| 目的 | 2017年と酉年に因んだ山を繋ぎ5月の新緑を楽しむ | | | |
| 費用 | 約12,000円 | 交通機関 | ＪＲ　タクシー　バス | |
| 日程 1日目 | 我孫子 5:34→新松戸→西国分寺→青梅→奥多摩 8:38/8:50→ﾀｸｼｰ→浅間神社登 9:20/9:40⇒浅間神社 10:03⇒鷹巣山避難小屋 11:50/12:17⇒日陰名栗山 12:50⇒峰谷出会 13:35⇒七つ石山 14:05/14:15⇒ヘリポート 14:05⇒奥多摩小屋 15:45⇒雲取山頂上 16:05/16:15⇒雲取山荘 16:40<br>（行動時間7時間25分） | | | |
| 日程 2日目 | 雲取山荘 5:30⇒大ダワ 5:48⇒分岐 6:12⇒芋の木ドッケ 6:40⇒長沢山 8:25/8:40⇒水松山岐 9:18⇒行福ノタオ 10:50⇒酉谷山 11:25/11:50⇒ハナド岩 13:50⇒天目山 2:20/2:30⇒一杯水避難小屋 14:50/15:00⇒東日原バス停 17:10/17:50⇒奥多摩駅 18:18/18:26→青梅→西国分寺→新松戸→我孫子 21:05<br>（行動時間11時間40分） | | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・登山口、峰谷へのバス便は午前1本、午後1本しかなくタクシーを利用した。<br>・浅間尾根は急登の連続だが素晴らしい新緑の森の中を行く。<br>・石尾根の日陰名栗峰山頂周辺は蕨の宝庫。<br>・奥多摩小屋から標高差150mを登る、小雲取山への急登のジグザグ道がきつかった。<br>・二日目、長沢背稜の巻き道は細いうえに右側が切れている。また崩れかけて不安定な箇所があり注意が必要。高度感のある桟橋が続く箇所もあり雨の日は要注意。<br>・下りルートにとったヨコスズ尾根はしばらくは穏やかに下って行くが植林帯に入ると一気にジグザグの急下降になり疲れ切った足にはかなり辛い。<br>・この二日間のルート上には適当な箇所に水場があり安心。<br>・雲取山周辺の道標が真新しい道標に変わっていたが天祖山分岐までだった。 | | | |
| 参加者 | 大畠L・ 田村SL・ 高橋芳・矢野貞<br>女性４名 | | | |

＜１００５＞

男体山
(2,484m)

小野　泰子

## ズミの花咲く奥日光

5月31日、奥日光をめざし、北千住発の急行に乗車。目的は①広大なミズナラ林の新緑　②戦場ヶ原を覆う真っ白なズミの花鑑賞の2点でした。

男体山の登山途中でシロヤシオの開花個体多数に出会える。シロヤシオの開花は期待していなかったのと、26日のシロヤシオ目的の山行が天候

シロヤシオ、ミツバツツジを背に

四合目から見えた中禅寺湖

のため中止となったこともあり、「やったー」という気分。「気品」あふれる見事な花に感激。標高を上げるにつれて、季節が逆戻りし、蕾の個体も現れる。ダケカンバの樹皮も興味深く観察する。若枝のさもカバノキですよ。というペラペラはげやすい樹皮が老いた樹幹では年齢を重ねた様に変化している。同じ種かと思えないほどの変わりように驚かされる。ウグイスの囀りに励まされ登る。次第に眺望が開け中禅寺湖を眼下に見下ろす。絶景かな！

戦場ヶ原、光徳牧場付近での植物観察は、新緑のミズナラ、カラマツ、シラカバ、ダケカンバ、ホザキシモツケ。そして「ズミ」の花。満開の個体を目指し、藪こぎ。独特の樹型に一面に白い花見事でした。戦場ヶ原全体の開花はさぞやと思われました。（柏にも自生のズミがあるんですよ。こんぶくろ池のほとりにあります。）

以上、目的以外にシロヤシオ等の花々、様々な若葉の緑を堪能した奥日光でした。大山様、同行の皆さまに感謝です。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 男体山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 5 月 31 日(水) | | |
| 山域 | 奥日光 | 地形図 | 1/25000　男体山 |
| 形式 | 日帰り | グレード | 2B |
| 目的 | 広大なミズナラ林の新緑<br>戦場ヶ原を覆う真っ白なズミの花鑑賞 | | |
| 費用 | 8,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、東武鉄道、レンタカー |
| 行程 | 我孫子5:42→北千住→南栗橋→東武日光8:16/8:30→ﾚﾝﾀｶｰ→二荒山神社Ｐ登山口9:10/9:15⇒四合目10:35⇒五合目⇒六合目〔山行中止／昼食〕11:25/12:00⇒中宮祠Ｐ登山口13:40/13:50→ﾚﾝﾀｶｰ→光徳牧場〔切込湖、刈込湖登山口確認〕14:20/14:40→奥鬼怒林道→山王帽子山登山口確認→奥志津林道進入禁止確認→戦場ヶ原15:15/15:30→東武日光駅16:00/16:23→けごん40号→春日部駅→北千住18:32解散　歩行時間：３時間５０分 | | |
| ルート状況 | ・二荒山神社中宮祠社務所にてお賽銭500円を入山料として支払う、二荒山神社の私有地なので閉山期〔11~4月〕は登山禁止期間となる要確認。<br>・参拝所を通過するといきなり20cm高の約60段の階段が始まる。斜度はあるが危険箇所は六合目まではない<br>・この時期だからこそ、広大な森の樹林の新緑と共に顕著な垂直分布、地味な花を初めとした興味ある植生を愉しむことが出来る | | |
| 参加者 | 大山 L, 蟹江 SL、横尾、森岡、小野<br>男2名、　女3名、計5名 | | |

概念図

＜１００６＞市民山行

安達太良山
（1,718m）

やまたん特集号より転載

強風　頂上直下で引き返す
高山植物・眺望楽しむ

黒がね小屋前にて

晴れた日の安達太良山全景

市民登山「安達太良山行」を終えて

ご協力に感謝

実行委員長　室﨑宏治

今回で市民登山は23回を数えます。市民登山を、これまで22回も続けてやっていると、近郊の主だった山は殆んど行きつくしており、今年はどこにしようかと悩みました。

安達太良山は第8回の2002年に登った山ですが、しばらく時間があいているということで選定しました。標高1718mで山頂には二等三角点「大関平」が設置されてます。歩行時間4時間30分ということで、市民参加者の募集にあたっては今回、70歳以下、5時間以上歩ける方と条件を付けさせ

ていただきました。最終的には20人の参加者が集まりました。

岳人あびこの市民登山は、6 月第 1 週の日曜日と会の年間計画で決められているので、いつも天気には気を揉みますが、雨や風でロープウェイが運休になることもあり、今年はなおさらでした。連日、天候を気にしながら、現地にも問合せを行っていました。朝は晴れであったので、大丈夫だと思いましたが、ロープウェイ駅に電話を入れると現在は運航しているが、風が強くなると運休するとのことでした。

6 月 4 日の 2 週間前に同じルートで下見をした時は、くろがね小屋までの馬車道にところどころ残雪がありました。花もところどころに咲いていたので、2 週間後は溶けているだろうと思いました。（当日雪は溶けており花もきれいにたくさん咲いてました。）下見時、くろがね小屋に 50 名の休憩とトイレをお願いし山頂に向かいました。トラバースの途中に、大きく 2 か所雪渓が残っていたのでストックとザイルを用意する必要があると思いました。山頂に登るルートは 2 ルートがありましたが、ハシゴを順序よく間隔を開ければ大丈夫と判断しました。集合写真は山頂下の砂場に決めました。五葉松、ロープウェイ乗り場までは雪溶け水がひどくところどころ濁流のようでしたが、当日までには雪は溶けるるだろうと考えていました。

当日はくろがね小屋では強い風が吹いていたので、実行委と会長、山行部長とで打合せを行い、「行けるところまで行こう」ということで登りました。1 名くろがね小屋に残られました。ここで合羽を着てスタート。風はあったものの、トラバース時の雪渓は 2 か所ともに溶けていたので、稜線までは行けると思ってました。山行部長の判断で,ホワイトアウトで撤退の判断が出て引き返しました。違うルートがあることも考えていたので残念でした。

ところどころの高山植物とガスのかいまから見える頂上方面の景色や、二本松市の晴れた風景は楽しめたと思います。

山というのは**“溢れてその恩恵は忘れられ、優れてその存在には気付かれない（高村仁一）”**宿命をもつ地味なものだと思います。

今年も大きなトラブルや事故なく、無事に市民登山を終えることができ安心しています。バス内でお願いしたアンケートで、「ある程度満足している」が 9 人、「とても満足している」が 8 人、「あまり満足していない」が 2 人の感想を得ました。「あまり満足していない」は登頂できなかったのが原因かと思います。また、各班の感想文でいろいろな感想をいただきました。市民登山実行委員としてこれほど嬉しいことはありません。改めて、市民の皆様のご協力に感謝申し上げるとともに、今後もご一緒できる機会があるよう願っております。バスの中でお話しした通り、岳人あびこは自然と山を愛する方々にいつでも門戸を開いております。今年は公開登山も計画されています。ホームページに山行計画を公開していますので、是非ご覧になってください。そして気になる山を見つけたらお気軽にご連絡ください。今後とも山の会「岳人あびこ」へのご支援をよろしくお願いします。

**A 班**

## 安全には代えられない撤退

**A 班　リーダー　武内勇二**

・市民登山で安達太良山に登るのは、今回で２回目（前回は２００２年６１名が参加）。前回も峰が辻より山腹をトラバースし、ゴンドラで下山するルートをとっている。

・A 班は市民４名、会員６名、計１０名のパーティ編成。出発にあたって、リーダーを先頭、最後尾をサブリーダーと決め、あとは市民と会員が交互に隊列を組むように、そして行動中は常に前後の人を確認するようお願いして出発した。このやり方は、過去の市民登山で、市民一人が班から離れ後続の班に拾われて下山した苦い経験が教訓になっている。

・極力ゆったりとしたペースを維持しながら馬車道を行く。広くて歩きやすいが、ジグザグ道なので、かったるい。ほぼ直登する旧道と何度も交差する。その度に、旧道を行きたいとの誘惑に駆られたが、荒れて滑り易いのではないかと思い自重する。山慣れしていない市民もいることでもあり、リスクは負えない。

・勢至平に入って高い樹木がなくなるにつれ、突風めいた冷たい風に曝されるようになった。
・くろがね小屋に、登山口よりほぼ２時間で着き、ここで昼食。解散する前に班の集合写真を撮った。
相変わらず冷たい風が吹き荒れている。小屋から先は、吹きさらしとなるので、この先の方針を山行部長を交えて実行委員で協議し「状況を注視しながら行けるところまで前進する。但し無理はしない」との共通認識のもとで小屋を出た。
・峰の辻を過ぎ、トラバース道に入る。５月中旬の下見の際には、登山道も雪渓に埋まっていたそうで、心配した個所でもある。今日は、山腹上部にかけて雪渓が残っているものの、登山道付近は問題ない。強風の中を前進した。頂上付近は霧が渦巻いてはいたものの、一瞬だけ山頂の岩山が見えた。頂上まであと僅かだが、「稜線に出ると更なる強風が吹き荒れているだろうな」と思う。
・後続の班も、次々と峰の辻付近に登ってきているのが見えた。ちょっと間が離れ過ぎなので待機していると、山行部長からの「山行中止、引返し」との伝令があった。「もうっ少しなのに」と、残念な気持ちを訴える市民もいたが、安全には代えられない。頂上から下山してきた若者二人も、「展望は全くなく、風が吹き荒れている」という。
・下山は、往路を引返し、全員無事に奥岳登山口に戻った。頂上を踏めず、計画通りにはいかなかったが、厳しい気象条件下ではやむなしと考えている。市民の皆様のご理解、ご協力に感謝しています。

## 山の厳しさ知る

**A 班（一般）　渡邉香奈子**

初めての参加でした。風が強く、帽子も飛ばされそうになりながらのスタートでした。馬車道は道幅がゆったりとして歩きやすく、ギンリョウソウやイワカガミに感激しながら進みました。くろがね小屋までの後半は岩が多く、足元に集中し少々緊張しました。小川や小さな滝が現れたり、遠くに雪渓が残っていたり、景色もバラエティーに富み登りの疲れも和らぎました。

霧雨と強風で身体が冷えたところで、ちょうどくろがね小屋の休憩でした。雨具を着て、再出発は更に激しくなった風に、時には踏ん張りながら登りました。ガスで景色も真っ白に。こんな厳しい天候の登山は初めてで、貴重な経験ができました。リーダーさん達の潔い判断により、頂上手前で引き返しましたが、今後の登山にこの経験を活かしたいと思いました。山の厳しさを実感した山行でした。大勢で同じ頂上を目指し、同じように残念に思いながら引き返す体験も、登山ならではの一体感を感じました。見られなかった頂上を、いつかまた、チャレンジしてみたいという、お土産付きの味わい深い１日でした。ありがとうございました。

**B 班**

## 頂上近く、風と霧強くなる

**B 班リーダー　高橋英雄**

何よりも心配だったのは天候でした。当日の天気予報を毎日眺めている状態でした。

当日はまずまずの天気。我孫子駅、北柏駅で全員がバスに乗り、落ちこぼれや遅刻もなくほっとした。一路バスは常磐道から磐越道そして東北道の二本松ＩＣを下りて登山口へ向う 4 時間強の道のりでした。バスからおり各班に分かれて注意事項等があり、小生の班は自己紹介からはじまり市民の名前と顔を覚える。ＡＢＣ班の順に登り始める。馬車道は広く緩やかな登りでくろがね小屋をめざす。小屋に到着。昼食をとる。風が強く早目に済ませ防寒具等々身につけて小屋を出発。小屋からの登りはそれ程きつくない。我々のメンバー8 人共に足並みが良 い（1 人小屋で待機）頂上近くになるにつれ風と霧が多くなってくる、小生の班は頂上まで約 20 分の所で山行部長より強風と濃霧のため 登頂断念すると連絡があり残念。本来なら薬師岳、ゴンドラ山頂駅からゴンドラリフトに乗って下りる予定だった。登った道を下山してから説明するより下山途中での説明が正解でした。くろがね小屋を経て馬車道を下り奥岳温泉に着く。直ぐにバスに乗り二本松ＩＣと安達太良ＳＡ で休憩。柏ＩＣ から北柏、我孫子駅へ。市民の皆様には頂上まで行けなかったことは本当に申し訳なかったが、安全で怪我が人が出なかっ

た事は何より、有難うございました。

## 安達太良は風の山

B班（一般）　室崎育美

高村智恵子が「ほんとの空」と言う「阿多多羅の山の上に毎日出てゐる空」に会えるのを楽しみにしていた。当日は快晴、高速道路近くの木々が揺れていた。

登山口から強風だった。くろがね小屋までは高い木々の間を進む。花の名など教えてもらいながらの約２時間、風にさらされることはないがザーザーと急流のような音が聞こえていた。小屋を過ぎると石に手をつきながらの急登。岩を這う低木にここはいつも強い風の吹く場所だと知る。その低木に助けてもらいながら登る。頂上はずっと濃い霧の中だ。

下山のとき、街の方に目をやるとやわらかな日が差していた。バスで見た「天使のはしご」のように神々しくもある。あの街が二本松市なら智恵子の生地、あそこに立てば山頂近くとは全く別の空が見えるのだろう。

安達太良は予想もしない厳しい山だった。ひとりでは近づくこともできなかった。今回の山行で山頂近くまで行けたこと、麓と山の自然の違いを体験できたことにとても感謝している。岳人あびこのみなさん、ありがとうございました。

C班

## 花も見た　全員無事下山何より

C班リーダー　田村光子

安達太良山は私が岳人あびこに入るきっかけとなった山です。前回の安達太良山市民登山でも風が強くやっとの思いで頂上に行った事を思い出しました。

今回は実行委員として、色々気を配らなくてはいけない立場でしたが、思うようにはいかず、市民の方には迷惑をかけたと思います。

下見に行った時には何か所か雪渓が残っていて心配していたが、雪も解けていて何の問題も無く通過することが出来、ほっとしました。強風で山頂まで行くことはできませんでしたか、お花も見ることが出来、全員けがもなく帰ってこれたことが何よりだと思います。

## 雲の切れ間から雄大な景色

C班（一般）　小林直樹

私はＣ班に参加しました小林直樹です。

久しぶりの登山ということもあり、非常に楽しみにしておりましたが、あいにく風が強く、頂上までたどり着けなかったのは残念でした。しかし、くろがね小屋からの登山道を登って行った際、雲の切れ間から見ることのできた景色は、そこまでに見てきた森の中の景色とは比べ物にならないくらい雄大できれいでした。特に、影っているところと、日が差しているところがきれいに分かれていて普段見ることのできない風景に感動しました。

また、普段は気づかず登ってしまうところを経験豊かな岳人あびこの会員の皆さんにいろいろな高山植物を教えてもらい、こんなにひっそりと可憐に咲いているのかと気づかされました。昔は、山登りというと山を登るために体を動かすことと風景を見ることに楽しんでいましたが、この市民登山をきっかけに山中の高山植物にも目を向けて、山登りを楽しんでいきたいと思いました。

D班

## 自然の怖さも知ってもらえた

D班リーダー　藤家　一仁

・D班は市民４名（内藤さん、松下さん、加藤さん、田中さん）、会員５名(藤家、高橋(芳)、齊田、小林(安)、本田)の計９名の編成。内７名

は北柏駅南口集合。当日欠席、集合遅れ等もなく予定時刻に出発。

・バス座席の市民参加の皆様とは初対面同士であったが、高橋会長によるアイスブレイクにより皆さんの緊張がほぐれとても良かった。
・奥岳駐車場では、強風の影響もあり班の段取りが悪かったが、自己紹介・体調確認等を経て「くろがね小屋」までは、広くてゆっくり歩ける馬車道を選択。（旧道は荒れており他の登山者も利用して無さそうである）
・5/14 の下見山行時には馬車道にも残雪もあり、雪解けの水で泥濘があったが、6 月に入りすっかり残雪もなくなっておりとても歩きやすかったが、参加市民の皆様には単調過ぎて物足りなさそうでも有った。
・奥岳登山口（10：02）→くろがね小屋(11:56)は予定通り休憩含み 2 時間、馬車道は樹々に囲まれているためあまり風を感じなかったが、くろがね小屋周辺は強風のためゲスト優先で小屋にて昼食とする。外での昼食は行動食を口に入れるのが精一杯の状況であった。
・市民登山各リーダー及び山行部長と、くろがね小屋からの行程について検討。予定通り安達太良山山頂に向け天候等の状況みながら登る、ただし無理はしない、危険を感じたら引き返す事で決定。山行部長より小屋に残る選択もふくめ参加市民の皆様と会員へ説明し理解を得られた。
・結果的には悪天候のため引き返す事となったが、くろがね小屋から峰の辻・トラバース等への行程は、参加市民の方には登山の感覚を体験して頂いたとともに、強風等山の自然の怖さも知っていただいた。
・峰の辻からくろがね小屋への下山途中、足場が悪いところで突風にあおられ会員が転倒したが特に怪我なく済んだ。強風・突風の怖さを体験した。
・頂を踏むことは出来ませんでしたが、参加市民の皆様のご理解・ご協力により事故等無く H29 市民登山を終えたことを深く感謝いたしております。

## 花の名前　よく知っていた皆さん

**D班　（市民）　松下寿男**

今回で三年目に参加させていただきありがとうございます。

今まで一人で登った山も含め自然の美しさに感動しました。 特に、皆さん花の名前をよく知っていますよね。私は何も知らないのですが、一緒の班の方、よく花の名前をご存じで、この花は XXX ね、ってすぐ話してくれました。

普段から花の知識を取り込もうとしていられるのか、写真も積極的に撮られていて、 花を中心とした自然の理解を深める努力をしている姿を目の当たりに見て、 今まで個人的にハイキングしていた自分の考えを見直す機会となりました。また次回も誘っていただけたら参加させていただけたらと思います。

**E 班**

## 風の強さで有名な山

**E 班リーダー　外崎　蓮**

今年の市民登山に 20 名もの方々が参加して下さいました。中には顔見知りの方のお顔もチラホラ。やはり嬉しくなります。「智恵子抄」で知られる安達太良山が、人気の山であることが頷けます。

E 班は会員 5 名と市民 5 名の 10 名。登山口で名前を紹介しあい、お互いに顔をしっかり覚えました。さらに市民の方には、一人ずつ会員の間に入って歩いて頂きました。少し風はあるものの、道端のつつじや草むらの小さな花に歓声をあげながら、気持ちのよい山歩きを楽しみました。

ところが、くろがね小屋は一転して風と白いガスに見舞われていました。昼食を室内で食べたいのですが、小屋内には他の登山客が大勢いて、私たちの団体は入る人数が制限されました。晴れて風がなければ、小屋の前でのんびり休める筈だったのに計算が狂い出しました。

その後の予定を実行委員で話し合い、行けるところまで挑戦することにしました。強風に備えて、全員に雨具を着てもらい、班毎に出発です。先頭の A 班はどんどん先を進んで行きます。時折り強い風が吹きつけ、ガスが視界を遮り、前を行く人の姿がぼんやりしてきます。稜線にあと少しという地点で、E 班に所属していた山行部長が「戻ります」という指示を出しました。この瞬間、皆さ

んの頭の中には複雑な思いが去来したに違いありません。せっかく来たのだから登りたいと。痛いほど感じましたが、安全が何よりも大事ですから、指示に従いました。声がかき消されるような環境の中での伝令の仕方などに、多少反省材料は残りましたが、「戻る」という決断は正解だったと思っています。安達太良山は風が強い山で有名です。冬には標識についた雪が固まって、風上に向かって「えびのシッポ」が出来ることで知られています。下りも何度か強風で足をすくわれましたが、無事に小屋前に下山しました。あとはＥ班の皆さんも足並みが揃い、もと来た道を元気に戻りました。また、安達太良山の麓には、たくさんの温泉があります。ここまで来たのだから、誘惑にかられますが、帰りの高速道路が混めば帰宅は夜中になります。そのかわり、安達太良山 SA で少しだけ時間を延長して、買い物を楽しんで頂きました。

いつの日にか、お天気と相談しながら再度チャレンジして下さい。風さえなければ、登り易く優しい山です。岡弘治さん、小板橋弘征さん、後藤洋子さん、李莉萍さん、何育偉さん、ご一緒して下さってありがとうございました。至らぬ点はお許し下さいね。楽しかったです。

## 憧れて眺めていた山

Ｅ班（市民）　小板橋弘征

「岳人　あびこ」の会員の皆さん、実行委員の皆さん、この度は楽しい山行を有難うございました。お陰様で、大好きな磐梯や吾妻の山からいつも眺めて憧れていた安達太良山に初めての折ることが出来てとても感謝しております。

たまたま、先月、高村光太郎ゆかりの花巻を訪ねたので、引き続いて妻智恵子の故郷、二本松周辺の空気に触れ、「智恵子抄」の世界にも浸ることが出来ました。

三春町出身の岳人、故田部井淳子さんは安達太良で山に目覚めたそうですが、穏やかな山容の中にも厳しさを秘めた懐の深い山を案内していただき、少し登山のレベルも上がった（？）ように感じます。また、機会がありましたら宜しくご指導お願いいたします

**実行委員メンバー**

委員長：室崎宏治
高橋英雄　外崎蓮　森岡正和
藤家一仁　蟹江和子　小野泰子

会員が山行中に撮った花

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 安達太良山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 6 月 4 日（日） | | |
| 山域 | 奥羽山脈南部 | 地形図 | 1/25000<br>安達太良山 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 1A |
| 目的 | 市民とふれあい安達太良山に登る。 | | |
| 費用 | 10,000円 | 交通機関 | 貸切バス、ﾛｰﾌﾟｳｪｲ |
| 行程 | 我孫子駅南 5:40→北柏駅南 5:50→柏 IC→常磐・磐越・東北道→SA（休憩 15 分）→二本松 IC→奥岳温泉⇒勢至平分岐⇒くろがね温泉小屋(昼食) ⇒峰の辻⇒安達太良山⇒仙女平分岐⇒薬師岳・ゴンドラ山頂駅→奥岳温泉→二本松 IC→SA（休憩 15 分）→柏 IC→北柏→我孫子<br>＜歩行時間：４時間３０分＞ | | |
| 参加者 | A 班武内 L、桐生 SL、森岡、矢野裕、林、佐藤、＜一般＞徳井、北田、千葉、渡邉<br>B 班高橋英 L、中村八 SL、渡辺、矢野貞、深草＜一般＞常井、室崎育、水牧、増田<br>C 班田村 L、北田 SL、田嶋、石塚、吉澤、＜一般＞大井、小林、堀尾<br>D 班藤家 L、高橋芳 SL、齊田、小林安、本田＜一般＞内藤、松下、加藤、田中<br>E 班外崎 L、村松 SL、箕輪完、村越、高橋富、＜一般＞岡、小板橋、後藤、李、何<br>会員２７名　市民２０名　計４７名 | | |

概念図

＜１００７＞１０００回達成記念山行

切込湖～刈込湖

齊田　記代美

１０００回山行、おめでとう！！

山行 1,000 回という記念の山行に参加させていただきました。

一日目は赤沼バス停から低公害バスに乗り、西の湖から千手ヶ浜の散策コースへ。種々のピンクや白などカラフルなクリン草が満開だった。千手ヶ浜へはバスで簡単に来られるので観光客でいっぱいでした。昼食を摂り赤沼まで再びバスで戻った。赤沼バス停から湯本温泉行きのバスが 40 分以上遅れましたが、キャンプ場に着いた時には、食担の山行部の方々が横断幕を持って迎えてくださり、今宵の宿のテントも張っていてくださり感激しました。

その後、日帰り組の方々とも合流して待望の記念パーティーが開催され、それぞれが思い出の山について語り、パーティーの時間はあっという間に過ぎてしまった。日帰り組が家路に向かうと、残りのテント組が輪を小さくして、再び思い出話に花を咲かせ眠りについた。

二日目は刈込湖へ向かう。青空の下の刈込湖は「あれ、どこかで見たような景色だな」と思う。ブルーグリーンの湖面に湖畔の木々が水面に映った光景、もしここに白い馬が駆けてくれば、まったくあの「東山魁夷」の世界だと感動するほど素晴らしい景色でした。後日、刈込湖はあの絵のモデル？と調べたところ「白馬が駆ける緑の森」は八ヶ岳の麓にある池とわかり、後日早速その池を見に出かけたりしました。山はひとつ登ると他の思いが沸き起こり、また次の山へと誘われるよ

うなところがあるようです。

木陰の間から見える切込湖そして、広々とした涸沼を通って光徳牧場へと下山し、ここで有名なアイスクリームを食べ、バスで再びテント場に戻り無事1,000回記念の山行を終えた。

話は変わるが、私が入会させていただいたのは平成２１年です。入会して最初の山行は千葉県房総の元清澄山でした。新人歓迎山行、標高３５０ｍに満たない山、でしたが、登ったと思ったら下り、また登ってはくだりの連続で、いつたどり着くのかと思いながら歩きました。

さすが「岳人の集まりの会」、「低山といえども侮るなかれ」。翌日は筋肉痛に悩まされました。下山後は先輩たちが用意してくださったバーベキューをいただき、その後の出し物のイベントはみなさん童心に帰って真剣に取り組む姿に、私もこの会に入れていただきよかった！と思いました。

あれから８年が過ぎ、足が痛い、腰が痛いと言いながらも、色々な山行に参加させていただき、いろいろな思い出を作ったことを思いだしながら、今回も楽しくそして、一生懸命に歩きました。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 切込湖～刈込湖 | | |
| 月日 | | 平成29年6月17日(土)～18日(日) | | |
| 山域 | | 奥日光 | 地形図 | 1/25000　男体山 |
| 形式 | | テント泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ａ |
| 目的 | | ①1000山行達成記念山行　②クリンソウを愛でる　③原生林に囲まれた静かな佇まい | | |
| 費用 | | 約9,000円 | 交通機関 | まるごと日光フリーパス利用(電車、バス) |
| 日程 | 1日目 | 我孫子駅5:31→柏駅5:35/5:53（東武線大宮行き）→春日部駅（南栗橋行き）→南栗橋駅7:01/7:02（東武日光行き）→東武日光駅8:16⇒JR日光駅8:40（バス）→<br>**（西の湖～千手が浜、クリンソウ鑑賞コース）**参加者８名<br>赤沼9:44/10:10（低公害バス）→西の湖入口10:30⇒西の湖～千手ヶ浜散策と昼食⇒千手ヶ浜バス停12:25（低公害バス）→赤沼12:55/13:50(バス)→湯元温泉14:10⇒テント場14:20<br>＜歩行時間:約30分＞<br>**（湯の湖周遊コース）**参加者４名<br>湯元キャンプ場10:05(テント設営)/12:00⇒湯滝⇒キャンプ場13:00（テント泊）<br>＜日帰りコース13名と合流後、懇親会14:40～16:00＞ | | |
| | 2日目 | テント場5:45⇒小峠6:40/6:50⇒刈込湖7:20/7:30⇒切込湖7:45頃⇒涸沼8:20/8:35⇒山王峠9:10⇒光徳（アストリアホテル）10:05/10:15（バス）→湯元温泉10:28⇒テント場10:35/11:00⇒湯元バス停11:10/11:20（バス）→JR日光駅前12:50（入浴後反省会）⇒東武日光駅15:31→南栗橋駅→春日部駅→柏駅（常磐線）→我孫子駅18:35<br>＜歩行時間:3時間45分＞ | | |
| ルート状況 | | ・ルート、キャンプ場ともよく整備されている。キャンプ場利用料金1,000円／人<br>・今年４月の東武電車時刻表改正で、これまであった東武日光駅直通の快速電車がなくなり、特急以外は南栗橋駅での乗換えが必要となった。乗り換え時間が短いものもあるので、注意が必要。 | | |
| 参加者 | | **（湯の湖周遊・懇親会準備）**<br>武内Ｌ、郷田、矢野裕、高橋冨、北田、藤家<br>**（クリンソウ鑑賞）**<br>外崎Ｌ、村松、桐生、矢野貞、齊田、石塚、小島、小林安<br>男性５名、女性９名　計14名 | | |

1000回山行達成万歳！

＜１００８＞１０００回達成記念山行

切込湖～刈込湖

田嶋　まり

## エメラルド･コバルトグリーンの湖面

この度「岳人あびこ 1000 回山行達成記念」として日帰り組とテント泊組の２つのグループの山行が開催された。

日帰り組は日光公徳温泉のアストリアホテルバス停から切込湖、刈込湖を巡り湯元温泉に下るルート。

午前 10 時、快晴のお天気の元、皆さん元気にスタートを切った。まず出迎えてくれたのは頭上一面からの春ゼミの大合唱。その合間にうぐいすが美しくさえずり、時折キツツキがコンコンコンと木をつつく。高原の爽やかな空気の中、私たちは胸躍らせて歩を進めた。ほどなく高山植物が目にとまるようになる。新入会員の植物の専門家小野さんに木や花の名前を教えて頂きながら前半の、急な登りにくい木段を頑張ってクリアし涸沼に到着。ここは景色が一変。山の中にぽっかりあいた広いすり鉢状の草原。ちょうどお昼時だったので広いベンチに腰をかけランチタイムとなった。正面の青空がとても美しい。

食事を終えて１時間近く歩くと目指す切込湖らしきものが木立の中から見えてきた。エメラルドグリーンとコバルトブルーの湖面が目に入る。だんだんワクワクしてくる。

切込湖を通り過ぎ、隣の刈込湖に到着。水辺まで下りる。山影と青空、白い雲が鮮やかに湖面に映っている。みなさん口々に「わーきれい～！お天気でよかった～！」しばらく景色を堪能した後、次の楽しみは懇親会。皆せっせと歩く、歩く。階段を上ったり下りたり頑張って歩いていると、ほのかに硫黄（正確には硫化水素）の臭いが漂い始め、湯ノ平湿原に出た。そして 14 時半過ぎ、やっと湯元キャンプ場に到着。テント組の人たちには懇親会の準備を万端整えて頂いた挙句、長時間お待たせしてしまい申し訳なかった。

全員揃ったところで、まずは記念撮影。林さんの奥様が書いて下さった素晴らしい横断幕とともに皆さんでにこやかに写真におさまった。懇親会ではビールで乾杯の後、テント組の方たちが調達してくださった豪華なお料理と、持ち寄りの手料理で和気あいあいと愉快なお食事。

しかし楽しい時間も束の間、1 時間ほどで会を切り上げ、テント組と別れて私たちは 16 時 10 分発のバスで帰路についた。時間ぎりぎりで東武日光駅から予定通りの電車に乗車。乗り継ぎを重ねて無事帰宅。今回私にとっての一番の収穫は、小野さんに木や花（ミズナラ、コナラの違い、タチスボスミレ、ズダヤクシュ、ミツバオウレン、ウワミズザクラ、一葉ラン、等々）を教えて頂いたことだ。山と湖の絶景を楽しめた、まさに 1000 回達成記念に相応しい思い出に残る山行になりました。

概念図

木道を歩く

＜１００９＞

## 釈迦ヶ岳～黒岳

（1,641m）（1,793m）

矢野　貞子

黒岳山頂

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 切込湖～刈込湖 | | | |
| 月日 | 平成 29 年 6 月 17 日(土) | | | |
| 山域 | 奥日光 | 地形図 | 1/25000　男体山 | |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ | |
| 目的 | 1,000 山行達成記念山行 | | | |
| 費用 | 約 6,300 円(交通費＋懇親会) | 交通機関 | ＪＲ・東武線・バス | |
| 行程 | 我孫子(常磐線)5:31→柏(東武線改札口集合)5:35/5:53(東武線)→春日部 6:34/6:44→南栗橋 7:01/7:02→東武日光 8:16/8:40(バス)→日光アストリアホテルバス停 9:50/10:10⇒光徳牧場 10:15⇒山王峠 11:15/11:20⇒涸沼(昼食)11:50/12:10⇒切込湖 12:10⇒刈込湖 13:00/13:10⇒小峠 13:50⇒湯元温泉 14:25⇒湯元温泉キャンプ場(懇親会)14:35/15:50⇒湯元温泉バス停 16:10→東武日光 17:30/17:32→南栗橋 19:00/19:02→春日部 19:24/19:27→柏 20:08/20:15 我孫子 20:20 ＜歩行時間　3 時間 55 分＞ | | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・このコース、登山道は良く整備され、道標も完備している。道迷いの心配はない。<br>・トイレは登山口近くに 2 か所あるだけ。（光徳駐車場内、光徳牧場売店脇）<br>・光徳牧場脇の登山口から山王見晴らしまで約 300m 登る。丸太の階段道が続く。<br>・涸沼から刈込湖間はあまりアップダウンもなく湖畔の快適な登山道。<br>・刈込湖、小峠間は岩混じりの登り、木製階段が 10 カ所位続く。 | | | |
| 参加者 | 大畠 L、高橋芳 SL、田村、本田、中村育、村越、林、渡辺清、横尾、吉澤、田嶋、森岡、小野<br>＜男性 2 名　女性 11 名　計 13 名＞ | | | |

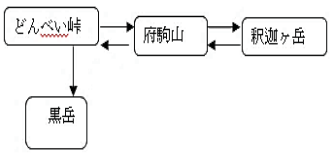
御坂山塊の山だ。黒岳には行ったことがあったが釈迦ヶ岳には行ったことが無かった。

大月からレンタカーを使うと計画書にはあったが一つ手前の猿橋でレンタカーにのった。黄色の可愛いマーチである。河口湖から若彦トンネルを抜けすずらんの里畑へ４㎞を折れて進むとすずらん群生地大駐車場があった。もう少し先に車を止めようと急坂の先のわずかな空き地に駐車し歩き始めたが、もっと稜線近くまで車で行けそうだということになり、郷田さんが一人で車を取りに戻ってくれた。後の４人はぶらぶら先に歩いていると郷田さんが来たので、また車に乗り５～６分走ったらどんべい峠にでた。道脇に数台駐車していた。

どんべい峠からは緩やかにのぼっていくと府駒山に着いた。府駒山から釈迦ヶ岳の間はところどころにロープが張ってある岩場だが、それを頼らなくても登れるくらいの岩場であった。釈迦ヶ岳の頂上には大きな岩が露出していて大勢で休めるほど広くはない。可愛い夫婦地蔵が富士山を背に微笑んでいた。私達が頂上に着いたときはわずかに富士山が見えたがすぐに雲に隠れてしまった。30 分ほど休み、どんべい峠まで引き返し黒岳に向かった。黒岳への道はブナやミズナラの林の道をジグザグに登っていく。途中すれ違った人に頂上付近にカモメ蘭が咲いているよ、と言われ下を注意しながら登っていった。あと少しで御坂峠からの稜線というところでカモメ蘭を見つけた。更に稜線には柵で囲ったところにたくさん咲いていた。黒岳頂上から少し河口湖畔よりの展望

台で休んだあと来た道を引き返した。途中左手に林道に下りる巻道で郷田さんが一人で車を取ってくるから４人はそこから林道に下って行って良いとの甘い誘惑があり、郷田さん一人どんべい峠に車を取りに行ってくれた。林道に下りた所は、朝郷田さんに拾って貰った所で5~6分待っていたら車に来て大月に帰ってきた。大月で反省会をして帰ってきた。梅雨の合間の気持ちよい山行でした。

**概念図**




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 釈迦ヶ岳～黒岳 | | |
| 月日 | 2017年　6月　24日（土） | | |
| 山域 | 御坂山塊 | 地形図 1/25000 | 河口湖・西部・東部 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2B |
| 目的 | 富士を眺める | | |
| 費用 | 4,000円 | 交通機関 | ＪＲ、レンタカー |
| 行程 | 我孫子駅5:33（千代田線）→新松戸（武蔵野線）5:47/5:50→西国分寺6:47/6:56→高尾（中央線）7:21/7:26→大月8:11/(ﾚﾝﾀｶｰ）→大月IC→河口湖IC→どんべい峠9:50/10:00⇒府駒山10:25⇒釈迦ヶ岳11:00/11:30⇒府駒山12:00⇒どんべい峠12:25⇒黒岳13:45/14:00⇒上芦川方面分岐14;30⇒林道14:40⇒P→河口湖IC⇒大月IC⇒大月駅(15:30)→（高尾、西国分寺、新松戸）→我孫子<br>（歩行時間:4時間） | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・どんべい峠から釈迦ヶ岳へのルートについては特に危険な場所もなし。<br>・釈迦ヶ岳頂上近くで多少の岩場がでてくるものの慎重に歩けば問題なし。<br>・再びどんべい峠に戻り、黒岳への登山道もよく整備されていて問題なし。ブナやミズナラの新緑がきれいで快適な登山ができた。<br>・ゆっくり登れば勾配もそれほど気にせずに登れた。<br>・頂上近くで絶滅危惧種?のウサギランを数株見ることができた。（下山者からの情報でした。） | | |
| 参加者 | 北川L、郷田SL、矢野貞、石塚、大平<br>男性３名、女性２名　計５名 | | |

＜１０１０＞

## 上州武尊山
（2,158m）

小林　安代

### 花 雪渓 鎖場の雄大な山

武尊山は、日本武尊伝説を伝える奥利根の名峰。主峰の沖武尊の山頂からの360度の大展望を期待していたが、夜中から雨が降り出し、朝の5時過ぎにはザーザー降りになっていた。

岩場、鎖場もある為、無理をしないで途中で引き返す事を念頭に置きながら民宿の送迎車に乗り、武尊オグナスキー場に向かった。

スキー場に着いたが、更に鍵の掛かったゲートを開けて通過して、登山口直前まで送って下さった。そのおかげで、雨の登りの時間短縮に繋がり、このご厚意は嬉しい限りだった。

登り始めるとツバメオモトが次々に出迎えてくれた。大きい葉っぱに小さな可憐な白い花は、うつむいて歩く私たちを励ましてくれた。

1時間位登った頃から、雨が小降りになり、時折雲が切れ眺望が良くなったりした。まもなく前武尊に着くと、古（いにしえ）の武将、日本武尊の像がしっかりした屋根の中で構えていて、伝説の山というのがうかがえた。

辺りには、ヤマザクラ、ミツバオーレン、サンカヨウが咲いていた。

剣ヶ峰は巻き道を進み、家ノ串を過ぎ、中ノ岳辺りは痩せた岩稜だった。バランスを保ちながら慎重に進んだ。

しばらくすると雪渓が現れた。キックステップで進みながら、武尊山の雪の深さを感じた。

武尊山山頂に着くと、今まで出会わなかった数

人の登山者がいた。

雲の切れ間から、見えるであろう尾瀬・日光群山･谷川連峰など 360 度の大展望を想像しながら、早めのお昼休憩をした。

下山を始めるとすぐガレ場の急坂。そこに、また日本武尊命の像が風で倒れたのか斜めになっていた。慎重に下り行くと、2 度目の雪渓。小さな沢を渡る所では少し雪が解けている為、沢に落ちないように雪の中に靴が埋もれないように注意して進んだ。

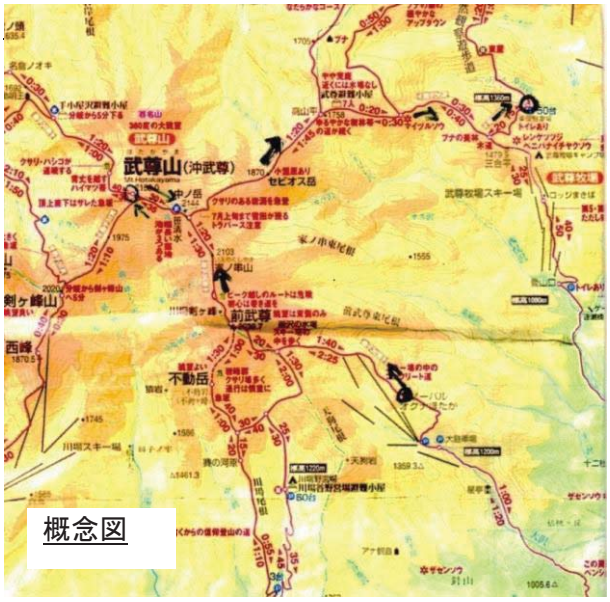
どんどん景色は変わり、ハイマツ帯を過ぎるとほっとする間もなくクサリ場がある急坂道とクサリのある垂直ほどの大きな岩を降り、武尊避難小屋前で立ち休憩をした。小さな簡素な小屋だった。

針葉樹林帯に入ると水たまり道だ。もう構わずビシャビシャ歩き、自然に急ぎ足になっていた。

ようやくさわやかなブナ林の道に入り、アカヤシオ、マイズルソウ、ズダヤクシュ、チゴユリ、ベニバナイチヤクソウが咲いていた。

民宿の送迎車が待つ、武尊牧場スキー場近くには、レンゲツツジが満開で一面オレンジ色に咲き誇り、私達の足取りを軽くしてくれた。

雪渓あり、岩場あり、クサリ場あり、たくさんのお花がある登り甲斐のある武尊山だった。




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 上州武尊山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 6 月 24 日(土)～25 日（日） | | |
| 山域 | 上州 | 地形図 | 1/25000　鎌田 |
| 形式 | 山小屋 | グレード | ２B |
| 目的 | 春の花を楽しむ | | |
| 費用 | 18,000 円 | 交通機関 | JR、バス |
| 日程 1日目 | 我孫子駅 7:32→上野 8:05/8：35（アーバン高崎行き）→高崎 10:15/10:24（上越線）→沼田 11:11/11:20（関越交通バス）→吹割の滝（ハイキング）12:05/14:35（関越交通バス）→武尊口 14:41（民宿の車）→山太屋 15:00　花咲の湯へ入湯後山太屋（宿泊） | | |
| 日程 2日目 | 4:30 起床・5:46 民宿の車で出発→武尊オグナスキー場 6:15⇒前武尊 7:43/55⇒家ノ串山 9:07/15⇒中ノ岳ジャンクション 10:04⇒武尊山 10:42/11:15⇒武尊避難小屋 13:32/47⇒武尊牧場 14:40(民宿の車)→民宿 15:30/16:30(民宿の車)→沼田 17:20/18:01→高崎 18:48/19:07→上野 20:53/20:56→我孫子 21:31 着<br>＜歩行時間：7 時間＞ | | |
| ルート状況 | ･登山道はわかりやすく迷うことはない。<br>･雨で岩が濡れている部分があった。<br>･一部登山道が崩れている所があった。<br>･頂上付近は岩場。下山の岩場は鎖とロープがいくつもぶら下がっている所があり、ロープが多すぎてかえって邪魔だった。声を掛け合って降りた。 | | |
| 参加者 | 村越 L、本田 SL、箕輪、藤家、小林安、森岡、板倉<br>男性 4 名、女性 3 名　　計 7 名 | | |

＜１０１１＞

## 薬師岳・早池峰山
（1,645m）（1,917m）

佐藤　清宏

### ハヤチネウスユキソウの見事な群落

若い頃『新・花の百名山』を読み、長年の憧れだった早池峰山に、岳人あびこに入会して僅か 4 か月で登山し、多くの高山植物を愛でることができて至福の 2 日間でした。

1 日目は夜行バスでの睡眠不足を考慮して、早池峰山の南にある薬師岳に登りました。小田越登山口では、ノビネチドリ・ヤマオダマキがさっそく我々を出迎えてくれまし　た。登山道に入ると、クマ達にヒトの入山を伝えるためのドラム缶がぶら下がっており、ひとつ叩いて、「これからクマの領域にヒトが入らせていただきます」とあいさつしました。樹林帯では、オサバグサ・マイズルソウの群落、大きな花崗岩の岩穴にはヒカリゴケ、樹林帯を抜けたあたりではイソツツジの群落と、多くの花々に出会いました。が、ウスユキソウは見かけませんでした。1 時間 40 分ほどで頂上に達し、明日登る早池峰山を北に臨み、明日も晴天であることを願いました。岳集落の宿舎には 15 時過ぎに入ることができて、早く汗を流してゆっくりできました。夕食後、早池峰神社に皆で参拝し、明日の安全登山を祈願しました。

2 日目は 3 時起床。小田越登山口には 4 時過ぎに着き、4 時 30 分出発。さっそく樹林の中にギンリョウソウが白く輝いて見えます。こちらの登山道にもドラム缶がぶら下がっていました。樹林帯が終わるあたりでシオガマを見つけました。蛇紋岩の大きな岩を過ぎたところで、白い花を見ましたがウスユキソウとのこと。さらに少し登ると、「あっ、あれは」　岩棚の上にすっくと一輪、いよいよ憧れのハヤチネウスユキソウの登場です。背丈は２０センチほど、白い星状の花（花弁ではなく総苞葉とのこと）が大きく、見事に咲いていました。登るにしたがって、花の数、花の種類はどんどん増えていきます。ミヤマアズマギク・ナンブイヌナズナ・コバノツメクサ・ミヤマキンバイ・イワベンケイ・チシマフウロなどなど。そして、登山道の真ん中に小指の先ほどの薄ピンクの花弁をもったナンブトラノオを見つけました。６時２０分五合目下でおにぎりの朝食です。まわりはハヤチネウスユキソウとコタヌキラン。五合目からしばらくはハイマツ帯の中を進みます。朝の涼しい風が気持ちいい。再び岩稜帯に入ると、ハヤチネウスユキソウ・ナンブトラノオ、その他大勢の花々が登山者を見守ってくれています。頂上稜線では、イワカガミ・ショウジョウバカマ・チングルマ。ミネザクラは花から実へ、コバイケイソウは芽吹きでした。８時前に頂上到着。早池峰神社奥宮に安全登山のお礼をしました。頂上からは昨日登った薬師岳をはじめ、北上山地の山々が見渡せました。

早池峰山は、百名山のひとつで「登りたい山」でしたが、今回時間をかけてゆっくり多くの花々を見ながら登ることで、「また、登って、見たい山」になりました。　大山Ｌをはじめ、同行してくださった岳人の皆さんに感謝です。

対峙する薬師岳からの早池峰山
（正面の尾根が登山道）

## 概念図

## 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 薬師岳・早池峰山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 7 月 5 日〔水〕～7 日〔金〕 | | |
| 山域 | 北上山地 | 地形図 1/25,000 | 早池峰山、高檜山 |
| 形式 | 山荘泊 | グレード | ３Ａ |
| 目的 | ①ハヤチネウスユキソウ及び高山植物観賞〔例年７月第一週がピーク！〕<br>②薬師岳 1,645m に登りヒカリゴケ、オサバグサ等高山植物観賞 | | |
| 費用 | 約32,000円 | 交通機関 | JR、JRﾊﾞｽ、ﾚﾝﾀｶｰ |

| | | |
|---|---|---|
| 日程 | 1日目 | **前夜（7/5）**我孫子駅22:08→常磐快速⑤→柏駅→日暮里駅→東京駅〔八重洲南口〕22:58/23:30→ＪＲハイウエイバスドリーム３号→盛岡駅東口6:55⇒日産ﾚﾝﾀｶｰ7:00/7:30→ガスト〔朝食〕7:45/8:25→大迫ﾜｲﾝｼｬﾄｰ→1,250m 小田越登山口 9:13/9:30 ⇒ 5 分休憩 x2 ⇒ 薬師岳 12:25/12:50⇒5分休憩x1⇒小田越登山口 14:40/15:00→岳部落・峰南荘15:30<br>＜歩行時間　４時間30分＞ |
| | 2日目 | 峰南荘 3:45→ﾚﾝﾀｶｰ→小田越登山口 4:08/4:30⇒一合目 5:10/5:20⇒五合目付近〔朝食〕6:20/6:40⇒五合目 6:50⇒八合目 7:30⇒早池峰山頂 7:52/8:25⇒五合目 9:20/9:30⇒小田越登山口 10:40/10:55→ﾚﾝﾀｶｰ→岳集落峰南荘〔昼食、入浴〕11:20/12:15→ﾚﾝﾀｶｰ→日産ﾚﾝﾀｶｰ 13:45⇒盛岡駅 14:00/15:17→はやぶさ 58 号→上野駅 17:26/17:46→常磐快速→ 柏駅→我孫子駅 18:18<br>＜歩行時間：5 時間 00 分＞ |

| | |
|---|---|
| ﾙｰﾄ状況 | **・薬師岳**<br>・登山口～8合目までは深い樹林帯で、梯子場を抜けると一気に稜線に出て、樹林限界になり、気持ちの好い、好展望の樹海を泳ぐように真っ正面に早池峰山を仰ぎながら山頂を目指す<br>・登山客は殆どが早池峰山に登ってしまうので人気はないが、数少ない地元の方と声を交わすととても嬉しそうに薬師岳の見所を説明してくれた。地味ではあるが登り甲斐もあり、愉しい山であった<br>・山頂から分岐する道はあるが小田越からピストンの場合は一本道で迷うところはなかった<br>**・早池峰山**<br>・1~2合目が深い樹林帯だが斜度も有り、意外と高度を稼ぎ、一本道で迷うことはない<br>・樹林帯を抜け、5合目までは早池峰山を仰ぎながら、昨日登った薬師岳と標高を確認しながら灌木帯を豊富な高山植物を観賞しながら登る<br>・写真を撮るために高山植物帯に入り込んだ踏み跡が無数にあったが、ロープで登山道を確り示し、高山植物帯へ入らないように注意している<br>・五合目から上部は気持ちの好い素晴らしいハイマツの樹海が展開し、暫く高山植物帯が少なくなるが所々の岩陰や苔帯に咲いている<br>・八合目に長い鎖場が現れ、これを登りきると早池峰山の山稜部となり、此処からは既に雪も溶け、池塘の水も涸れていたが、水芭蕉、ショウジョウバカマ、イワカガミ、コバイケイソウなどの湿地性の高山植物が咲き誇っていた〔雪田が溶けて消えていたのでチングルマは終わっていた〕<br>・今日も山麓は30℃越えであったが、日陰のない直射日光を真面に受けるコースなので日焼け、熱中症の準備、アブ等の虫類も多かったので防虫準備要、本田SLは防虫網と防虫剤持参で対処 |
| 参加者 | 大山L、本田SL、北田、高橋富、蟹江、横尾、小野、佐藤、板倉<br>男性4名、女性5名、計9名 |

＜１０１２＞

南八ヶ岳縦走
硫黄岳 ～ 横岳　～　赤岳
（2,760m ）（2,829m）（2,899m）

藤家　一仁

## 八ヶ岳の雄大な自然に触れた山小屋泊山行

硫黄岳頂上

主峰の赤岳をはじめ、横岳、阿弥陀岳、硫黄岳、権現岳など標高 3,000m近い鋭い岩峰が続く南八ヶ岳。多彩なルートが設定できる中、今回は桜平から登り夏沢峠、硫黄岳、横岳、三又峰、赤岳と縦走し文三郎尾根・美濃戸口へ降りる一泊二日の登山の醍醐味が味わえる山行。山行目的は、①多様な高山の花咲く赤岳山群を巡る。②稜線の山小屋に宿泊して星の勉強を･･･である。折しも七夕であり満天の星空も眺めたく山行に参加した。

**<一日目>**

梅雨時の山行のため天気が心配されたが、晴天に恵まれ弾んだ気持ちで茅野へ向かった。

茅野駅から登り口の桜平までは、ジャンボタクシーを利用。三井の森別荘地を抜けると唐沢鉱泉入口に出る。桜平へはここから右に分岐する未舗装の林道になる。悪路であり路面の荒い部分の走行と見通しの悪いカーブでの対向車に注意が必要であり RV 車向きの林道であった。

初日の目指す頂は硫黄岳。桜平登山口から夏沢鉱泉、オーレン小屋、夏沢峠まではそれほど苦労なく到着した。夏沢峠から硫黄岳はガレ場を登っていくため、登りがきつくなった。途中、オーレン小屋での休憩時に小雨がふったりし、残念ながら眺望は期待できないな･･･と思いながら沢山のケルンを抜けながら硫黄岳山頂着いた。広い山頂に着くと同時に、なんということか・・・突然晴れてきて日が差してきてくれた。一度山を下りかけた人も、カメラを片手に戻ってくる程であった。左側が切れ落ちた爆裂火口の大パノラマ、横岳、赤岳、阿弥陀岳が等を見ることが出来とてもラッキーだった。

休憩後、硫黄岳山荘までは、ゆっくり高山植物を鑑賞しながら足取り軽く向かった。

硫黄岳山荘は、夏山シーズン前でもあり、平日のためかゆったり過ごすことができ、山荘前の高山植物鑑賞コース散策や、残念ながら私は寝てしまいましたが・・・宝石箱を開けたような満天の星空、天の川、流星(人口衛星？）を観ることが出来た夜でした。

余談ではあるが、硫黄岳山荘標高 2650m での水洗トイレ(ウォシュレット)は快適であった。

**<二日目＞**

二日目も素晴らしい日の出(ご来光)とともに晴天に恵まれた。山小屋で朝食を済ませ、横岳・赤岳と縦走し文三郎尾根・行者小屋・美濃戸口へ下る行程である。

歩き始めは高山植物を楽しみ、横岳・赤岳・阿弥陀岳など雄大な南八ヶ岳の景色を楽しむことができたが、次第に岩稜や鎖場・ハシゴが続く横岳・ザレた急斜面の赤岳、頂上からは鎖場の険しい道を文三郎尾根まで下りていく。硫黄岳から見た、緑豊かな赤岳とは異なる、荒々しい岩の赤岳を見ることができた。文三郎尾根は階段と砂とガレ場の道をひたすら降り行者小屋へ到着する。行者小屋から南沢、美濃戸口までは長くつらい道のりでやっと八ヶ岳山荘へ着く感じであったが、八ヶ岳山荘でサッパリと日帰り入浴（500 円）し、ジャンボタクシーにて茅野駅に向かった。ジャンボタクシーの利用でもバスの運賃とも大きく料金は変わらず（7 人利用でひとり約 300 円差)、バスより時間の自由が利くので便利であった。

赤岳頂上

反省会は、茅野駅西口「そば茶屋ちのベルビア店」。帰りの特急の時間まで時間が無く、生ビールにもり蕎麦一枚を慌ててお腹にいれて帰路に着いた。

目的の一つの満天の星空は夢の中で見ることは出来ませんでしたが、ゆっくりと高山植物をみながら楽しく夏の山を堪能することができました。リーダをはじめ同行の皆さんに感謝いたします。

**概念図**

桜平 ➡ オーレン小屋 ➡ 夏沢峠 ➡ 硫黄岳 ➡ 横岳 ➡ 赤岳 ➡ 美濃戸山荘 ➡ 美濃口

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 南八ヶ岳縦走 | | | |
| 月日 | 平成 29 年 7 月 7 日（金）～8 日（土） | | | |
| 山域 | 八ヶ岳連峰 | 地形図 | 1/25000<br>八ヶ岳西部、八ヶ岳東部 | |
| 形式 | 山小屋泊 | グレード | 2B | |
| 目的 | 多様な高山の花咲く赤岳山群を巡る。稜線の山小屋に宿泊して天空の美しさに感動する。 | | | |
| 費用 | 22,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、ﾀｸｼｰ | |
| 日程 一日目 | 我孫子駅発 5:31→新宿駅→6:35/7:00（特急あずさ 1 号）→茅野駅 9:08/9:15(タクシー)→桜平 9:55/10:10⇒夏沢鉱泉 10：50⇒オーレン小屋 11:40/12:10 ⇒夏沢峠 12:50⇒硫黄岳 13:55/14:20 ⇒硫黄岳山荘（泊） | | | |
| 日程 二日目 | 硫黄岳山荘 6:10⇒横岳 7:10/7:20. ⇒三又峰 7:50⇒地蔵尾根分岐 8:55⇒赤岳 10:00/10:30⇒行者小屋 10:00/10:30⇒美濃戸山荘 14:50/15:00⇒美濃戸口 15:55/16:40(タクシー)→茅野駅 17:00/17:50→立川駅→西国分寺→我孫子駅着 21:16 | | | |
| ルート状況 | ・登山口の桜平には距離を置いて駐車場が 3 カ所ある。登山口に近い方から満車になるようです。<br>・登山口までの林道はひどいダートの道のため、タクシーの定員乗車人数は 3 名と制限されている。（車の底が当たるため）我々は車高の高いジャンボタクシーを予約した。（料金は約 13,000 円）<br>・ルートは南八ヶ岳のメインルートのため、標識等は整備されているため、晴天時は迷う心配はない。<br>・宿泊したい硫黄岳山荘は山小屋では珍しい、トイレにウオシュレットが設置されている。<br>・横岳から赤岳に向かう稜線上のルートが以前より変更になっているため、注意が必要です。又、鎖場、はしご等、次から次へと現れ緊張が続く。三点確保で慎重に通過する必要がある。<br>・下山道の文三郎尾根は階段、滑り止め等設置されているが崩壊カ所があり、非常に歩きずらい。<br>・美濃戸口のバス停にある、八ヶ岳山荘には入浴施設（温泉ではない）があり、下山時にバスの時間を待つ間に利用すると便利。 | | | |
| 参加者 | 村松L、外崎 SL、武内、矢野貞、藤家、深草、小林安<br>男4名　女3名、計7名 | | | |

横岳山頂付近から
赤岳展望荘と赤岳山頂荘を展望

＜１０１３＞

霧ヶ峰・車山
（1,925m）

本田　愛子

## 歴史辿り、大草原の花楽しむ

車山山頂にて

山には登る山と遊ぶ山とがある。前者は息を切らし汗を流し、頂上に辿り着いて快哉を叫ぶ。後者は目標に固執しないで、のんびりと気ままに歩く広濶な展望を持った高原状の山。霧ヶ峰はその代表的な山であると深田久弥の百名山の著書に記されてる。

今回の山行は、鎌倉時代に武将たちが集り騎射の技くらべをした旧御射山を訪ね、武将たちが御射山を目指し観音沢を歩いた道を辿り、霧ヶ峰の歴史を感じる旅。

7 月 14 日　下諏訪駅からタクシーで標高 1,000m の大平登山口に向う途中、地元の運転手さんが 6 年毎に行う御柱落としの地に立ち寄ってくれた。45 度の坂を 20mくらい丸太に乗って落下する。上から見下ろすと足がすくむ。

大平に着くと水場があり飲料水を汲み、観音沢に入って行く緩い坂を登って行くと作業場らしい広場に出た。はっきりした道がなく道標もなかったが草の中を登ると道があった。何本かの木にピンクのリボンが付いていたが道標はなかった。少し戻ると昔道が続いていたので、そこからは迷わずに登って行けた。地図で方向を確認しながら登って行くと、沢の淵に出て、丸太の橋を渡渉しながら、3 度目の橋を渡りかかった所、丸太の 1 本が折れて先頭のＹさんが川に落ちた。腰まで水に浸かったが無傷で済んだ。黄色のテープがあったが分かり難く渡ってしまった。渓流沿いを登って行くと岩や石が大きくなって、屏風岩の上部にお地蔵様が壁穴に埋めてあった。

観音沢の静寂な昔道を、新緑と渓谷の美しさに癒されながら歩いていくと、ビーナスラインの橋の下に着いた。橋をくぐると、そこはもう旧御射山の開けた場所。今夜泊まるペンション風の御射山ヒュッテに荷物を預け、すぐに八島湿原を周遊散歩に出かけた。湿原には夏の花がたくさん咲いていた。ピンクのヤナギラン、白いシシウド、ニッコウキスゲの黄色、アヤメ、バイケイソウなどの色とりどり…。

一周すると丁度ヒュッテの前に戻った。霧ヶ峰にはいくつかのヒュッテがある。それぞれに個性的で、オーナー達は詩人や画家で多くの文人達と交流があった。コロボックル、ジャヴェル、クヌルブは詩人らしい名前のヒュッテだ。今は 2 代目になっている。

入浴をしてからリビングでお楽しみの夕食だ…ブイヤベース又はスープハンバーグにサラダとパンで洋風だった。ちなみに朝食はパンとドリンクのみでした。

観音沢

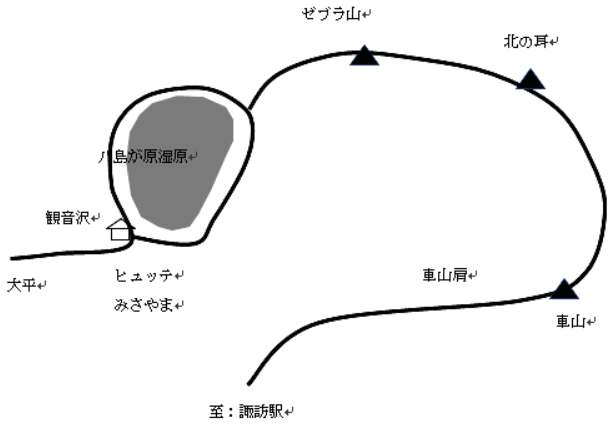
霧ヶ峰の朝は霧が立ち込めて真っ白い景色だったが、出掛けるころには霧も晴れて好天気になった。ヒュッテを出るとすぐに諏訪神社下社の御射山祭お狩神事が行われた御射山遺跡がある。騎射の技を競った草原の向うの丘に桟敷の段々が痕跡を留めていた。

昨日歩いた八島湿原を少し行くと、キャンプ場のある分岐の右へは物見石方面へ左方の男女倉山（ゼブラ山）へ登って行くと、展望が開けて南アルプス、北アルプスの山々が望め、40 分ほどで山頂に着いた。ゼブラ山の頂は手の届くような蓼科山と 360 度の展望そして目指す車山までの稜線が続いていた。スイスの高原をトレッキングしているような大草原にホソバうすゆき草が咲いて

いた。北の耳、南の耳（1838m）のピークを越え、白樺湖からのリフトの横を過ぎ、急な長い階段を登り詰めて車山（1925m）に到着。観光客など大勢がいて山頂は賑やかだった。車山頂から 30 分ほど下ると、コロボックルヒュッテがある。ボルシチスープが美味しいので、ちょうど 12 時でパンとコーヒー付きのセットを明るい外のテラスで１時間半のんびり昼食を摂った。

近くのビーナスラインのバス停から乗って、霧ヶ峰の山々を見ながら上諏訪駅に下りてきた。駅から徒歩５分の諏訪湖近くの片倉館に立ち寄った。片倉製糸の２代目経営者がヨーロッパ視察で住民の為の温泉施設を建てた。湯船が深く立ったまま湯に浸る。当時の洋風建築をそのままに資料館やくつろげる食堂になって一般客に開放している。霧ヶ峰の奥深い歴史を辿り、雄大な高原を遠い山近い山を眺めながら歩いた。遊ぶ山の楽しさを十分に味わった。

**概念図**




| | | |
|---|---|---|
| 日程 | 1日目 | 5:31 我孫子駅 → 柏駅 → 6:30 新宿（スーパーあずさ１号）7:00 → 9:14 上諏訪 → 9:24 下諏訪/9:30 タクシー→（御柱木落坂 9:45/9:50）→ 9:55 大平 10:15 ⇒ 観音沢 ⇒ 13:30 ヒュッテみさやま（昼食）14:15 ⇒ 八島ヶ原湿原一周/鎌ヶ池 15:00/15:05 ⇒ヒュッテみさやま 16:00(泊)<br>＜歩行時間約４時間 45 分＞ |
| | 2日目 | ヒュッテみさやま 7:15 ⇒ 7:20 御射山神社 ⇒ 7:40 分岐 ⇒ 8:10 ゼブラ山 8:30 ⇒ 9:00 北の耳 9:05 ⇒ 11:10 車山山頂 11:20 ⇒ 11:55 車山肩（昼食）/13:40 車山肩バス停 → 14:45 上諏訪駅 ⇒ 15:00 片倉館（入浴）16:45 ⇒上諏訪駅 17:22（スーパーあずさ 28 号）→19:36 新宿 19:40 → 上野（成田行き） → 20:50 我孫子<br>＜歩行時間約４時間 10 分＞ |
| ルート状況 | | ･観音沢へは大平からの入り口はわかりやすかったが、その先に登山道か作業小屋への道か、また木についているピンクのテープは、作業のための目印か登山道の案内かで迷わされた。常に地図とコンパスと照らし合わせながら歩いた。<br>･沢に沿っての登山道は、いくつか小さな沢をまたぐところや丸木橋があり、滑りやすいところ、細く崩れやすいところなど、ゆっくりと慎重に歩いた。<br>・　大平から観音橋に至るまで、誰にも会わず、クマよけの鈴や笛を吹きながらあるいた。<br>･沢の水量はこの時期にしては多くはなく、登山道に流れる水量も少なく、渡渉も心配することはなかった。<br>･八島が原湿原は標識があり、二日目の尾根歩きも一本道で迷うところはなかった。 |
| 参加者 | | 齊田 L・矢澤 SL・箕輪完・箕輪カ・本田・渡辺清・吉澤・田嶋<br>（男性２名・女性６名　計８名 |

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 霧ヶ峰・車山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 7 月 14 日(金)～15 日(土) | | |
| 山域 | 美ヶ原･霧ヶ峰 | 地形図 | 1/25000 霧ヶ峰 |
| 形式 | 山小屋泊 | グレード | ２Ａ |
| 目的 | 鎌倉武士が集い技を競い合った地を訪ねる | | |
| 費用 | 約 20,000 円 | 交通機関 | ＪＲ・タクシー・アルピコバス |

＜１０１４＞

玉原湿原～鹿俣山
（1,624m）

小島　洋子

## なだらかなで素敵な
## 高原の散歩道

初めてのリーダーで前日の夜より緊張気味で、「予定通りにいきますように！」と祈りつつ寝ました。山行当日、順調に電車が進んでいたのですが…。しかし、落石の影響か突然渋川駅で立ち往生。しかもいつ再開があるのかのアナウンスもなく、沼田の駅レンタカーに電話をして渋川駅からのレンタカーを手配していただき、急遽、玉原センターハウスまで行きました。到着が予定より 40 分の遅れです。11 時に出発、ブナ林の洪水、とても癒されます。樹齢❓　年のブナの大木です。

鹿俣山に向かっている途中からぽつりと雨が降り始めました。雨合羽をつけて直ぐに大粒の雨です。天気予報でにわか雨の予報が出ていましたが、当たってしまいました。私は上しか雨合羽をつけていませんでしたので、ズボンがびっしょりでした。しかし、長くは続かずに雨がやみました。道は比較的なだらかなので高原の散歩です。眼下にリフトが見えてきました。そちらの道を行きますと、ラベンダーパークです。ラベンダーやマリーゴールドが咲いておりました。ヤナギランが満開の所で「チーズ」写真タイム。ｾﾝﾀｰハウスまでの道が分からず、郷田さんが地元の人に聞いてくださった。リフトがありそこを潜って行くとのこと。分かりにくい。しかし、小川が流れとてもすてきな散歩道でした。ハブニングの 1 日でした。参加のみなさまのおかげでクリア。感謝申し上げます。

概念図

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 玉原湿原～鹿俣山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 7 月 22 日（土） | | |
| 山域 | 藤原湖 | 地形図 | 1/25000 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １A |
| 目的 | １．ブナ林を歩く　２．ラベンダーの観賞 | | |
| 費用 | 5,000 円（反省会込み） | 交通機関 | JR・レンタカー |
| 行程 | 我孫子駅 5:41→上野 6:14/26→高崎 8:16/24→(がけ崩れのため途中下車）渋川 9:40→玉原センターハウス 10:55/11.:00⇒ブナ平（昼食）11:40/11:50⇒鹿俣山 13:05/13:10⇒ラベンダーパーク14.:00/14.:50⇒センターハウス 15:20/15:30→沼田（反省会）16:20/17:04→高崎 17:52/59→上野 19:48/20:03→我孫子 20:36<br>歩行時間　3 時間 30 分 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・センターハウスから案内板があり案内板に沿って歩く。帰りにラベンダーパークの道を選択する。。ラベンダーパークからセンターハウスへの道が分かりにくかった。 | | |
| 参加者 | 小島 L、郷田 SL、桐生、石塚、林、高橋富<br>男性 2 名・女性 5 名　計 7 名 | | |

＜１０１５＞

## 森吉山・赤水渓谷・秋田駒ケ岳

（1,454m）　　（1,637m）

外崎　蓮

ここが山頂だ！（森吉山の稚児平付近）

### 7/28　森吉さ～ん　今年も来ちゃったよ

懲りずに今年も計画を立てた。去年は秋だったが、今年は夏真っ盛りに行くことにした。出発まであと 10 日という頃、秋田地方は連日の豪雨に見舞われた。その爪あとがあちこちに残り、新幹線「こまち」は出発当日まで間引き運転。田沢湖に 1 時間遅れで到着した。改札を出るとき、駅員に盛岡から立ってきたことを告げると、何と予想外の現金が払い戻されてびっくりした。

今日の行程は、ゴンドラで森吉山を往復する。駅レンタカー店で手続きをしていると、雨が降り出した。それも只ならぬ雨。更に、田沢湖沿岸の道が工事中のため、湖の西側を大きく迂回して国道に出た。時間は刻々過ぎ、森吉山をあきらめかけた頃に雲間から日が差してきた。

ゴンドラ乗り場は閑散としていた。片道 20 分も乗って山頂駅から歩き出す。30 分ほどで、「こめつが山荘」からの縦走路に合流した。このコースは森吉山の最短コースかも知れない。ただ気をつけなければならないのがゴンドラの最終時間。4 時を過ぎると歩いて下るしかない。私たちは時間を気にしながら山頂に向かった。道端のキスゲがひときわ明るく迎えてくれたが、5m先は昨年と変わらぬ白い靄が視界を遮っている。結局、今朝の新幹線の遅れがたたり、稚児平で時間切れとなった。ゴンドラは往復で 1800 円だが、藤家さんがネットから割引券を取り出してくれたお陰で一人 100 円引き。こんな些細なことがとても嬉しくなる。国道 105 号線を北上し、阿仁前田駅前のスーパーに寄って妖精の森に向かう。予定時間より早く着き、管理事務所で受付を済ませて勝手知ったるバンガローの我が家へ。昨年のリピーターが 5 人もいるので、バンガロー内の長椅子やテーブルを移動して、あっという間に食卓と調理台を配置する。このバンガローは、年に何回か子供たちが研修で使用する以外は空いているという。板の間に 20 人は寝られそうだ。コンクリートの土間も広く、ガスはここで使用した。今晩はボルシチのご馳走。たわいのない話で盛り上がった。

### 7/29　極上のウォータークライミング

今回の山行の一番の目的は、赤水渓谷を歩くこと。昨年は沢が増水して入れなかった。それに藤家さんが沢シューズを新調したのに参加できなかったからだ。祈りが通じて、朝から爽やかに晴れ上がった。沢用具と着替えを車に積んで野生鳥獣センターに向かう。いったん四季美湖畔に出てから小又川に沿って東に走る。森吉山荘の前で右折してからは山奥に突っ込んでいく感じだ。赤水沢は森吉山の東側の裾野を流れる沢で、大昔、火砕流台地が浸食され、一枚岩の U 字渓谷になったという。昨年、あるパーティが遭難騒ぎを起こしているので、野生鳥獣センター内のポストに計画書を投入した。ノロ川に沿ってブナ林を 1 時間ほど歩き、桃洞・赤水分岐に着く。ここで登山靴から沢シューズに履き替えた。いっぱしの沢やに変身したところで、いざ水の中へ。目の前を流れる桃洞沢を渡り、深みを避けて赤水沢左岸の踏み跡を高巻く。むしろ、こちらの方が要注意だ。初めのうちは水の中をソロリソロリ歩いていたが、靴底のフェルトがしっかり効いているのが分かると、皆は平気で流れ落ちる小滝の壁を攀じる。水深はくるぶしの上ぐらいだろうか、倒木もゴミもない平らなナメの上を、透き通った水がさらさら流れていく。これまで奥多摩や丹沢の沢に何度も行ったが、沢が美しいと思ったことがない。赤水沢が美しいのは一枚岩にあると思う。沢床からそのまま両岸に切り立った高い壁を形作り、土砂崩れなど起きないからではないだろうか。沢床には所々に樋状に溝があったり、丸い穴（甌穴）があいていて、そこに落ちないように浅瀬を探しながら上流へ進む。水遊びがこんなにも楽しかったとは。沢の分岐から兎滝のある右沢に向かったが、しだいに沢幅が狭くなり、倒木が覆い被さっていたので戻って左沢を進む。こちらはまだまだ美しいナメが続くようであったが、充分楽しんだので、今朝の入渓地点に戻った。ついでに、近くの桃洞沢の横滝に足を延ばした。去年より滝の水量が少なかったが、広い沢幅いっぱいに流れ落ちる滝は、両岸の淡い緑の木々と相まって一幅の絵のようであった。

帰途、森吉山荘で入浴した。妖精の森に宿泊していることを話したら、一人 100 円引いてくれた。バンガローに帰り、濡れたものを日の当たる木々

の枝に引っ掛けて干す。今晩のメニューは夏野菜カレー。富美子さんは、ご飯の炊き方が上手くなったと皆に褒められた。

**7/30　花の山、秋田駒ケ岳に登る**

今日は田沢湖駅から程近い秋田駒ケ岳を目指す。2 日間お世話になったバンガローを掃除し、管理事務所に挨拶に寄ると、出て来たのが昨日、森吉山荘にいた受付の人だった。100 円割り引いてくれた訳が分かった。国道 105 号線は車の陰もなく、工事中の赤信号に待たされるのみで、予定の時間に田沢湖に戻ってきた。駒ケ岳へは田沢湖スキー場方面に行く。車両の進入が規制されていて、高原温泉「アルパこまくさ」の駐車場にレンタカーを止めた。ここから八合目までシャトルバスに乗る。つづら折の坂道に酔いそうになった頃、うっすらと靄のかかった八合目に到着した。水場の脇から一列になって登り出す。秋田駒ケ岳は花の山として知られているが、この時期、咲いている花はあるのだろうか。この時、実にタイミングよく、後から来た中年の男性が先頭に出て花の解説を始めた。少し立ち止まると、後方から早く進めと声がとんでくるが、彼の折角の行為を踏みにじってはいけないし、何よりも花の山に来て素通りでは勿体ない。山はこれだから面白い。お陰でかなりの数の花の名を教えてもらった。片倉展望台からは雲のかかった森吉山が見えた。阿弥陀池避難小屋の分岐で彼はどこかへ行ってしまい、お礼も言わず仕舞い。最高峰の男女岳は靄と風が強いため早々に下山し、帰路は避難小屋の裏手から横岳へ回る。ハイマツを抜けると黒い火山砂礫となり、おわんを伏せたような山頂にケルンが立っている。焼森のピークだ。左右にロープが張られているのはコマクサを保護するためだが、花の数が少なかった。焼森からはシャクナゲコースを下る。

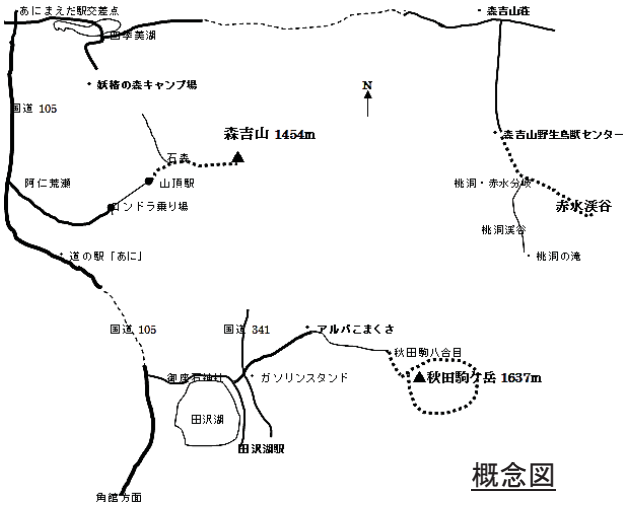
小滝の上でダンス

下山後「アルパこまくさ」で入浴して田沢湖駅に戻った。駅レンタカーを返す際、3 時間ほど早めに返したということで、一台につき 500 円の返金があった。こんなことは初めてだ。3 日間とも目一杯行動し、充実した山行を終えた。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 森吉山・赤水渓谷・秋田駒ケ岳 | | | |
| 月日 | 平成 29 年 7 月 28 日（金）～30 日（日） | | | |
| 山域 | 秋田県 | 地形図 1/25000 | 森吉山・太平湖・阿仁合・秋田駒ケ岳 | |
| 形式 | ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰ泊 | グレード | 2A | |
| 目的 | ①秋田の山、二山に登る<br>②赤水渓谷のウォータートレッキング | | | |
| 費用 | 約 35,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、駅ﾚﾝﾀｶｰ | |
| 日程 1日目 | 我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:38（秋田新幹線こまち 1 号）→盛岡駅 8:45/9:54（こまち 3 号）→田沢湖駅 10:25/10:50（駅レンタカー2 台）→国道 105 号→道の駅あに 12:07/12:17→ ゴンドラ乗り場 12:45/12:56→山頂駅 13:16/13:25⇒石森 13:55⇒阿仁避難小屋 14:08/14:10⇒稚児平手前 14:20/14:35⇒阿仁避難小屋 14:48⇒ゴンドラ山頂駅 15:25/15:35⇒ゴンドラ乗り場 15:55/16:03（レンタカー）→国道 105 号→阿仁前田駅前→妖精の森キャンプ場 17:15　（バンガロー泊）<br>＜歩行時間:1 時間 45 分＞ | | | |
| 日程 2日目 | バンガロー6:30（レンタカー）→森吉山荘→野生鳥獣センター駐車場 7:40/7:50⇒立川橋 8:03⇒桃洞・赤水分岐 8:40/8:50⇒赤水沢入渓 9:15⇒二股を右沢へ 10:20⇒戻って左沢へ 11:00/11:30⇒戻って桃洞渓谷の横滝⇒桃洞・赤水分岐 12:00/12:30⇒野生鳥獣センター13:15/13:35（レンタカー）→森吉山荘（入浴）14:05/14:50→妖精の森キャンプ場 15:30　（バンガロー泊）<br>＜歩行時間:4 時間 45 分＞ | | | |
| 日程 3日目 | バンガロー5:35（レンタカー）→国道 105 号→田沢湖沿岸道路→アルパこまくさ 7:50/8:17（シャトルバス）→秋田駒ケ岳八合目 8:43/8:50⇒片倉岳展望台 9:20/9:25⇒阿弥陀池避難小屋手前 10:00/10:05⇒男女岳 10:20/10:30⇒阿弥陀池避難小屋 10:42/10:55⇒横岳 11:08/11:15⇒焼森 11:25⇒秋田駒ケ岳八合目 12:10/12:55（シャトルバス）→アルパこまくさ 13:20（入浴）/14:45（レンタカー）→田沢湖駅 15:15（レンタカー返却）/18:10（秋田新幹線こまち 32 号）→上野駅 20:58/21:18→我孫子駅 21:55<br>＜歩行時間:2 時間 40 分＞ | | | |

| | |
|---|---|
| ルート状況 | ・田沢湖湖畔の道が、秋田地方の豪雨の影響で通行不能箇所があり、そのため湖畔の西側を遠回りして国道 105 号線にのった。その国道もあちこちで道路が壊れ、工事中のため停止信号で待たされた。また、妖精の森に向かう山道が陥没し、一方通行になっていた。<br>＜森吉山＞<br>・阿仁スキー場のゴンドラは、山頂駅まで片道 20 分かかる。途中、山の斜面に沿ってゴンドラも下る。山頂駅から稜線の石森まで 30 分、下りは 20 分。森吉山に登る一番楽なコース。但し、山頂駅ゴンドラの最終時間が 16:00 なので要注意。<br>＜赤水渓谷＞<br>・赤水・桃洞分岐で桃洞沢に下り対岸に渡る。少し先で桃洞沢に合流する赤水沢の岸辺を 15 分ほど歩いた地点から入渓する。入口付近は水深が深いので岸辺を歩く。岸辺の道は足場が悪い。<br>・赤水渓谷の一枚岩の甌穴は深い箇所では 3m もあるとか。河床をよく見て落ちないように。<br>＜秋田駒ケ岳＞<br>・秋田駒ケ岳へは、高原温泉「アルパこまくさ」から八合目までシャトルバスが出ている。つづら折りの細い道で、対向車は待機場所で待っている。一般車は進入禁止。<br>・焼森付近は草木のない砂礫状の広いピーク。コマクサが点在し、保護の為、道の両側にロープが張られている。 |
| 参加者 | 外崎 L、村松 SL、武内、本田、斉田、石塚、大平、高橋富、藤家、小林安<br>男性 4 人、女性 6 人　計 10 人 |




概念図

＜１０１６＞

## 雪倉岳～朝日岳

（2,611m）（2,418m）

大山　冬臣

雪倉岳への最後の登り（右手後方が白馬岳）

夏雲湧く白馬岳、大雪渓から見る迫力と違う

北アルプスは高山植物の代表的な地区。氷河時代が去って辛うじて氷河時代の気候が残っている地域が高山であり、氷河に似た地形、気候の北アルプス北部一帯は北海道の大雪山と共に高山植物の生育に最適地域だったに違いない。その中でも、雪倉岳～朝日岳～蓮華温泉に懸けての一帯は正しく特別な地域と云えると思う。山小屋が少なく、アプローチも良くない結果、自然と入山制限されてしまい、人による自然破壊が最小限度に留められ、積雪の豊富な地域、雪が吹き溜まり夏尚残雪の多い一帯などにより乾燥高山帯、湿性高山帯、湿原が形成されているのではないだろか。

その素晴らしさが山仲間から山仲間へと語り継がれ、その苦しさに耐えられる者だけがこの奇跡とも云える高山植物の素敵な山行に挑戦できることになると思う。

地図だけ見ていると、できるだけ詳しく標高を書き加えても湿原が多く、アップダウンが想像以上に厳しいなと云うことは判ったが伝えられるその厳しさは良く判らない。写真で見るその素晴

らしさに心惹かれ、いつか訪れたいと願うようになる。

私・大山もその一人であり、蟹江さんも昨年からこの山行を願っていた。大学では植物学を専攻され、ゼミ？で教授の専門の珍しい高山植物を見る〔学習？〕するためにアルプスを歩き回った小野さんは再訪で前回出会えなかった植物を見たくての参加だった。この際、年齢はいい訳にはならない。陽のある内に最低でも１０時間を歩ききり、１０時間以上を歩く脚力を付ける日常のトレーニングが欠かせなかった。調子が悪いので途中で失礼という訳にはいかないコースなので真っ暗な午前４時出発に決めた。夜中の出発なので道迷いは絶対に避けなくてはならないので、高山植物の見学と併せて途中まで登山道の下見に出た。今日は早寝だ。

途中まで利用する栂池自然園～白馬大池～白馬岳まで１時間ほど手間での三国境までは大人数の団体がひっきりなしに降りて来たが、雪倉岳へ分岐する三国境からはパタッと人影が絶えてしまった。三国境で万一悪天候に見舞われたとしても一時間の辛抱で白馬岳山荘、或いはもうチョット足を伸ばして村営小屋へ避難できるが雪倉岳への道に入ってしまうと途中には雪倉岳避難〔無人〕小屋しかない。雪倉岳避難小屋はしっかりした建築で嵐にも充分に絶えられる強固な建物だ。下り着て最低鞍部からかなり登り直したので、振り返ると夏雲の湧く白馬岳の残雪模様が見事だ。そこからチョット苦しい道を雪倉岳に登ると遙か前方に朝日小屋の赤い屋根がよく見えた。あそこまで今日は行くのだ。チョット遠く感じるね。好天の続いてくれることを祈る。

朝日岳方面に向かって下りだしてしまうと一気にガンガン下ってしまうので、避難小屋へ戻るのも相当な覚悟が必要になる。かなり長いザレ場下りから樹林帯に入って細い尾根道を下り、そして下りきると右手に巨大な特徴的な岩壁を抱いた「燕岩」が現れる。地図上の目印と合致するモノが少ないのでこの燕岩は絶好の標識になる。地図上の標高表示は恐らく山頂で、私達が歩いている標高は１００～１５０m 引いて考えた方が良さそうだ。小さいながらも沢が湿原状につながり、ツバメ原というところらしい。地図には「ツバメ原」とかかれてあるが標識らしきモノは見あたらない。可憐な無数の花々が私達を励まして呉れている。暫く行くとこれも決して大きくはないが雪解けのあとを追うようにピンク色のハクサンコザクラの群落する小桜ヶ原？だった。此処も標識らしきモノは見当たらなかった。此処から直ぐのところに朝日岳への分岐があり、「水平道開通」の標柱が立っていた。昨日から開通したようだ。何が水平道だと評判の悪い水平道を取るか、朝日岳に直接登るコースを取るか？時間は朝日岳に登る方がチョットだけ長いだけなので思案のしどころではあるのだが、悪名高い水平道を知っておきたいと云う気持ちと、少しでも楽できるならそっちが良いと云う複雑な葛藤の末に悪名高い水平道を選んだ。何が悪名高いのか？それなりに覚悟をして選んだ心算りではあるが、取り付いてみると沢沿いで、途中から尾根に取り付き尾根の山腹を捲いて行く。雪渓を数カ所渉り、沢が湿原に変り、再び沢の上り下りになる。真夏なのに可憐な水芭蕉が咲いていたり〔明日から８月ですよ！〕、これが意外と面白いコースだ。特にキヌガサソウの一目２０数輪の大群落を見たのは此処が初めてだ。オマケに純白のサンカヨウの可憐な花の大群落も現れて来た。最後の雪渓を登り終えると尾根に取り付き、尾根に道を付けた方もできるだけ楽に登れるようにと考えて巻き道を付けて呉れたに違いない。尾根の巻き道なので小沢を何本も渉ることになり、この小沢が雪解け水を集めて流れてくれているのでついつい飲んでしまう。北海道はエキノコックス症〔キタキツネの糞に含まれる寄生虫〕を心配して沢水や池の水を飲むことは禁止し、飲む場合は６０℃以上で煮沸した上で飲むように指示されているが、そんな制約もないので思わずゴクゴク飲んでしまった。実に旨い！エキノコックス症の実際に症状が出てくるのは２０～３０年後なんだから心配したってしょうがない。私達の共通した覚悟は、雨に降られても余程酷い場合は別にして、雨具は着ない、ヤッケを着て汗を掻いても雨に濡れても大して変わらない、頑張れるだけ頑張って最悪はツェルトを被って速乾性の下着に着替える覚悟だった。時折霧の中に朝日岳が頭上に見えた。フッと左方向を見るとナンと朝日小屋が見えていた！具体的な目標が目の前に現れると間違いなく元気が湧いてくる。蟹江さんの足が速くなった。私も、小野さんの足も自然に速くなった。これで５分は小屋到着は早くなったに違いない。名物女将の清水ゆかりさんに受け付けて戴き、庭の机の上でビールとコーラで乾杯！美味しかった！本当に黙々と良く歩いた。小野さん曰く、女性はだまり始めるとキツくなってきた証拠だという。そうかも知れない。真夏の水芭蕉、キヌガサソウの一目２０輪以上は咲く大群落、サンカヨウの純白の可憐な大群落に慰められ、励まされ、あのときは思わずはしゃいでしまったが、あとは静かだったかな？雪渓は踏み跡が明瞭でないので着地点が薄くところどころ崩壊しているので私が先に行き、雪渓の厚そうなところを指示して無事に着地。緊張も良いものだ。無事に着地したときの笑顔がナ

ンとも云えない。こんなに変化に富んだコースだから１０時間も耐えることが出来たに違いない。

明日も今日ほど長くはないが決して短くもない。作戦会議の結果、今日よりは一時間遅れの５時出発に決まった。ローカルな山小屋だけに朝日小屋は色々と工夫を凝らしている。部屋が使いやすく清潔なのは勿論だが夕食もナンと富山名物の「ホタルイカの沖漬け」が二つお皿に載っていた。コブ締めの刺身や、地元産の野菜類を多く使ったおでんが美味しかった！朝、昼の弁当は、お馴染みのおにぎりではなく、ナンとこれ又、富山名産の「マス寿司」と「クルミ寿司」の選択が出来た。笹の葉でキチッとくるんだ本格的なマス寿司でありクルミ寿司であった。冷凍保存しているので、夜の内に渡しておけば丁度朝には解凍でき、酢の物なのでほぼ一日は大丈夫という自信作だ。

昨日よりは楽なコースの筈だったが、私達よりも早発ちの方がいて、朝日岳へはアレッ？と云う間についてしまった。日本海親不知に下山する「栂海新道」分岐点で数組の皆さんが休んでいた。此処からの展望は素晴らしく、左手は緑の樹林帯に覆われた「五輪尾根」、五輪尾根の下部が「五輪高原」の一面の緑の絨毯のお花畠になっていた。眼を凝らして五輪高原を見ると私達の辿るコースが山腹を捲き、樹林帯に入り、又抜けるとベンチらしきモノがある。それにしてもお花畠に恵まれたダイナミックな下りコースのようだ。三人で思わず顔を見合わせて頷き合う。頑張るぞ！昨日と違って今日は霧が立ちこめ、空模様もチョット妖しい。女将のゆかりさんがこの先の栂上新道分岐の先の「吹上のコル」が例年、雪渓になってしまうので朝早いと凍る可能性があるので念の為にアイゼンを用意された方が好いと忠告を受けていたので準備をしていたが、ガイド付きの先行パーティの方がアイゼンなしで渡って行った。先に私が行き、状況を確認して余り凍っていないのでアイゼン不要と判断、お二人に伝えた。今日もどうやら水には恵まれた一日になりそうだ。お花畠の中の気持ちの好い登山道をガンガン下ると岳樺の森に入り、直ぐに抜けると受けから見えたベンチが現れた。マス寿司とクルミ寿司の朝食を此処で摂ることにする。後続の皆さんが次々と到着するが、どうも私達よりもピッチが数段速そうだ。暫く下ると意味不明の「花園三角点」が現れ、その意味が判った。お花畠の中に二等三角点が設置されていた。暫くはお花畠の道だが直ぐに樹林帯に突入、再び尾根を捲きながらガンガンと下り始めた。沢音が大きく聞こえ始めると一気に下り、立派な橋の架かった「白高地沢橋」だった。雨が本格的に降り始めたが誰もヤッケを着るとは云い出さない。冷たい雨が心地良い。かなりの荒れ沢で徒渉が出来ないかったことが多く結果として立派な橋が架けられることになったようだ。川幅は10mほどだが、水量も多く、水深も深く、これを徒渉するのは一般的ではない。橋を渡り、再び尾根に取り付き緩い上り下りを暫く繰り返して行くと又、沢の音が大きく聞こえてきた。最低鞍部の「瀬戸川出合」だ。白高地沢に負けず劣らずの大きな沢でこの徒渉も先人の皆さんは苦労されたに違いない。仮橋と云われているが立派な橋が架けられていた。此処がこのコースの最低点なので此処から蓮華温泉までは約 300m 登ることになる。中間地点にある「兵馬ノ平」がまたしても楽しみだ。ブナ林をゆっくりと登って行くと木道沿いの沢が少しずつ深く大きくなってきたような気がした。突然、目の前が明るくなり、満開の「擬宝珠」に覆われた兵馬ノ平に飛び出した。驚きであった！大きな湿原の総てが満開の擬宝珠に覆われているのだ。こんな湿原は見たことがない。圧巻だった。なんで兵馬ノ平で「擬宝珠平」でないのか？擬宝珠平？を縦断するようにその景観を楽しみながら木道を歩いた。再びブナの樹林帯に入った。擬宝珠平の余韻に浸りながら、最後の登りに無口になりながら滑らないように気を配りながら慎重に歩いた。

雨の中の林道を蓮華温泉まで歩いた。大きくはないが気持ちの好い温泉らしい温泉だった。

息も絶え絶えになりそうだった私を常に励まし、元気づけてくださった蟹江さんと小野さんのお二人、そして雪倉岳、朝日岳の花花花々々・・・・・秘境に感謝！

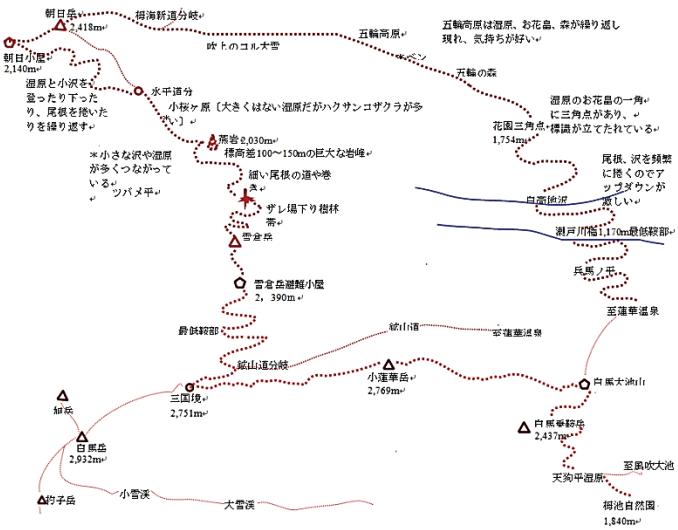
**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 雪倉岳～朝日岳 | | |
| 月日 | 平成 29 年 7 月 30 日（日）～8 月 1 日（火） | | |
| 山域 | 白馬連峰 | 地形図 | 1/25000 白馬北西Ｃ |
| 形式 | 山小屋泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ３Ｃ |
| 目的 | ①残雪の山　　②高山植物の群落 | | |
| 費用 | 約　38,000 円 | 交通機関 | 北陸新幹線、ｱﾙﾋﾟｺﾊｲﾗﾝﾄﾞﾊﾞｽ、糸魚川バス |
| 1日目 | 我孫子駅5:31→上野駅6:04/6:34→はくたか551号→長野駅8:06/8:20→ｱﾙﾋﾟｺﾊｲﾗﾝﾄﾞﾊﾞｽ→栂池高原9:55→ﾛｰﾌﾟｳｴｲ→1,850m栂池自然園〔昼食〕10:5/11:00⇒天狗原入口雪田〔昼食〕12:10/12:30⇒天狗原分岐12:40/12:50⇒2,436m乗鞍岳14:00/14:10⇒白馬大池14:50<br>＜歩行時間：　3時間30分＞ | | |

| | | |
|---|---|---|
| 日程 | 2日目 | 白馬大池3:45⇒2,769m小蓮華岳5:55/6:10⇒2,751m三国境6:45⇒朝食7:30/7:55⇒鉱山道分岐7:58⇒雪倉岳避難小屋9:05/9:15⇒2,611m雪倉岳11:05/11:15⇒昼食11:20/11:45⇒燕岩12:10⇒水平道分岐13:10/13:15⇒朝日小屋15:15<br>＜歩行時間：10時間20分＞ |
| | 3日目 | 朝日小屋4:55⇒朝日岳5:55/6:10⇒吹上のコル大雪渓6:40/6:50⇒五輪高原入口ベンチ〔朝食7:20/7:35〕⇒1,754m花園三角点9:05/9;15⇒1,354m白高地沢出合10:35/10:40⇒1,170m瀬戸川出合11:50/12:00⇒1,320m兵馬の平12:45⇒蓮華温泉ロッジ〔入浴〕14:05/15:15→糸魚川ﾊﾞｽ→糸魚川駅16:50/17:00→はくたか574号→上野駅19:06/19:33→我孫子駅20:07　＜歩行時間：8時間＞ |
| | | ・栂池自然園~天狗平は樹林帯の急登で登・下山者も多く、道はしっかりしている<br>・大きな雪田も二箇所あったが良く踏まれていてノーアイゼンで通過<br>・樹林限界近くなると直ぐに天狗平で、標識は風吹大池への分岐にある<br>・天狗平から白馬乗鞍岳へは大きな岩の登山道だが、判り易く登りやすいルート。<br>・這松になると山頂は間近、這松帯を登り大きなケルンが山頂の目印となる<br>・白馬大池の周辺は雪田が残り、雪溶けのあとにﾁﾝｸﾞﾙﾏ、ﾊｸｻﾝｺｻﾞｸﾗ、ﾊｸｻﾝｲﾁｹﾞ等々。<br>・今山行の最高峰・小蓮華山頂までは比較的緩やかな、歩き易い登山道<br>・三国境〔ｻﾝｺﾞｸｻｶｲ〕から指導標に沿って白馬岳方面と別れ雪倉岳方向に入り、急な下り坂となる<br>・一気に5～600mほど下り鉢ヶ岳を捲くようになる。雪倉岳避難小屋への登りはキツい<br>・雪倉岳まで避難小屋から200mの高山植物帯を登れば到着、朝日小屋の赤い屋根遠望<br>・雪倉岳からは再び一気に7～800mほど下り初めはザレを、細い尾根道、やがて樹林帯に入ると細い登山道を下り、下りきった辺りの右手に標高差100mはある燕岩に出る。<br>・沢沿いの道で水場もある。ﾊｸｻﾝｺｻﾞｸﾗが多く咲き、小桜ヶ原のようだ。 |

| | |
|---|---|
| ﾙｰﾄ状況 | ・水平道は昨日7／30開通したので、雪渓のルート、道の整備は良く踏まれていた。<br>・水平道は、沢や湿原を下り、尾根を登りながら捲いたりの繰り返しで苦しかったが真夏の水芭蕉始め、ｷﾇｶﾞｻｿｳ、ｻﾝｶｺｳ等々の大群落を惜しげなく見ることが出来た。<br>・お花畠に囲まれた朝日岳、朝日小屋、北又の分岐に飛び出し、木道5分ほどで朝日小屋<br>・朝日小屋から60分ほどで朝日岳に登る。<br>・吹上のコルの大雪渓のﾄﾗﾊﾞｰｽが朝だと凍っている可能性があると朝日小屋の女将に注意されていたのでｱｲｾﾞﾝを用意していたが、使うことなく通過できた<br>・五輪高原の花畠の山腹を捲くように下る。<br>・沢を何本か渉るので雪解け水が飲める。<br>・此処から樹林帯とお花畠が交互に現れ、お花畠の一角に花園三角点が現れた<br>・樹林帯に入って沢の音が大きく聞こえるようになると白高地沢出合、立派な橋あり<br>・橋を渡り、尾根道を登り何本かの沢を渉り下り始めると最低鞍部となる瀬戸川出合だ<br>・瀬戸川も立派な橋〔仮橋？〕だ<br>・最低鞍部から蓮華温泉まで400m登り返す<br>・兵馬ノ平では一面の擬宝珠の大群落帯<br>・キャンプ場に出て、林道を 10 分ほど歩くと蓮華温泉のゴール |
| 参加者 | 大山L、蟹江、小野<br>男性１名、女性２名、計３名 |

## 概念図



＜１０１７＞

## 烏帽子岳～水晶岳～鷲羽岳～槍ヶ岳
(2,624m)(2,986m) (2,924m)(3,180m)

矢野　貞子
桐生　恭子
小島　洋子

### 沢山の花に出会った５日間の縦走

水晶岳頂上

矢野貞子

ずっと歩きたいと思っていた山だった。昨年武内さんの山行で雲ノ平から鷲羽岳に行った時、来年こそと思っていた。しかし４泊ともなると一緒に歩いてくれる人がはたしているだろうかと心配になった。結局勇敢な女３人の挑戦となった。

前泊組が信濃大町をﾀｸｼｰで５時に出発。七倉山荘前に夜行バスで来ていた仲間を拾いゲート前の事務所に登山届を提出し、5 時半に開けられるゲートから七瀬ダムに入った。

数組の登山者に導かれるようにダムから 40 分程川沿いに歩くと登山口になった。
長いブナ立て尾根の登りも今日一日かけてゆっくり登れば良いと思い、標識ごとに休みながら登ったがほぼ予定通りだった。

2 日目当初予定していた水晶小屋が満室という事なので、野口五郎小屋に宿泊し３日目双六小屋まで頑張ることにしたが３日目が何時ごろ到着できるか不安だった。

1 日目はブナ立て尾根を登るだけにして、午後はお茶してのんびりした。

2 日目はコマクサが咲く道を往復して烏帽子岳を登り、野口五郎小屋に向かった。三つ岳まではコマクサが咲く砂礫道。明日の行程を少しでも軽くするため小屋から 20 分ほど先にある野口五郎岳の頂上を踏み小屋に入る。ここでも午後はお茶してのんびりした。

3 日目 4 時に起き、弁当にしてもらった朝食を食べていると小屋のおじさんが熱いお茶を出してくれた。昨夜、双六小屋まで行く私達の不安に対し、「大丈夫行けるよ。だけど烏帽子からの 3 時間に比べ、水晶までの３時間の方が遥かに大変だよ。大きな平らな岩を上手に歩くことだ」とアドバイスをくれていた。確かに滑りそうな平らな大きな岩が続くところがあった。何とか東沢乗越に着いたがそこから水晶小屋までの 40 分は厳しい道だった。

9 時過ぎには水晶小屋に着いた。工事中で綺麗になったトイレを借り、荷物をデポして水晶岳を往復した。雲はあったが幸い 360 度見渡すことが出来た。まだまだ双六小屋は遥か彼方に見えた。水晶小屋に戻り、軽い食事を取り 10 時には鷲羽岳に向かった。12 時 15 分には三俣山荘に着くことが出来た。あと２時間半余りの行程だ。目途がついた。ここまで水は有料だったがここからは無料だ。顔を洗い、水を補給して出発。双六岳巻道を行くが結構な登り下りとここまでの疲れがあり、休みを多く取った。3 時半には小屋に着くことが出来た。テレビから流れる台風の動きが気になる。
4 日目 4 時半の朝食を食べ５時前に出発。西鎌尾根から槍までの登りだ。途中お花畑が何か所かあり写真撮影に夢中になる。ジグザグに登る最後の登りは厳しかった。槍ヶ岳山荘に着き一休み後頂上を往復。東鎌尾根を下り最後の宿ヒユッテ大槍に着いた。テレビで台風の動きを確認。明日は 12 時頃から雨の予想だ。

5 日目　12 時には何とか横尾まで下りたいと 5 時前に出発。途中心配していた雪渓もアイゼンを付けることなく下ることが出来た。徳沢で蕎麦を食しても 12 時半には上高地に着くことが出来た。
5 日間本当によく歩きました。お天気に恵まれ、厳しい山道も可憐に咲く花に助けられ歩くことが出来ました。一緒に歩いてくれた２人に感謝しかありません。とても良い山行でした。

桐生恭子

双六小屋の前から鷲羽岳のどっしりとした姿を見ることができる。小屋に泊まるたびにあの鷲羽にいつか登りたいとおもっていた。今回矢野貞子さんが「裏銀座縦走」という夢の様な計画を提出してくれた。年齢的にも長い縦走は最後のチャンスかと思い、えいっとばかりに手を挙げた。まあ、無理と言われたら諦めるかという気持ちだった。

参加を認められ、出発は高瀬ダムからブナ立尾根を登るとの事だ。一日目はブナ立尾根を登り烏

帽子小屋泊、矢野リーダーに「一日かけて登ればいいんだよ」と言われ少し気が楽になった。とは言え日本三大急登の一つかなり緊張した。

やっとの思いで稜線に上がった後は、たくさんの花々に出会えた。烏帽子小屋から野口五郎岳まで斜面にずっと咲いていたコマクサ、野口五郎小屋の人が、「野口五郎岳から花の種類が変わるけどまだまだたくさんいろんな花が咲いているよ」と教えてくれた。また「野口五郎小屋～水晶小屋は岩が多いからここを上手に歩く事」とアドバイスをくれた。

縦走中は迷走台風５号がどこへ来るのか気になったが、本当に良い天気に恵まれ、最終地の槍が岳を目指して歩きとおすことが出来た。毎日早朝に出発し、午前中の比較的涼しい内に歩いた。4 日目の宿泊地「ヒュッテ大槍」に到着したあと、3 人でおいしい料理とワインで縦走できたことをささやかに祝った。縦走中台風の影響は受けなかったが、上高地に降りた途端雨が降ってきた。帰路はもっと大変だった。

ずっとあこがれていた裏銀座を歩きとおすことができ満足感に溢れています。矢野リーダーの的確な判断と指示、また、小島さんのパワーを頂いて歩けたような気がします。本当に感謝の気持ちで一杯です。

沢山のお花を見ました。

8/3

ｸﾛﾕﾘ、ｺｲﾜｶｶﾞﾐ、ﾁﾝｸﾞﾙﾏ、ﾋｮｳﾀﾝﾎﾞｸ、ｷﾝﾎﾟｳｹﾞ、ｺﾏｸｻ（ﾋﾟﾝｸ・ｼﾛ）、ｵﾄｷﾞﾘｿｳ、ﾐﾂﾊﾞｵｰﾚﾝ、
ﾂﾏﾄﾘｿｳ、ｴｿﾞｼｵｶﾞﾏ、ｱｵﾉﾂｶﾞｻﾞｸﾗ、ｲﾜｷｷｮｳ、ｳｻｷﾞｷﾞｸ、ﾐﾔﾏｼｵｶﾞﾏ、ｲﾜﾂﾒｸｻ、ｼﾅﾉｷﾝﾊﾞｲ、ﾎﾄﾄｷﾞｽ、ｾﾝｼﾞｭｶﾞﾝﾋﾞ、ﾘﾝﾈｿｳ、ﾐﾈｽﾞｵｳ、ｽﾞﾀﾞﾔｸｼ、ﾁｮｳﾉｽｹｿｳ、ｵﾀﾞﾏｷ、ｲﾜｳﾒ

8/４

ｺｺﾞﾒｸｻ、ｼﾞｬｺｳｿｳ、ｼｺﾀﾝｿｳ、ｼｵｶﾞﾏ、ﾌｳﾛ、ｺｵﾆﾕﾘ、ﾐﾔﾏﾀﾞｲｺﾝｿｳ、ｷｵﾝ、ｼﾅﾉｷﾝﾊﾞｲ、ｷﾝﾎﾟｳｹﾞ、
ｸﾛﾕﾘ、ﾖﾂﾊﾞｼｵｶﾞﾏ、ｴｿﾞｼｵｶﾞﾏ、ﾀｶﾈﾔﾊﾂﾞﾊﾊｺ、ﾐﾔﾏｺｺﾒｸﾞｻ、ｸﾓﾏｸﾞｻ、ｵｵﾊﾞｷｽﾐﾚ、ｼｬｸﾅｹﾞ、ｸﾓﾏｽﾐﾚ、
ｵﾔﾏﾉｴﾝﾄﾞｳ、ﾀｶﾈﾂﾒｸｻ、ﾎｿﾊﾞﾂﾒｸｻ、ｲﾜｵｳｷﾞ、ｲﾜﾍﾞﾝｹｲ、ﾐﾔﾏｱｹﾎﾞﾉｿｳ、ﾐﾔﾏｸﾜｶﾞﾀ

8/5

ｲﾜｵｳｷﾞ、ﾄﾘｶﾌﾞﾄ、ｼﾞｬｺｳｿｳ、ｼｺﾀﾝｿｳ、ｸﾓﾏｸｻ、ﾁﾝｸﾞﾙﾏ、ｶﾈﾊﾊｺ、ﾐﾈｳｽﾕｷｿｳ、ﾀｶﾈﾖﾓｷﾞ、ﾐﾔﾏﾀﾞｲｺﾝｿｳ、ｺｶﾞﾈｷﾞｸ、ﾀﾞｲﾓﾝｼﾞｿｳ、ﾊｸｻﾝｲﾁｹﾞ、ﾁﾄﾞﾘ、ﾐｿｶﾞﾜｿｳ、ﾐﾔﾏﾏﾝﾈﾝｸﾞｻ、ﾀｶﾈﾄｳﾁｿｳ、ｵﾀｶﾗｺｳ、ﾐﾔﾏｵﾄｺﾖﾓｷﾞ、

8/6

ﾆｯｺｳｷｽｹﾞ、ｼﾓﾂｹｿｳ（？）等等、その他名前のわからないものが沢山ありました。

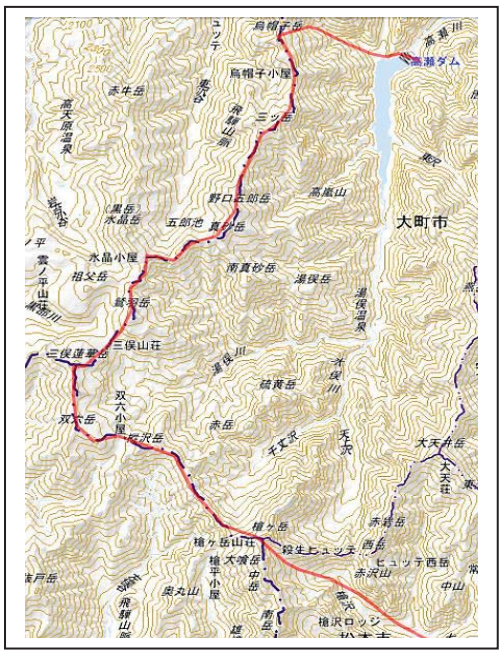
**小島洋子**

「槍穂先登頂万歳」いわゆる裏銀座コース 4 日目の昼ごろです。鎖あり、梯子ありと、10 分足らずの行程ですがとても緊張を強いられます。岩登りの 3 点確保、落ちたら命がないと思いますと緊張で喉も乾きます。さて、1 日目、高瀬ダムから入り三大急登の一つと数えられる登り、覚悟をして臨んだせいか、思ったほどには苦しくはありませんでした。宿泊予定の烏帽子小屋に到着。庭には岩ききょうが咲いておりました。到着の喜びと共に疲れを癒してくれました。次の日、烏帽子岳を目指しました。道行く先々でコマクサの花が咲き誇っておりました。2 日目宿泊の野口五郎小屋に到着。この日は台湾のツワー客 25 名も宿泊。みんな一斉に小屋に到着と思いきや、早い人と遅い人では 2 時間の差がありました。3 日目、私のもう一度登りたい山。水晶岳、お天気も良く、薬師岳が目の前です。三俣山荘を飛ばし、双六荘までのコース。長い 1 日でした。しかし、イハカガミ、チングルマ、ナデシコ、十文字草などの草花が疲れた体を癒してくれました。4 日目の宿泊「ヒュッテ大槍」山小屋は思えずの洋食の食事。とてもおいしくいただきました。ここまでは雨にも当たらずで順調に来たのですが、帰りの電車が台風の影響で、甲府から先が不通になりました。松本に引き返し長野回りでの帰宅となりました。長い行程の縦走で参加するか否かを迷っていたのですが、行くことが出来てとても感激です。矢野貞さん、桐生さんありがとうございます。

花畑

遥か彼方のゴール

**概念図**




**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 烏帽子岳～水晶岳～鷲羽岳～槍ヶ岳 | | | |
| 月日 | 平成 29 年 8 月 2 日（水）～8 月 7 日（月） | | | |
| 山域 | 立山・剣、槍ヶ岳 | 地形図 1／25000 | 烏帽子岳、薬師岳、三俣蓮華岳、槍ヶ岳、上高地 | |
| 形式 | 山小屋泊 | グレード | ３C | |
| 目的 | 裏銀座を歩く | | | |
| 費用 | 約 58,000 円（夜行バス）62,000 円（前泊） | | 交通機関 | ＪＲ・タクシー・バス |
| 日程 1日目 | (8/2) 我孫子→竹橋→毎日新聞社→バス、我孫子→新宿→松本→信濃大町→旅館七倉荘 | | | |
| 日程 2日目 | (8/3) 旅館「七倉荘」5:00→ﾀｸｼｰ→七倉山荘前（合流）5:20/5:25→ﾀｸｼｰ→高瀬ダム 5:35/5:45⇒登山口 6:15⇒休（5 分×6）⇒烏帽子小屋 11:25 | | | |
| 日程 3日目 | (8/4)烏帽子小屋 6:05⇒前烏帽子岳 6:20⇒烏帽子岳 7:00/7:05⇒前烏帽子岳 7:40⇒烏帽子小屋 8:00/8:15⇒（休 5 分×5）⇒野口五郎小屋 11:50⇒野口五郎岳 12:05/12:10⇒野口五郎小屋 12:30<br>＜/歩行 5 時間 30 分＞ | | | |
| 日程 4日目 | (8/5)野口五郎小屋 4:30⇒野口五郎岳分岐 4:50⇒（休 5 分×２）⇒東沢乗越 6:40/6:45⇒水晶小屋 7:30/7:45⇒水晶岳 8:25/8:30⇒水晶小屋 9:10/9:25⇒ワリモ分岐 9:55/10:00⇒（休 5 分×１）⇒鷲羽岳 11:00/11:15⇒三俣山荘 12:15/12:30⇒（休 5 分）双六岳分岐 13:25⇒（休 10 分×2、5 分×２）⇒双六小屋 15:30<br>＜/歩行 9 時間 55 分＞ | | | |
| 日程 5日目 | (8/6)双六小屋 5:10⇒樅沢岳 5:55/6:00⇒硫黄岳分岐 6:40/6:45⇒休 5 分⇒左俣分岐 7:45/7:50⇒千丈乗越 9:13/9:25⇒休 5 分⇒槍ヶ岳山荘 10:40/10:50⇒槍ヶ岳頂上 11:10/11:15 ⇒槍ヶ岳山荘 11:35/12:00⇒ヒュッテ大槍 13:00<br>＜/歩行 6 時間 25 分＞ | | | |
| 日程 6日目 | (8/7)ヒュッテ大槍 5:05⇒坊主岩小屋出合 5:35/5:40⇒天狗原出合 6:20/6:25⇒大曲 7:05/ 7:10⇒ロッジ大槍 7:55/8:05⇒休 5 分⇒横尾 9:25/9:30⇒徳沢 10:40/11:00⇒明神 11:55/12:00⇒上高地 12:40/12:45→沢渡 13:20（入浴）/14:20→松本 15:30/15:47→富士見駅 18:21→松本 19:28/20:05→長野 20:08/21:15→上野 22:55/23:12→柏→我孫子 23:45<br>＜/歩行 6 時間 35 分＞ | | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・高瀬ダムのゲートは 5 時半開門<br>・烏帽子岳周辺から三ツ岳までコマクサと岩ききょうの花道が 2 時間近く続き、野口五郎岳から植生が変わる。<br>・真砂岳から東沢乗越は一枚岩など大きな岩が続く。<br>・東沢乗越から水晶小屋まで厳しい登り。<br>・双六岳巻道はかなりの登り下りがある<br>・三俣山荘まで水は雨水のみ。水は有料。<br>・東鎌尾根は下りには不向き | | | |
| 参加者 | 矢野貞 L、小島 SL、桐生<br>女性 3 名　計 3 名 | | | |

＜１０１８＞

赤石岳～聖岳
（3,120m）（3,013m）

室崎　宏治
郷田　進

## 南アルプス南部の山とふれあう
## 赤石岳、聖岳に登る

**一日目・二日目**　　**室崎　宏治**

「一日目」鰆島登山口～赤石小屋　ただひたすら登った。きつかった。特に歩荷返しはきつかった
「二日目」少し雨模様であったが登山開始、眺望なしだが高山植物がきれいに咲いていた。

赤石避難小屋でお汁粉をたべた。美味しかった。名物小屋主人に合うことができた。眺望なし。

**三日目・最終日**　　**郷田　進**

「三日目」百間洞山の家(2460m)～中盛丸山(2807m)～子兎岳(2738m)～兎岳(2818m)～聖岳(3013m)～聖平小屋(2260m)

三日目の行程は、昨日の行程に比べ倍以上の大変さと小屋番から助言？を頂き、早速ルートを見直し、当初予定していた大沢岳（2819m）と奥聖岳(2987m)をショートカットすることとした。目的は、前聖岳であり、ほとんどの者がそのようにするそうである。本山行では色々な登山者に出会う。前回ショートカットした大沢岳のみを目的にきたという日本１００高山を目指す者、最寄りの登山口まで車できて、ひたすら日帰り（弾丸？）登山を目指す者（今日は聖岳、明日は光岳とのこと)、茶臼小屋から荒川小屋を 1 日で走破するトレラン者など、ユニークな登山者ばかりでありが、共通するのは各人の夢とロマンか。

赤石岳山頂にて

聖岳への行程は、途中のピークを何回か登り降りしてのかなり厳しいものであったが、その分到達したときの満足感は格別であった。途中の稜線やピークでの眺めが素晴らしく時間を忘れてしまう程である。聖岳山頂では、残念ながら周りの景色は霧の為見えなかったものの、風もなく快適な多くの登山者といっしょに 3000m 超の山頂を味わう。ゆっくり昼食＆お茶とする。その後、ざればをおり、800m 下の聖平小屋を目指す。途中少し注意の岩場あり。小屋ではウエルカムフルーツポンチが出迎えてくれた。この小屋は、登山者の混みようで、一般モード（赤）と混雑モード（黒）に区分される。当然お盆時期の混みようで黒 89 番と 90 番を指定される。狭いながらも隣人と登山談義に花を咲かす。夕食のミートボールと具だくさん豚汁も大変美味しかった。三日目の疲れもあり私はぐっすり眠ったが、同僚はイビキがうるさかったとの感想である。

**「四日目」**聖平小屋(2260m)～滝見台～聖沢吊り橋～聖沢登山口(1140m)～（送迎バス）～畑薙駐車場～（レンタカー）～赤石温泉白樺荘～静岡駅～柏・我孫子駅

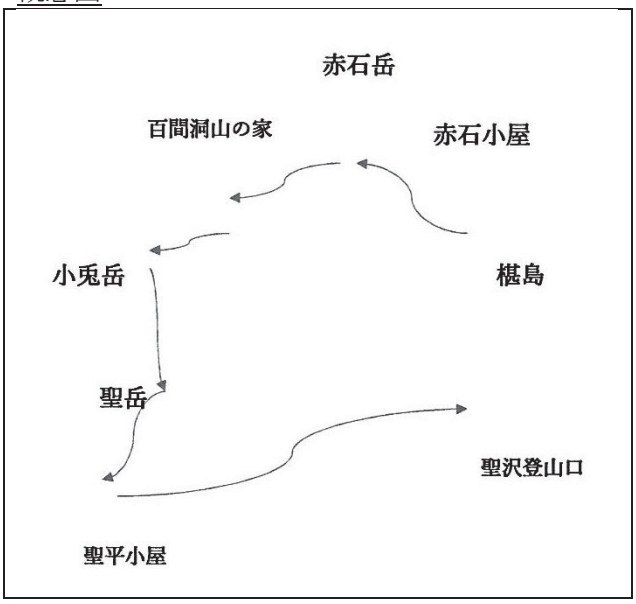
聖平小屋は当然満杯の状況、聖沢登山口 13 時の送迎バス（10 時と 13 時の 2 本のみ）を予定（予約）していたが、乗り切れない状況なのでピストン（2 時間後の 15 時）とのこと、レンタカーの返納時間もあり、椹島ロッジへの徒歩移動（約 1 時間）も考慮し、朝食を携行食に変更し、少し早い 5 時過ぎに小屋を出発する。途中滝を見ながら沢沿いを行く。約 1100m の下りであるが、吊り橋くらいまでなかなか標高が落ちない微妙なアップダウンが続く。荒れた箇所もあり、トラバースが何か所かある。吊り橋手前で椹島まで 180 分の標識あり。時計を見ると 8 時少しすぎ、ひとつ前の 10 時の送迎バスに間にあうかもとの思いからペースアップ、思えば来る時も途中道を誤ったため予定時間を大幅に超え、送迎バスに間に合わせるためレンタカーを全速力で走らせてきたことを思い出す。5 分前の 9 時 55 分に無事バス停に到着し、10 時の送迎バスに乗ることができた。駐車場まで送ってもらい、その後、白樺荘でゆっくり 4 日間の汗を流し、静岡駅まで車を走らせ、新幹線利用品川経由で柏・我孫子へと向かう。

南アルプス 4 日間の旅を終了した。初日と最終日は、やや急いだ部分もあるが、中の 2 日は、周りの景色や花々を愛でる南アルプスの自然を満喫する山旅であった。本山行を計画実施してくれた室崎Ｌに心から感謝申し上げます。

概　　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 赤石岳～聖岳 | | |
| 月日 | 平成 28 年　8 月 10 日～　8 月 13 日 | | |
| 山域 | 南アルプス | 地形図 | 1/25000　赤石岳 |
| 形式 | 山小屋泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 3C |
| 目的 | 南アルプス南部の山とふれあい<br>赤石岳、聖岳に登る | | |
| 費用 | 約 50,000 円 | 交通機関 | JR、レンタカー、送迎バス |
| 日程 1日目 | (我孫子～赤石小屋)我孫子(5:31)→日暮 6:01 → 東京駅 6:18/6:33 → 静岡 7:54/8:30(R/C)→畑薙第 1 ダム臨時駐車場 11:15/11:40→東海ﾌｫﾚｽﾄ送迎ﾊﾞｽ→椹島 1245/1305 昼食⇒2/5 ポスト 15:00⇒ガンバ段 15:40⇒歩荷返し 17:40⇒赤石小屋 18:50<br>＜歩行時間 5 時間 45 分＞ | | |
| 日程 2日目 | (赤石小屋～百間洞山の家)赤石小屋 6:00⇒富士見平 6:50⇒北沢源頭⇒赤石岳分岐 10:00⇒赤石岳 10:30/11:20⇒百間平 13:20⇒百間洞山の家 14:15<br>＜歩行時間 8 時間 15 分＞ | | |
| 日程 3日目 | (百間洞山の家～聖平小屋)百間洞山の家 5:00 ⇒ 分岐 6:10/6:20 ⇒ 中盛丸山 6:40/6:50 ⇒ 小兎岳 7:40/7:50 ⇒ 兎岳 9:15/9:35⇒前聖岳 12:35/13:00⇒小聖岳 14:05⇒分岐 14:50⇒聖平小屋 15:15<br>＜歩行時間 10 時間 15 分＞ | | |
| 日程 4日目 | （聖平小屋～静岡～我孫子）聖平小屋 5:10⇒滝見台 6:25⇒乗超 7:25⇒聖沢吊橋 8:40⇒聖沢登山口 9:55/10:00)→(送迎ﾊﾞｽ)→畑薙第 1 ダム臨時駐車場 11:05/11:15(R/C) → 赤石温泉白樺荘 11:30/12:10→静岡 14:50/15:20→品川→我孫子 17:37　＜歩行時間 4 時間 50 分＞ | | |
| ルート状況 | ・鰆島登山口から赤石小屋までは急登ではるが 1/5 のように標識があり登りやすい。<br>・登山道はほとんどきれいに整備されていて迷うところがなかった。 | | |
| 参加者 | 室崎 L、郷田 SL、<br>男 2 名 | | |

概念図



聖岳山頂にて

聖岳つり橋

＜１０１９＞

利尻岳・礼文岳
（1,719m）（490m）

佐藤　清宏

## 最北の日本百名山はガスの中

礼文岳山頂

一日目　稚内空港に到着後、利尻島行きのフェリー出航時間までは４時間もあるので、タクシーで最北端の宗谷岬へ。タクシーの運転手から美味しい店を教えてもらい、まずはウニカニイクラ三色丼を堪能。また、稚内のスーパーを教えてもらい、高橋富美子さんはシマエビ・夕張メロンをゲット。16 時 40 分出航。洋上には“海に浮かぶ山“利尻山が大きくそそり立ち、頂上までくっきりと見えました。２泊した旅館は新しくきれいで、温泉。部屋にエアコンが無いため夜中は寝苦しかったのですが、食事は雲丹の炊き込みご飯・蟹・お造り三種・八角の西京味噌など盛りだくさんでお酒もおおいにすすみました。

二日目　夜中から雨が降り出して出発予定の 5 時は大雨。北田Ｌがしばらく待機と判断。朝食は宿のおにぎり、デザートは夕張メロン。8 時過ぎに、雨が少し弱くなり、スマホを見ていた武内 SL から「天気予報だと昼には止みそうだし、行けるところまで行きましょう」と提案があり、雨具完全装備で、宿のバスを出してもらい北麓野営場の登山口へ。9 時過ぎに登山開始となりました。以下は、稚内観光案内所で頂いた「地図」パンフレットから

甘露泉（３合目２７０ｍ）環境省の日本名水百選に選ばれた美味しい水が湧き出ている。

野鳥の森（４合目３９０ｍ）エゾマツ・トドマツの大木が茂る森の中。

雷鳥の道標（５合目６１０ｍ）利尻に雷鳥はいません（ヒグマもいません）が、明治時代に初めて登山道が開かれた際、雷鳥が現れて道を先導したと伝えられている。

第１見晴台（６合目７６０ｍ）尾根に上がり展望が開けます。すぐ上にトイレブースがあります。（利尻山は携帯トイレ必携です。旅館で販売、400 円）

胸突き八丁（７合目８９５ｍ）ハイマツやダケカンバの中を胸を突くような急登です。

長官山（８合目１２１８ｍ）ここから、晴れていれば展望が開け山頂が目の前に見えるはずですが周りはガスで真っ白です。

利尻山避難小屋　無人で設備はないが、３０人は入れます。このあたりから、シュムシュノコギリソウやトリカブト属のリシリブシが見られました。

９合目１４１０ｍ　これから上部は足場の悪い急な登りが続きます。１０ｍ位、右側が大きく崩壊している所がありました。

沓形コースとの合流点手前で、急に風が強くなり目線を下げると、そこにひと株の黄色い可憐な花が咲いています。固有種のリシリヒナゲシでした。合流点上部は赤茶けたガラガラの火山礫が覆い、足元がすくわれてスリップしやすいとありましたが（９合目道標に“これからが正念場”）、階段状によく整備されていました。

13 時 55 分　利尻山神社奥宮の赤い社のある北峰（１７１９ｍ）に登頂。

利尻岳山頂

最北の日本百名山はガスの中でした。微かに南峰は見えますがローソク岩はわかりません。晴れた日には大雪山やサハリンも望むことができるそうです。下山のコースタイムを考えて、早々に下山開始。合流点付近まで来ると、ガスが切れて鴛泊港方面が開けましたが、すぐにまたガスに覆われました。長官山まで下りて一息ついて振り返

ると、なんと、左手のかなり上部から我々を見下ろすように利尻山の頂上部がガスの中に姿を現し、間もなく再びガスに覆われました。利尻山が一瞬だけご褒美をくれたのでしょうか。ゴロゴロの登山道をひたすら下り、甘露泉でありったけの水筒に水を補給しました。18 時下山。

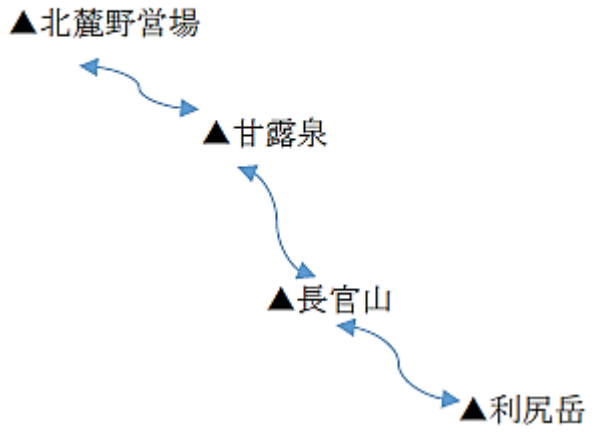
霧に浮かぶ利尻岳（長官山にて）

三日目　礼文島へは 9 時 20 分発と遅いので朝はゆっくりでよかったのですが 5 時過ぎには起きました。すると、富美子さんからシマエビのお誘い。昨夕は遅かったので宿の調理人が帰ってしまい、今朝調理してもらったそうです。早朝からグルメ。朝食後、宿の売店で利尻コンブのお土産を購入しました。礼文島香深港には 10 時 10 分着。タクシーで内路登山口へ。民家の脇から登山路に入りました。いきなりの急登で下ばかりみていると、黄色のハナイカリが可憐に咲いています。急登を過ぎると、笹原、シラカバ林、針葉樹林のほぼ平坦で柔らかな土の道を進みます。昨日の登山道とは正反対。礼文岳には２時間弱で 12 時 35 分登頂。風が強く、頭上は雲に覆われ、利尻岳は裾だけしか見えませんが、礼文島は全部見渡せ、特に北方のスコトン岬は晴れていてよく見えました。L がブルーのシートを取り出しました。すると、富美子さんがお茶碗をザックから取り出します。なんと、頂上でお茶会が始まりました。昨日汲んできた甘露泉のお湯です。お茶の美味しいこと、おいしいこと、言葉では言い尽くせません。頂上にいた５０分は至福の時でした。15 時に下山。今夜の宿は海岸線にある民宿で、目の前は利尻山です。夕食に柳の舞の煮つけが出ました。稚内のスーパーで見た地元の魚です。夜の会は遅くまで、デザートはハスカップアイス。

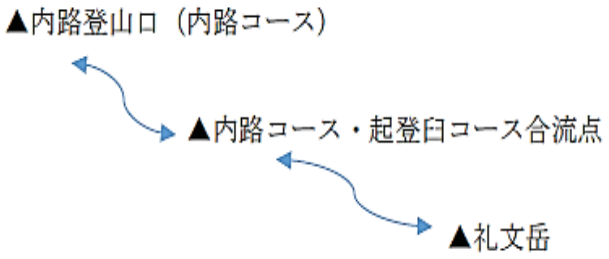
四日目　香深港発 8 時 45 分、稚内港までは２時間。船内ではサッポロクラシック。稚内では、SL のこだわりで、観光案内所で美味しいウニ丼の店を紹介してもらいました。タクシーで 10 分のノシャップ岬の近くのお店へ。店頭で現物を見て注文し、横の食堂に運んでくれます。なんとも美味しくとっても安い。食後は、ノシャップ岬まで歩き、洋上に利尻山を遠望しました。頂上付近は雲の中です。ノシャップのバス停で出発を待っていると、なんとエゾシカ数頭がゆったりと道路を横切りました。稚内に戻り、スーパーで柳の舞の姿を確認しました。稚内空港からの便は 30 分ほど遅れましたが、無事に山行を終えました。

日本最北の百名山、「花の百名山」２座、２つの岬、そしてたくさんの美味しい食べ物。
これは“岳人あびこ”だからこそできた山行だと思います。
北田 L・武内 SL・高橋富美子さんに感謝申し上げます。

利尻岳登山概念図




礼文岳登山概念図




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 利尻岳・礼文岳 | | |
| 月日 | 平成 29 年 8 月 23 日(水)～26 日（土） | | |
| 山域 | 北海道北部 | 地形図 1/25000 | 鴛泊、礼文岳 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ３B |
| 目的 | ①　日本列島最北の名峰に登る。<br>②　花の島を歩く。<br>③　最北の島を旅する。 | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 費用 | | 約90,000円 | 交通機関 | ＪＲ、飛行機、フェリー、タクシー、バス |
| 日程 | 1日目 | 我孫子 7:25→8:19 浜松町 8:27（モノレール）→8:51 羽田空港 10:30（ＡＮＡ571）→12:20 稚内空港 15:05（タクシー）→宗谷岬（昼食）→稚内港（フェリー）16:40→鴛泊港 18:20→民宿（田中家ひなげし館） | | |
| | 2日目 | 宿 9:00→北麓野営場 9:05⇒（0:10）⇒甘露泉⇒（1:35）⇒第一見晴台（6合目）⇒（1:25）⇒長官山⇒（0:15）⇒避難小屋⇒（1:25）⇒利尻岳⇒（1:30）⇒長官山⇒（2:30）⇒18:00 北麓野営場→宿（田中家ひなげし館）<br>（歩行時間:約９時間） | | |
| | 3日目 | 宿→鴛泊港（フェリー）9:20→10:05 香深港→内路登山口 10:40⇒（0:50）⇒起登臼コース合流点⇒（1:00）⇒礼文岳⇒（1:30）→内路登山口 14:55→民宿（はな心）<br>（歩行時間:約４時間） | | |
| | 4日目 | 宿→香深（フェリー）8:45→10:40 稚内港→ノシャップ岬（昼食）→稚内空港（ＡＮＡ574）15:50→17:50 羽田空港→浜松町→我孫子 | | |
| ルート状況 | | ・利尻岳山頂直下は崩落がすすんでいて、一般登山道である鴛泊コースでも登山道がかなりえぐれていた。<br>・登山道はよく整備されていて、特に山頂直下のえぐれている部分は足場がうまくとれるように配慮されていて助かった。<br>・山頂付近は強風が吹いていることがおおいので、8合目先にある避難小屋の存在は心強い。<br>・利尻岳登山は海抜 200mから 1700mまでの高低差を一日で往復しなければならないのでかなりきつい。その代わり緯度が高いので、森林限界が低く、対岸の礼文島や麓の鴛泊港などの景色が楽しめ、かつ、高山植物が楽しめるなど素晴らしい。 | | |
| 参加者 | | 北田 L、武内 SL、佐藤、高橋富<br>男性３名、女性１名　計３名 | | |

＜１０２０＞

**鳥海山**
（2,236m）

**深草　茂美**

**雲晴れ 青空広がり**
**しばし絶景堪能**

今回の鳥海山山行は、東京駅発夜行バスで象潟駅に出て、象潟駅からバスで鉾立口へ、鉾立口から鳥海山を登り頂上御室小屋に泊まる。下りは御室小屋から吹浦ロルートを経て大平口へ降りる、実質２日間の山行である。東北地方は、出発日の夕刻迄大雨が降っていたが、鳥海山山行当日の天候は曇り後晴れの予報であった。天候が崩れないことを期待して山行に臨んだ。

**１日目～2日目**

＜東京駅→象潟駅→鉾立口→賽の河原＞

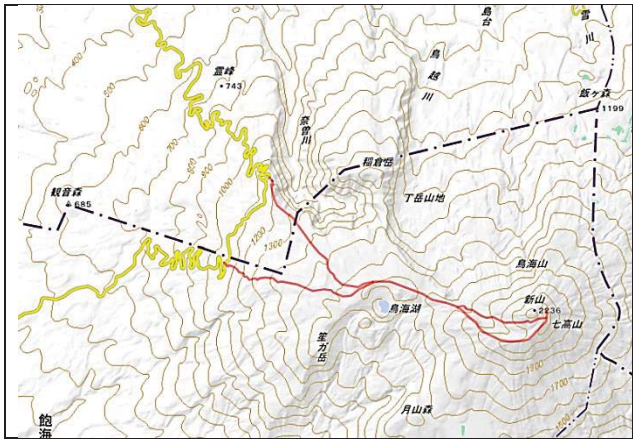
東京駅から高速夜行バス乗車、翌朝早く曇り空の象潟駅に到着する。バスの振動と雨音で、睡眠は十分といえないが、夜行バスでの翌朝山行は慣れているので気にならなかった。鉾立口行バス発車迄約１時間、駅のトイレで洗面し、待合室で朝食の弁当を食べて待った。バスに乗るとすぐ雨が降り出した。30分ほどで鉾立口に到着。鉾立山荘の休憩所で雨具をつけ、雨の中、山頂を目指し登山道に入った。

賽の河原あたりに差し掛かると、雨は小降りとなった。道の両側のいたるところに、高山植物が群生し、赤、白、黄、紫等の色とりどりの花々を咲かせている。雨で湿った岩々の間に咲く花の景色は、山水画を見る様で美しい。この美しい景色を通り抜けると御浜小屋に到着した。小屋の前で小休止後、再び小田ヶ原、七五三掛に向け歩き始めた。

鳥海山頂

＜御浜小屋→七五三掛→外輪山→七高山＞
　歩き始めてほどなく、雲が晴れ青空が広がり始めた。扇ヶ森登りあたりに、さしかかるとみどりの山腹に鳥海湖がみえた。その先に目を移すと白い雲間に荘内平野、さらにその先に、空との境界線がわからない程青い日本海の展望が広がっていた。しばし立ち止まり絶景を堪能した。この展望を右手に、御田ヶ原を経て七五三掛へ、そして文殊岳、伏拝岳、行者岳の外輪山へと進む。計画では七五三掛から御浜小屋へ向かう予定であったが、晴天、弱風、そして美しい展望との決別は名残惜しく、予定を変更し外輪山から七高山を経て御室小屋へ向かうことになった。外輪山は腰までのハイ松や灌木の枝が張り出していて、少し歩きづらい。それでも所々のハイ松や灌木の枝がない場所があり、そこで足を止めて、鳥海湖、お花、残雪、日本海の景色を眺めると、その美しさに元気付けられた。
　行者岳を少し過ぎ、岩でごろごろした道を登ると七高山のピークに到着した。信仰の山らしく、立ち並ぶ祈りの石碑の中に七高山の三角点あり、ここで記念撮影後、御室小屋に向かった。
＜新山＞
　雪渓脇の足場の悪い道を下り、鞍部に降りると御室小屋と新山山頂へ向かう分岐に到着した。計画では小屋に荷物を置いてから新山登頂予定だったが、ここから直接新山山頂に向かった。新山頂上へ登る道は、峻険な巨岩が続く急な勾配だった。その岩の上を一歩一歩登り始める。5 分程登ると、岩の間にトンネルが見えた。トンネルの中には祠があり、祠を拝みトンネルを抜けた、ここが新山の“胎内くぐり”である。トンネルを抜けると目の前が岩の壁だった。ここまでペンキで書かれた、マル印や矢印をたどり登ってきたが、ここから印が見当たらない。本当にこの先を進めば新山の頂上に着くのか一瞬躊躇する。しかし矢野リーダが躊躇なく先頭に立ち岩を這い上るのでこれに続いた。岩を登りきると、数人が、やっと取り付くことが出来る狭い岩場に出た。そこにペンキで“新山 2236m”と書かれた岩があった。これを見て新山頂上に着いたことを認識した。雲間に広がる日本海をしばし展望し、記念撮影後、来た経路を引き返し御室小屋へ向った。御室小屋で知ったが、そのまま岩の上を前進すれば御室小屋の大物忌山頂神社の脇に出たようだ。ちょっと遠回りしたが、“胎内くぐり”を２回したので、ご利益は２倍と思いよしとする。
＜御室小屋＞
　御室小屋に到着。定員 150 名の大部屋で荷物を解き夕食を待った。寝具は布団も枕もなく毛布４枚だけである。しかし本日の宿泊客は 40 名程だったので、残りの定員分の毛布は使い放題だった。これを使って快適な寝場所を確保した。おかげで、夜間は小屋に吹き付ける風の音が強かったようだが、私はほとんど気にならず快適な睡眠が摂れた。ここの小屋の食事はまずいとの噂だったが、朝夕食ともに最近の山小屋並み、それほど悪くなかった。食後、小屋入り口の鳥居越しに見た夕日は、鳥海山は信仰の山と思うと、幽玄さを感じた。
**3 日目**
＜御室小屋→扇ヶ森→御浜小屋＞
　朝食時、山小屋の主人から、本日は雨天であることを聞く。本日の計画は外輪山を経て吹浦ロルートで大平口に下山する予定であったが昨日歩いたので、小屋から直接御浜小屋へ、そこから吹浦ロルートで大平口に向かうことになった。昨日、計画を先取りして外輪山を歩くことにした矢野リーダの判断に感謝し、雨具をつけて山小屋を発った。出発時は曇りであったが、間もなく雨が降り始める。湿った岩で滑らない様に注意をしながら下りた。千蛇谷で雪渓にぶつかる。足の踏み後がないため、向こう側で雪渓を渡ろうとしている男性２人組と矢野リーダが、降り口の情報を交換し渡渉した。御田ヶ原あたりから風が強くなり扇ヶ森と御浜小屋中間あたりでは、強風に吹き飛ばされそうになりながら、前へ進む。風に煽られて歩みを止める事数回、やっとの思いで御浜小屋に到着した。
＜御浜小屋→大平口→遊佐→我孫子＞
　御浜小屋から吹浦ロコースを進み見晴台あたりで雨が上り、風も収まった。見晴台からは雨でぬれ苔蒸した石段を、足を滑らせない様に注意して下り、大平口に出た。大平口から自動車道を 15 分程歩いて大平山荘に到着した。
　大平山荘から乗り合いタクシーで遊佐西浜湯楽里へ向かう。途中、単独峰である、鳥海山の雄大な姿がタクシーの窓から見えた。この山を登ってきたと思うと感慨深かった。公営温泉場“鳥海山温泉あぽん西浜”で入浴後。遊佐から新潟へ新潟から新幹線で上野を経て我孫子へ到着、無事山行は終了した。
＜終わりに＞
　夜行１泊、山小屋１泊の実質たった２日の山行であったが、雪あり、岩あり、花畑あり、それに鳥海湖と日本海の景色、山の変化や美しさを凝縮して一度に体験出来た、とっても楽しい山行であった。

## 概念図




## 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 鳥海山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 8 月 24 日～ 8 月 26 日 | | |
| 山域 | 出羽 | 地形図 | 1/25000<br>吹浦、鳥海 |
| 形式 | 夜行<br>山小屋 1 泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2B |
| 目的 | 景観を楽しむ | | |
| 費用 | 35,000 円 | 交通機関 | JR,バス、タクシー |
| 日程 1日目 | 8/24　我孫子 8:02→柏→東京 20:48/21:20→<br>＜行動時間 3 時間 58 分＞ | | |
| 日程 2日目 | 8/25　バス→5:20 象潟 6:20→バス→鉾立 6:45/7:10⇒賽の河原 8:54/9:04⇒御浜 9:36/9:45⇒御田ヶ原分岐 10:20/10:25⇒七五三掛 10:45/10:55⇒文珠岳 10:40/10:55⇒伏拝岳(分岐)12:30⇒行者岳 12:40/12:50⇒七高山 13:20/13:30⇒新山頂上 14:20/14:30⇒御室小屋 14:50<br>＜歩行時間 6 時間 20 分＞ | | |
| 日程 | 8/26　御室小屋 6:45⇒千蛇谷分岐 8:10⇒10 分休⇒七五三掛 8:20⇒御浜小屋 9:15/9:25⇒河原宿 9:45⇒見晴台 10:40/10:50⇒登山口 11:20⇒大平山荘 11:35/12:10→湯楽里 12:35/13:40→遊佐駅 13:55/14:13→新潟 16:33/16:49→上野 18:54/19:06→我孫子 19:41<br>＜歩行時間 4 時間 20 分＞ | | |

| | |
|---|---|
| ルート状況 | ・象潟から鉾立までのバスは予約が必要<br>・象潟から七五三掛まではよく整備された道、七五三掛分岐にルート表示が 2 か所あり、50 メートル先の表示の方が、道が整備されている。<br>・七五三掛から外輪山は千蛇谷側が数か所崩れているところあり<br>・行者岳から御室小屋への下山道は封鎖されていた。<br>・御室小屋から新山頂上へは大きな岩の道、七高山側から登ると体内潜りがある。<br>・ガスっている時、千蛇谷の雪渓横断には注意が必要。踏み後が消えていて道が分らない。反今回は登りの人がウロウロしていたので声を掛け合って横断した。<br>・御浜小屋、御室小屋の営業は 7 月上旬から 8 月末までの夏期のみ。<br>・大平から遊佐まで乗合ﾀｸｼｰ有り、但し前日の夕方までに予約が必要 |
| 参加者 | 矢野 L、外崎 SL、深草<br>男 1 名　女 2 名　計 3 名 |

鳥海湖が見えた

＜１０２１＞

巻機山・飯士山
（1,967m）（1,112m）

板倉　淳一

## 草紅葉の広大な山塊

美しい巻機山を背に

**一日目**：登山口目指し岩原スキー場ゲレンデ内を登り始める。先が見通せる緩やかなゲレンデであるが、いざ歩いてみると結構息が上がって汗が噴き出る。リフトの終点に到着すると標高７００ｍを示す標識がある。ここから本格的な登山路が始まりいきなりお助けロープ。粘土質で滑り易い灌木の中を真っ直ぐに登って行く。それなりの急登が続き、その先は、ロープと鎖が掛かるかなりの長さの急登になった。小ピークに出て安心したのも束の間、再び鎖が現れ、木の根をつかんで這い上がるような場所もある。登りきった稜線に分岐を示す表示が目に入る。僅か距離を登り詰めると山頂を示す標柱に到着。好天にも恵まれ山頂からの展望は３６０度、越後の山々の稜線が一望でき大満足。僅かな時間で岩原スキー場のゴンドラ山頂駅に到着する。ここで楽しみにしていた昼食タイム。昼食後ゲレンデ内を下って行くことになるが、かなりの急斜面で転がり落ちそうで油断はできない。傾斜の緩やかな場所に到達しホッと一息、２ｍ先の斜面下を見ると肥えたマムシが臨戦態勢。全員巻くようにその場をやり過ごし、少々ばてぎみで岩原スキー場登山口に到着した。
北田さんのご厚意で宿泊する「一橋威守松小屋」へ向かう途中、湯沢町中心部に近いスーパーのぐちに立ち寄り食料や酒類を調達し宿泊地に向かう。小屋は２階建てでしかも貸し切り。早めの到着であったが早速懇親会に入る。体験談や趣味の話さらには世間話と話題には尽きず、和やかでスローな時間を過ごすことができた。既に時計は午後８時を指している。明日に備えて就寝する。

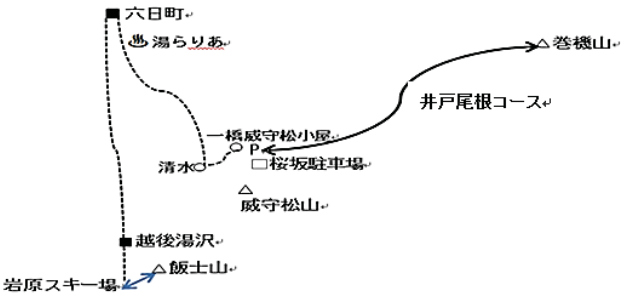
御機屋（巻機山山頂）

**二日目**：午前４時５０分「一橋威守松小屋」を出発。小屋前の舗装路は、桜坂駐車場登山口に続く林道で、まもなく右手に「威守松山」の登山口を示す標識が目に入る。さらに進むとほどなく桜坂駐車場に到着。先には、コンクリート仕様の古いトイレと汚れ物の洗い場がある。登山口から１０分程度で分岐に着く。井戸尾根コースを登る。足元は、ドロドロ滑り易い道で足に力が入る。三合目を過ぎる頃にはすぐに暑くなりすでに汗だく、そうこうしている間に四合目に到着。ブナの森や綺麗に色づいた木々の景色が続き五合目に到着。さらにブナの森を登って行くと整然と並ぶブナの木々の白い幹が、朝日に照らされとても美しく癒される。しばらく素晴らしいブナ林が続く。しかし登山道はさらにぬかるんでいる。慎重に歩を進め六合目に到着。しばらくすると樹林帯を抜けゴロゴロした岩が露出した７合目に到着。直射日光の直撃を受けながら歩を進めると視界が開け八合目に到着。ここから丸太の階段を汗だくで登る。傾斜が緩やかになると九合目のニセ巻機山の広場に出た。本物の巻機山の全容が現れ、草紅葉を纏った広大な山塊を眺めつつ稜線歩きを楽しむ。あたり一帯の草紅葉を愛でながら１０分ほど下った鞍部に巻機山避難小屋がある。休憩後池塘を横目に最後の登りに取り付く。木道が整備されていてとても登りやすい。ほどなくして御機屋と呼ばれる巻機山山頂に到着。山頂は広場のようななだらかで見通しがよく、先ほどの池塘も紅葉と相まって美しい。牛ヶ岳方面に歩を進めるとケルンがある。どう見ても明らかにこちらの方が高い。小休止後往路下山の途に就く。下山後小屋の清掃を済ませ、「湯らりあ」で汗を流す。山行のもう一つの楽しみである反省会は、越後湯沢駅東口の「そば処中野屋」で、北田様お勧めの「へぎそば」を堪能し十分満足したところで帰路につく。この度の山行では、余裕のある計画をして頂いたこともあり、懇親会や反省～会等の機会も多く親

交を深めていただくことができました。また、これ以上はない天候にも恵まれ、心に残る錦秋の巻機山を十二分に楽しむこともできました。矢野Ｌはじめ、ご一緒された皆様に改めて感謝を申し上げる次第です。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 飯士山・巻機山 | | |
| 月日 | | 平成 29 年 9 月 23 日(土)～24 日(日) | | |
| 山域 | | 上越 | 地形図 | 1/25000　巻機山 |
| 形式 | | 小屋伯 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ａ |
| 目的 | | 池塘と紅葉を楽しむ | | |
| 費用 | | 約 17,000 円 | 交通機関 | JR、レンタカー |
| 日程 | 1日目 | 柏 6:23→上野 6:54/7:06（上越新幹線 Max とき 303 号）→越後湯沢 8:10/8:40 レンタカー→岩原スキー場 9:05⇒700m登山口 9:45⇒飯士山 11:00⇒リフト乗り場 11:20/11:40⇒スキー場 12:30→スーパーのぐち→ 14:15 威守松小屋泊<br>＜歩行時間　約 3 時間＞ | | |
| | 2日目 | 威守松小屋 4:50⇒桜坂駐車場 5:00⇒5 合目 6:20⇒7 合目物見平 7:55⇒9 合目ニセ巻機山 8:55⇒避難小屋 9:15⇒御機屋 9:40⇒山頂 9:55⇒御機屋 10:10/10:40⇒6 合目 12:25⇒登山口 14:00→威守松小屋→湯らりあ→反省会、越後湯沢駅 18:12→上野→柏 20:30<br>＜歩行時間　約 8 時間＞ | | |
| ルート状況 | | ・飯士山…ゲレンデ出発のコースはリフト終点 700mが登山口。岩場のロープ地点も慎重に行動すれば危険はない。<br>・巻機山…井戸尾根コースは前半が粘土質。目安の標識があり、大変よく整備されている。山頂手前の避難小屋にはバイオトイレ、水場(下った所)がある。 | | |
| 参加者 | | 矢野裕 L、北田 SL、蟹江、小林安、佐藤、森岡、板倉<br>男性４名、女性３名、計７名 | | |




**概念図**

＜１０２２＞

南岳 ～ 槍ヶ岳
（3,033m）（3,180m）

森岡　正和

## 槍の山頂　格別の感激

槍ヶ岳山頂

憧れの槍ヶ岳への初めての山行は登山歴２年目の小生にとって多少不安ではあったが、体力、気力が充実しているタイミングが重要との思いで、思い切って参加を決めた。

８月、９月の山行は天候に恵まれない不運が続いていたので日程が近づくと共に緊張感が高まって来たが、直前の予報では好天が続くとの事で期待感と共に上野発長野行き新幹線に乗車した。長野駅より略３時間で上高地に到着、現地で先発隊２名と合流し計８名で今日の宿泊先鎗沢ロッジを目指しいよいよ梓川沿いの登山道を歩き始める。

お天気も良く、観光、登山客も多かったが歩き初めて間もなくサルの親子５～６組とすれ違い、思わぬ歓迎を受ける。(危険なので目を合わさない様にしたが・・) 比較的平坦な道を進むにつれ、明神で仰ぎ見る明神岳に圧倒され、徳沢、横尾を経由し槍見河原より樹林の合間に槍の尖った穂先が垣間見えたが道のりの長さを感じる。上高地より５時間弱、多少薄暗くなり始めたところで槍沢ロッジに到着したが、宿泊客が多く混雑していた。廊下にも人が溢れる程であったがリーダーの事前手配のお蔭で我ら８人は個室で泊まる事が出来、感謝。

翌日３０日は快晴の天気、6 時前にロッジを出発し槍沢を登り進むと共に景色が一変してきた。岩稜の白、ハイマツの緑、赤く、黄色く紅葉した

木々との色が混在する自然の配色と山稜に目を奪われる。またその先に威厳を示す槍ヶ岳の切っ先が現れ感動で胸が高鳴り、見た事もない景色に思わずシャッターを押しまくる。

天狗原分岐までの苦しい登り、岩稜を乗り越えて行くと氷河公園と呼ばれる大きな岩場の天狗原に到着。今回の山行目的の一つでもある天狗原からの紅葉も素晴らしく、天狗池に映る逆さ槍も思う存分に堪能する事が出来た。メンバー同士の感嘆する言葉が繰り返され、自分も同じ言葉を何度繰り返す。「すごい！」天狗池から岩の稜線を登り、途中やせた岩稜の通過で緊張する箇所もあったが南岳(３０３２M)に 3 時間半で到着。南岳からの眺望も素晴らしく日本の中央部の山並みが悉く展望出来、ゲスト参加の高橋さんから山々を詳しく教えて頂いた。東に常念岳、西に笠ヶ岳、北に立山、南に穂高を始め、八ヶ岳、南アルプス、遥か遠くの山並みが 360 度のパノラマを満足するまで楽しむ事が出来た。本日の宿泊先の南岳小屋までは緩やかな下り１０分で到着。前泊の槍沢ロッジとは比較にならないが、やはりシーズンで混んでいた。

3 日目の１０月 1 日は日の出を拝む為、早々と小屋を出たが既に多くの登山客がそれぞれの思いでカメラを覗いていた。朝焼けと共に富士山が大きく眺め、幻想的な風景を写真に収める事が出来た。

いよいよ今日は槍ヶ岳にアタックする事になるが、昨日に続き絶好の好天気で感謝。出発前にリーダーより諸注意と三点支持を確保しつつ乗り切る様再度指示あり。小屋を６時に出発し南岳、中岳、大喰岳と縦走するが途中は岩稜で険しい所もあり三点支持を意識し注意しつつ通過する。進むに従い槍が段々大きくなり気持ちが高まる。

槍ヶ岳山荘に到着後、ザックをデポし準備を整え登頂隊列を取り決めいよいよスタート。流石にみんなの緊張感が伝わって来るが、全員が安全に登れる様、リーダー始め先輩諸氏が一つ一つ足の置き場を指示する姿が真剣そのもので有り難かった。梯子に取り付くまで余り待つ事もなく順調に頂上に辿り着く事が出来、登頂すれば下から見上げていた時よりも比較的短い距離の印象が残ったが、やはりピークに立った感激と眺望の素晴らしさは格別である。（ウルッと来る）山頂は狭いので１５分程度で直ぐに下山の指示あり、登り以上に先輩諸氏の指導あり全員が安全に下る事が出来た。下りた後の槍ヶ岳山荘テラスでの昼食は残りもののパンであったが格別の味がした。(何という充実感！)

本日の宿泊先槍平小屋まで後は飛騨沢のガレたジグザグ道をひたすら下る。反対に槍に向って登ってくる登山者と何人かすれ違ったが、単調な下りの連続でチョット嫌になっていたが、登りは大変だろうと気の毒になる。（リーダーここは下りのルートを設定して頂き有難う御座います）予定通り 3 時に槍平小屋に到着。今までの小屋と違って随分空いている。

4 日目の最終日は曇りから時折小雨の天気となるが、槍平小屋から新穂高温泉まで沢沿いに道を下り河原の岩塊に難儀しながらも１０時半には新穂高温泉に到着し、自主的な下山終了。バスにて平湯温泉に１１時半に到着し三日間入れなかった風呂に入り昼食と共に反省会で至福の時を過ごす。帰路の松本駅から立川までのあずさ車中は大反省会となり大いに盛り上がるが、他の乗客には迷惑を掛けなかったと信じたい。

初めての槍ヶ岳で最高のお天気とメンバーに恵まれ贅沢過ぎるとのご指摘であったが、本当に実感、大満足です。

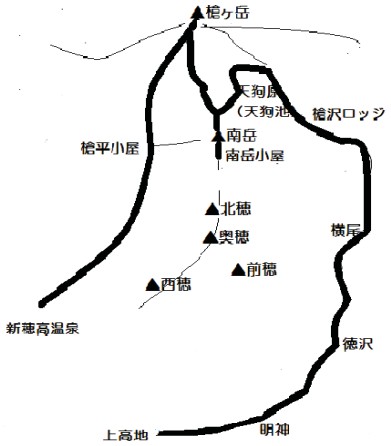
**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 南岳～槍ヶ岳 | | |
| 月日 | | 平成 29 年 9 月 29 日（金）～10 月 2 日(月) | | |
| 山域 | | 北アルプス | 地形図 1/25000 | 槍ヶ岳、穂高岳 |
| 形式 | | 山小屋泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ３C |
| 目的 | | ①槍沢と天狗原（氷河公園）の紅葉　②槍ヶ岳に登る。　③北アルプス南部の展望。 | | |
| 費用 | | 約 50,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、路線バス |
| 日程 | 1日目 | 我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/34（はくたか 551 号）→長野駅 8:06/25（バスせせらぎ号）→上高地 11:20/40⇒明神 12:28/35⇒徳沢 13:25/35⇒横尾 14:32/40⇒一の俣 15:40⇒槍沢ロッジ 16:20（泊）<br>＜歩行時間 4 時間 30 分＞ | | |
| | 2日目 | 槍沢ロッジ 5:50⇒ババ平 6:27/35⇒大曲 7:30/35⇒天狗原分岐 8:10/25⇒天狗池 9:10/10:00⇒稜線 12:45/55⇒南岳 13:20/30⇒南岳小屋 13:40（泊）<br>＜歩行時間　6 時間 10 分＞ | | |
| | 3日目 | 南岳小屋 6:08⇒南岳 6:19/25⇒中岳 8:00/05⇒大喰岳 8:58/9:10 飛騨乗越 9:30⇒槍ヶ岳山荘 9:50/10:00⇒槍ヶ岳 10:25/40⇒槍ヶ岳山荘 11:13/11:50⇒飛騨乗越 12:00⇒千丈沢乗越分岐点 13:15/20⇒水場 13:55/14:00⇒槍平小屋 15:05（宿泊）<br>＜歩行時間　7 時間 25 分＞ | | |

| | | |
|---|---|---|
| | 4日目 | 槍平小屋6:45⇒滝谷出合7:40/45⇒白出沢出合9:00/10⇒新穂高温泉10:35/55(バス)→平湯温泉11:30（入浴・反省会）/13:50（バス）→松本駅15:15/47(あずさ26号)→立川駅18:15/18→西国分寺駅18:22/30→新松戸駅19:31/38→柏駅→我孫子駅19:55<br>＜歩行時間3時間35分＞ |
| ﾙｰﾄ状況 | | ・上高地～槍沢ロッジ間は、あまり高低差なく歩きやすい。<br>・ババ平の槍沢キャンプ場は、最近、トイレ、水場が新設されており清潔。<br>・槍沢をトラバースした後は、大岩のゴロゴロした岩稜帯に入る。横尾尾根を登り槍穂の主稜線まではきつい登り。<br>・南岳～中岳間に、岩壁を辺つる個所有り。高度感もあり慎重に行動する必要。<br>・飛騨乗越～槍平は、高度差1,000mの単調な下り。但し、危険なところはない。<br>・宿泊料金(1泊2食)槍沢ロッジ9,800円、南岳山荘9,800円、槍平小屋9,300円（槍沢ロッジと南岳小屋は、労山カード提示で500円引き）（槍平小屋は、70歳以上は500円のクーポン券） |
| 参加者 | | 武内L、大平、森岡、高橋重、桐生SL,矢野貞、高橋冨 、小林安<br>男性４名　女性４名　計８名 |

天狗池

概念図




＜１０２３＞

## 立山三山

## 雄山～大汝山～富士の折立

（3,003m）（3,015m）（2,999m）

中村　育子

大汝山山頂

富山駅には朝９時過ぎ、上野から２時間半で着く。薄雲の間に青空が見えた。

「日本で標高一番と二番の温泉に行く」とリーダの林さんがいう。興味津々行ってみると立山連峰が目の前に迫り、室堂平は一面の草紅葉に染まっていた。紅葉の最盛期だが、雄山への登山者は少なくラッキーな山行だ。翌日の雨の、満員のﾛｰﾌﾟｳｪｲの中で、両岸の紅葉を見ながら若い車掌さんが「今日の紅葉が一番きれいかもしれません」と教えてくれたほど、雨に濡れた紅葉は素晴らしかった。立山山行４回目の林さんは、前３回はそれぞれ雨、霧、みぞれだった。今回はじめて立山連峰の全容を知ったと大喜び。もちろん私達も。

富山駅からは富山電鉄、ケーブルカー、バスに乗り継いで天狗平2300mに13時前に着く。目前にはギザギザの山。剱岳、隣が奥大日岳、と立山3回目の外崎さんと7回目の矢澤さん。ここから室堂平まで約１時間歩く。遮るものの無い山道を太陽に照らされ、聳える剱岳、奥大日岳の山々を見上げながら登るのは贅沢だ。剱岳は山頂が峻険、この山を多くの人が登ったのかと恐れいる。晴れた秋の、のどかな山行はとても気分が良い。

室堂平には観光客が大勢いた。近隣の国の人が多い。みくりが池温泉に着くとすぐに一番高い温泉（2430m）に入る。一つは透明、一つは白濁した硫黄温泉。次に二番目の地獄谷の雷鳥荘（2300m）に矢澤さん以外全員で行く。至る所で火山ガスとお湯が噴出して立ち入り禁止になっている。立山

を霊峰として崇めていた一つの要素がこの地獄谷の存在だという。いくつもの池塘が草紅葉に染まり、青緑色の静かなみくりが池の水面に立山連峰が美しく映っている。
宿泊用の部屋は畳も障子も新しく、布団もきれいだ。リーダーが 2 ヶ月前から予約してくれた 12 人部屋に私達 8 人と他 2 人の 10 人。相部屋になったお一人は 83 歳だという。仲間たちの足並みについて行けず途中で別れ、一人ここに宿泊して「今日を以って山登り仕舞いの日にした」とのこと。私達はその記念すべき日に立ち会ったことになり、寂しい心境をお察しして、夕食前のひと時を部屋で車座になってお酒をご一緒した。「山仕舞い」の仕方を教わった気がしてしみじみとしたひと時だった。夕食は別室に用意されていて豪華だ。近くまで車が来るので食材が充実している。

翌日小屋発 4 時半、真っ暗だ。不用な荷物を小屋に預け、ヘッドランプを着ける。登山道は舗装から砂利道に変わる。登山者はほとんどいない。一の越近くで右手の山々がモルゲンロートになり、淡いオレンジ色に染まった。浄土山、竜王岳とわかった。振り返ると遥か遠くまで見渡せる。眼下に室堂平、小さくみくりヶ池、雷鳥沢、大走り、それを囲むように奥大日岳をはじめ立山連峰の山々が聳えている。室堂平のワタスゲやチングルマの草紅葉の中をいくつもの登山道が白い筋になって山の麓まで続き、しらじらと明け行く空の下に広がっている。振り返り、振り返りしながら悠然たる立山の全景との別れを惜しんだ。

一の越で小屋で用意してくれた朝食（パン）をかじる。そこからガレ場の本格的な登山になった。雄山に着き、神社参拝。曇天だが、大汝山頂から能登半島と富山湾が見えた。次第に雨になり雪が混じる。手がかじかむ。雨具を着て大走りの登山道をひた降りた。左手にハイマツ、右手にはナナカマドの赤い色が際立って見え、ハッとする。

室堂からﾄﾛﾘｰﾊﾞｽ、ﾛｰﾌﾟｳｴｲ、ｹｰﾌﾞﾙで扇沢に抜け、路線バスと JR で松本まで雨の中を乗り継いだ。8 種類の乗り物に乗った。綿密な計画と好天のおかげで充実した山行になった。林さんと皆さんに大いに感謝。とても楽しかった。

立山三山の映るみくりが池

**概念図**

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 立山三山（雄山～大汝山～富士ノ折立） | | |
| 月日 | 平成 29 年 10 月 1 日（日）～2 日(月) | | |
| 山域 | 立山 | 地形図 | 1/25000　　立山 |
| 形式 | 山小屋 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2B |
| 目的 | ①最高所のみくりが池温泉(宿泊)　第 2 位の地獄谷温泉(雷鳥荘)に浸かる<br>②立山三山及び室堂の紅葉を満喫する | | |
| 費用 | 約 47,500 円 | 交通機関 | 北陸新幹線 JR、 富山地方鉄道、立山ｹｰﾌﾞﾙ、, 立山高原ﾊﾞｽ、 立山ﾄﾛﾘｰﾊﾞｽ、 ﾛｰﾌﾟｳｴｰ 、黒部ｹｰﾌﾞﾙ、関電ﾄﾛﾘｰﾊﾞｽ |
| 日程 1日目 | 我孫子駅 5:31(常磐線)→上野 6:04/6:34(北陸新幹線はくたか 551 号)→富山 9:11 電鉄富山 9:25→立山 11:/11:40(ｹｰﾌﾞﾙｶｰ)→美女平　11:47/12:00→天狗平　12:45((昼食)/13:00⇒みくりが池分岐 13:50⇒みくりが池温泉小屋泊 14:05⇔地獄谷温泉雷鳥荘<br>歩行時間:1 時間 50 分 | | |
| 日程 2日目 | みくりが池温泉小屋 4:35⇒室堂 4:55⇒一の越(朝食)5:55/6:15⇒雄山　7:40/800⇒大汝山　8:30⇒富士の折立　8:50⇒雷鳥沢 12:00⇒みくりが池温泉小屋・休憩 12:30/13:15⇒室堂ﾀｰﾐﾅﾙ 13:30/13:45→大観峰　14:00/14:40(ﾛｰﾌﾟｳｴｰ)→黒部平 14:47(ｹｰﾌﾞﾙｶｰ)→黒部湖　15:05(徒歩)→黒部ﾀﾞﾑ 15:20(ﾄﾛﾘｰﾊﾞｽ)→扇沢 15 :30→信濃大町 16:05/16:33→松本 17:29 /18: 35(あずさ 32 号)→新宿 21:07→我孫子 22:06<br>歩行時間　8 時間 | | |
| ルート状況 | ・小屋から室堂経由一の越ルートは非常に整備されていて、夜明け前でも問題なし<br>・雄山への直登、大汝山、富士の折立はガレ場が続き、浮石に注意。富士の折立から真砂岳方面の 250mの下りは大下りだ。<br>・真砂岳に向かう途中で大走りを通って雷鳥沢に下ったが、平日、雨、寒さでほとんどの登山者に合うことがなかった | | |
| 参加者 | 林 L　室崎 SL 外崎　矢沢　中村育　吉澤　村越　　蟹江<br>〈男性 3 女性 5　　計 8 名〉 | | |

＜１０２４＞公開登山

## 鈴ヶ岳～地蔵岳
（1,565m）（1,674m）

外崎　蓮

### 市民登山（安達太良山）に参加した方々と秋の赤城山を歩く

鈴ヶ岳山頂

地蔵岳山頂

当会の今年度の市民登山は安達太良山に行った。その時の参加者を対象として公開登山を実施することにした。言わば入会のきっかけ作り。またはお試しの山行とでも。年間計画の中からグレードＡの山が３つ選び出され、その一つが鈴ヶ岳～地蔵岳である。市民登山のアンケートをもとに、10名の方に案内状を差し上げたところ、５名の方から参加申込みがあった。

当日は行楽シーズンとあって、前橋駅前の赤城山行きバス乗り場には長い行列ができていた。直通バスが日曜日しか運行されないからであろう。なんとか２台目のバスに収まることが出来た。50分ほど乗って新坂平バス停で下車した。車道を少し戻った右手に鈴ヶ岳の登山口があるが、入口付近に草が生えているのを見ると、黒檜山や地蔵岳と違ってあまり登る人がいない山なのかも知れない。その分、静かな山歩きが楽しめるという利点もある。色づきはじめた林の中には心地よい空気が流れていて、何度も深呼吸した。鍬柄山の直下に来たところで、年配のご婦人二人が下りて来るのに出会った。坂の途中で一人がもう一人をサポートするのだが、する側のご婦人の足取りもおぼつかない。思わず皆で手を貸して、粘土質の坂道を無事に下りていただいた。まだ手を貸す側にいられる自分に密かに拍手した。鍬柄山はコース中で一番展望の良いところ。下方の大沼の上には黒檜山と駒ケ岳が聳え、右手にはアンテナが林立する地蔵岳がすぐそこに見える。鍬柄山を向こう側に下って行くと、短い距離だが両側が切れていて慎重に下る。その先の大ダオは鞍部という意味だろうか、コースで唯一、平らな広場だ。ここから山頂までちょっとした岩場が続く。手足をフルに使って高みを目指すと、そこだけがポッカリと開けた山頂に出た。足の踏み場がないほど石碑が立っている。信仰の山であることが一目でわかる。昼食後、同じ道を戻り、新坂平バス停の先の赤城山公園ビジターセンターに寄った。次は地蔵岳だが、途中トイレがないからだ。幸い登山口が車道の向側なので、直ぐに移動して登りにかかった。一つ山を登り終えているので心身ともに足取りが重い。頑張って急坂を登る。山頂はボール投げが出来そうなほど広いが、アンテナを立てるには立地条件がいいのかも知れない。

白い靄のかかった地蔵岳をあとにし、再びビジターセンターへ。前橋行きのバスを待つ間、ここで軽く打ち上げをした。この席で入会の意志を示して下さった方が何と４人も。実りの多い山行であった。

概念図

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 鈴ヶ森～地蔵岳 | | |
| 月日 | 平成 29 年 10 月 8 日(日) | | |
| 山域 | 赤城山 | 地形図 | 1/25000 赤城山 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２A |
| 目的 | 今年度の市民登山（安達太良山）に参加された方々と共に、秋の赤城山を歩く | | |
| 費用 | 6,500 円 | 交通機関 | JR,関越交通バス |
| 行程 | 我孫子駅 5:31(常磐線快速)→上野駅 6:04/6:17→籠原駅乗換→高崎駅 8:01/8:05)→前橋駅 8:20/8:45(赤城山行き直通バス)→新坂平バス停 9:31⇒鈴ヶ岳登山口 9:40/9:55⇒姥子峠 10:10⇒姥子山 10:20⇒鍬柄峠 10:23/10:30⇒鍬柄山 10:40/10:50⇒大ダオ 11:12/11:17⇒鈴ヶ岳山頂 11:45/12:15⇒大ダオ 12:40⇒鍬柄山 13:07/13:15⇒鈴ヶ岳登山口 13:30⇒赤城山公園ビジターセンター13:50/14:05⇒地蔵岳山頂 14:55/15:15⇒ビジターセンター15:45/16:45⇒新坂平バス停 16:50(バス)→前橋駅 17:55/18:15（快速アーバン）→上野駅 20:06/20:17→我孫子駅 20:50<br>＜歩行時間:鈴ヶ岳 3 時間 35 分、地蔵岳:1 時間 20 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・鈴ヶ岳の登山口は、新坂平バス停から少し戻った車道沿いにあり、牧場の柵に沿って笹の中を登る。<br>・鍬柄山はコース中で展望抜群。鍬柄山の直下は尾根が細く、木の根と岩が滑りやすいので、下りは特に注意が必要。<br>・大ダオから鈴ヶ岳山頂にかけて岩がちの登山道が続く。ロープが２箇所にある。<br>・鈴ヶ岳直下は落ち葉で道が不明瞭。よく目を凝らすと、あちこちの木々に色あせたテープ類が幾つも巻きつけてある。<br>・地蔵岳へは、新坂平からの往復が比較的歩き易く、短時間で登れる。 | | |
| 参加者 | 外崎（L）、藤家（SL）、村松、高橋芳、武内、小林安、田嶋、<br>市民…松下・常井・渡邉・水牧・大井<br>（会員 7＋市民 5＝12）<br>男 7 名　女 4 名　計 12 名 | | |

＜１０２５＞

**榛名　相馬山**
（1,411m）

**渡辺　清子**

**相馬山頂上**

上野発 6:26 の普通列車で高崎へ。高崎駅からはレンタカー２台、先ずは榛名神社目指し出発。体育の日とあって道路は市民マラソンで賑やかだった。

50 分で榛名神社到着。参道横を流れる沢の音を聞きながら朱色の太鼓橋、山門を通りそして本殿へ。社殿は御神体が祀られているという巨大な岩を背負っており圧倒される。皆で本日の安全登山を祈願し相馬山へ向かう。車で 15 分「ゆうすげの道入口」駐車場到着。身支度を整えいよいよ登山開始。ゆうすげの道はすっかり秋の風情、ススキの群生を分け入った木道を進む。ユウスゲはすでに姿を消しマツムシソウ、リンドウ、アザミ、ワレモコウ等がまだ健気に残っていてくれた。

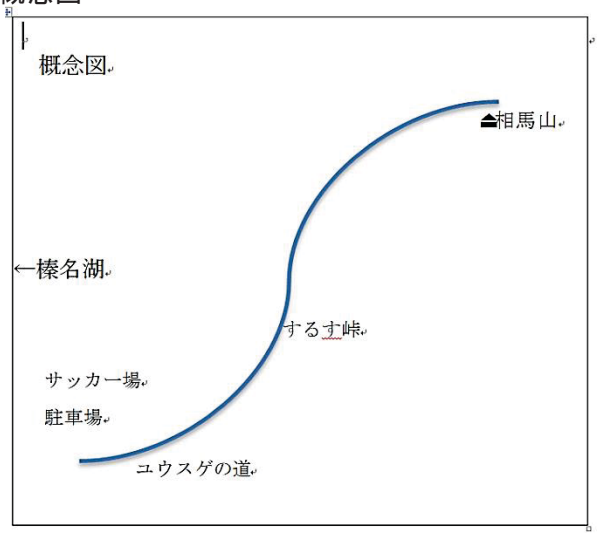
「これから森林のおふろにはいりま～す」とリーダーの声、木道が終り足元は熊笹になり登山道らしくなってきた。15 分程で磨墨岩の下に到着、断崖絶壁のような岩がそびえ立っている。「ええっ、あの岩に登るの？」いきなり鉄梯子！ザックを置いて磨墨岩のてっぺんへ。向こう側の頂には天狗を彫った石塔が一つ、さほど大きくないのに堂々と聳えている。眼下に榛名湖、美しい榛名富士も見える。気を引き締めて鉄梯子を下りさっき通過した磨墨峠へ向かう。峠の東屋で早めの昼食をとり、いよいよ相馬山山頂目指して出発。

天気良好、緩やかだった道も鳥居をくぐると木

や石の長い階段があったり徐々に勾配が増してくる。足元の茶色の落葉の中に時々見かける赤い落ち葉、何となく励まされる。やがて急登の岩場、鉄梯子、大きな鎖、かなり危険な雰囲気！緊張しながら登る。磨墨峠から 50 分、山頂に到着した。頂上には黒髪神社があり石像や石碑がずらり並んで建てられている。期待していた眺望は残念！ガスがかかり全く見えない（あんなに晴れていたのに）。

下山も同じルート、後ろ向きにゆっくり慎重に下りる。下るに従って晴れてきた。今登って来た相馬山が見える。とんがり帽子の様な円錐形に紅葉も少し確認出来る。

**概念図**



相馬山のハシゴ

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 榛名　相馬山 | | | |
| 月日 | 平成 29 年 10 月 9 日(月) | | | |
| 山域 | 上州 | 地形図 | 1/25000<br>北群馬 | |
| 形式 | 日帰り | グレード | １Ａ | |
| 目的 | 榛名湖畔の外輪山と自然を楽しむ | | | |
| 費用 | 5,000 円 | 交通機関 | ＪＲ　ﾚﾝﾀｶｰ | |
| 行程 | 我孫子駅 5:41→上野駅 6:14/6:26→高崎駅 8:16 /8:40→ﾚﾝﾀｶｰ→榛名神社 9:30/10:15）→ゆうすげの道入口駐車場 10:30/10:45⇒ゆうすげの道⇒磨墨峠 ⇒ 磨墨岩 11:10 ⇒ 磨墨峠 11:30/12:00⇒相馬山 12:50/13:10⇒磨墨峠 14:00⇒ゆうすげの道⇒駐車場 14:20/14:30→ 相間川温泉 15:00/16:05→高崎駅ﾚﾝﾀｶｰ返却、反省会 17:20/19:33→ 上野駅 21:09/21:18→我孫子駅 21:55<br>（歩行時間 3 時間 30 分） | | | |
| ルート状況 | ・ 磨墨峠から少し入ったところにある磨墨岩はハシゴで登るが、展望が良いとあって全員が上って、榛名湖全体の眺望を楽しんだ。<br>・ 途中の東屋で昼食をとったが、そこから磨墨岩の全貌が見えた。<br>・ 相馬山はなだらかな勾配から突然急峻な道に入り、3つのハシゴやクサリ場があるが、信者がよく登るとあって、よく整備されていた。 | | | |
| 参加者 | 新谷 L　高橋英 SL　箕輪完　箕輪カ<br>本田　斉田　矢野裕　小島洋　林　渡辺<br>計10名 | | | |

＜１０２６＞

出湯温泉～五頭山～村杉温泉
（913m）

吉澤　こう

## 紅葉・景色・温泉　全て堪能

烏帽子岩にて

「低山なれど侮るなかれ」に参加、天気の関係で１日目と２日目を入れ替えての山行となりました。1 日目の出発時刻は予定と変わりなく新潟へ到着。天気はとても良好で、明日の雨の予報は間違いではないかと思うところでした。タクシーを登山口で降り、少し歩くと急な登りに坂となり段差も高く道の中央は雨水で削られ深い溝となっていて歩きにくい所もありました。途中に五頭の親子地蔵があり、登山者を見守っているようでした。

見晴台、烏帽子岩、五の峰、一の峰、五頭山山頂へ。この五頭山の五つの峰にはお地蔵さんが鎮座され、鐘もあり、登山者が鳴らす鐘の音が響いていた。信仰の深い山であると思いました。紅葉は日差しを浴びて色鮮やかに映り見事でした。眼下には日本海、阿賀野川、白鳥の湖の瓢湖が見え、紅葉と景色が堪能できました。
山にはたくさんの雪椿の木があり、春には赤い花が咲くそうです。

下山も順調で、目的地のどんぐり広場には予定通りに到着し、旅館の車で宿まで乗せていただきました。翌朝、雨は天気予報どおりに降ってきました。宿の前にある公衆浴場でゆっくり温泉に浸り、朝食においしいご飯とコーヒーをいただきました。

二日目は観光となり、ラムサール条約で指定されている瓢湖の白鳥や鴨の渡り鳥を眺め、お土産を買い、新潟の美味しい物を食すことができました。

今回の山行はリーダー、サブリーダーの経験と知恵のお蔭で安全に楽しい山行ができましたことに感謝をいたします。また、地元出身の方からも新潟のことを教えていただき良い思い出となった山行でした。

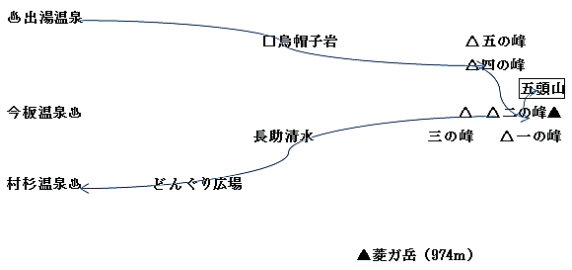
### リーダーから一言

前年、新潟に出かけた折、足を伸ばして登った山が五頭山です。新潟では年間登山者数が最大の山ですが、「千葉から来た」というと「へえー」と地元の人が驚くような山です。
ところが、山よし、紅葉よし、温泉よし、おまけに食事よし、と我が女性メンバーにはぴったりの山でした。ことに黄昏近い夕日に映える紅葉の見事さは素晴らしかったです。
標高は低いですが五つの峰と本山をもち龍の頭を乗り越えながらのアップダウンはなかなかのものです。タクシーと旅館車に助けられ、1 時間半ほどの時間短縮したものの相当歩き甲斐はありました。

出湯温泉は 1200 年の歴史をもつラジウム温泉で朝６時には隣のお寺の鐘がなり、地域の皆さんと共に朝の入浴を楽しみました。普段、仕事に家庭に孫の世話にと忙しくしているわがメンバーにはリフレッシュタイムとなったと思います。メンバーの皆さんがすべて役割を分担しながら皆で楽しい山行にしていただいたことに心から感謝した山旅でした。

大パノラマ飯豊連峰方面

## 概念図




## 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 出湯温泉～五頭山～村杉温泉 | | |
| 月日 | 平成 29 年 11 月 3 日(祝)～4 日(土) | | |
| 山域 | 越後 | 地形図　1/25000 | 出湯 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２B |
| 目的 | 紅葉と飯豊連峰の展望、山麓温泉を楽しむ（低山なれど侮るなかれ） | | |
| 費用 | 約 25,000 円（ジパング会員） | 交通機関 | 新幹線・バス・タクシー |
| 日程 1日目 | 我孫子 6:01→上野 6:34/38→東京 6:43/7:00　新幹線→上野/7:06→新潟 9:01/9:08 →（バス）水原五頭タクシー前 9:53→（タクシー）→五頭山登山口 10:30/10:45⇒見晴台 11:30/35⇒烏帽子岩 12:00/12:20⇒三俣⇒赤安山分岐 13:15⇒五ノ峰 13:45⇒一の峰 14:15⇒三差塔 14:25⇒五頭山 14:30⇒一の峰 14:50/15:00⇒三ノ峰⇒15:15⇒長助清水⇒15:50/16:00⇒五合目 16:30⇒どんぐりの森 16:50/55→（旅館車→出湯温泉 17:20 宿泊　珍生館<br>＜歩行時間 5 時間 30 分＞ | | |
| 日程 2日目 | 出湯温泉 9:00（バス）→瓢湖 9:20/11:03→(バス)新潟 12:00(地元グルメで昼食）→新潟 13:43　新幹線→上野 15:54→我孫子 16:28<br>＜歩行時間 0.5 時間＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・出湯温泉側登山口は急勾配で登山道がえぐれており、登りに使った。<br>・五の峰から順に本山山頂を目指してアップダウンを繰り返す。<br>・立派な一の峰を山頂と勘違いしてしまうことが多いが本山は 15 分先にある。<br>・三の峰から村杉温泉への登山道は比較的緩やかでよく歩かれている。 | | |
| 参加者 | 高橋芳 L、大畠 SL、田村 SL、本田、小島、矢野裕、石塚、小野、小林安、吉澤<br>女性 10 名 | | |

＜１０２７＞

# 手賀沼クリーンハイク＆ロープワーク

外崎　蓮

## 手賀沼クリーンハイク及びロープワークの研修

＜手賀沼クリーンハイク＞

今年はクリーンハイクと五本松公園でのロープワークを一日でやることになった。10 月の集会時、ロープワークの机上研修が行われたが、実技もやってほしいとの会員の要望に答えての研修らしい。「岳人祭」のような場がなくなった今、研修委員が困り抜いての計画であろう。この日はバードフェスティバルと重なり、鳥の博物館の駐車場が使えないため、我孫子高校に近い方の駐車場に集合する。例年なら「はけの道」に沿って名所旧跡を訪ねる楽しみもあるのだが、今日は午後の研修が控えているので割愛することになった。そのため手賀沼大橋の下をくぐって近道し、アビスタの前からいつものコースに出た。リーダーから時速 5 キロ以上の歩行の「お達し」があり、先を急ぐ。途中、北千葉導水路第二機場に寄り道し、導水路についての VTR を見せてもらった。手賀沼から巨大な埋設管を通して、遠く離れた利根川と江戸川を結んでいるという。これによって水害から町や田畑が守られ、手賀沼の水をきれいにし、飲み水や工業用水を得ていることを知った。こんなチャンスがなければ、施設を見学することはないと思う。

ここで 2 名が加わって、道端のゴミを拾いながら又ひたすら歩く。約 40 分歩いて沼南道の駅に着き、15 分ほどトイレ休憩。何人か帰宅した人もいたが、また後半を歩く。大橋をくぐってからは

運動する人が大分減って歩き易くなった。フィッシングセンターまではハイキングが主体なので、空腹をこらえてせっせと歩く。昼食後、いよいよクリーン作戦が始まった。フィッシングセンターの隣は野球場で、入口付近の土手や溝にはカップラーメンの容器やパンの袋、空き缶が散乱していて、例年コース中で一番汚い場所だ。ここだけで回収袋が一杯になった。ゴミをぶら下げたまま、田んぼのあぜ道を通って五本松公園に向かった。

＜ロープワークの研修＞

五本松公園のキャンプ場に到着すると、土手に近い場所にブルーシートを敷いて 3 人の講師陣が待っていてくれた。私たちは休む暇もなく持参したロープを取り出す。3 班に別れ、先ず始めに自分の体に簡易ハーネスを取り付ける練習をした。シュリンゲを肩にかけ、背中側のロープと前に垂れたロープを胸の前に引き寄せて結び、カラビナをかける。あとで土手を登下降する訓練が行われるので、ハーネスは付けたまま。次によく使われる結び方としてダブルエイトノットをやる。8 の字をなぞるようにロープを通す方法と、輪にした末端をねじって結ぶ 2 つのやり方を練習した。私は考え過ぎたあまり、なぞるやり方に大いに手間取ってしまった。その他ダブルフィッシャーマンノットやブルージック、インクノットを学ぶ。インクノットは単純に 2 つの輪を重ねるだけでいい。とはいっても輪の作り方・重ね方を誤ったら、いくら単純でも出来ない。これらの結び方が、どんな場面でどのように使われるのか。いよいよ実技である。各班の講師が桜の木に支点をとり、20m ロープの先端部でダブルエイトノットを作ってカラビナと連結した。もちろん断端部の処理も忘れない。同様に反対側のロープの先端も捻ってダブルエイトノットを作り、それぞれの簡易ハーネスのカラビナに取り付けて練習開始だ。土手をブルージックで登ったり、インクノットで下降してみたりした。が、エイト環にかけたロープが上手くさばけず、どうもぎこちない。やはり場所を変えて練習が必要だと思った。

2 時間半の研修が終了し、ゴミ拾い班は滝ノ下公園に移動する。燃えるゴミ 5.4、空き缶 1.0、ペットボトル 0.7、不燃物 0.8 キロを収集場所に置き、夕日を浴びながら駐車場へと足を速めた。

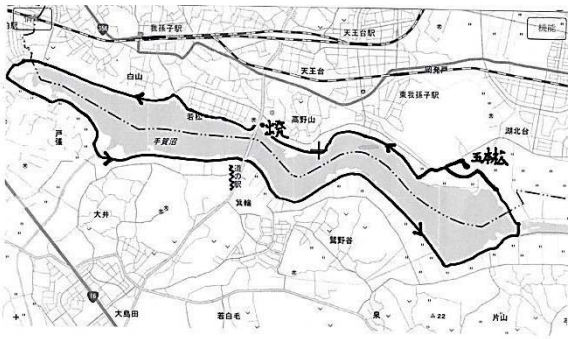
ロープワーク研修

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 手賀沼クリーンハイク及びロープワーク研修 | | |
| 月日 | 平成 29 年 11 月 5 日（日） | | |
| 山域 | 我孫子 | 地形図 | 1/25000　取手 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １A |
| 目的 | 手賀沼に今以上に親しみを持つ。<br>18 キロの行程をクリーンハイクで楽しむ<br>ロープワーク実習(教育研修主催) | | |
| 費用 | 0 円 | 交通機関 | 徒歩 |
| 行程 | 手賀沼大橋(ﾒﾓ参照)8:00⇒手賀沼公園 8:18⇒北柏ふるさと公園 8:56⇒千葉導水路第二機場(施設見学)9:12/9:47⇒沼南道の駅 10:27/10:42⇒ﾌｯｼﾝｸﾞｾﾝﾀｰ 11:50/12:10⇒五本松公園(ﾛｰﾌﾟ研修及びﾂｪﾙﾄ実技) 12:45/15:15⇒滝ノ下公園(回収物仕分け計量)15:40/15:50⇒手賀沼大橋 16:15 解散　　歩行時間 4 時間 30 分 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・集合:手賀沼大橋我孫子側~千葉導水路第二機場~沼南道の駅~フィシングセンターまでの約 14 ｷﾛは、 ハイキング主体で時速 5 ｷﾛ/H 以上で歩行。<br>・クリーンハイク主体はフィシングセンター~五本松公園~手賀沼大橋。<br>・ごみ等は例年通り滝ノ下公園で計量。<br>ごみ 5.4 ｷﾛ　缶 1.0 ｷﾛ　ペットボトル 0.7 ｷﾛ　雑 0.8 ｷﾛ<br>・ロープ研修(約二時間)を行った為、恒例の名所立ち寄りは割愛。<br>例年に比べて回収ごみは少なかったが、フィシングセンターから 500m は酷かった | | |
| 参加者 | 本田 CL、矢野裕 SL、<br>林 L　外崎、　高橋英、中村八、桐生、　村越、郷田、北田、小林安、蟹江、佐藤、箕輪完、室崎、矢野裕<br>男 10 名　女 7 名　計 17 名 | | |

ツェルトを張ってみました

滝ノ下公園にて収穫物?計量




＜１０２８＞

三ツ峠山
（1,785m）

田嶋　まり

## 大パノラマ広がる富士山満喫

三ツ峠山頂から富士山を望む

天気予報ではこの日は朝まで雨、そして一日中強風で午後から気温はマイナスに、という過酷な予報だったが、雨も強風も夜中のうちに過ぎ去ってくれたとみえ、河口湖駅に着いたら快晴。そして、暖かい！　駅舎の向こうには大きな富士山がどしんと私たちを迎えてくれている。皆さんロ々に晴れて良かった～と。

駅からは富士急山梨バスで三ッ峠裏登山口へ。バスを降りて 10 分ほど歩いた駐車場の広場で皆でラジオ体操をして、いよいよ登山開始。青空の下、道幅が広く歩きやすい道をぐんぐん登って行く。約 2 時間弱で三つ峠山荘手前、坂を登り切って横を見てびっくり。それまで背中側にあって見えなかった富士山が目の前にどか～んと！てっぺんから裾野まできれいな稜線すべてを惜しげもなく披露してくれている。三つ峠山荘前はテーブルやベンチも充実していたので富士山を眺めながらここでお昼休憩となった。（この山荘でトイレを借りると 200 円かかるが、その先に無料のトイレがある）

おなかもいっぱいになったところでいよいよ山頂を目指す。といっても三ツ峠山はもう目の前で、山頂の電波塔の四角い反射板がキラキラ光っているのが見える。15 分ほど歩いて頂上へ。山頂

手前は滑りやすい急な砂礫の斜面なのでゆっくり気をつけて登る。そして山頂。標高 1786m からは、富士山～南アルプス～八ヶ岳と 360 度の大パノラマが広がる絶景だ！子供連れの家族もいて賑わっていた。

しばし景色を堪能したところで今度は富士急三つ峠駅までの下山スタートだ。山頂直下には岩登りで有名な屏風岩がある。幅約 200m、高さ 100m に渡って垂直に切り立った岩壁。多くのクライマーたちが練習しているのを見上げながら歩を進める。ここからも雄大な富士の眺望が楽しめた。その後もひたすら下り、神鈴権現社、一字一石供養塔、赤い前掛けをしたお地蔵さんが斜面に並んでいる八十八大師などパワースポットが続き、達磨石の所からやっと林道に出た。途中、沢を渡る木の橋が一部釘が抜けて、橋自体が斜めになり滑りやすくとても危ないところがあった。

憩いの森では美しい紅葉を楽しめたが、そこからがまた長い道のり。駅はまだかまだかと車道を歩いていると右手に空き地があり、その向こうには夕方になっても雲 1 つまとわぬ大きな富士山が！下山の疲れも吹っ飛んだ。そして程なく三つ峠駅に到着。終日富士山に見守られた山行となった。

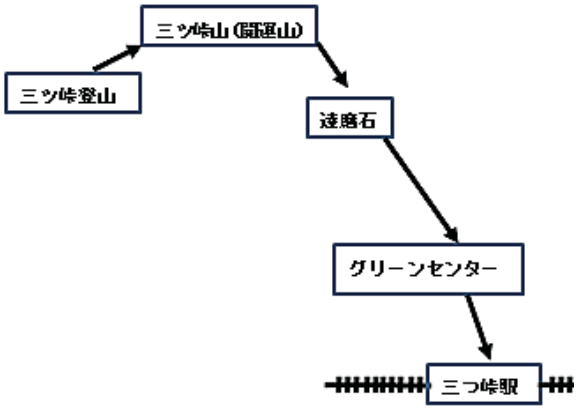
女性８名男性１名のこの山行は終始賑やかだった。「股のぞき」という場所では 3 人の方が、自分の股の下から富士山を逆さに見て、いい眺めだわ～と大はしゃぎ。ところが実はそこは二股に分かれた木の幹の間から富士山を見るスポットだとわかり一同大爆笑！落ち葉の絨毯の上で転びそうになったり転んだり（私を含む）。とても楽しい山行となった。三ツ峠山の別名は開運山。皆さんに運が開きますように！

板が傾いて、釘が浮いてる、滑るゥ

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 三ツ峠山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 11 月 11 日(土) | | |
| 山域 | 富士周辺 | 地形図 | 1/25000 河口湖東部 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ａ |
| 目的 | 富士山の展望とカラマツの黄葉 | | |
| 費用 | 約 5,000 円 | 交通機関 | 電車　バス |
| 行程 | 我孫子駅 5:12→新松戸→西国分寺→立川 6:51/6:53→大月 7:48/7:51（富士急行）→河口湖 8:43 着　9:05 発(富士急山梨バス)→三つ峠裏登山口バス停 9:30⇒三つ峠駐車場 9:40/10:00⇒ベンチ 10:50⇒三つ峠山荘 11:30/12:00（昼食）⇒四楽園分岐⇒三つ峠山頂 12:25/12:35⇒八十八大師 13:38⇒達磨石 15:10⇒憩いの森 15:25⇒三つ峠駅 16:25/16:52→大月駅 17:29/18/56（夕食）→高尾 19:40/19:48→神田→上野→我孫子駅着 21:36 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ･裏登山道は道幅が広く歩きやすい。<br>･四楽園分岐付近に公衆トイレあり（山小屋　はトイレ 1 回 200 円）<br>･屏風岩下はクライマ-の練習場所なのですみやかに通り過ぎる。<br>･下山　いこいの森に入ってから駅までかなり長い距離がある。 | | |
| 参加者 | 中村八 L　高橋芳 SL　齊田　小林安　本田　箕輪完　田嶋　箕輪カ　石塚<br>男性１名　女性８名　計９名 | | |

**概念図**



＜１０２９＞

三頭山
（1,531m）

村越　百々代

## 尾根道から山並み眺め、
## 遥かに富士の姿望む

大岳山、御前山、三頭山の三山を奥多摩三山といいます。これまでに大岳山、御前山に登ったことがあったのでぜひ「三頭山にも登ってみたい」とかねてから思っていました。
実は４月に一度計画したのですが、私自身が不注意で指を骨折してしまい会長の高橋さんが実施してくれました。自分自身は不参加だったのでリベンジとして秋に行うことにしました。計画時は3 人で行く予定でしたが、一人体調を崩し、二人で行くことになりました。パートナーは新人で同じ職場の渡邊さん。二人で楽しくいこうね!!とスタートしました。

松戸駅で合流し日暮里で山の手線に乗り換え、しばらくすると電車が止まってしまいました。放送では「線路上に落下物がありそれを片付けに向かっている」とのこと。ハラハラしながら待っているとしばらくして動き出しました。幸い新宿発のホリディ快速に間に合い、ほっとしました。武蔵五日市駅に着くと、バス停にはたくさんの人がすでに並んでいました。臨時バスは出るはずだから大丈夫と思いながらも少し不安。無事にバスに乗り込み都民の森までは１時間ほどでした。

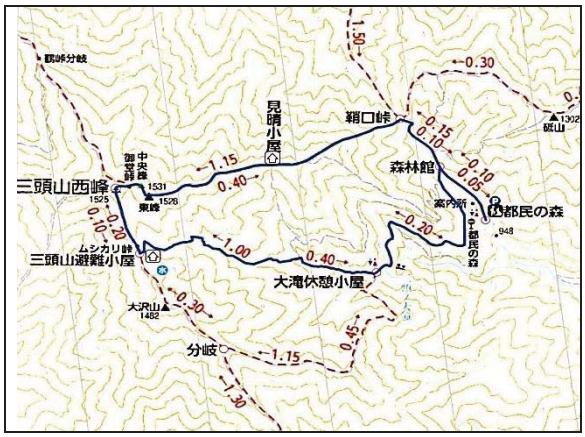
軽い準備体操をして歩き始めました。すぐに森林館があり、そこから登山口。ブナの道コースを進みます。歩きやすい平らな大滝の道を通っていくと三頭大滝に着きました。滝の前には滝見橋がかかっていて三頭大滝を間近に見ることができました。休憩所のそばに分岐がありました。道標がありましたが、どちらに行くのか間違えやすいところです。地図を見ながら方向を確かめ、予定の道を進むことができました。ここからは少しずつ登りになります。両側が高くなった林の中を進みます。ブナの木もあり少し汗をかきながら進みました。ムシカリ峠につくとそこからは尾根道になります。見晴らしが良くなり、山頂まではあと一頑張り。

まずは西峰に到着。南側には見事な富士山。北側には雲取山も見えました。記念写真を撮り、みごとな山並みを見ながらお昼ご飯を頂きました。実は私が計画する山はいつもお天気が悪いので自分は雨女かなと思っていました。がこの日は違いました。要はお天気次第。いつ山に行くかが問題なのだと思いました。

それから最高峰の中央峰。西峰からはすぐです。続いて東峰。ここには三角点がありました。いつものように三角点にタッチしてまた歩き始めました。展望台の案内があったので「せっかくだから観ていこうよ。」ということになり展望台からの眺めを楽しみました。ここからはどっしりとした御前山とちょっととんがった大岳山が見えました。渡邊さんに「二つの山には登ったことがあって、この三頭山に登りたかったんだ」と話しました。奥多摩の山並みに満足し、下山することにしました。バスの時間を見ながら、急げば一本前のバスに乗れそうなので急いでいくことにしました。ひたすら歩き、時々景色を楽しみ、だんだん小走りになり、最後は走り、何とか一本前のバスに間に合うことができました。そして数馬の湯でゆっくり、ほっこりと温泉に浸かって帰ってきました。

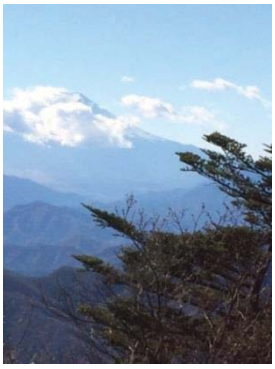
山頂から御前山、大岳山を望む

概念図



**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 三頭山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 11 月 19 日(日) | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1/25000 奥多摩湖 猪丸 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 1A |
| 目的 | ・奥多摩三山の一つに登る<br>・紅葉と温泉を楽しむ | | |
| 費用 | 5,500 円 | 交通機関 | JR,西東京バス |
| 行程 | 我孫子駅 5:33→日暮里→新宿 6:38/6:46（ホリデイ快速あきがわ 1 号）→武蔵五日市 7:55 着/バス 8:10 発(西東京バス)→都民の森バス停 9:10 着/登山開始 9:25⇒大滝休憩小屋 9:55/10:00⇒ムシカリ峠 10:55/11:00⇒三頭山西峰 11:15/11:50⇒中央峰 12:00⇒東峰 12:03/12:08⇒展望台 12:08⇒鞘口峠 12:55⇒都民の森バス停 13:08/13:09→数馬の湯 13:20/14:53→武蔵五日市 15:50/15:55→東京 17:11/17:26→我孫子 18：06 着　（歩行時間：3 時間） | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・道標がポイントごとにあり、地図で確認しながら歩いたので迷うことはなかった。<br>・登りは石で組まれた段差で歩きにくかったが下山はなだらかで歩きやすかった。<br>・下山口が近くなった時、予定していたバスより一本前に乗れそうだったので急いで下山し、早いバスに乗ることができた。 | | |
| 参加者 | 村越 L、渡邉<br>女 2 名 | | |



見事な富士山!

山頂にて

＜１０３０＞

## 高山不動尊～顔振峠

林　敏生

### 高山不動尊～顔振峠

人気の関八州見晴らし台という噂を聞いての参加、当初定例会での参加は三名(男性は一人)だったので、どんな山行になるだろうと期待が沸いていましたが、計画書にはなんと 7 名記載。やっぱりか.。。。。。

西武線西吾野駅を 8 時 25 分予定通り出発。まず高山不動尊を目指して登山開始、成田不動、高幡不動とともに関東三大不動に挙げられているだけあって、116 段の階段の先に見える建物には感銘を受けた。次にこんな標高の高いところによくぞ造ったと。

このあと関八州見晴らし台へ。全コースに言えることは、登山ルートは案内板、登山道もよく整備されているが、場所によってはルート外の踏み跡もあり多くの選択?ルートができて立ち止まることもありました。又、林道というより立派な舗装道路もあり、カーブだらけなのでところどころ車に注意しなければならない箇所もありました。

関八州見晴らし台は、ドライブにも適しているらしく観光客がすぐ下の駐車場から元気よく登ってきていました。見晴らし台の感想は、なぜここがと疑問??

顔振峠は茶店もあり一服するのには適していると思われます。　説明版に〈源義経と弁慶主従がここを超える時に、周囲の景観を振り返りながら超えたというので、この名前になったと〉そのまえにびっくりしたのは、ガンブリでなくてコウフリと読むとは。

ここから吾野駅への下山ルートを取らず、田村リーダーの興味を持たれた地名〈ユガテ〉へ

なぜユガテを目指すのかと色々考えながら向かっていると、楽しくもあり、到着が待ち遠しくなりましたが、説明は省略します。周りを見渡したのですが点在した集落と畑、果樹園、公園があり、ユガテの説明は見受けられませんでした。

ユガテからの下山は小さなピークを何度も超えながら、〈まだ着かない〉とつぶやきながら、東吾野駅へ到着。

山行は下山したから思い出すとすべて懐かしくなってきますが、関東周辺には本当に楽しいと

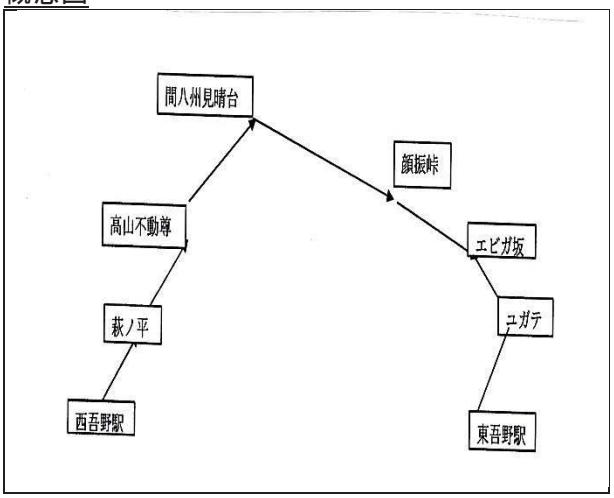
ころがたくさんあるのだと。

高山不動の長い階段

越上山山頂(566.5m)にて

小さなピークを何度も超えて

概念図




概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 高山不動尊～顔振峠 | | |
| 月日 | 平成 29 年　11 月　26 日(日) | | |
| 山域 | 奥武蔵 | 地形図 | 1/25000<br>正丸峠・原市場・飯能・越生 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２A |
| 目的 | 紅葉を楽しむ | | |
| 費用 | 2,500 円 | 交通機関 | JR・西武鉄道 |
| 行程 | 孫子駅 5:41→日暮里駅→西武池袋駅 6:31/7:05→西吾野駅 8:25/8:35⇒茶屋跡 9:30/9:35⇒高山不動尊 10:05/10:17⇒関八州見晴台 10:45/11:15⇒傘杉峠 11:40/12:10⇒顔振峠 12:45/13:05⇒越上山 13:40⇒エビガ坂 15:05⇒ユガテ 15:30⇒福徳寺 16:10/16:15/⇒東吾野駅 16:30/17:02→西武池袋駅 18:15/18:26⇒日暮里駅 18:32/18:36→我孫子駅 19:10<br>行動時間　7 時間 55 分<br>歩行時間　6 時間 30 分 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・登山道は整備されていて歩きやすい。<br>・分岐には標識があり間違えることはない。<br>・越上山は岩場が多いが、気を付ければ問題ない。<br>・車道歩きが数か所ある。 | | |
| 参加者 | 田村 L、高橋芳 SL、大畠、大山、林、高橋富、小林安<br>男 2 名　女 5 名　計 7 名 | | |

富士山

＜１０３１＞

巣雲山　・天城連山縦走
（580m）　万二郎岳～万三郎岳
（1,300m）　（1,406m）

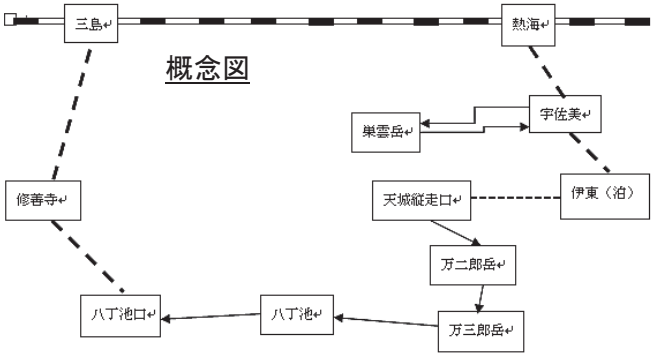
矢野　貞子

一日目は「巣雲山」みかんの花咲く山らしい。朝一番のこだまに乗って熱海で乗り換え宇佐美という無人駅に着いたのは朝の７時半だった。新幹線を使うと本当に早い。皆でラジオ体操をした後、たわわに実るミカン畑の脇の急坂をひたすら登っていくと「どっこい処」と看板があった。海の先に大島が見えて最高の景色だった。そこから少し登り大丸山頂上に着いた。この山は駅から見てあの山が巣雲山かと勘違いした山だ。すすきの先にそびえる富士山が綺麗だった。少し下ると大丸山をエスケープしてきた仲間に合流し、山道を20分ほど歩くと広い芝生の頂上に着いた。展望台に上ると富士山や初島が見えた。少し早いがここでお昼を食べ下山した。宇佐美駅から電車に乗り伊東駅行き、駅前で明日の食料を仕入れ、今夜の宿、M さんの職場の保養所に向かった。昨年、改築したらしくとても気持ちの良い部屋や温泉だった。食事は新鮮な地魚をメインにした料理に M が特別手配した豪華地魚の船盛、一口づつ味わった一尾の金目鯛の煮つけと参加者 14 名が伊豆の美味で満腹になった。その後部屋で箕輪さんから話題のチバニアンについての講義を聞き翌日の縦走に備えた。

二日目朝、6 時半にﾀｸｼｰに乗り、４0 分程で天城縦走登山口に着いた。体操後出発、今山行は 4 班に班分けされ、山行中は班行動するようにリーダーから指示があった。各班足並みがバラバラなので全体行動ではなく、班で責任をもって行動だ。我が班はうさぎさんチームと仲間から言われた程皆が快調に歩く。一時間程で万二郎頂上に着いた。少し待ったが他の班は来ない。寒くなったので万三郎へ向かう。昨日もそうだったが風が強く体感は寒い。遠くに風車が並ぶ光景が見えた。馬の背当たりは普段から風があるようだ。後が心配になり、風がなく陽だまりのブナ林で仲間を待つことにした。やや飽きたころ、大きな話声と共にリーダーの班が来た。バスの時間が心配と待っていた私達の前を急ぎ足で通過していった。更に待って最後尾の仲間の姿を確認して私達も出発。そこから一登りしたら万三郎頂上だった。先に行ったチームに合流し、早めの昼食にしていたら、最後尾が来て合流。皆で記念写真を撮った。

天城山の尾根には広大なブナ林が続き、時折木肌の美しいヒメシャラが彩を添えていた。

私は、坪田さんのブナの話を聞きに行った後だったので、空を見てブナの枝ぶりや林の構成など感慨深く眺めながら歩いた。また、昨夜食べたアジのお刺身を思い出し、伊豆に美味しい魚が豊富なのはこのブナ林が残ったお陰なのかな？など「成るほど成るほど」と思うことが多かった。朝、ﾀｸｼｰの運転手が十足（とうたり）と言う地名傍を通った時、昔の天城山越えは火山岩でゴツゴツして草鞋が十足では足りなかったと言われからきていると説明してくれたが、山道は大木のブナ林を縫うように落ち葉の穏やかな道を２時間程下り八丁池に着いた。30 年頃は天然のスケート場だったという当時の写真や湖畔に咲くトウゴクミツバツツジに彩られた湖畔の写真を見た後湖畔に沿って見晴らし台を目指した。見晴らし台に登って池を眺めているとリーダーの組が湖畔に着いたのが見えた。安心して、バス停に向かう。1 時間掛かると思っていたら 30 分程で着いた。そこで後続を待った。最終バスの出発時間の 20 分前には全員が到着して、今回の最大の心配事をクリアし修善寺に向かった。修善寺から三島まで電車にのり、三島でお弁当を買い新幹線で帰ってきた。宿を手配してくれた M さんとリーダーの賢い采配のお陰で楽しい山行でした。



**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 巣雲山・<br>天城連山縦走（万二郎岳～ 万三郎岳） | | |
| 月日 | 平成 29 年 11 月 26 日(日)～27 日(月) | | |
| 山域 | 伊豆 | 地形図 | 1/25000 天城山 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ａ |
| 目的 | 天城連山の紅葉を楽しむ | | |
| 費用 | 約 18,000 円（ジパング会員） | 交通機関 | ＪＲ・タクシー・バス・伊豆箱根鉄道 |
| 日程 1日目 | 5:31 我孫子駅 → 柏駅 → 上野→6:18 東京 6:33(こだま 6311 号) →7:16 熱海 7:22 →7:39 宇佐美 7:55 ⇒ 8:53 登山道入り口 ⇒10:20 巣雲山山頂(昼食) 11:20 ⇒12:55 宇佐美駅 13:29 →13:34 伊東駅 15:00→保養所 15:10(泊)　　(歩行時間約 4 時間) | | |
| 日程 2日目 | 保養所 6:30→（タクシー）→7:10 天城縦走登山口 7:30 ⇒ 9:00 万二郎岳 ⇒10:45 万三郎岳 11:05 （昼食）⇒ 12:00 小岳 ⇒ 12:15 戸塚峠 ⇒12:50 白田峠　⇒13:45 八丁池 →14:55 八丁池バス停 15:42→(新東海バス) →16:55 修善寺 17:07 →（伊豆箱根鉄道) →17:43 三島駅 18:23(こだま 668 号) →19:10 品川（上野東京ライン水戸行き）19:24 →柏　→20:13 我孫子<br>(歩行時間約 6 時間 30 分) | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ･1 日目　巣雲山登山<br>宇佐美駅から各所に登山道への案内板がある。登山道入り口まで、登り坂の舗装道路を一時間近く歩かなければならない。下山道もやはり途中から別荘地の舗装道路を駅まで一時間近く歩く。すぐ下は自動車道が走っていて、山頂には観光客がいた。<br>･二日目　天城連山縦走<br>案内板がしっかりして迷うことはない | | |
| 参加者 | 齊田 L・室崎 SL・外崎 GL・矢野貞 GL・本田 GL・矢野裕・村越・石塚・小野・郷田・矢澤・北田 GL・藤家・箕輪・森岡<br>男性 7 名・女性 8 名　計 15 名 | | |

ブナとヒメシャラのトンネルを行く

＜１０３２＞忘年山行

石割山
（1,413m）

新谷　直惠
やまたんより転載

冠雪の美しい富士
スライドで１年を振り返った
充実の忘年山行

石割山山頂より富士山を望む

＜リーダーのメモ＞

A 班

リーダー　新谷　直惠

・お天気に恵まれ山行中ずっと冠雪した美しい富士山が望めたことが何より幸いした。
・忘年山行で富士山周辺にくることがなかったのは、やはり東名の渋滞が心配されてのことだったが、行きは大変スムーズで予定よりかなり早く到着。帰りもほぼ予定通りだった。
・昨年に続き宴会場と帰りのバス中で１年間の山行を振り返ったのが好評だった。矢澤さんの充

実した記録作成のおかげです。

B班

リーダー　大山　冬臣

快晴に恵まれた石割山山行でした。実質的にリーダーを務めて下さった武内 SL の絶妙なペース配分に全員が確りとした足取りで最後まで歩くことが出来ました。有難う御座いました。ひとつ気になったことがありました。それは好天と気温が比較的高かったことから出発前の準備で「アイゼンは必要ですか？」と云う質問です。今日の天気と気温ならアイゼン無しでも大丈夫かな？とは思っても、日陰や北面の谷筋では予想外の氷化が考えられますので、標高の低い登山口の予測だけでアイゼンが不要かな？と判断するのではなく、この時期は万一を想定してチョット重いのは我慢しても持参すべきですね。

C班

リーダー　村越　百々代

お天気に恵まれた石割山、山頂からの富士山の眺めが最高でした。南アルプス、箱根、丹沢のやまなみも望むことができて本当に素晴らしかった。昼食＆宴会で寄った紅富士の湯でも、露天風呂から正面に富士の姿が望め、日本一の山をこんなに堪能できた山行は初めてでした。昼食時の企画「一年の山行のスライド」も素晴らしかった。まさに忘年山行にふさわしい企画だったと思います。力を出してくださった皆様、ありがとうございました。

D班

リーダー　中村　八重子

今日は絶好の山行日和。石割山の名前は山頂直下にある巨岩が山名の由来とか？
開運をのぞむ老若男女が狭い割れ目に身を預けていました。

403 段の天まで届きそうな長い石段で有名。トレーニングには最適だが、脚に応える。息を整えながらゆっくり登った。木々は葉を落とし初冬を迎えている。所々紅葉が残る。

山頂に着くと展望が開けた。富士山は両肩を張り、いつもに増して大きく美しく見える。遠くアルプスも雪をかぶって望むことができた。平尾山からの展望も又よし。一年の締めにふさわしい最高の景色でした。温泉で身体を休め美味しい食事を頂き、矢澤さんにご用意頂いたスライドで今年の山行の思い出を振り返りました。幹事さんをはじめ参加した皆様の協力で楽しい一日を過ごすことが出来て幸せです。ありがとうございました。

会場で一年の山行振り返る

概念図

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 石割山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 12 月 3 日(日) | | |
| 山域 | 富士山周辺 | 地形図 | 1/25000<br>御正体山・富士吉田 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １A |
| 目的 | 富士山を間近に臨みながら歩き、温泉に浸かり、食事を楽しみながら今年１年の山行を分かちあう。 | | |
| 費用 | 8,500 円 | 交通機関 | 貸切バス |
| 行程 | 我孫子北口公園前 5:45→談合坂 SA7:12/7/37→石割山登山口 8:25/8:51⇒石割神社 9:40/9:45⇒石割山 10:10/10:30⇒平尾山 11:05/11:30⇒石割山登山口 11:55/12:00→紅富士の湯 12:15/15:25→談合坂 SA16:18/23→石川 SA17:10/17:30→我孫子北口公園前 19:00<br>歩行時間　2 時間 15 分 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・頂上直下の下山道は霜が降りていたこともあって滑りやすく、気を使ったが一人も転ぶことがなくホッとした。結局、用意していただいた軽アイゼンは使用しなかった。<br>・下山の際、分かれ途の標識の判断がしにくい箇所があり、下見の経験が生かせた。 | | |
| 参加者 | A 班：新谷 L、外崎 SL、矢野裕、高橋芳、箕輪完、常井<br>B 班：大山 L、武内 SL、北田、本田、吉澤、田嶋<br>C 班：村越 L、村松 SL、小林安、石塚、佐藤<br>D 班：大平 L、中村八 SL、小島洋、矢澤, 渡辺<br>男 9 名、女 13 人　計 22 人 | | |

＜１０３３＞

## 堂平山～笠山
（876m）（837m）

蟹江　和子

### 奥武蔵の静かな里山

堂平山山頂

大霧山とともに比企三山と呼ばれる堂平山～笠山（別名：乳首山）。今回の縦走コースは、外秩父七峰縦走コースのなかの三つの峠を歩く山行。　白石バス停で下車、身支度をしてリーダーから「安全登山への注意事項」等の話しがあり登山開始。その前に、今日は参加人数が多いので①うさぎさんチーム（矢澤さん先頭）と②亀さんチーム（箕輪さん先頭）の２班体制で行動することになった。

歩き初めは、のどかな山村の景色を眺めながら川沿いの植林された杉の中の歩きやすい道で、登山道に入ってからは、少しずつ登りがきつくなった落葉樹の森林帯の中を落ち葉を踏みしめながら歩いた。

白石峠に出た途端に、いきなり車道がたくさん現れ少々びっくり！！

峠の東屋で少し休憩をして、さらに登山道に戻り、剣ヶ峰を目指す。今日の最高峰の剣ヶ峰（876m）には、電波塔が建っている。山頂の電波塔を、まわり道しながら長い木の階段を下り、登山道に沿って東大地震研究所、堂平天文台（堂平山山頂の目印）を超え、堂平山頂（875.9m）に到着。今日は天気に恵まれ、奥多摩、秩父の山々（大きな山容の両神山など）が一望でき、素晴らしいパノラマだった。冷たい北風の吹く頂上から直ぐに退散して、頂上下にある宿泊施設のバーベキュー場

で昼食を食べたが、凍るような寒さなので、早々に笠山に向けて登山を開始する。

林道、登山道を繰り返し、七重峠に向けて 200m下がり、急登を繰り返しながら、笠山山頂に着いた。山頂は、別名「笠山西峰」と呼ばれ、すぐ近くに笠山東峰があり、こちらの方が標高も５m高く、笠山神社（雨乞いにご利益があるとの事）が建っている。ここから萩平分岐に向う下りは、赤土や霜で凍った滑りやすい道なので、とても緊張した。分岐（萩平の集落）から皆谷バス停までは、里山風景の長い林道歩きだが、ショートカットの看板があり助かった。

今日の山行の前半は陽だまり、そして後半は寒波の中の登山だったが、みんな和気あいあいで、とても楽しい山行だった。

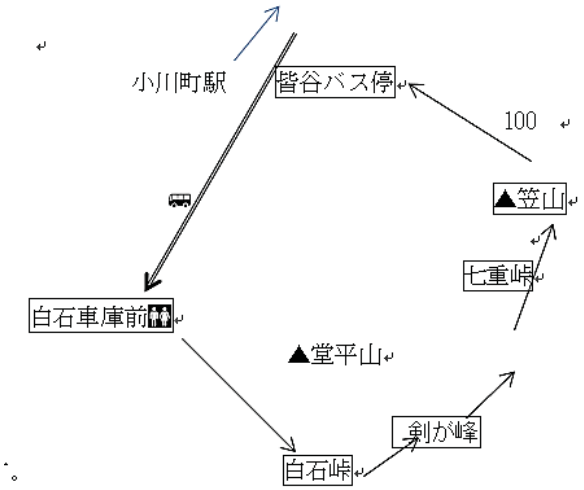
**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 堂平山～笠山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 12 月 17 日(日) | | |
| 山域 | 奥武蔵 | 地形図 | 1/25000　安戸 |
| 形式 | 日帰り | グレード | １Ａ |
| 目的 | 初冬の静かな里山を歩く | | |
| 費用 | 約 5,000 円 | 交　通<br>機　関 | ＪＲ、バス<br>東武東上線 |
| 行程 | 我孫子駅 5:31（常磐線）→日暮里→池袋 6:20/7:00（東武東上線　快速）→小川町 8:01/8:15（バス）→白石車庫 8:53/9:08 ⇒ 白 石 峠　10:24/10:30 ⇒ 堂 平 山 11:20/12:00⇒七重峠⇒笠山 12:50/13:05 ⇒皆谷バス停 14:40/15:18（バス）→小川町駅 15:55/17:20（東武東上線）→朝霞台 18:13⇒北朝霞 18:19（武蔵野線）→新松戸 18:58→我孫子 19:16<br>＜歩行時間 4 時間 20 分＞ | | |
| ルート状況 | ・外秩父七峰縦走コースの一部なので、登山道は整備されコースの要所に標識が設置されている。<br>・剣が峰頂は金網で囲まれている無線中継所が建っていて狭く、急な下りを避けて金網を一周して狭い道を下りた。（林道に下りて行くと迷うので注意）<br>・堂平山から七重峠へ 200m下って、笠山へ急登を登り返す。<br>・笠山は西峰と東峰があり、東峰まで 3 分行くと古いお社がある。<br>・笠山から萩平まで急坂を下るが、落ち葉で滑りやすい。<br>・萩平の集落からは林道歩きが続くがショートカットの看板を見て行けば時間短縮になる | | |

| | |
|---|---|
| 参加者 | 本田Ｌ・齊田ＳＬ・高橋英・箕輪・矢野貞・矢野裕・矢澤・大山・林・石塚・渡辺清・藤家・蟹江・小島・小野・箕輪カ<br>計 16 名 |

落ち葉降り積もった急坂

**概念図**



＜１０３４＞

## 安戸山・高原山
（1,152m）（1,765m）

武内　勇二

安戸山山頂にて

今年は冬の訪れが早く、例年より２週間ほど早く積雪を見た。しかし、恒例のクリスマス山行当日は、数日間続いた寒波も去り、比較的穏やかな天気となった。今年は、初日に塩原温泉北東方向にある安戸山（やすとやま）で足慣らしの後塩原のキャンプ場で宿泊、２日目は鶏頂山～釈迦ヶ岳（高原山）に登る計画である。過去にはテントを背負っての雪山縦走が多かったが、ここ数年は体力的なことも考え、ベースキャンプまで車で行き、目的の山をピストンする形式に変わってきている。それに伴い、参加者もこれまでより少し増え、１昨年(入笠山)は８名、昨年（四方原山・茂来山）は７名、そして今年も８名とテント２張りの賑やかな山行となった。

那須塩原駅でﾚﾝﾀｶｰを借り、２台に分乗して塩原温泉方面へ向かう。道の駅湯の香（ゆか）塩原で小休止後、国道４００号線と分かれて遅野沢方面へ北上する。安戸山の標識に導かれて２回左折、蟇沼（ひきぬま）部落最奥の民家近くの空き地に駐車した。

杉林の中を登り始めて５分ほどで鎮守と貯水タンクがあったので、ガイドブック通りのルートだと安心した。沢を渡ると直ぐ道は２手に分かれた。左手に行きかけたが、最後尾の北川君が右手の登山道に掛けられてある安戸山の標識を見つけて事なきを得た。手入れの行き届いた杉林の中をジグザグに登る。緩やかで、よく踏まれた道は歩きやすい。廃道となった林道に出て１０分程で、小広いススキの原に出た。斜面の桧の植林もよく手が入っていて美しい。

ここで登山道は直角に折れ、うっすらと雪のある安戸山の北斜面をトラバース気味に登り、やがて山頂から北西に延びる小尾根に出た。雪が凍てつき滑り易くなっている急斜面を、小枝を掴み、時にはロープを頼りながら登ると木々に囲まれた山頂に着いた。広くなく展望もあまりないが、木立の間から明日登る高原山が見えた。登頂記念の写真を撮った後笹原の道を少し戻り、冷たい風を避けて昼食とした。昼食後、もと来た急な下りを戻るにあたり、万全を期してアイゼンをつける人もいたが、凍結箇所を慎重に下ればアイゼンなしでも特に問題はなかった。登りに２時間１０分かかった道も下りは早い。１時間２０分で駐車場所に戻った。

麓のスーパーで食料と酒を調達した後、宿泊地の塩原グリーンビレッジに向かう。塩原温泉の入り口付近の箒川沿いにあるオートキャンプ場で、バンガローや温泉もある。冬場にも拘らず、家族連れもちらほら散見され、思い思いにアウトドアーを楽しんでいる。勿論、山用のテントを持ちこんだのは我々だけだ。炊事棟や暖房のあるトイレも完備し、至れり尽くせりの設備で、山屋のテンバとしては最高級だ。テントサイトは川沿いにあり、風が強くテント設営には苦労させられたが、炊事棟は窓で外風を完全に遮断していることを発見、食事は暖かい炊事棟の一角を使わせて貰うこととした。

食事後、テントに戻りクリスマスソングに合わせてﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄ交換。飲みながら貰ったﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄを披露し、思い思いの会話に話が弾んだ。雪はなくホワイト・クリスマスとまではゆかなかったが、いつもの岳人あびこのｸﾘｽﾏｽを楽しんだ。

２日目、朝食、テント撤収後、鶏頂山登山口に向かう。日塩有料道路近くになると雪景色になったが、幸いにも道路には雪がなく、スリップの心配がないので助かった。計画では鶏頂山西口登山口から登り始める予定だったが、登山口付近の駐車場が積雪のため使用困難だったので、少し引返して鶏頂山荘下の駐車場まで戻って車を止めた。

ここには大鳥居が建って居た。大鳥居の下に立札があり奉誌記が書かれてあった。それによると『鶏頂山は今から約 1700 年前に開山された歴史ある・・・霊山である。別名を「金鶏山」といい、その昔、金の鶏に導かれ、開山に至ったと伝えられている。(以下省略)』

ここでの積雪は 15cm 位、スパッツ、アイゼンを装着した。大鳥居をくぐり車道をゆくと、すぐに鶏頂山荘の横に出た。山荘は近くの２つのスキー場（鶏頂山スキー場、メイプルヒルスキー場）と共に休業中とのことで人影もなく静まり返っていてうら寂しい。矢野さんがトップに立ち、ス

キー場の広い斜面のうっすらとした踏み跡を辿る。雪は更に深くなり、20～25cm 位はあるだろう。ラッセルとまではゆかないが、踏み固められていない雪道を歩くトップの苦労は、後ろを歩く者とは比べるまでもないが、若さと馬力で前進する。時折、後ろから「ゆっくり」と声をかけた。急斜面もある休業中のスキー場を突っ切ると、枯れ木沼に出た。鳥居をくぐり所々壊れている木道を慎重に歩く。程なく西口登山口からのルートと合流し、しばらく行くと樹林帯に入る。大沼分岐を越えて更に樹林帯の緩やかな道を行くと弁天沼に着く。前述の奉誌記によれば、「…弁天池には瓣財天や金運財運の守護神金山彦命が祀られ・・・」とある。ここにも鳥居があり釣り鐘がかかっている。俄か信者になり、金運を祈って備え付けの木槌で叩くとカ～ンと乾いた音が鳴り響いた。

ここまでは比較的平坦な道だったが、沼を横切ると「霊泉御助水授所」という物々しい名の水場がある。ここを過ぎると本格的な登りが始まる。頂上までの標高差は約 250m、足場の悪い所もあり、結構難渋した。当初は鶏頂山から御岳山経由で釈迦ヶ岳を往復して下山する計画だったが、ここまでのペースが良くないので御岳山と釈迦ヶ岳は割愛すると話がまとまった。

御岳山分岐の尾根に出た。御岳山は左に、鶏頂山へは右に折れる。更に傾斜の増した尾根道を立ち休憩を繰り返しつつ喘ぎながら登る。登山口から頂上まで、2 時間半の予定が何と 3 時間半かかった。雪のせいでもあるが、理由はそれだけではない。無理せず、年齢相応のペースで登った結果ともいえるだろう。

概念図

「猿田彦大神」を祀った山頂の社殿にお参りすると早々に下山を開始した。いつものことながら、上から見下ろす登山道は本当に急に見え、よくぞここを登ったものだと思う。しかしながら、下りは早い。２時間で登山口に下山した。

奥塩原温泉で入浴後、那須塩原駅で車を返却、反省会の後、6 時過ぎのなすの号に乗り山行を終えた。リーダーの体調が必ずしも万全でなかったにもかかわらず、参加者全員が雪の２山に登頂を果たし、今年も楽しくクリスマス山行を終えることが出来て本当に良かったと思う。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 安戸山・高原山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 12 月 23 日（土）～24 日（日） | | |
| 山域 | 日光山塊 | 地形図 1/25000 | 関谷高原山 |
| 形式 | テント泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ｂ |
| 目的 | 1. 雪のテントの中でクリスマスと 1 年の無事を祝う。2. 白銀に輝く大展望の山に登る。 | | |
| 費用 | 約 12,000 円 | 交通機関 | ＪＲ，ﾚﾝﾀｶｰ |
| 日程 1日目 | 我孫子駅発 5:41→上野駅 6:15/6:26（東北新幹線)→那須塩原駅 7:32/8:35（レンタカー）→国道 400 号→関谷宿→蟇沼登山口 9:20/9;30 ⇒ 林道出合 ⇒ 安戸山 11:40/12:10⇒（往路を戻る）⇒蟇沼登山口 13:30→グリーンビレッジ 14:30(テント泊)<天候、晴＞ | | |
| 日程 2日目 | グリーンビレッジ 7:30→日塩もみじライン → 鳥居前駐車場 8:30 ⇒ 弁天沼 10:25/10:35⇒鶏頂山 12:00/12:15⇒弁天沼 12:55/13:05⇒駐車場 14:15/14:20→奥塩原温泉入浴 14:45/15:30→那須塩原駅 17:00/18:02→上野駅→我孫子駅着 20:03＜天候、晴後曇り＞ | | |
| ルート状況 | ・安戸山:登山コースは国道 400 号関谷宿から蟇沼部落方面に入る。左側に登山口の標識がある。その先に駐車スペース（４～5 台）がある。ここが登山口になる。<br>・直ぐに貯水タンクが現れ、蛇尾川沿いの細い道を行くと道は二手に別れるが右の道に入る。（小さな標識がある）<br>・道標はほとんどないのである程度、読図力が必要、山頂直下の急登は厳しい。<br>・高原山（鶏頂山）：日塩もみじライン（有料道路 610 円）の鶏頂山神社入口から入山。（西口登山口は雪に埋もれて入れず）<br>・有料道路は完全に除雪されていて、通行には何ら問題ない。<br>・旧スキー場、後のルートを行くと夏には多くの花を見ることができる，枯木沼に着く。一面雪原の中に木道が伸びている。<br>・稜線に出ると岩と雪のミックスした厳しいルートが続く。雪は 20～30 cm程度。 | | |
| 参加者 | 村松 L、外崎 SL、武内、北川、桐生, 矢野貞、斉田、小林安<br>男性３名　女性５名　計８名 | | |

＜１０３５＞

両神山
（1,723m）

大山　冬臣

## 憧れの落ち葉とこもれびの雑木林

遂に山頂を極めました

暮れも押し迫った今年最後の山。気象庁の天気予報は降水確率こそ零であったが曇から夜にかけて雨であった。いつも前向きな予報で私に希望を与えて呉れる「てんきとくらす」の予報は今回も又、15 時頃まで晴れ、以降雲が出てきて夜は雨、山頂の風速は 10m、風は強いが登山指数はＡ、ナンとか行けるかな？毎回、何故気象庁と「てんきとくらす」の予報がこれほど違うのか？大先輩の矢澤さんに聞いて見よう。

今回の山行は、男性 4 名に女性 5 名、5 時 41 分我孫子駅発の常磐快速にはもう、会長の芳恵さんが待機していた。柏駅からワーッと 6 名が賑やかに乗り込んできた、男性群は佐藤、森岡、藤家の 3 名の物静かな紳士、女性群は本田さんを筆頭に石塚、高橋富の 3 名、早朝から元気が良い。北千住駅から蟹江さんが遠慮がちに乗って来た。今山行は総勢 9 名の仲間だ。電車の中で皆さんの顔を見る時が静かであっても賑やかであっても一番緊張する。

西武池袋駅で田村先輩から教えて戴いた回数券〔乗車券のみ 10 名分で 14 枚購入、往復利用可〕を本田さんが購入する。西武線は距離が短いので特急を利用するメリットは少ないが、我々の東葛地区から最も早く西武秩父駅に着くのは特急ちちぶ 3 号、日の短いこの時期は少しでも行動時間を多くしたいので迷わず”ちちぶ 3 号”に乗る。空模様は曇り空で妖しい。今日は気象庁予報の勝ちかな？晴れてくれ、と祈る。皆さん、優しいから「雨が降らなきゃ好いよ」と慰め気味に云ってくれる。心遣いに感謝。超晴れ女の本田さんと晴れ男の私が来てるんだから必ず晴れる・・・。

西武秩父駅前のﾄﾖﾀﾚﾝﾀｶｰに向かう。本日の運転はもの静かな紳士その１佐藤さん、その２森岡さん、ﾅﾋﾞｹﾞｰﾀｰに紳士その３の藤家さんと私だ。１０名乗りのﾜﾝﾎﾞｯｸｽを予約していたが１１名の大所帯になってしまい乗り切れないので 14 名乗りに変更した・・・が運転できるのは私一人じゃ SL の芳恵さんに怒られちゃうな・・・、仕方ない２台に変更しちゃおう・・・と云うことで７名乗りｘ１台、５人乗りｘ１台の計２台に変更した。何をするにも色々と考えながらやるので良い勉強になる。白井差登山口はﾅﾋﾞが入らず、ｵｰﾅｰの山中さんの電話番号を入れると何故か違った道になってしまうとﾈｯﾄでの報告があり、山中さんのお宅の近くの「両神山麓ｷｬﾝﾌﾟ場」で入力。道は霜が降りていたが、二人とも慎重な運転で有難い。４５分ほどでﾅﾋﾞの両神山麓ｷｬﾝﾌﾟ場を通過、ここから先の民家は山中さんのお宅しかないようだ。この辺りから両神山の山頂直下まで山中さんの私有地！凄いね。渓谷沿いの道なので北側の沢に懸かる滝が真っ白に凍っていた。冬だ。白井差登山口の山中宅に着いた。

山中さんの奥様が私達に対応して下さり、判り易い昭文社の山と高原地図に書き込んだ地図を示しながらルートを説明して呉れた。登山料の精算は下山時にするようだ。簡単なｽｸﾜｯﾄを済ませ、登山開始。私達が歩き始めると私達のｸﾞﾙｰﾌﾟに長身の男性が紛れ込んで来て一緒に歩き始めた。足元を見るとナンと素足にｻﾝﾀﾞﾙ履きだ。アッ、これがキッと山中さんだ。遭難者のことから、平成 30 年から埼玉県の遭難救助ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰの有料化などについて話して呉れた。有料化に踏み切ったのは民間の遭難救助ﾍﾘだけで、県警のﾍﾘは従来通り無料の侭なので遭難救助は先ず県警 110 番。有料ﾍﾘはﾜﾝﾌﾗｲﾄ 50,000～100，000 円なので山岳保険は入っておいた方が好いですよ！ナンかあったら 110 で最寄りの警察署に転送され、更にそれから私・山中に転送されてきますが、此処はブナ平から上じゃないと通じないけれどねアハハハ、林道から登山道の分岐まで色々と話しながら同行して下さった。

今日は SL の芳恵会長がﾄｯﾌﾟだ。踝まで潜ってしまうホカホカの落葉の道を行く。直ぐに「昇龍の滝」が現れた。沢沿いの気持ちの好い道を何回か手製の木橋を渡りながら登る。藤家さんが確りとｱﾝｸﾞﾙを変えながら写真を撮ってくれている。

見上げると青空が僅かだが見え始めた。太陽も暖かな陽射しを降らして呉れるようになった。素晴らしい雑木林が何処までも続いている。憧れの落ち葉とこもれびの両神山行になって来た。沢から離れると空が明るくなってきた。右手の尾根を見上げると 300mはあるのぞき岩の絶壁がそそりたっている。清滝小屋から登って来る尾根道がこの上を通っている。全く植林がない。この森を構成する木々が好き勝手に思い思いに枝を空いっぱいに延ばしている。歩くたびに枯葉が、落ち葉が歌う。

　かなりの急坂を登るが、道がジグザグを確り切ってあるので思ったよりも楽に高度を稼ぐことが出来、圧倒的に峙っていたのぞき岩の絶壁が段々と同じ目線に変わってきている。これも嬉しい。此処でMさんの太ももの筋肉が攣った。以前に芳恵会長が「登山中の足痙りについて」を研修で講話して下さった“漢方 68 番芍薬甘草湯”を持参していた仲間が取り出して飲ませて呉れた。ﾎｯｶﾛﾝ効果高いと云われているので直ぐに患部に宛がった・・・、ﾎｯｶﾛﾝが暑くならない？有効期限が過ぎてしまっていたようだ。研修成果は素晴らしかったが・・・。芳恵会長が付き添い、今日は想像以上に温暖ではあったが万一に備えツェルトを被って待機して貰う。他の皆さんは山頂に向かった。此処からなら往復 40～60 分くらいで戻ってこれるだろう。稜線に到着、ホンの僅かの積雪が見られた。右手の山頂へ向かう。虎の子ﾛｰﾌﾟを潜り清滝小屋からのコースと合すると鎖の張られた 10mほどの岩場でこれを突破。若者が二人山頂にいた。霞み気味に富士山が、八ヶ岳が、北アルプスが、浅間山が、上信越の山々の銀屏風を眺めることが叶った。はやる気持ちを抑えながら下った。直ぐに二人の姿を見つけることが出来た。攣った筋肉もかなり改善して二人で登れるところまで登って来て呉れたのだそうだ。芳恵さん、有難う御座いました。下山はMさんを先頭に快調にリズミカルに降りることが出来た。年の瀬？とX’mas を飾るに相応しい山行であった。登頂出来なかった二人分の登山料は免除されたが山中さんの奥様の好意で特別にｻｸﾗｿｳの登山ﾊﾞｯｼﾞが二人にもﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄされた。

　今回は駅前での絶品の天麩羅付き 10 割“クルミ蕎麦”に舌鼓を打つ反省会のみで入浴予定はなかったが駅に隣接してお洒落な温泉が併設されているので次に来るときは是非、利用したい。〔温泉祭りの湯：平日@980、土日祝 1,080〕

暫くは沢沿いの道。 橋、梯子を何度も渡る

概念図

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 両神山 | | |
| 月日 | 平成 29 年 12 月 24 日〔日〕 | | |
| 山域 | 奥秩父 | 1/25,000地形図 | 両神山 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ｂ |
| 目的 | ①手入れの行き届いた日本初の有料登山道〔@1，000円〕を堪能する　②奥多摩の最深部に匹敵するこもれびと落葉の雑木林を堪能する　③山頂からの展望、特に北アルプスの大パノラマを堪能する | | |
| 費用 | 8,500円 | 交通機関 | JR、西武特急、ﾚﾝﾀｶｰ |
| 行程 | 我孫子駅5:41→常磐快速→柏駅→北千住駅→日暮里駅→池袋駅6:30/6:50→特急ちちぶ3号→西武秩父駅8:12/8:35→ﾚﾝﾀｶｰ→850m白井差登山口〔山中豊彦氏宅〕9:25/9:40⇒990m昇龍の滝9:55/10:00⇒やまびこ橋10:24⇒1,187mオオドリ河原10:34/10:40⇒水晶坂10:50⇒1,330mブナ平〔昼食〕11:21/11:30⇒1,723m両神山12:53/12:58⇒ブナ平13:47/13:54⇒水晶坂14:13⇒昇龍の滝14:45⇒白井差登山口〔山中邸〕15:03/15:15→ﾚﾝﾀｶｰ→西武秩父駅〔反省会〕16:11/17:34→快速→飯能駅18:22/18:29→快速→池袋駅19:25/19:34→日暮里駅→北千住駅→柏駅→我孫子駅20:26<br>〔歩行時間：４時間５２分〕 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・１２月後半にも拘わらず登山道は殆ど凍結もなく、山頂近くで若干の積雪が見られる程度であった<br>・ﾙｰﾄは確りと手入れされ、指導標も完備〔一箇所だけ指導標が逆になっていた〕、迷うところはなかった<br>・右手に峙つ清滝ｺｰｽののぞき岩が登るに従って低くなってくるのが山頂への目安になった<br>・ｺｰｽの半分ほどは沢沿いに登る<br>・直登は殆どなく、ｼﾞｸﾞｻﾞｸﾞにｺｰｽ取りしているので急坂の割には登りやすい<br>・尾根に出ると分岐点で、山頂は右手にﾙｰﾄを取る<br>・直ぐに出てくる虎の子ﾛｰﾌﾟをくぐると清滝ｺｰｽと合流、10mほどの鎖場を登る切ると山頂だった | | |
| 参加者 | 大山Ｌ、高橋芳SL、本田、石塚、蟹江、高橋富、佐藤、森岡、藤家<br>男性４名、女性５名、　計９名 | | |

＜１０３６＞

**百蔵山**
（1,003m）

**林　敏生**

**冠雪の富士眺め**
**陽だまり山行楽しむ**

**雪を冠った富士山**

2018 年新年早々の山行は百蔵山、山梨 100 名山の一つに挙げられ、桃太郎伝説がある山で、又富士山が美しく見える〈秀麗富嶽 12 景〉にも選ばれている山と紹介されていました。

行きは当初猿橋駅からバス移動の予定でしたが、徒歩で百蔵山登山口まで移動しました帰りもバスの本数は少なく猿橋駅までワイワイガヤガヤの集団移動。

まず思ったことは、登山口に向かう道筋には人家が多く、舗装道路ではあるが傾斜もきつく、地元の方は足腰が強くなるなぁと。しかし長寿のこのご時世、車が運転できなくなったら生活できるのかなぁと、色々想像しながら登山道へ。

登山道は緩やかな登りで年初めには良い足慣らしになりますが、南東尾根コースは頂上まで無風で正月早々汗をかかしてもらいました。山頂近くは勾配がきつくなりましたが、ゴール間近がわかっているのでみんな元気はつらつ。

百蔵山山頂から富士山はもちろん、周囲の山々の絶景も楽しむ事ができますが、当日はちょっと空の機嫌が悪く絶景とは言えませんでしたが、富士山にはみんな満足。絶景は次回に繰り越しです。休息後反対のルートからぐるりと回って下山。登山道は登りも下りも問題なし。

待ちに待った反省会は、猿橋駅では自動販売機しか見当たらなく断念、途中の八王子駅下車し、以前立ち寄ったことのある駅近くの中華屋さん(竜縁)に立ち寄りましたが、なんと休憩時間中な

のに開けてもらい乾杯。交渉のうまい方はどの世界でもおられるものです。私にとって今回は岳人に入って最小人数(男三名、女性二名)の山行でしたが、会話の多いことも又楽しかったです。
中村育子リーダーご苦労様でした。

山頂にて

概念図

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 百蔵山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 1 月 6 日(土) | | |
| 山域 | 中央線沿線 | 地形図 | 1/25000 大月 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 1 A |
| 目的 | ①陽だまり山行　②富士山展望 | | |
| 費用 | 3,000 円 | 交通機関 | JR |
| 行程 | 我孫子駅 5:33→新松戸 5:47/51→西国分寺 6:49/53→高尾 7:21/26→猿橋 8:11/27⇒市営グランド 9:00/9:05⇒百蔵浄水場（登山口）9:35⇒扇山分岐 10:58⇒百蔵山⇒11:04/11/30⇒大同山との分岐 11:45⇒市営グランド 12:40⇒猿橋駅 13:16→高尾 13:49/15:37→西国分寺→新松戸→我孫子 17:51<br>＜歩行時間　4 時間 15 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・標識がしっかりしている。<br>・南東尾根ルートの頂上直下は急坂。凍結時は避けたい。 | | |
| 参加者 | 中村育 L、林 SL、箕輪完、室崎、蟹江<br>＜男性3名、女性2名　計5名＞ | | |

＜１０３７＞

## 篠井富屋連峰（宇都宮アルプス）

## 榛名山～男山～本山
（524m）（527m）（562m）

## ～飯盛山～高舘山～黒戸山）
（501m）　（476m）（412m）

小島　洋子

最高峰本山

「案ずるより生むがやすし」山行当日、電車が遅れたらバスには乗れないし等々心配をしましたが、杞憂に終わりホッとしております。寒いのですがお天気も良く楽しい山行になりました。さて、バス停一里塚下車、ここは日本橋から 28 本目の道標と言われています。登山道のこどもの森公園まで徒歩 30 分です。ここより最初の山、榛名山めがけての歩きです。急な坂を登り分岐に到着、10 分ほど歩きますと榛名山頂上、また分岐まで戻り鞍部からわずかな登りで男山頂上、日光の連山がきれいに眺められました。20 分ほど歩きますと本山山頂です。360 度の展望が楽しめます。日光男体山、大真名子山、小真名子山、女峰山、赤薙山の景色を楽しみながらお昼タイム。何人かの登山者もおりました。次は飯盛山へ。一か所岩場があり、緊張を強いられました。しばらくは平たんな道を進みました。送電線鉄塔下から急登でした。そこを登り切ると飯盛山山頂です、山頂をあとに、落ち葉ですべりやすい急な道を下り、舗装された大畑林道に出て左に行く。大林林道口の標識から杉林に入ると、まもなく青嵐峠、なだらかな道を登り、先の分岐を左にとると高舘山山頂、山頂を下り分岐までもどり、つぎは黒戸山。黒戸山から林の中を下り舗装された林道を 35 分ほど歩きますと中徳次郎登山口。冬の足慣らしに少々ハードでした。バスの乗り場まで 5 分ほどでした。

まもなくバスが来てあまり待たされることなく乗車できました。宇都宮で宇都宮餃子を堪能しました。低山ですが変化に富んでおりましたので、山行を楽しめた？　のではないかと思っております。参加のみなさまありがとうございました。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 篠井富屋連峰（宇都宮アルプス）<br>（榛名山～男山～本山～飯盛山～高舘山～黒戸山） | | |
| 月日 | 平成 30 年 1 月 13 日(土) | | |
| 山域 | 下野大野・大谷 | 地形図 | 1/25000 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２A |
| 目的 | 冬の足慣らし | | |
| 費用 | 約 4,500 円 | 交通機関 | JR　バス |
| 行程 | 我孫子駅 5:31→上野 6:04/48→宇都宮 8:18→バス宇都宮 8:30→一里塚 9:12⇒子供の森公園 9:43/10:00⇒分岐 10:35/45⇒榛名山11.:00⇒男山11.:15/20⇒本山11.:45/12:15⇒飯盛山 13:12/20⇒青嵐峠 13:45⇒高舘山14.:20⇒黒戸山 15:00⇒晃陽バス停 15:38/43→ 宇 都 宮　16:30/17:30→ 上 野 19:05/24→我孫子 19:59<br>＜歩程 5 時間 20 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・宇都宮から日光方面行のバスの乗り、バス停一里塚で降り 2 km歩くと「うつのみや平成記念こどもの森公園」に着く。ここを冒険活動センター管理等に向かい、左手が登山入口。<br>・標識があり、道に迷うことはありませんが、一本道ではありませんので、頂上を踏んだらまた、戻りの繰り返しです。 | | |
| 参加者 | 小島 L、外崎 SL、高橋芳、本田、郷田、林、石塚　　男性 2 名　女性 5 名　計 7 名 | | |

概念図

＜１０３８＞

## 不老山
（928m）

森岡　正和

今年の初登山として西丹沢の不老山山行に参加させて頂いた。

大寒のこの日、事前の天気予報でも低気温を覚悟していたが穏やかな冬日に恵まれた。二時間半をかけて小田急新松田駅到着後登山口となる向河原行きのバス停では老若男女、外国人の方も含めハイカーの行列で出来賑わっていたが全員着席できる様、増便されている様子で有り難い。約３０分で向河原に到着、いよいよ総勢１５名の行列で歩き出す事になる。

早速河内川に架けられた頑丈な吊り橋を渡りはじめ、橋上から見渡す里山に久し振りの山行で気分も高まる。吊り橋の中央付近では揺れも感じこれも楽しい。樹林帯の中、登り始めの序盤からやや急登が続きすぐに体温が上がり汗ばんで来たところで後方の誰かから「衣服調整」の掛け声あり。今日は少し寒い位のレイヤリングが丁度良さそうだ。

更に進むにつれ、山が崩れて木が倒れ荒れた箇所もあったが手入れされた樹林の中を気持ち良く登り、番ヶ平に到着一息入れる。以降は不老山山頂まで緩やかな巻き道を約１時間の行程であるが、途中、樹木保護の為であろう鹿よけの柵がしっかりと張られており歩行する登山道の地質が柔らかい事もあり、それと分かる鹿の爪痕が良く見られた。丹沢での鹿の増加それに伴う鹿害？ヤマビル問題を想起させられる。残念ながら鹿を目の当たりに見る事はなかったが・・。

不老山山頂では昼食休憩をとるが木に囲まれ残念ながら眺望はない。しかしながら静かで風もなく穏やかな山頂を満喫する。それにしても新松

田のバス停での人達はどこに行ったのか、途中も山頂でも他の登山者と出会うことはなかったのが珍しい。不老山は日本最大の野生バラとしてサンショウバラに会える山として名高いが冬季は余り人が来ないのかも知れない。我ら１５人パーティーで充分に賑やかではあったが・・。

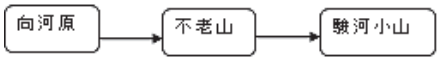
下山は駿河小山駅に向け緩やかな下りとなり、途中金太郎さんを飾った標識に和まされながら金時公園から街中に入る。途中地元の人が我らメンバーの一人に話かけられ、サンショウバラの咲く６月頃の素晴らしさを PR されていた。

駿河小山駅前には金太郎生誕の地との看板があり、帰って調べると小山町観光親善大使が今話題の大砂嵐金嵩郎(キンタロウ)である様であった。どうなるのだろう？（どうでも良いが・・）新松田駅前にて反省会を行い、大いに盛り上がり９時頃であったか無事に自宅に辿り着きました。いつもながらリーダー始めメンバー各位様大変有難う御座いました。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 不老山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 1 月 20 日　（土） | | |
| 山域 | 丹沢 | 地形図 1/25,000 | 駿河小山、山北 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２A |
| 目的 | 富士を眺める | | |
| 費用 | 5,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、小田急、バス |
| 行程 | 我孫子駅発 5:33 千代田線→代々木上原駅 6:41/6:44 小田急線急行→新松田駅 8:01/8:25 富士急バス→向河原（バス停）9:00/9:10 不老山登山口⇒番ヶ平 11:10⇒不老山山頂 12:00/12:35 お昼休憩⇒金時公園 14:15⇒JR 駿河小山駅 14:45/15:04→JR 松田駅 15:23（反省会）/小田急新松田駅 17:32 小田急線急行→代々木上原駅 18:51/18:52 千代田線→我孫子駅着 20:00 ＜歩行時間:約５時間＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 特に危険と思われる場所もなかったように思います。ただ、あまり登山者がいないためか多少登山道があれている感じでした。他の登山者と出会うこともなく、静かな山行が楽しめたと思います。 | | |
| 参加者 | 北川 L、村松 SL、外崎、武内、箕輪、桐生、矢野貞、斉田、石塚、林、小島、小林安、佐藤、森岡、常井 男性８名、女性７名　計 15 名 | | |

**概念図**




## ＜１０３９＞県連房総ロングハイク

### 鋸山・石尊山～麻綿原高原
（329m）（348m）

郷田　進

### １日目鋸山 ２日目石尊山~麻棉原~清澄寺

34 回を数える県連主催の房総ロングハイクである。一つのイベントをこれだけ永く継続して実施するのは、関係者の努力にまず感謝しなければならない。私が、最初に参加したのは４年前、小川先輩からの強い勧めがあったからである。七里川温泉という房総半島中程の温泉と囲炉裏が魅了的な点と労山の他クラブとの交流が楽しみな点がこれほど長く皆に愛されてきた証拠であろう。

一日目は、東葛地区労山加入 5 団体の計画で、今年は半島南部のハイキングコースとして最もポピュラーな鋸山に 36 名でのぼる。当会からは深草Ｌ以下８名の参加である。先週の雪の影響もあり、安全に充分留意しゆっくりしたペースで歩を進める。

車力道コースを登る。江戸時代からつい最近（S60 年）まで石切り場として栄えた地区である。車力道は名の示す通り、切り出した石を荷車に乗せて運びだした道である。永年の利用で石畳に車輪跡の轍から当時の大変さが判る。1 本 80kg の石材３本をねこ車に載せて運搬するのは車力と呼ばれる女性たちであったそうである。山頂近くになると、石材をきれいに切り出した跡を見ることができる。三角点と菱形の評点（大きな石の台）のある山頂、そして少し下ったところの展望台とも素晴らしい眺めである。東京湾と富士、間に天城山（伊豆）、箱根山系、丹沢山系、今日は富士山の右奥に南アルプス（聖岳他）も望むことができ

た。展望台でひだまりのなかゆっくり東京湾を眺めながらのお弁当は、まさに大人の遠足である。下りは、当初観月台コースを降りる予定であったが、凍結もあり、車力道コースのピストンとなった（観月台コースへの分岐が判りにくい点もあり）。特に凍結部分に気をつけながら下りた。予定時間を大幅（約１．５H）に遅れたため、囲炉裏焼き用食材の調達は恒例の「ばんや」から浜金谷駅近傍の「FISH」に変更になる。本日のみ参加の外崎、室崎の両氏を駅で見送り、急ぎ干物などを調達し、今夜の宿七里川温泉に向かう。七里川温泉でゆっくり温泉に浸かり、囲炉裏を囲んで干物（今回は、あじ、金目、いかの３品）を皆で味わう至福の時である。その後、全体の懇親会、夕食、ゲームなど行い明日の備え早めに就寝する。例年男性組は、大部屋（シュラフ）であるが、女性陣の好意で、普通の部屋で休ませて頂いた。

２日目、6時前の暗いうちに集合、約60名と云う大所帯の集団を雪道しかも暗い夜道を引っ張ていくのは大変だろうなあと感じる。出発前に、朝食をとり、昼食を配分し（実際は、朝昼同じメニュー、3種のおにぎりを同時に配布）、残す荷物を集積し、出発となる。当会は先頭から２組目で先頭組及びトップとの距離もあまり開けずにすすめるが、後続組はかなり頻繁に遅れることとなる。最初の山頂石尊山で朝日を見ることができた。また、石尊山山頂には石で造られた大きな祠が納められている。先人の努力に脱帽である。その後、麻棉原をめざす。途中、大きなもみのき（もみ次郎、もみ太郎）や檜などを見ながらの森林散歩を楽しむ。左側の稜線にくらげの木（木の形がくらげの頭と足に見えることから中原実行委員長が命名）が見えるはずだったが、今回は見えなかった。見逃したのか木の形が変わったのか？麻棉原の先から東大演習林に入る。標識 W0 の点（大きなツクバネカシが目印）からW経路を予定していたが、体力面、道の状況、時間的遅れなどの理由で、目標を清澄寺に変更する。高齢化がすすむ労山、次年度以降も当初予定した東大演習林内の散策は難しい気がした。単調な林道を１時間程歩き目標地点に到着する。集合写真をとり、電車組を見送り、東葛グループ（松戸、柏、我孫子、鎌ヶ谷など）は、大型バスで鎌ヶ谷及び我孫子を目指す。鎌ヶ谷で来年の房総ロングハイクでの再会を誓い合い今年のロングハイクを終了した。これほど長期にわたり、一つのイベントを企画し、実行する県連ハイキング委員の皆様に深く敬意を表します。そしてまた来年も囲炉裏の宿七里川温泉と房総の山に遊びに行きたいと思います。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 鋸山・石尊山～麻綿原高原 | | |
| 月日 | | 平成30年1月27日(土)-1月28日(日) | | |
| 山域 | | 房総 | 地形図 | 1/25000保田、上総中野、安房小湊 |
| 形式 | | 山麓泊 | グレード | ２Ａ |
| 目的 | | ① 千葉労山参加山岳会ﾒﾝﾊﾞｰとの交流<br>② 房総の山々の景観を楽しむ。 | | |
| 費用 | | 12,000円 | 交通機関 | 貸切バス |
| 日程 | 一日目 | 我孫子駅北口 6:30→鎌ヶ谷市役所→幕張 SA→富津金谷→鋸山駐車場 9:25/9:40⇒車力道登山口 10:00/10:10⇒分岐 11:00/ 11:10⇒展望分岐 11:25⇒鋸山山頂 12:00/12:10⇒展望台（昼食）12:40/13:10 下山⇒車力道跡 13:40⇒車力道登山口 14:15 ⇒駐車場 14:30/15:00→七里川温泉 16:10<br>＜歩行時間：3時間50分＞ | | |
| | 二日目 | 七里川温泉 5:50 / 6:00⇒石尊山 6:50 / 6:55⇒分岐 7:30/7:35⇒麻綿原 10:35⇒妙法生寺「あじさい寺」（昼）10:50/ 11:15⇒ツクバネ樫分岐 11:30/11:45(行程協議）⇒清澄寺 12:30⇒清澄駐車場 12:55/13:15→市原SA1→鎌ヶ谷市役所→我孫子駅北口 17:30<br>＜歩行時間：6時間05分＞<br>・石尊山から麻綿原間は後続との遅れ調整の為10分弱の待時間が数回あったが歩行時間として算定 | | |
| ルート状況 | | ・山行路は整備　両日とも当週月曜日の大雪の影響で残雪や凍結した箇所があり、滑りやすい箇所が点在していたが、急な勾配も少ないので注意して歩き、持参した軽アイゼンは使用しなかった。<br>・1日目＜鋸山＞は、よく整備されたハイキングコース、標識もポイント毎にあり標識さえ見落とさなければ道を誤る事はない。<br>・2日目＜石尊山～麻綿原＞は、石尊山までは 1 本道で迷いそうもないが、石尊山と麻綿原間は人が入ることの少ない林間コースで、目標物も標識も少ないので迷いやすい。道に慣れた人の先導が必要と思う。 | | |
| 参加者 | | ＜会参加者＞深草 L、大畠 SL、本田、渡辺清、郷田、高橋秀、外崎、室崎<br>男４名、女４名計８名<br>＜全体参加者＞１日目:東葛地区５団体30名　２日目:10団体　約60名 | | |

＜１０４０＞

北八ヶ岳　天狗岳
（2,640m）

田嶋　まり

概念図

*赤矢印：バス移動　*黒矢印：徒歩

鋸山展望台から東京湾、富士山を望む

八ヶ岳ブルーに見守られて

黒百合H前

１２月の定例集会で北八ヶ岳山行に〇をつけたその日から私のドキドキは始まった。雪山なんてウン十年前、学生の時にスキーで行って以来足を踏み入れていない。ましてやアイゼンなど見たこともなかった。あんなトゲトゲの恐ろしいものを付けて歩くなんて・・。約２ヶ月間色々不安を抱えながら、装備はほとんど先輩に貸して頂き、いよいよ当日。いざ北八ヶ岳へ。

茅野駅で齊田さんと合流し、渋御殿湯でアイゼンを付け各自装備を万全にして７名で出発。雪で埋まって段差のない道は歩きやすかった、が、それなりに傾斜もあり、結構息があがる。途中八方台分岐あたりで昼食休憩をはさみ黒百合Ｈに到着。翌日の登山指数はＣだったので、その日のうちに天狗を目指すことに。ヒュッテ前で目出帽、ゴーグル装着など強風に備え東天狗に向かうが、樹林

帯を出たとたん、ものすごい強風が。大山リーダーに山の説明だけを受け、撤退となった。

翌早朝は黒百合Ｈの所も吹雪いていたので、天狗は諦め雪上訓練だけで終わる・・と皆思っていたのだが、朝食のあと急に晴天に。急遽再度トライすることになり皆いそいそと準備をして外に出ると、まさに青く澄み切った八ヶ岳ブルーが私たちを迎えてくれた。真っ青な空と真っ白な雪。なんて美しいのだろう！言葉にならないくらいだ。しかし、快晴にもかかわらず、樹林帯を出た所でまたしても強烈な風に襲われる。登るはずだった東天狗の稜線は下から見ただけでもトレースが消えていることがわかり、リーダーの判断でやむなく２回目も撤退。その代わり樹林帯の急斜面のところで１人ずつ下降のロープワークを体験した。（前日の山小屋でのシュリンゲ＆カラビナの講習会がとても役に立った）。ピッケルを思い切り打ち込むと、ロープをかけても人間１人の体重ではびくともしない。これがピッケルの威力と知る。実地訓練はとても楽しく有意義だった。その後黒百合Ｈに戻り、しばしコーヒータイムなど優雅な時間。最後は恒例？のラーメンを食して帰路に。

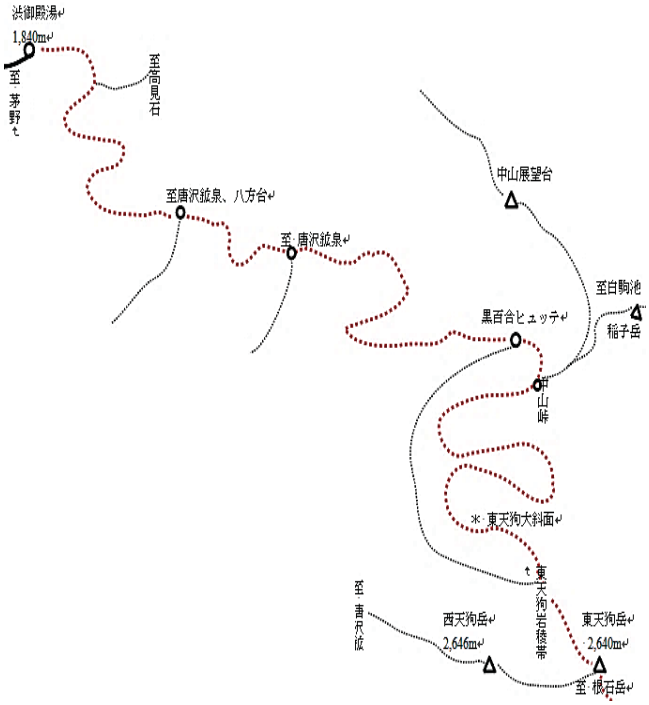
最高のお天気のもと、テンションは上がる。岳樺に霧氷が付くのは珍しいとのこと。木から落ちる風花がキラキラとダイヤモンドのように輝き、皆で歓声を上げながらの下山となった。途中私はアイゼンの前爪をひっかけて転倒してしまった。がに股で歩いていたつもりが、一瞬気が抜けたのだと思う。緊張感を持ち続けなければと肝に銘じた。

最後に、行きの電車の中での出来事を１つ。私たちのグループの隣に座られたきちっとした身なりの女性が、私たちの山の話にしばらく耳を傾けられた後、口を開かれた。なんとその方、御年９２歳。昔よく山に登っていらしたとのこと。私たちの会話を聞いて自分が山に行っていた頃の楽しかった事を思い出しました、とお礼を言われたのです。とてもそのお歳には見えないしっかりした方。たまたま隣に座られお話をする機会を得た奇遇にこちらこそ感謝しました。

初めての雪山。大山リーダーはじめ、良きメンバーの方々に色々教えて頂きながら、安全にとても楽しい山行が出来たことを本当に感謝しています。有り難うございました。お陰様でアイゼンのトゲトゲにももう慣れました。（笑）

**強風のため、ここで撤退！今山行の最高到達点**
**左・東天狗岳、右・西天狗岳**

**概念図**




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 北八ヶ岳　天狗岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年 1 月 28 日〔日〕～29 日〔月〕 | | |
| 山域 | 北八ヶ岳 | 1/25000地形図 | 蓼科、天狗岳 |
| 形式 | 山小屋 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ３Ｃ |
| 目的 | ①. 冬山登山と南アルプス、南八ヶ岳中央アルプス北アルプス展望　②. タンネの森の雪綿帽子と霧氷の織りなすメルヘンな世界を堪能　③. 雪山基本技術のトレーニング | | |
| 費用 | 18, 000円 | 交通機関 | JR、ﾀｸｼｰ |

| | | |
|---|---|---|
| 日程 | 1日目 | 我孫子駅5:31→柏駅→日暮里駅→新宿駅6:30/7:00→茅野駅9:08/9:15→ﾀｸｼｰ→1渋御殿湯9:45/10:00⇒八方台分岐〔昼食〕11:20/11:40⇒唐沢鉱泉分岐12:00/12:05⇒2383m黒百合H13:00/13:10⇒中山峠13:20⇒樹林限界〔最高到達点〕13:40/13:50⇒黒百合H14:20〔ｽﾘﾝｸﾞ付け方練習〕<br>〔歩行時間:4時間〕 |
| | 2日目 | 黒百合H7:45⇒中山峠7:55⇒樹林限界〔最高到達点、雪上訓練〕8:15/9:15⇒黒百合H〔昼食〕9:50/11:35⇒唐沢鉱泉分岐12:15/12:20⇒八方台分岐12:30/12:40⇒渋御殿湯13:25/13:40→ﾀｸｼｰ→〔反省会〕→茅野駅15:50→立川駅→西国分寺駅→新松戸駅→柏駅→我孫子駅19:09<br>〔歩行時間:１時間50分〕 |
| ﾙｰﾄ状況 | | 黒百合H迄は大きく三分割して捉えることが出来る。<br>①.渋御殿湯～唐沢鉱泉〔八方台〕分岐やや急坂の連続する樹林帯の道<br>②.唐沢鉱泉〔八方台〕分岐～唐沢鉱泉分岐なだらかな樹林帯の道<br>③唐沢鉱泉分岐～黒百合H　やや急坂が連続し、緩やかになると黒百合H間近<br>・殆どが展望の効かない樹林帯だが、上空で風が唸っていてもほぼ無風<br>・渋御殿湯～黒百合Hは従業員が一日一回は渋温泉まで上下するのでトレースは確りしている<br>・黒百合H～天狗岳は樹林帯を抜けると積雪時、強風時はトレースが埋まっていたり吹き飛ばされて消えているのでしっかりとしたルートフィンディング、地図読み必要<br>・土曜日の午後、日曜日の午前中は登山客が多いのでトレースは心配ないと思う |
| 参加者 | | 大山L、北田SL、矢野裕、齊田、小林安、蟹江、田嶋<br>男性２名、女性５名、　計７名 |

＜１０４１＞

## 乗鞍高原・上高地

外崎　蓮

大正池から岳沢を眺める

＜スノーシューに初挑戦＞

この機会を除いたらチャンスがないだろうと思い、桐生さん計画のスノーシュートレッキングに参加させてもらった。新島々駅に着くと、沢渡のペンション（しるふれい）のオーナーが出迎えてくれた。とても気さくな方で、桐生さんとはまるで親戚関係の間柄のようだ。2 日間の行程も細かに打ち合わせが出来ていて、ソバ屋でお腹を満たすと、直ぐにオーナーの車で乗鞍高原に向かった。はじめは梓川に沿って走り、発電所の先で橋を渡って乗鞍エコーラインをゆるゆる登っていく。国民休暇村に到着すると、冬のレジャーに訪れているのか駐車場は満杯である。明日に備えて、今日はこの付近で歩き方の練習をすることになっていた。オーナーは 3 人分のスノーシューを用意してくれていて、私は初めて手にした。以外と幅が広くて重い。オーナーは私に履き方を教えると、車道脇の土手に連れて行った。踏み後のない雪の上に第一歩を下ろす。踵のパカパカ感が気になるが、これがスノーシューの特徴なので慣れるしかない。土手を何度も上り下りして練習したあと、四人はそのまま林の中へトレッキングに繰り出した。車道を近道して森の中の急な斜面を下る際、三人に追いつこうとして足元がもたつき、尻餅をついてしまった。スノーシューの扱い方が下手で中々立ち上がれない。それでも下り方が上手いと褒められるとやる気が起こる。子どもと同じだ。牛留池をこえ、善五郎の滝に足を延ばした。スノーシューを履いたまま、凍った丸太の階段を下るのは冷や冷やものだ。丁度毎日テレビが滝の取材に来ていて、実況放送の始まる時間を待って

いた。滝は見事に凍っていた。充分に特訓を受けて休暇村の駐車場に戻り、沢渡のオーナーのお宅に向かった。玄関を入って私の第一声が「ステキ！」。奥さんの細やかな配慮が至るところにあって、何日でも居たくなるような暖かな雰囲気がある。今晩は私たちだけの宿となった。

**＜河童橋の夏の賑わいは雪ノ下に＞**

美味しい朝食をお腹一杯いただき、オーナーの車で上高地に向かった。谷合の狭い道を１時間以上走り、釜トンネルの入口に私たちを降ろすと、今乗ってきた車を中ノ湯温泉に置きに戻った。奥さんの協力がなければ仕事にならないと思う。1つ目のトンネルはあまりにも長く、コンクリートの坂道に顎を出しそうになった。2 つ目のトンネルを抜けて雪道を下っていくと大正池に出た。大正４年に焼岳の噴火で池が出来たという。うっすらと凍った池の周りには、同じ太さと丈の化粧ヤナギが整然と立ち並び、その背後には冠雪した焼岳が聳えていた。見とれて足が止まった。「静寂」とはこんな場面を言うのだろうか。

知らぬ間に足元が落ち着き、スノーシューに大分慣れてきた。田代湿原を過ぎたあたりから樹林の中に分け入り、自分だけの足跡を好きなようにつけて進む。楽しい遊びに夢中になっている間に河童橋にたどり着いていた。オーナーの予想では、ここまで来れるとは思わなかったらしい。4 人だけで聳え立つ穂高の峰々と梓川の清冽な流れを堪能した。バスターミナルに移動し、建物のかげでお汁粉を戴いた。帰りはスノーシューを外し、バス通りの雪のでこぼこ道をひたすら歩く。トンネル内も黙々と、只ひたすらに下っていくと、出口に奥さんの姿が見えた。ペンションに戻って入浴後、オーナーは平湯から来るバス停まで送ってくれた。実に至れり尽くせりで、こんなにお世話になっていいのだろうかと心配になった。

ところで、新島々駅でバスを降りると、運転手が窓から顔を出して私たちを呼び止めた。松本行きの電車は出たばかりだから、このまま乗っていた方が早いと教えてくれた。地方の人は親切だ。松本駅でラーメンをすすって電車に乗った。くたくたに遊び疲れて新宿まで寝っぱなし。今回はペンションのご夫妻は勿論のこと、桐生さんと貞子さんにもお世話になって、無事に念願を叶えることが出来た。大変感謝している。

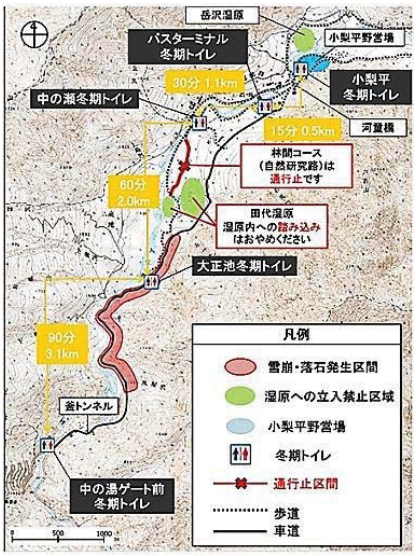
**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 乗鞍高原・上高地 | | |
| 月日 | 平成 30 年 1 月 30 日(火)～31 日(水) | | |
| 山域 | 乗鞍高原・上高地 | 地形図 1/25000 | 乗鞍・上高地 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目的 | 冬の雪遊び | | |
| 費用 | 約 27,000 円 | 交通機関 | JR、アルピコ交通（バス・電車） |
| 日程 1日目 | 我孫子 5:50（成田線架線凍結で遅延）→日暮里→新宿 7:00→松本 9:39/10:10（松本電鉄）→新島々10:40→乗鞍高原（昼食）⇒国民休暇村 13:00⇒牛留池⇒善五郎の滝⇒駐車場 15:00→ﾍﾟﾝｼｮﾝ泊<br>＜歩行時間約２時間＞ | | |
| 日程 2日目 | ﾍﾟﾝｼｮﾝ 7:50→釜トンネル入口 8:15⇒大正池 9:15⇒田代湿原 10:10⇒河童橋 11:20⇒ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙ 11:30/12:00（昼食）⇒釜トンネル入口 14:20→ﾍﾟﾝｼｮﾝ 14:35→沢渡 16:00→🚌→松本ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙ 17：15 松本発 18:35→新宿 21:06→日暮里 21:44<br>＜歩行時間約５時間＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・善五郎の滝に下る鉄の階段が凍って降りるのに注意が必要(ｽﾉｰｼｭｰをはいたまま)<br>・今年はトンネルの中の照明がついていて歩きやすかった。<br>・冬期上高地には大正池、バスターミナル、など５か所冬季トイレあり。 | | |
| 参加者 | 桐生 L、矢野貞 SL、外崎　＜女性３名＞ | | |

河童橋前にて

概念図



＜１０４２＞

塔ノ岳～丹沢山
（1,491m）（1,567m）

高橋　芳恵

粉雪舞う長い登り
　　雪もまた愉しからずや

気持ちの良い日よりのブナの森

＜ダイヤモンド富士を見に行く＞

塔ノ岳の真上にダイヤモンド富士が見られるのが 2 月 22 日～24 日頃と伺い昨年（大嵐のため中止）に引き続いて 2 回目の挑戦となった。大倉バス停で早速入門コースにふさわしくスリングを身に着けひたすら大倉尾根を登った。当初からぬかるみを予想していたが登山道凍結のためアイゼンの必要は全くなかった。駒止小屋で昼食休憩をとり全員快適に長い登り道を花立まで歩いたがこの辺りから粉雪が舞い始め、一面雪景色に。金冷やしから上は完全に雪山となった。尊仏山荘は平日にもかかわらず大変な賑わいで大勢の登山者がダイアモンド目指して登ったものの、残念ながら本日は雪と濃霧で叶わぬ願いとなった。カレーライスの夕食を平らげ、ストーブの近くでのデレデレダラダラと雑談して過ごすことが私の何よりの楽しみである。雪もまた愉しからずや。

＜吉野の山桜のような霧氷との出会い＞

翌日 7：00 出発し、丹沢山に向かった。幸い風は無く、濃霧で周辺は見えなかったが、気温が低いため歩き始めたすぐから木の枝の霧氷が素晴らしい。真っ白の木々の霧氷がまるで吉野の山桜を彷彿とさせしばし立ち止まり、雪の中の花見を楽しんだ。次第に天候は回復傾向となり周囲の山容が明瞭となった。アイゼン歩行のため、無雪期に比べ丹沢山までの歩行時間が 30 分以上余計にかかってしまったが、穏やかな日和となり丹沢山頂でゆっくりとコーヒータイムとした。帰路講師をお願いした大山さんからロープワークの実地指導をいただき、全員で熱心に受講した。尊仏山荘で昼食を摂り、一路大倉尾根を下山したが、花立までのアイゼンを付けての歩行に時間を要した。上りに比べての下りのつらさに何度も休憩を入れて何とか 16：30 大倉バス停に到着し、予定時間を大幅に超えてしまった。

今回の大きな反省事項として計画作成上で無雪期と同ペースで計画し、留守宅担当者への連絡が予定時間を 3 時間近く遅れてしまった。昼食時にすでに遅れが見込まれたため、まず一報は入れるべきであった。留守宅担当者をはじめ参加の皆さんに多大なるご迷惑をおかけした今回の雪山入門編であったが、来年同日、今度は以上のことを十分配慮し、やはりダイヤモンド富士を目指して計画したいと念じている。

青空に霧氷が映えます！

概念図

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 塔ノ岳～丹沢山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 2 月 22 日(木)～23 日(金) | | |
| 山域 | 丹沢 | 地形図 | 1/25000　大山 |
| 形式 | 山小屋 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２B |
| 目的 | ダイヤモンド富士と塔ノ岳 | | |
| 費用 | 9,000 円 | 交通機関 | 電車・バス |
| 日程 1日目 | （1 日目）我孫子 5:33→柏駅→代々木上原 6:42/43→渋沢 7:53/8:15→大倉 8:30/9:05⇒駒止茶屋 11:22/11:43⇒堀山の家 12:07/12:20⇒花立山荘 13:53/14:06⇒金冷し 14:30⇒塔ノ岳山頂 15:06⇒尊仏山荘 15:11(宿泊) | | |
| 日程 2日目 | 尊仏山荘 7:00⇒龍ケ馬場⇒丹沢山 8:57/9:15⇒雪上訓練（ロープワーク確保）9:20/9:50⇒龍ケ馬場 10:22/10:25⇒11:11/11:15⇒尊仏山荘 11:54/12:20⇒金冷し 12:45⇒花立山荘 13:10/13:20⇒堀山の家 14:18/14:25⇒駒止茶屋 14:53/14:56⇒大倉バス停 16:43/16:51→渋沢 17:07/18:35（反省会）→代々木上原→我孫子 20:55 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・安全な大倉尾根を往復した為、問題はなかった。凍結のため予想していた泥道もなく、金冷やしまでは雪がなかったため往路にアイゼンは必要なかった。<br>・復路は花立までアイゼンを付けて歩行したが、階段に注意はしたが概ね危険な点はなかった。 | | |
| 参加者 | 高橋芳 L、矢野貞 SL、大山（講師）、矢澤、本田、斎田、高橋富<br>＜男性２名　女性５名　計７名＞ | | |

ロープワーク研修

＜１０４３＞新人卒業山行

**仏果山**
（747m）

板倉　淳一

## 一年の総括　野外調理とテント設営

高度表示は隠れてしまったが仏果山山頂.

本日は、教育研修の成果を示す「仏果山」新人卒業山行の日である。朝から雲ひとつない。一年間の総括をするにふさわしいハイキング日和。

卒業山行の計画は、新人担当の大畠・大平様の指導を受け、森岡さんがリーダー役となり新人５名で昨年９月から企画・計画を練ってきた。今回のテーマは、野外調理とテント設営の体験実習をすること。田嶋・佐藤さんが体調不良により欠席。大変残念である。列車に乗り込むと、大平さんからテント・食材等の分担の指示がある。周囲の視線を感じつつ黙々と各自再パッキングをする。２時間ほどで本厚木駅に到着。バス停にはすでに多くのハイカーが並んでいる。４０分程で仏果山登山口最寄りの野外センター前バス停に到着。道標に従い歩を進めること２５分で仏果山登山口を示す標識が現れる。

大畠さんより、コンパスの設定方法の実習を受ける。杉林をうねうねとつづら折に高度を稼いでゆくと、３０分ほどで林道に到着。林道を横切りヒノキ林をさらに登って行くと、視界が開けススキの穂が一面に広がる。残雪により登山道はぬかるんでいる。ここでこけたら大変。慎重に歩を進め山頂へ。山頂には高さ１３ｍの展望台あり、３６０度の大パノラマが広がる。

すでに多くのハイカーがベンチで昼食を取っている。早速、本山行の目的の一つである野外調理に取り掛かる。大畠さんから牡丹餅・アップル

パイの差し入れ。かなりのボリュームだ。みそ仕立ての特製キノコ汁が完成するとあっという間に完食。

身支度後下山し往路で横切った林道に到着。スペースを利用しもう一つの目的でもあるテント設営実習を受ける。大平さんの指示により、本体を拡げ、ポールをつなぎ、スリーブに通して３本同時にテンションを掛け、フライシートを被せるとテントらしい形になった。設営後注意すべきポイントの説明を受ける。記念撮影後早々に下山。

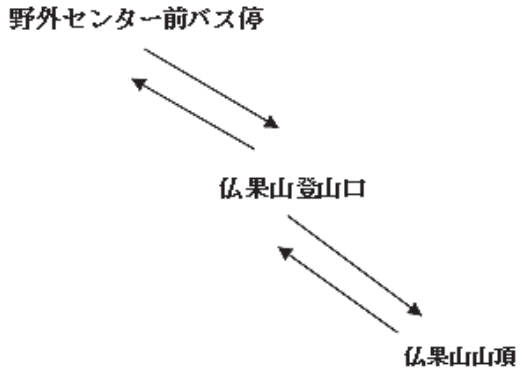
バスの発車時刻迄時間がある。バス停近くのベンチでペーパー試験を受け、大平さんから模範解答後全員合格とのお言葉を頂き、無事卒業山行が終了。予定より１時間遅れで帰路につく。

この一年、新人担当の大畠・大平様には、ご指導を賜り誠にありがとうございました。また研修のテーマ毎に講師を務めて頂きました皆様に感謝申し上げます。

今後も山の知識習得に努めて行きたいと思いますので、忌憚のないご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

テントもしっかりと張れました

概念図




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 仏果山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 2 月 24 日（土） | | |
| 山域 | 西丹沢 | 地形図 | 1/2500　上溝 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 新人卒業山行研修<br>早春の西丹沢を楽しむ | | |
| 費用 | 約 4,500 円 | 交通機関 | JR　小田急　神奈川中央交通バス |
| 行程 | 我孫子駅 7:04→柏駅→代々木上原 8:12/8:16→本厚木 9:04/9:２０<br>神奈中バス　野外センター前 10:03⇒仏果山登山口 10:40⇒仏果山山頂 12:15(昼食)13:30　下山⇒林道交差 14:25/14:45(テント設営研修)⇒愛川ふれあいの村駐車場横 15:25/16:00(休憩/ペーパーテスト)⇒野外センターバス停 16:22→本厚木駅 17:15/17:23→柏→我孫子 19:26<br>歩行時間：４時間 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・野外センターバス停より仏果山登山口までは仏果山への案内看板に沿って車道を歩く。<br>・登山口より樹林帯の急登となるが登山道は良く整備されており山頂までの案内看板もあり。所々に鹿よけのネット、扉があるが壊れている。<br>・中腹より登山道に雪が残っている箇所があったが、溶けてぬかるんでいる箇所が多く、慎重に登下山必要もアイゼンは使用せず。<br>・山頂は別ルートより登頂の団体客で賑わっており、数か所のテーブルのうち何とか一つ確保できた。（穏やかな好天に恵まれたので客多い）<br>・頂上からの展望は良くないが１３Ｍの展望台がありそこからの眺めは宮ケ瀬湖や丹沢山塊、相模平野が一望出来た。 | | |
| 参加者 | 森岡Ｌ、板倉、小野、大平（講師））、大畠（講師）<br>〈男性３人、女性２人　計５人〉 | | |

＜１０４４＞

伊東アルプス　・　真鶴半島
（大平山）
（578m）

松下　寿男
箕輪　完二

**満開直前の河津桜**

河津桜（２月２４日）　　松下　寿男

非常に良い天気、２月とは思えない温かい天候の中、河津桜を見に河津駅に降りました。河津桜はソメイヨシノ等一般的な桜よりも早く、通常２月中旬頃から開花が始まります。河津町内を流れている河津川沿いに長さ約１ｋｍくらいか、桜の木が植えられていています。

１３時頃河津駅に到着。土曜日のせいか、観光客は非常に多く、河津駅は非常に混雑していました。我々メンバーははぐれないよう駅の出口で集合し、河津川を目指して歩き始めました。歩き始めると左側に、地元特産品を売っている多くの出店が現れました。右側を見ると、早くも菜の花が咲いていました。左側に地産売店、右側に菜の花の道を歩くこと約１０分、河津桜が咲き誇っている河津川に到着しました。

当日は満開直前の約７部咲き位か、花の色は濃い桃色で、ソメイヨシノとは異なるあでやかで非常にきれいでした。３－４メートル位の幅の土手を歩くこと１時間。非常に目の保養になりました。一部には、桜のアーケードもあり、花弁の雨が降っていました。

伊東アルプス（２月２５日）

本日も非常に良い天気。京葉ガス　瓶山保養所から歩いて伊東アルプスに向かう。
伊東アルプスは標高差 575m　約 11km のコース。通常は伊東駅から伊東大平山～柏峠～柏嶺～伊東駅という周回コースが一般的ですが、今回は京葉ガス様の保養所に前泊し、本保養所から広野～小倉平～伊東駅というコースを選択。標高差 575m ということでかなり低い山のはずですが。

さて保養所を朝出発し、住宅街を山に向け歩く。住宅街はなだらかな登坂でこの時点では元気よく歩く。３０分くらい経過したころからか、住宅街から抜け山道となる。ただ道路は舗装道路で、時折車が走る。このころから上りが徐々にきつくなり、しまいにはかなりの登坂。皆さんの足並みが徐々にそろわなくなり、休み休みの歩行となった。

急激な登坂が終わり、いっきに峠に到着。そこからはなだらかな歩行となる。

途中、江戸時代に加賀藩が江戸城の石垣用の石を切り出した石丁場跡、伊東湾を一望できる高台、その他いくつかの名所があり、朝の急激な登坂を除けば標高差の値らしいゆったりとできた山行と思われます。

真鶴半島（２月２６日）　　箕輪　完二

山行３日目は室崎さんの案内により、伊豆半島の付根にある真鶴半島１周の山行となった。１周して８キロメートルぐらいの半島であるが自然や歴史・文化に興味をいだかせる半島であった。真鶴半島は神奈川県に属し、約１５万年前に箱根火山の外輪山形成過程で溶岩流が海に押し出されて出来たという。そしてマグマが地表に流れ出し急速に固まった安山岩で本小松石と呼ばれている。石は固くて良質なため、鎌倉時代から石材として採掘され、江戸時代には小田原城の石垣や江戸の町並みなどにも利用されたとのこと。また磨きによって、きめ細かな石肌は温かみや柔らかさがあり、高級な墓石にも利用されているという。

半島の前半部分はクロマツ，クスノキ、スダジイなどの原生林でおおわれており、自然豊かな半島ともなっている。森の中心地には中川一政美術館が在った。その創作活動は絵画だけにとどまらず、書や陶芸著述などにもおよび、素朴で力強さにふれることができた。半島の先端部分は真鶴岬となっており、その先には初日の出の名所としても有名な三ツ石がある。真鶴半島自然公園のメインステージにふさわしい風景だった。

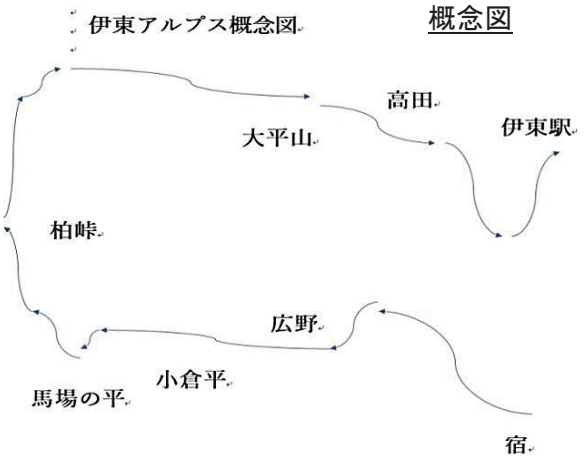
３日間を通しての伊豆山行で、伊東や河津、天城山や伊東アルプスの位置や風景など自分の中にしっかり描くことが出来たと思う。現地案内から宿泊まで、室崎夫妻には大変お世話になりました。感謝いたします。

## 伊豆半島の成立ち（実技研修）

伊豆半島には田んぼがほとんど見当たらず，又砂浜が少なく急激に山や崖になっている。そんな伊豆を少しプレートテクトニクスの立場から掘下げてみたい。

伊豆半島は本州で唯一、フイリッピン海ＰＬの上に位置しており、かつては南の海にあった火山島や海底火山であった。これら火山の集まりが火山活動を繰り返しながら、ＰＬと共に北上し、本州に衝突することで伊豆半島が誕生した。また南からフイリッピン海ＰＬ東から太平洋ＰＬが沈み込んでおり二重沈み込み帯となっている。

1　深い海だった時代(2,000 万年前～1,000 万年前)
2　浅い海だった時代（1,000 万年前～200 万年前）
3　本州への衝突と陸の出現(200 万年前～100 万年前)
4　陸上火山の時代（100 万年前～20 万年前）丹沢山地の隆起、陸化し始めた伊豆。
5　伊豆東部火山（20 万年前～現在）箱根火山、天城火山の出現




### 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 伊東アルプス・真鶴半島 | | |
| 月日 | 平成 29 年 2 月 24 日（土)～26 日(月) | | |
| 山域 | 伊豆　真鶴半島 | 地形図 | 1/25000 伊東　真鶴岬 |
| 形式 | 保養所泊 | グレード | ２Ａ |
| 目的 | 河津　伊豆　真鶴半島を歩く | | |
| 費用 | 約　20,000 円 | 交通機関 | JR、伊豆急行 |
| 日程　一日目 | 我孫子 9:33→ 柏 9:44→日暮里→上野 10:25/10:33→熱海 12:15/12:24→ 伊東線→河津 13:39⇒散策⇒河津 15:05 →伊東駅 15:50⇒保養所 16:30<br>夜　箕輪さんの伊豆半島のお話<br>歩行時間　約２時間 | | |
| 日程　二日目 | 保養所 8:30⇒三叉路分岐 08:50⇒広野⇒小倉平⇒草原⇒馬場の平 10:10⇒鉄塔 10:35⇒柏峠（柏トンネル跡地）10:43⇒四辻（柏峠）11:05⇒昼 11:35/12:00 展望 12:10/12:15⇒大平山（557m）12:25/12:35⇒加賀前田藩刻印石 12:45/12:50⇒石切丁場案内板⇒円山公園 13:15⇒伊東駅<br>13:50/14:06→踊り子号→品川駅 15:44/15:52→上野→柏→我孫子駅 16:40（上記の１泊組み）<br>2 泊組　伊東駅⇒保養所 15:30<br>歩行時間　約５時間 | | |
| 日程　三日目 | 保養所 8:45⇒伊東駅 9:10/9:31→ 真鶴駅 10:19⇒中川美術館 11:20/12:50⇒真鶴　（海岸線・原生林を歩く・三ッ石）真鶴駅 14:45/15:36→東京→柏→我孫子 18:06<br>歩行時間　3 時間 30 分 | | |
| ルート状況 | ・河津さくらは３部咲き～７部咲き、伊東アルプスは道が整備されていた。あまり行き交う人がいなかった。花が咲いていなかったせいであろう。<br>・真鶴半島は風がきつかった。<br>・中川一政美術館は特別展中で白樺派の面影を勉強することができた。 | | |
| 参加者 | 2 泊組　室崎 L、箕輪完 SL、箕輪カ、室崎育（ｹﾞｽﾄ）　男２女２　計４名<br>1 泊組外崎 GL、村越、松下、林、蟹江　男２ 女３ 計５名　総合計９名 | | |

# 平成３０年度

平成３０年(2018 年)３月～

平成３１年(2019 年)２月

＜１０４５＞

白馬乗鞍岳
（2,469m）

村越　百々代

## 快晴、絶好の山スキー日和

ゲレンデスキーは経験していたものの不安を抱えての参加でした。
事前に小林さんから山スキー通信が10回も届き、装備や天候について、山スキーを履いての歩き方の動画等が送られるなど時間をかけて準備が行われました。

一日目は柏からレンタカーで白馬を目指しました。途中、八方のレンタルショップに行き、そこで山スキーを借り、お店の人からシールの張り方や板のつけ方、歩き方の基本をレクチャーされました。栂池高原のスキー場で山スキーを履いて、ゲレンデで練習です。シールを付けて「だらだらと足を引きずるように」歩くのが基本になります。リフトを乗り継いで上まで行き、歩く練習をした後シールをはずして斜面を滑ります。ゲレンデを滑ることは普通のスキーと変わりません。

宿に戻って部屋でのミーテイング、夕焼けに染まる空をバックに白馬の山並みが美しく（アーベントロート）思わず歓声を上げました。
ビーコンの使い方、send(探してもらう時)、search（探す時）のボタンを押して練習もしました。

二日目　天気は快晴、日差しは強く、絶好の山スキー日和です。ゴンドラリフトで栂池高原駅から栂の森駅まで登り、駅を出るとビーコンのチェックができるポイントが実際にあり、send にスイッチを入れると「ピッ」と音、これで万全です。さらに上のロープウエイで栂池自然園駅まで行き、いよいよ山スキーです。

まずは天狗原を目指します。「だらだらと行きましょう。」と声をかけあい、ずるずると歩きます。斜面に合わせてかかとの金具(ヒールリヒター)を上げたり、下げたりして調整しながら歩きました。お天気がいいのですぐに汗が出てきました。景色は抜群、山の白さと空の色の濃さのコントラストが見事です。

天狗原に着くともう汗でびっしょりです。上着を脱いで少し風に吹かれるとホッとします。祠にお参りしてからは本番の乗鞍岳につながる斜面の上りに入りました。始めはまっすぐにぼり始めましたがだんだん斜面がきつくなり斜めに歩きます。シールを付けていても下に滑りそうでエッジを利かせて山側に体を傾けてみたりしますが、とうとう滑ってしまいました。
上を見て、また体勢を立て直して落ちた分を登り返します。何とかみんなに近づき、また上を目指して歩きますがまた、滑り落ちてしまいました。どんどん落ちていって、ストックで止まろうとしても止まりません。天狗原まで落ちれば止まるかな…なんて思ったり、滑落遭難にあった人もこんな風に止まろうと思ったのかな？…なんて考えながら必死にストックで斜面をたたきますが、そのまま滑り落ち続けます。30m 近く落ちてやっと止まりました。遥か上には郷田さんがもう少しで斜面の上に行くところです。ほかの人たちも滑り落ちてしまう人も出て、いやあ、大変です。

起き上がってまた登り返し始めたものの、足はがくがく、膝から上の筋肉が悲鳴を上げているようです。遥か上にある山頂を仰いで立っているのがやっとという感じでした。そんな時、小林リーダーから「下山しましょう」との声。残念ですが登頂は断念です。

実は、それからも大変でした。かき氷のような雪原を滑るのが難しい。足に踏ん張りがきかない。ゲレンデに降りてからも、何ともないカーブを曲がるのも大変。散々でした。

それでも思い返すと、「また行きたい!!空の青さが忘れられない。この次は山スキー用のアイゼンをつけて挑戦したい」と思います。

リーダーをはじめ、参加者の皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。ありがとうございました。

**概念図**

天狗原の祠の前で

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 白馬乗鞍岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年　3 月 3 日(土)～4 日(日) | | |
| 山域 | 北アルプス北部 | 地形図 | 1/25000<br>白馬岳、白馬村 |
| 形式 | 旅館一泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 3C |
| 目的 | 山スキーと雪山登頂 | | |
| 費用 | 40,000 円 | 交通機関 | レンタカー |
| 日程　1日目 | 柏駅西口 05:30→白馬村八方 10:30/11:30→栂池高原スキー場旅館 11:45/13:00→ハンの木ゲレンデでスキー練習→栂の森ゲレンデでシール登高練習→旅館 16:00<br>＜歩行時間 1 時間、ｽｷｰ滑走時間 2 時間＞ | | |
| 日程　2日目 | 旅館 7:45→パノラマウェイ栂の森駅 9:00/9:10⇒天狗原 10:25/10:45⇒天狗原祠 10:50/10:55 ⇒ Co.2350m12:05 ⇒ Co.2250m12:20⇒Co.1950m13:20⇒栂の森駅 14:00/15:15⇒栂池高原スキー場⇒旅館 15:50/16:45→白馬村八方 17:00→横川 SA 21:00→柏駅西口 22:00<br>＜歩行時間 2 時間、山スキー滑走時間 1 時間 30 分＞ | | |
| ルート状況 | ・東北、北海道に大雪をもたらした低気圧の通過後暖気が入り気温が上昇、白馬一帯に雪崩注意報が出ていたが、白馬乗鞍付近は例年より降雪が少ないこともありルート上に危険個所は見られなかった。<br>・視界良好のうえ多数の先行者がいてルートが明瞭であった。<br>・天狗原からの登り上部は予想以上の傾斜と圧雪のためシール登高には厳しく、白馬乗鞍岳頂上まで残りわずかな地点で引き返しを決断した。<br>・雪質は期待していたパウダースノーではなく、スキーは重い湿雪斜面での滑降となった。 | | |
| 参加者 | 小林隆 L、北田 SL、郷田、齊田、村越<br>男性 3 名、女性 2 名　計 5 名 | | |

景色　最高!!

＜１０４６＞

**棒ノ折山 ～ 岩茸石山 ～ 惣岳山**
（969m）　（793m）　（756m）

石塚　あさ子

**棒の折山**

私にとって１月以来の山行で体力的に不安の山行でしたし、又　楽しみでもありました。棒の折山～黒山～岩茸石山～惣岳山（高水三山‥高水山・岩茸石山・惣岳山の中の二山）のコースでロングコースです。

新宿よりホリディー快速奥多摩号で御嶽駅に降りタクシーで奥茶屋まで入りました。川井駅からのバス便もあるが、朝遅い時間しかない為、又タクシーもない為御嶽駅からになったという事です。さすがﾘｰﾀﾞｰの判断ですね。

奥茶屋より道路の右側の登山口より登山開始、ゴンジリ沢を何度か横切りワサビ田を見ながら登って行きます。ワサビ田は使用されている所（収穫後？）が少なく、植えられている所は 1～2 ヶ所位しかありませんでした。沢を離れるとジグザグの急登です。樹林帯をひたすら登り、少し緩やかになった所を登りきると頂上でした。頂上はとても広く平らで、東屋もあり、大勢の人でにぎわっていました。三方が開けていて少し霞んでいましたが奥多摩の山並が見えました。

頂上からは、ゴンジリ峠の方に下ります。滑りやすく慎重に出発です。ゴンジリ峠の所は黒山方面への道と名栗方面への道との分岐で、黒山方面へと進みます。アップダウンの道に馬酔木の木々が沢山あり白い花が迎えてくれています。黒山～岩茸石山までは沢山のアップダウンがあり、思っていたより体力のいる山行です。岩茸石山への最後の登りは滑りやすく特別急登でした。見晴しの

良い頂上でみんなで歩いてきた山並を見ながら昼食を取りました。ここから急坂を一気に下りきり、その後快適な尾根道を歩き頂上手前の急登を登りきると惣岳山の頂上でした。大きな杉の木々に囲まれていて展望はなく、金網に囲まれた青謂神社の奥の院が祭られています。都内の中学生10人程が先生と一緒に休憩していました。丸太や大木の木の上で休憩をとり、御嶽駅方面へと滑りやすいジグザク道を下りました。途中祠があり真名井の井戸とあるが水はありませんでした。

やがて鉄塔がみえて、3つ目の鉄塔を通過すると竹藪がみ見えてきました。その間を通り抜けて慈音院というお寺の脇に出て下山です。

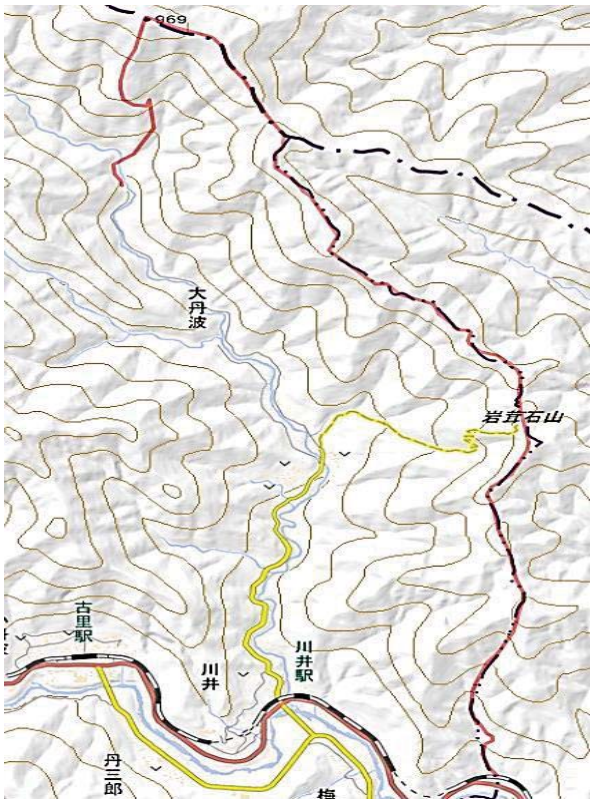
玉川屋で美味しいお蕎麦は、予約が入っていて食べられなかったのは残念でしたが、歩き応えのあるロングコースで満足しました。お世話になりました。

棒の折山を目指す急登

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 棒ノ折山～岩茸石山～惣岳山 | | |
| 月日 | 平成30年3月18日 | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1/25000<br>原市場、武蔵御岳 |
| 形式 | 日帰り | グレード | 2B |
| 目的 | 里山を歩く | | |
| 費用 | 4,270円 | 交通機関 | ＪＲ，ﾀｸｼｰ |
| 行程 | 我孫子 5:31→日暮里 6:01/6:09→新宿 6:30/6:46→8:06 御嶽→ﾀｸｼｰ奥茶屋 8:20/8:30⇒棒ノ折山 10:05/10:31⇒黒山 11:04/11:09⇒岩茸石山⇒13:05/13:30⇒惣岳山 14:02/14:12 ⇒ 御岳駅 16:00/16:52→青梅→17:08/17:09→西国分寺 17:46/17:52→新松戸 18:50/18:53→柏 19:01→我孫子 19:07<br>＜歩行時間6時間＞ | | |
| ルート状況 | ・棒の折山まで急登。<br>・棒の折山から岩茸石山間は、登り下りを数えきれないくらい繰り返しながら高度を下げるので、高水三山のバリエーションだが侮れない。 | | |
| 参加者 | 矢野貞L　村越SL　森岡　大畠　石塚　渡邊　箕輪、高橋英、北田、田村、蟹江、高橋芳　12名(男４名、女8名) | | |

**概念図**



＜１０４７＞

## 火打石岳～明神ヶ岳
（989m）　（1,169m）

常井　猛

明神ヶ岳山頂

彼岸が過ぎた３月 24 日（土）、日帰り山行に参加した。場所は箱根の明神ヶ岳～明星ヶ岳である。歩行時間は４時間の予定。男性６名、女性６名の 12 名の参加者だ。当日の天候は快晴。東海道本線と小田原駅から箱根登山バスで仙石バス停へ。そこが金時山ハイキングコースの入口で、A 班、B 班の 2 班に分かれて 9 時 15 分に出発した。登り始めは各企業の保養所等があり、周辺には２日前に降った雪が残っていた。しかし舗装された道路で、たんたんと進む。15 分程歩くと本格的な登山道に到着し、斜面を登り始める。その登山道には 10～20cm の残雪があり、それを踏みながら歩いた。空は青空で風雨の心配はなく、足元には積雪があるが、言わば楽しい「雪中行進」の雰囲気だ。

私にとって今回の山行が５回目である。今迄は 7 月下旬～8 月上旬の天候の安定した時期で、台風の心配のない季節の登山だった。雪は尾瀬の三平峠での残雪（凍っていた）位しか体験していない。積雪は登りは気にならないし負担にならない。しかし下りがシャーベット状、あるいは泥土化した登山道は難しいものがあった。それでも黙々と歩く。矢倉沢峠に到着し、一息入れて火打石岳を目指す。途中軽装ランナースタイルの人々とも会う。ハーフマラソンでも走りに来たかのようなファッションだ。実際そうらしい。しかし登山道の状況はカヤトの防火帯、つまり左右に篠竹（細長い竹）があり、その篠竹に雪が積もり、重みで頭が下がりアーチ状にトンネル化していた。アイゼンをつけた完全装備の若者３人が戻ってきた。理由は 30cm の積雪に加えて、篠竹が傾倒して非常に歩きづらくなっているとのこと。我々は意に返さず、次の目標地、火打石岳に向かう。しかし中々着かない。下りて来る登山者に聞くと、まだまだ先だと言われる。12 時が近づき、しだいに腹が減ってきた。更に 20 分ほど歩き、スタートして 3 時間が経過。空腹限界。斜面で仮の昼食をとった。立ったまま、あるいはリュックに腰を下ろし、食べ物をほお張った。まもなく出発する。5～6 分歩くと火打石岳の標識板に到着した。そこは日当りも良く、昼食するに相応しい空間があった。後のまつりで、即、本来の目的地の明神ヶ岳を目指す。何度も頂きらしい所に着いたが、明神ヶ岳には着かない。めげずに積雪を踏破する。視界を邪魔する樹木がなくなり、低木に変わって空が眺められると、浮雲の遥か上空に冠雪した雄大な富士山が現れた。更に進むと、南の方面には大涌谷に湯煙がたなびき、神山の峰、金時山の頂が眺望できた。流石に目的地はすぐそこに近づいた。小休止後さらに 30 分歩き、やっと明神ヶ岳の頂上に着いたのが 14 時半。先がまだまだ長いので、明星ヶ岳には行かないことになり、分岐から宮城野橋を目標に動き出した。溝道化した登山道は泥土とシャーベット状の雪道となり、下山に厳しいものがあった。

仲間の中の一人が太腿にけいれんを起こし、スピードが急に遅くなった。女性軍がホカロンをズボンの上から当て、その上をテーピングでぐるぐる巻きにし、甘い物と水分補給でどうにか歩き出すことが出来た。予定よりも大幅に時間を費やしたが、全員無事に宮城野橋バス停に到着することが出来た。

今回の山行は、積雪に加えてシャーベット状の雪と泥土と、溝化した登山道に苦戦した。しかし、こういう体験が勉強になった。

**概念図**

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 火打石岳～明神ヶ岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年 3 月 24 日（土） | | |
| 山域 | 箱根 | 地形図 | 1/25000　関本・箱根 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ｂ |
| 目的 | 早春の富士を眺めながら、カヤトの防火帯を歩く | | |
| 費用 | 約 4,500 円 | 交通機関 | ＪＲ、箱根登山バス、登山電車 |
| 行程 | 我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:17→東京駅 6:22/6:23→小田原駅 7:45/8:10（箱根登山バス）→仙石バス停 8:57⇒金時山登山口 9:08/9:15⇒矢倉沢峠 9:55/10:00⇒（休憩 2 回）⇒火打石岳 12:30⇒（昼食）⇒最乗寺方面分岐 14:15⇒明神ヶ岳 14:30/14:40⇒鞍部（分岐）15:40/15:45⇒林道出合 16:40⇒宮城野橋バス停着（先達組 17:10、タクシー組 17:15、林道組 17:25）→タクシーで強羅駅へ（登山電車）18:51→箱根湯元 19:31→小田原駅 20:41→品川駅 21:50/21:55→我孫子駅 22:40 着<br>＜歩行時間:7 時間 20 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・小田原駅前から箱根登山バスで桃源台行きに乗り、仙石バス停で下車。国道を乙女峠方面に 300m歩くと、金時山登山口の石の道標がある。明神ヶ岳の登山口<br>・矢倉沢峠には無人の小屋がある。トイレは使えない。<br>・登山道の両側には、3mほどの丈の篠竹が垣根のように生い茂っている。<br>・火打石岳は「山と高原地図」には▲があるが。山のいわれを書いた看板があるのみ。標柱も見当たらない。ﾋﾟｰｸらしいｲﾒｰｼﾞもなく、うっかり通過してしまいそうだ。<br>・明星ヶ岳に登らない場合は、エスケープルートとして、明神ヶ岳と明星ヶ岳の鞍部（分岐）から宮城野に下れる。登山道は溝状にえぐられた赤土で非常に滑りやすい。下った辺りは別荘地で道が入り組んでいるが、下へ下へと下れば国道に出られる。 | | |
| 参加者 | 外崎 L、林 SL、本田、新谷、矢澤、高橋富、森岡、渡辺清、板倉、小野、松下、常井<br>男性 6 名　女性 6 名　計 12 名 | | |

＜１０４８＞新人歓迎山行

神成山
（321m）

やまたんより転載

## 春爛漫の新人歓迎
## のどかな里山歩く

左から白崎さん、一氏さん、常井さん、矢野朝さん、小島（おじま）徹さん、渡邉香さん

登山後、碓氷峠第三橋梁（眼鏡橋）にて

＜実行委員長メモより＞

### 色とりどりの花と新緑

実効委員　北田仁則・小島洋子

＊新入歓迎登山として実施、歩行時間 2 時間と短かったのでゆったりとした山行だった。

＊天気に恵まれて、岩ツツジ、マルバアオダモなどの色とりどりの花や新緑の美しさを観賞しながら、のどかな里山風景を楽しんだ。

＊時間に余裕があったので、計画外で横川の先にある眼鏡橋までバスで足を延ばして、更に新緑を堪能してきた。

A班

## 「花びらに空見上げれば山桜」

A班　矢野 朝水（ともみ）

年齢制限ナシに惹かれ申込み、入会を許された矢野朝水（ともみ）です。よろしくお願いします。

新人歓迎山行は、歩き易く、2 時間のハイキングコースの神成山。大型バスでの往復、レストランでの昼食、予定外の「めがね橋」見学、帰りの車内での宴会 etc と新人にご配慮の数々、ありがとうございました。

山の楽しみは花。多くの花と出会うことができました。翁草、紫の大根の花、八重桜、山桜。鶯の声も。「名を聞けば何故かなつかし翁草」「里山は今を盛りの八重桜」「大根の群れ咲く登山道を登りけり」「花びらに空見上げれば山桜」「鶯の声は右から後から」木々は一斉に芽吹き、登山道を見守る優しい地蔵、憤怒の不動明王。橙色の山つつじ、アオダモの白い花。白い藪椿の花が二輪残る。可憐なピンクの錨草。足元には春蘭。日溜まりの岩にはすみれ。

「お地蔵と不動見守る木の芽道」「ここかしこ山を彩るつつじかな」「あおだもの花の白さや春の山」「二輪のみ残る峠の白椿」「うす紅の小さき星や錨草」「春蘭や朝日に映えるうすみどり」「頂上の岩に食い込むすみれかな」

コースには九つの峰。峰から富岡の町、上州の山野を望む。眼下には上信鉄道が走る。風が強い。寒い。「麓より電車の響き木の芽風」「富岡や製糸の町に霞立つ」「上州の山野は遠く霞みけり」「木々芽ぐむ山の頂風強し」「峰わたる頬打つ風や春寒し」

神成山を下りるとバスに乗り、横川のレストランに向かう。車窓からは妙義山、残雪の浅間山を見る。「黒々と迫る妙義や春浅し」「残雪の浅間は遙か輝けり」昼食後、バスで「めがね橋」に向かう。「めがね橋」は明治 26 年建造された赤煉瓦の４連のアーチ橋。川底からの高さ 31 メートル、長さ 91 メートル。谷間に架かる赤い煉瓦橋は、ギリシャのヴィーナスのようにスマートで美しい。感動する。「めがね橋」に登り、鉄路跡の「アプトの道」を歩く。このような急峻な山奥によくぞ鉄道を引いたもの。明治人の心意気をみる。

「そびえ立つ煉瓦の橋や山笑ふ」「芽吹く山またぐ煉瓦のめがね橋」

神成山は「日本一きれいなハイキングコース」の名に恥じず 、多くの花と出会うことができました。

「めがね橋」も素晴らしかった。先輩の皆さんに感謝！感謝！深謝！駄句の数々、失礼しました。

## 楽しくおしゃべり

A班　小島徹

企画された方々、各リーダーの皆様のおかげで、新人歓迎を兼ねた山行は楽しいものになりました。

私にとっては今年初めてそして約３か月ぶりの山行で４００ｍにも満たない山のミニ縦走とのことで、今回は足慣らしと思い参加させて頂きました。

柏駅で同じく東武線を利用された方々といっしょになり、我孫子駅北口を初めて降りバスに乗り込みました。朝は少し肌寒いと思いましたが、宮崎公園に着いた頃には日差しもあって快適に感じました。各班に分かれて自己紹介、記念撮影等を行った後出発しました。山行は中学校の脇道を進んで９つあると言うピークを超えながら、途中途中で花の名前を教えて頂きました。二ホンオキナグサってあまりきれいな花ではありませんでした（失礼？）が、当地に多く自生していました（ふもとで聞いたところ種から育成しているとのことでしたが・・・）。ツアー登山とは違い、親しい方々と楽しくおしゃべりをしながらの登山は以前に所属していたグループ登山以来でしたので楽しく過ごすことができました。予定より早く出発したこともあり、大サボテンの家には10時過ぎには到着しました。

上信越道の先でバスに乗り込み、おぎのや横川店での昼食懇親会ではおいしい昼食を頂きました。また、当初の予定には無かった碓氷峠第三橋梁（通称：めがね橋）まで足を伸ばして、歴史の一端にも触れることが出来ました。帰りの高速道路は渋滞も無く、１７時前に我孫子に戻ってきました。

今後は出来るだけ様々な山行に参加させて頂きたいと改めて思いました。

Ｂ班

## 山行、頑張る！

Ｂ班　一氏 照美

少し肌寒くはありましたが、よく晴れた青空の元、宮崎公園の駐車場をスタート。 西中学校の登山口から新堀神社までのコースを新緑の中ツツジが大変きれいに咲き乱れ、日本一きれいなハイキングコースといわれるとおり、よく整備された道をゆったりと歩いていきました。皆様のお気遣いでゆっくりと歩いていただき、花を見たり遠くの山並みを見たりと余裕を持って歩くことができました。ありがとうございます。

歩きながら色々とお話しさせていただき、皆様大変親しみやすい方々なので安心すると同時に、”岳人あびこ”の一員としてこれからの山行に頑張るぞと思いを新たにしました。

おいしい昼食をいただいた後安中のめがね橋（碓氷第三橋梁）の見学をしました。山の新緑の中に悠然と立つ橋に圧倒されつつアプトのハイキングも良いかもと思いました。

まだまだ、経験の少ない私ですが皆様のご指導の下頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

## 「山笑う」風景

Ｂ班　常井 猛

新人歓迎山行、神成山ハイキングコースに参加した。日本一美しいハイキングコースと云うだけ有って、オレンジ色のヤマツツジ、白い色のアオダモ、紫色のミツバツツジと目の前に咲き誇っていた。

地面にもオキナグサ、シュンラン、イカリソウと初めて鑑る草花も知った。メガネ橋での淡い黄緑色、淡い茶褐色、その絶景は正に“山笑う”すばらしい風景だった。生憎、カメラをバスの中へ置き忘れたのが悔やまれる。参加者が３２名と思っていたよりも多くの人数で、岳人あびこの新人歓迎の心意気が感じられた。昼食も、山と言ったらおにぎりコンビニ弁当が普通。それが懐石料理風、豪華版、しかもビール付き充分に堪能できました。神成山３２１ｍ と低い山で危険な場所もなく安心してハイキングが楽しめました。帰路、バスの中でビール・日本酒を飲みながらの自己紹介、私自身は調子に 乗って言わずもがなの事を言ってしまい、いつもながら反省しています。有難うございました。

Ｃ班

## 居心地の良さ感じた

Ｃ班　白崎哲史

群馬の里山は、芽吹いたばかりの新緑に包まれていました。そこに色を添えてくれたのが山ツツジ。赤とピンクの花弁が、木漏れ日を浴びて優しく輝いていました。

そんな里山を先輩方とゆっくりと歩くのは、とても気持ちのよい時間でした。 歩きながら交わされる会話から、皆さんの人柄が少しずつ見えてきます。 「いろんな人がいてもいい いろんな人がいたほうがいい」　歩きながら頭に浮かんできたのは、自殺希少地域の特性研究（岡壇著『生き心地の良い町』）で明らかになった、そこで暮らす人たちの基本的な考え方でした。

岳人あびこにも、そんな居心地の良さがあるようにも感じられました。

これからも、よろしくお願いします。

D班

## 花を愛で、春風に吹かれて

D班　渡邉 香奈子

ゆとりのある広々とした豪華なバスで、座席に足を投げ出し晴天の群馬の山々を眺めながら、どんな山を登るのかと少々の不安とワクワク気分で向かいました。登山口は部活中の中学校の校庭裏からという地元の生活を感じつつ、諸葛菜の薄紫の群生に出迎えられました。ほどなく、ハイキングコースらしいなだらかな道を、新緑に囲まれ登り始めました。息が上がるという急登もなく、周囲の.景色を楽しみながら足を運べました。足元には桜の花びら、つつじはピンクで満開！楽しみにしていたオキナグサもふっくらと咲いていました。花々を愛でながら、春風に吹かれ快適な山行でした。

前回の山行で膝を痛めていたので、今後はロングトレイルでも今日くらいの余裕ある筋力をつけて登りたいと思いました。昼食は広い食堂で温かいお食事を美味しくいただくことができました。予定外の眼鏡橋見学は新緑に古いレンガがどっしりと聳え立ち、歴史を感じる幻想的な風景を楽しむ心に残る一日を過ごす事が出来ました。リーダーや係の方々、班長さんたちの細やかな心遣いに感謝し申し上げます。

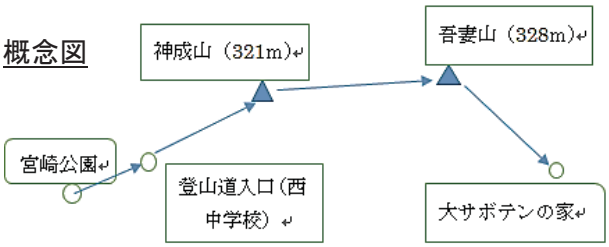
オキナ草

アオダモの花

概要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 神 成 山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 4 月 8 日(日曜) | | |
| 山域 | 西上州 | 地形図 | 1/25000 下仁田 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 新人歓迎ハイキング | | |
| 費用 | 7,500 円 | 交通機関 | 貸切バス |
| 行程 | 我孫子駅北口ふれあい広場 5:44→柏インター→高坂 SA6:55/7:15→宮崎公園 8:09/8: 30⇒登山道入口⇒神成山（竜王ピーク）9:15/25⇒吾妻山 10:15/20⇒大サボテンの家 10:45/11:00→おぎのや横川店（昼食懇親会）11:35/13:00→メガネ橋 13:15/13:50→ 松井田妙義インター→高坂 SA→我孫子駅 17:00　歩程 2 時間 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 宮崎公園からのルートです。中学校の脇を通り奥が登山口入口。ピークが A から G まで標識がありますが、意識をしないとここがピークかと見過ごします。 | | |
| 参加者 | 【Ａ班】北田 L、小林安 SL、武内、中村八、矢野朝、蟹江、板倉、小島徹<br>【Ｂ班】大畠 L、 外崎 SL、大山、本田、矢澤、林、常井、一氏<br>【Ｃ班】村越 L、 田村 SL、深草、室崎、村松、高橋冨、白崎、佐藤<br>【Ｄ班】小島洋 L、 高橋芳 SL、矢野貞、郷田 高橋英、箕輪、森岡、渡辺加<br>＜男性 18 名 女性 14 名 計 32 名 ＞ | | |

概念図



＜１０４９＞県連ウイークデー山行

# 宝篋山
（461m）

小島　洋子

山頂（宝篋印塔を背景に）

私はこの難しい読み名の「宝篋山」に初めて登りました。「岳人あびこ」でも何回か山行があったのですが、参加が出来ませんでした。いくつかのコースが地図に記してありますが、今回は山口コース「2」でした。大池公園を 10 時 10 分出発、1 班から 4 班まで 43 名の参加です。大池公園は桜の木が植えてあり、満開の時は素晴らしい絵になるのではないかと思いましたが、残念ながら桜は散って葉桜でした。最初の 30 分ぐらいはコンクリートの歩道で少々つらいでした。このコースはなだらかで歩きやすいのですが樹林帯をとめどなく歩き視界がなく、やっと頂上に着くころになりますと視界が開けました。高いところに山桜が咲いておりました。視界のない道を癒してくれました。鳥のさえずりも聴こえ春の 1 日を満喫しました。頂上は広くお弁当を食べました。表面に筑波山が眺められました。柏から見慣れている筑波山と趣が違いました。帰りは山口コース（1）でした。ところどころに視界が開け気持ちの良い下山でした。新緑の緑の素晴らしさに圧巻です。その後、平沢官衛遺跡（奈良・平安時代の筑波郡の役所跡）の説明を聞き、見学をしました。4 月の晴れわった快晴の 1 日、楽しくハイキングを楽しみました。

**概　要**

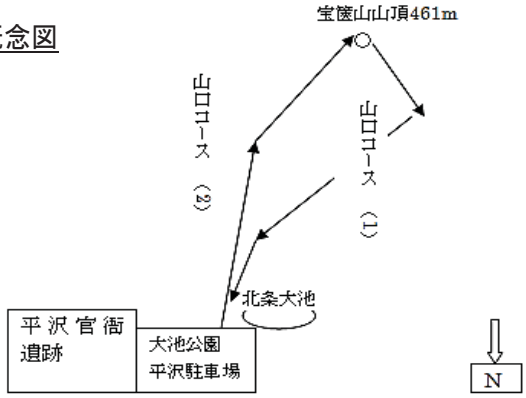
| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 宝篋山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 4 月 12 日（木） | | |
| 山域 | 筑波山系 | 地形図 | 1/25000　筑波・八郷 |
| 形式 | 日帰り | グレード | １Ａ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 目的 | 第 20 回県連ウイークデー山行のハイキングに参加。ハイキングテーマ「桜の花見とその他の花見のんびり山行」 | | |
| 費用 | 約 4,000 円 | 交通機関 | 貸切バス |
| 行程 | 我孫子駅北 7:45 発→大池公園 9:50/10:10⇒分岐 10:20⇒山口コース（2）⇒宝鏡山山頂（昼食）12:05/12:55⇒山口コース（1）⇒大池公園（平沢官衙遺跡見学）14:25/15:20→我孫子駅北口 17:00<br>＜歩行時間　3 時間 10 分＞ | | |
| ルート状況 | 標識は新しく、良く整備されているハイキングコース。宝篋山山頂へのコースは 5 つあるが、今回登りで歩いたコース「山口コース（2）」は杉林の中を歩いて頂上へ行く為、展望を楽しむ事は出来ない。 | | |
| 参加者 | 深草 L、本田 SL、渡辺清、小島洋、吉澤、村越　＜男性 1 名、女性 5 名　計 6 名＞<br>＜全体参加者　8 団体　42 名＞ | | |

宝篋山山頂にて（筑波山を背景参加者全員）

山口コース

**概念図**



＜１０５０＞

# 鳴虫山
（1,104m）

林　敏生

全員揃ってVサイン

日頃の行いが見事現れた山行でした。Good 。鳴虫山は、栃木百名山にもなっている山、東武日光駅から直接登山開始ができ、標高 1103mほど。駅の標高が 600m、その差 500m登ればいいだけだが、修行僧も歩いた道は急斜面が何度も立ちはだかる山で憾満ヶ淵に着いたときは、足はガクガクになっているとコース案内に記載されていました。日曜日ということもあり、大勢の登山客が列をなして鳴虫山を目指しましたが、若者(私より年下をすべて)も多く、手軽なコースなのかと。

2018 年 4 月 22 日は猛暑日で都心は 30 度近く気温も上がり、水の量も通常の倍用意(今思えばペットボトルだけを担いで登ったような気分)。気温の上昇はあったが気持ち良い風が私?を迎えてくれたことは、<日ごろの行いの表れでしょう>と密かに心で笑った。

登りは一時間程度は整備された登山道であったが、後半の急斜面は、いくともなく自然が作り上げた木の根っこが、網の目状になり、登山客を悩まし且つ感動させるものでした。鳴虫山では絶景の奥日光連山に感激し、この時期はアカヤシオがやさしく迎えてくれるコースでした。

下りは、根っこは少なくなったが、ガレ場があり急斜面を何度かロープにつかまりながら一気に日光の奇勝地憾満ヶ淵へ。清流の爽快感はこの武骨な私でも何とも言えない気分にさせてくれました。化地蔵は行きと帰りに数を数えると数が合わないことから名づけられたと後から聞いて残念至極(数えたかった)。

その後恒例の反省会を東武日光駅前で、カンパーイ。石塚リーダー殿お疲れさまでした。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 鳴虫山 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 4 月 22 日(日) | | | |
| 山域 | 日光 | 地形図 | 1/25000　日光南部 | |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ａ | |
| 目的 | 新緑と春の花 | | | |
| 費用 | 約 2,340 円 | 交通機関 | 東武鉄道 | |
| 行程 | 我孫子駅 5:31→柏 5:53 東武線柏駅→春日部 6:34/6:44→南栗橋 7:01/7:02 東武日光 8:16 着⇒鳴虫山登山口 8:40⇒天王山神社⇒神ノ主山 9:32⇒鳴虫山 11:10⇒合峰 12:05⇒独標 12:50 ⇒憾満ヶ淵・ならび地蔵 13:45⇒総合会館前(バス)14:30→東武日光 15:31→南栗橋 17:11→ 春日部 17:31→柏駅着 18:19→我孫子 18:31 着<br>〈歩行時間：5 時間 30 分〉 | | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・東武日光駅より駅前の国道 119 号線を渡り向い側に消防署がある所より左折して川に突き当り右折した川沿いの道を行き保育園の先で橋（登山口の標識あり）を渡り住宅の中を通ると登山口がある。<br>・神ノ主山から山頂までは木の根が露出した尾根道になり、濡れている時は注意が必要。<br>・山頂直下からは急な下り坂となるが木のしっかりした階段あった。又独標からの急な下りはザレていて足場も悪く滑りやすく緊張した歩みになった。 | | | |
| 参加者 | 石塚 L、北田 SL、林、高橋富、森岡, 吉澤、高橋芳、箕輪完、小島徹、ｹﾞｽﾄ 箕輪ｶ<br>男性５名　女性５名　計 10 名 | | | |

＜１０５１＞

## 棒ノ折山～蕎麦粒山
（969m）～(1,472m）

矢野 貞子

芽吹きはまだの蕎麦粒山山頂

昨年実施したがたどり着けずに断念したコースを逆に辿る、登りが長い更に厳しいルートである。昭文社の地図情報では９時間余りの歩行時間で休憩時間やバスの時刻を考えるとかなり日帰りで実施するには、無理なコースで不安があった。それに前回ﾀｸｼｰの予約が出来たのに、今回は大口予約が入っていて予約が取れない。コース変更を考えたが、これ以上歩行タイムを増やすのは得策ではないと判断し、少しﾀｸｼｰ代は高くなるが青梅駅で下車し駅のﾀｸｼｰを利用することにした。しかし駅のﾀｸｼｰ乗り場に行くと一台もなく焦った。一台はすぐ来たがもう一台は中々来ない。しばらく待っていると大相撲の青梅場所が開催され、今力士を送ってきたというﾀｸｼｰで奥茶屋に向かい、何とか３月と同じ時刻に出発することが出来た。

棒の折れ山迄汗をかいた後、槙の尾山迄は片側が明るい尾根道で快適だった。そこから登り下りして長尾ノ丸山はいつの間にか巻いていた。日向沢ノ峰まではさらに急な登り下りの連続だった。特に最後の登りはジグザクであってもふくらはぎが伸びきってしまうのではないかと感じる程の急斜面だった。ここは下るのも大変だろうと思う。それでも 13 時前には日向沢ノ峰出合に到着。中食後蕎麦粒山に向かう。途中休憩した時佐藤さんが鹿の角を拾ってきた。蕎麦粒山で少し休み一杯水避難小屋に向かう。一杯水で１５時半、１７時２２分のバスに乗りたい。コースタイムは２時間だが、過去２回下っていたので行けると判断。仲間には急ぐ事を伝えついてきてもらう。最初の１５分ほぼかけ脚状態、危険個所では歩をゆるめ、時間を稼いだ。１７時０５にはバス停に着き余裕でバスに乗ることが出来た。みなさん良くついてきてくれました。村松山行部長に下山報告をした際、皆の健康状態は大丈夫か？と聞かれた。無理をさせるのを見ていたかのような問いでどっきりした。

この山行で瑞牆山、金峰山、国師が岳、甲武信が岳、笠ヶ岳、和名倉山往復、飛龍山、雲取山、酉谷山、蕎麦粒山から御岳駅まで歩いた道が繋がった。秩父、奥多摩は地図に乗らない高低が沢山あって北アルプスとは違う形でたいへんである。しかしながら深い森と静かな山にシャクナゲやツツジが咲いていて忘れがたい山行ばかりでした。

一緒に歩いてくれた仲間に感謝します。

俺たち初棒の折山頂上

**概念図**

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 棒ノ折山～蕎麦粒山 | | | |
| 月日 | 平成 30 年４月 22 日(日) | | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1/25000　原市場、武蔵御岳、武蔵日原 | |
| 形式 | 日帰り | グレード | 3C | |
| 目的 | 長沢後稜縦走 | | | |
| 費用 | 5,130 円 | 交通機関 | JR、ﾀｸｼｰ、バス | |
| 行程 | 我孫子 5:31→日暮里→新宿 →青梅 7:47/7:57→奥茶屋 8:25/8:30⇒棒の折山 9:52/10:00 ⇒槙ノ尾山通過 10:18⇒長尾丸巻く（休 ）クロモ山通過 11:35⇒休 11:45 ⇒日向沢ノ峰 12:55/13:15⇒蕎麦粒山 14:10/20⇒一杯水 15:17⇒避難小屋 15:25/15:30⇒ヨコスズ尾根(休)⇒東日原 17:05/17:22→バス→奥多摩 17:47/18:16→青梅→立川→西国分寺→新松戸→我孫子 21:08<br>＜歩行時間 7 時間 45 分＞ | | | |
| ルート状況 | ・棒の折山から長尾丸までは歩きやすい尾根道<br>・長尾丸から日向沢ノ峰間は転げ落ちそうな急斜面の登り下りの繰り返し、最後の登りはふくらはぎが悲鳴を上げる急登だった。<br>・日向沢ノ峰から蕎麦粒山までは明るく開けた尾根道<br>・芽吹きかけた尾根道には白やピンクの桜、アカヤシオ、ミツバツツジが咲いていた。 | | | |
| 参加者 | 矢野Ｌ 大畠 桐生 田村 佐藤 板倉<br>6 名(男 2 名、女 4 名) | | | |

＜１０５２＞

南大菩薩縦走

大蔵高丸～ハマイバ丸～大谷丸～滝子山

（1,781m）（1,752m）（1,644m）（1,590m）

深草　茂美

滝子山にて

## 南大菩薩縦走路を歩く

中央線　甲斐大和駅から、大菩薩嶺と滝子山の間にある湯の沢峠にタクシーで行き。湯の沢峠から滝子山までの南大菩薩の稜線を歩き、その後、滝子山を下って中央線初雁駅に出る。これが今回の山行の行程である。

＜甲斐大和駅→湯の沢峠＞

天気快晴、無風。甲斐大和駅から、タクシー3台に分乗し、湯の沢峠手前の林道終点駐車場まで行く。途中、雪を冠した大きな富士山と、新緑の山々に山桜や山藤の花が咲く景色がタクシーの窓から見えた。

＜湯の沢峠→破魔射場丸＞

林道終点の駐車場で身支度をして出発。鹿よけのゲートをくぐり、30 分程、枯れ木と枯草の冬景色の中を歩き大蔵高丸に到着した。ここから展望が開け、枯れ木の間から見えていた、富士山と南アルプスの稜線が遮蔽物無しに青空の下に広がった。雪を冠した南アルプスの峰々は甲府盆地に立てかけた屏風絵の様に見えた。南アルプスの峰々の名前を一つずつ声に出し、確認し合い、皆で感動を分かち合った。破魔射場丸までは標高が高く、まだ木に葉がついてないので見通しがが良く、暫くはこの絶景を目にしながら歩いた。

＜破魔射場丸→滝子山＞

破魔射場丸から、米背負のタルを経て、滝子山へと黄緑色の新芽が出ている木々の間のアップ

ダウンの道を歩いた。新芽の匂いが香るようで気持ちがいい。あちらこちらに点在している豆桜の木は、ピンク色の花が花開していた。富士山と南アルプスの稜線を背景に新緑の木々の間に咲く豆桜を見つける度、この景色に見とれてしまい、足が止まった。

＜滝子山→初雁駅＞

滝子山から檜平までは躑躅花の名所。富士山と満開の躑躅花の景色を見ながら下ると祠と小さな水たまりのある“鎮西が池”に出た。ここから水の流れる谷間の道を下る。この道からは、先ほど迄ずっと見えていた、富士山や南アルプスの稜線は見えない。ただひたすら速足で滝子山登山口迄歩いた。滝子山登山口に到着すると、大きな木に藤色の山藤が咲く景色が出迎えてくれた。

登山口から初雁駅迄は民家の間をアスファルトの舗装道路を歩く。山道は花々と富士山と南アルプス稜線が美しかったので気にならなかったが、さすがに舗装道路の歩行は足が重く一日の山歩きの疲れを感じた。初雁駅から電車に乗り、次の大槻駅で途中下車して、駅前の食堂で反省会を開き楽しい一日を締めくくった。

今年は少し早めに季節が進んでいたので、この時期では体験することが出来ない、雪を冠した富士山と南アルプス稜線を背景に、豆桜や躑躅の花が咲く山道を歩くことが出来た。素晴らしい山行であった。

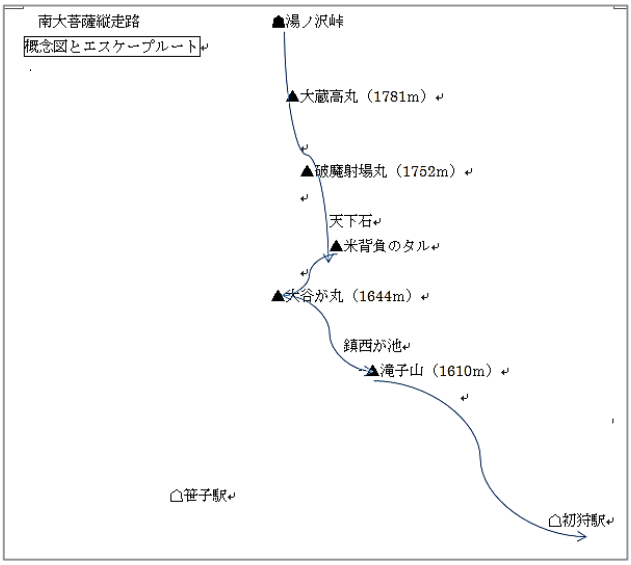
大蔵高丸頂上、富士山と共に

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 南大菩薩縦走 | | |
| 月日 | 平成 30 年 4 月 28 日(土) | | |
| 山域 | 大菩薩 | 地形図 | 1/25000　大菩薩峠・笹子・大月 |
| 形式 | 日帰り | グレード | ２Ｂ |
| 目的 | 南アルプスと富士の展望　　ロングトレイルを歩く | | |
| 費用 | 4,170 円 | 交通機関 | ＪＲ　ﾀｸｼｰ |

| | |
|---|---|
| 行程 | 我孫子駅 5:33→新松戸→西国分寺→高尾 7:21/26 →甲斐大和 8:33/37→湯ノ沢峠 9:17/30⇒大蔵高丸 10:07/20⇒ハマイバ丸 10:45⇒天下石 11:20⇒米背負ノタル 11:40⇒大谷丸 12:00/20⇒鎮西ヶ池 13:18/22⇒滝子山 13:35/50⇒桧平 14:18/25⇒手洗い場 15:05/13⇒滝子山登山口 15:51/16:07⇒初狩駅 16:35/54→大月 17:00/（反省会）→立川 19:02→西国分寺→新松戸→柏→我孫子 20:43<br>歩行時間　6 時間 |
| ルート状況 | ・標識がしっかりしており、間違うことはないが、大谷丸を越え、鎮西ヶ池手前で直登の枯葉の積もった斜面があり、稜線に出る箇所に赤いテープがあったがわかりにくかった。<br>・滝子山からの下山道は急こう配の下りが続き、小さな渡渉箇所が 5 回ほどあるが水が少なければ問題はない。<br>・滝子山登山口から初狩駅までの30分の舗装道路が足に応えた |
| 参加者 | 高橋芳 L、大畠 SL、田村 SL、矢野貞、松下、小島、北田、蟹江、深草、佐藤、矢野朝、小島徹、<br>男性 6　女性 6　計 12 名 |

**概念図**



＜１０５３＞

大杉谷 ～ 大台ヶ原
（日出ヶ岳）
（1,650m）

白崎　哲史

## 二日歩いても飽きない奥深さ

堂倉滝にて、ここから急坂開始

「秘境」とは、ここ「大杉谷」のためにある言葉ではないのか……実際に訪ねてみて、その思いが強くなった。

登山口（宮川ダムの発電所手前）の標高はたった280m。関東では考えられない標高である。しかし、その高さから、峡谷は実にさまざまな表情を見せてくれる。

実際、歩き始めから岩肌をくり抜いた登山道を歩くことになり、幾度となくアップダウンを繰り返しながら、少しずつ高度をあげていく（宿泊地の桃の木山の家の標高は480m）。

とはいえ、晴れた日の宮川は穏やかで、その水は澄んだ翡翠のような碧色だ。五月の峡谷がエネルギッシュな新緑に溢れているからだろうか。国土交通省による河川の水質調査では、毎年のように宮川が「水質が最も良好な河川」に選ばれている。

この流れを利用して、地元では古くから伊勢神宮に遷都のための木材を供給してきたという。目の前の穏やかさからはとても想像できないが、降雨後の増水時は宮川の様相が一変し、その水流が利用されてきたらしい。

登山道がアップダウンを繰り返すのは、谷が急峻であることと、岩の組成がさまざまに変化することが関係しているのであろう。大きな一枚岩があるかと思えば、柱状節理・方状節理が現れ、その崩れた岩が苔を纏っていたりする。

景観が多様なのもそのことと関係していそうだ。

桃の木山の家までの行程だけでも、稜線上の一点から水が末広がりに降り注ぐように見える「千尋の滝」、垂直にそそり立つ岩の関門が異空間を形成している「シシ淵」、巨大な一枚岩がそそり立つ「平等嵓」など、存分に峡谷の奥深さが堪能できた。

とくに印象的なのは、「シシ淵」である。巨大な岩塊の関門が峡谷を幅 6～7 メートルに狭めているが、その前後には広い河原ができていて、水の流れは穏やかだ……その対照的なイメージの同居がダイナミックな空間を生み出し、その先の「ニコニコ滝」が色を添えてくれている。

訪ねたのは午後4時ころであったため光が平板であったが、光の具合次第で、もっとエキサイティングな表情を見せてくれることは間違い。その光景を目にするための再訪は十分にありだな、と思えた。

宮川はこの「シシ淵」の辺りから次第に高度を上げ始める。桃の木山の家までは、1 時間半ほどだ。

なお、同行のＹ氏の体調が千尋の滝の手前辺りで悪くなり、遅れることとなった（山行記録参照）。

**2 日目**は雨で停滞。3 日目は、朝 5 時に朝食を摂り、5 時半から歩き始めた（A 班）。天候は曇り。雨が降りそうではあったが、幸い大杉谷を離れるまではもってくれた。

この日の主な見所は、落差 120m の「七つ釜滝」、方状節理の岩山が崩れた「崩壊地」、タイミング的にぴったりであった「シャクナゲ平」である。

「七つ釜滝」はその名の通り、7 つの釜を持つ。しかしながら、登山道からはその全容を目にすることはできない。

この「七つ釜滝」を越えると、風景が一変する。台地の上に出た感じで、宮川の流れがまた穏やかになるのだ。やがて、巨大な岩のガレ場「崩壊地」が現れる。その崩壊した岩塊を乗り越えていくと、別天地のような光景が目に飛び込んでくる。

広く白い河原に宮川が穏やかに流れ、左岸には柱状節理の岩塊が控えていた。そして、突き当たりには、「光滝」が見え隠れしている……。

「シシ淵」のような豪快さはないものの、険しい山中で人の手が入った隠れ里に出会ったような、ホッとできる空間であった。

「光滝」の右岸を登っていくと、再び険しい峡谷となり、断崖上の登山道を歩く。谷底までは 40～50m ほど。登山道はきちんと整備されているので不安はない。やがて、発電施設が林間に見え隠れするようになると、このルートで最後の滝とな

る堂倉滝は近い。
　その堂倉滝から大台ケ原へと続く尾根に取り付くことになる。
　1 時間半ほどで堂倉避難小屋に到着。この辺りから登山道の傾斜が緩くなり、しばらくすると登山道脇にピンク色の可憐な花をつけたシャクナゲが現れ始めて、次第にその数が増えていった（シャクナゲ坂）。
　この日は標高 1300m のシャクナゲ坂の手前から霧に包まれたが、霧の山歩きは道迷いの心配がなければ悪くはない。色が失われたモノトーンの世界は幻想的でさえある。
　とはいえ、この日はシャクナゲ坂を登り切ったところで雨に降られ、雨具を着込むことになった。
　倒木が目立つ小高いピークを越え、茶色い樹肌が特徴的なヒメシャラの群生地を過ぎるとシャクナゲ平だ。そこまでのシャクナゲは、一部に花が散ってしまった株があったが、ここのシャクナゲはピーク手前の見ごろであった。ときに赤い蕾をつけた株も散見され、それがどこまでも続いている。
　日出ヶ岳が近づくにつれて雨脚が強くなり、予定よりも 1 時間ほど遅れて山頂に到着した。霧で視界がないので、山頂制覇の感慨はあまりない。しかし、さすがに累積標高差 1600m は登り応えがあった。
　二日目の宿泊予定地であった心湯治館に立ち寄り、着替えをさせてもらってから帰途についた。

新緑の中、出発します

険しい大杉谷の鎖の道

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 大杉谷（日出ヶ岳）～大台ケ原 | | |
| 月日 | 平成 30 年 5 月 6 日(日)～8 日（火） | | |
| 山域 | 吉野熊野・大台ヶ原 | 地形図 | 1/25000 大台ヶ原山 |
| 形式 | 山小屋泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ｂ |
| 目的 | ①本有数の清流、吊橋、多くの滝を愛でる②新緑と苔、ツツジ、運が良ければシャクナゲを楽しむ。③東大台ヶ原、西大台ヶ原を歩く。 | | |
| 費用 | 50,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、大杉峡谷登山バス、奈良交通、近鉄 |
| 日程 1日目 | 我孫子駅5:10→柏駅→日暮里駅→東京駅6:16のぞみ3号→名古屋駅7:51/8:05→JR南紀１号→三瀬谷駅9:47/9:50⇒10⇒道の駅おおだい10:00/10:30→ 大杉峡谷登山ﾊﾞｽ→300m大杉谷登山口11:45/12:00⇒大日嵜吊橋12:15⇒熊谷吊橋⇒地獄吊橋⇒京良谷出合13:40/13:50⇒日浦吊橋⇒千尋滝〔東屋〕14:50/15:00⇒シシ淵・東屋〔ﾆｺﾆｺ滝〕16:20/16:30⇒平等嵜吊橋17:10/17:20⇒桃の木吊橋⇒600m桃の木山の家18:10<br>＜歩行時間：５時間３０分＞ | | |
| | ＜2 日目　停滞＞ | | |
| 3日目 | 桃の木山の家5:30⇒七ツ釜滝6:05/6:15⇒40⇒崩壊地7:10/7:15⇒光滝⇒隠滝吊橋⇒与八郎滝⇒850m堂倉吊橋〔堂倉滝〕8:25/8:35⇒1,160m避難小屋10:00/10:10⇒ｼｬｸﾅｹﾞ坂10:35⇒ｼｬｸﾅｹﾞ平11:40/11:50⇒1,695m 日出ヶ岳〔昼食〕12:30/12:45⇒心・湯治館 13:35/13:50⇒大台ヶ原ＶＣ14:00/14:20⇒大台ヶ原駐車場〔休憩〕15:30→奈良交通バス→近鉄大和上市駅 17:23/17:38→近鉄特急→橿原神宮前駅 18:13/18:25→近鉄特急→京都駅 19:20/19:32→ひかり 534 号→品川駅 22:04/22:33→上野東京ライン→柏駅→我孫子駅 23:13<br>＜歩行時間：時間５０分＞ | | |

| | |
|---|---|
| ルート状況 | 大杉谷へ流れ込む支流〔十数本〕の尾根への小登高が激しく、単純標高差では測れない厳しさがあり、地図上の標高差よりも登山口～桃ノ木山ノ家間で500m、桃ノ木山ノ家～日出ヶ岳間でも500mは多く登ることになった<br>・北の山域の樹林帯と異なり、照葉樹林が多く、その油を含んだ落葉が狭い登山道を覆っていて滑り易い〔ゴールデンウイークの登山者でも滑落事故発生〕<br>・危険箇所は殆ど頑丈な鎖が張られているのでスリング、カラビナセットがあれば問題ないが、桃ノ木山ノ家～堂倉滝間で部分的に鎖の張られていない、へずりもあるので細心の注意が必要<br>・標識は完備し、登山道も概ね良く整備されている<br>・吊橋が多いが、がっしりした作りで少々揺れるが危険性は殆どない<br>・山が深く交通が不便な地区であり、エスケープルートが限られ体調不良の場合は登山中止すべき<br>・エスケープルートは山小屋の従業員が利用する台高尾根〔約２時間〕の急登があり、林道からバス停までは交通手段がなく、宿の協力を得る必要がある〔一般登山者の入山は緊急時以外不可〕 |
| 参加者 | 大山L、高橋芳SL、矢澤、本田、　石塚、蟹江、小野、白崎<br>男性３名、女性５名、計８名 |

**概念図**

＜１０５４＞

天城越え　　・　　幕山
（万二郎岳～万三郎岳）　（626m）
（1,300m）　（1,406m）

室崎　宏治

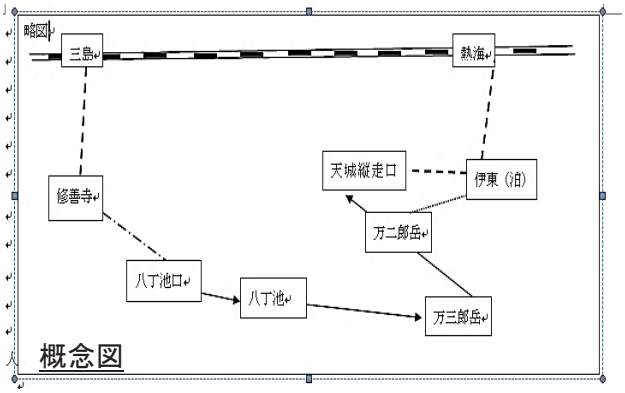
万三郎岳にて

## 天城越え・真鶴半島

１日目予定通り天城越え八丁池口から万三郎経由で石楠花コースを歩く。万三郎あたりから雨模様。到着が遅れた。

２日目天候が良く見晴らしのよい真鶴半島の半島巡りから変更して付根の幕山に登った。真鶴半島の眺望が良く、先日の見晴らしの悪さをリカバリーすることができ参加者全員が満足した。生憎の天気予報で、初日は八丁池あたりまでは、霧雨、八丁池以降は予報通り雨模様です。頂上辺りから本降り。しゃくなげコースを通り越し天城高原まで、シャクナゲの花が奇妙に綺麗に感じられた。宿の食事が非常に美味しかった。温泉も。

翌日は真鶴半島廻りから幕山に登山変更。前日の眺望を取り戻すため。真鶴半島の景色非常に晴れていて綺麗であった。頂上での食事も美味しかった。次回は晴れたときに、天城越えをしたい。



**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 天城越え・幕山 | | |
| 月日 | | 平成 30 年 5 月 13 日～14(日月) | | |
| 山域 | | 伊豆<br>真鶴半島 | 地形図 | 1/25000<br>伊東　真鶴岬 |
| 形式 | | 保養所泊 | グレード | ２Ａ |
| 目的 | | 河津　伊豆　真鶴半島を歩く | | |
| 費用 | | 20,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、伊豆急行、バス、タクシー |
| 日程 | 一日目 | 我孫子 5:26→上野 6:04/6：17→品川 6:32/6:40→新幹線→三島 7:24/7:44→修善寺 8:24/8:40→バス→八丁池口 9:53/10:05⇒ウグイス歩道⇒八丁池 11:10/11:27⇒白田峠 12:15/12:20⇒戸塚峠 12:48⇒小岳 13:33⇒涸沢 15:00⇒17:00 天城縦走登山口→タクシー→18:30 保養所<br>歩行時間＜約５時間＞ | | |
| | 二日目 | 伊東（保養所）09:30⇒熱海駅→湯河原→タクシー幕山公園 11:20⇒幕山登山口 12:20⇒幕山山頂 13:35/14:40⇒登山口→タクシー→湯河原駅→我孫子駅<br>歩行時間＜約４時間> | | |
| ルート状況 | | ２日目　カ。駐車場から幕山登山口が見つけづらかった。駐車場小屋から階段を上ると登山道が見つかり難い。車道路に沿って登るほうが取り付きを見つけやすい。 | | |
| 参加者 | | 室崎宏 L、斉田 SL、村越、森岡、箕輪完、箕輪カ（会友）、室崎育（ゲ）<br>坂本（ゲ）小島徹（13日のみ）<br>男4　女５（ゲスト２）　　計9名 | | |

幕山山頂

＜１０５５＞

## 斑尾山～信越トレイル
（1,382m）

矢野　朝水

見晴らしは無いけど明るい山頂

### 斑尾山～信越トレイル（涌井まで）

2018 年 5 月 26 日（土）我孫子発 5：31。上野から北陸新幹線で飯山へ。飯山まで 2 時間弱。便利になったものだ。飯山から路線バスで斑尾高原ホテルへ向かう。快晴。山道に差しかかると至るところにピンクや赤のタニウツギ、雪をかぶったようなミズキ、レンゲツツジなどが見え、花の山への期待が高まる。「赤白の花の彩り初夏の山」。

終点のホテル前から今夜の宿「ロッジ樽本」のご主人の車で野尻湖の登山口まで行き、高橋芳恵Ｌを先頭に山に入る。メンバーは女性 6 名、男性 2 名の合計 8 名。青葉若葉の森、緑の風が心地良い。「斑尾や青葉若葉の風そよぐ」。

登山道の傍らには可憐な花。女性陣は花に詳しい。素早く見つけて教えてくれる。ミツガシワ、イワカガミ、ツクバネソウ、etc。山の経験に乏しい身には初めて見る花ばかりだ。
春蝉の声が響く。虫がまとわりつく。「木漏れ日の尾根道行けば春の蝉」「まとわるな虫よ飛んでけ初夏の森」。

11：00「大明神岳（1360m）」に到着。眼下には野尻湖、眼前には残雪の妙高山、火打山、黒姫山、遠く雪を頂いた鹿島槍ヶ岳などの北アルプス。広大なパノラマが広がる。「残雪の妙高迫る高嶺かな」。眺望のよいこの地で昼食にする。

昼食後ブナの森を抜け「斑尾山（1382m）」に到着。北信の山々を望む。斑尾山から万坂峠を下り

「袴湿原」に至る。水芭蕉はお化けになっていたが、ショウジョウバカマ、ワタシゲ、サンカヨウ、スモモの花。スモモ以外は初めて見る花で、女性陣に教えていただく。山の魅力は花にあると改めて思う。

袴岳を目指して登る。ブナやダケカンバの若葉の森を抜ける。木漏れ日が眩しい。頂上近くには雪椿の群生。雪はとっくに消えているが、雪椿の赤い花が所々に残る。「雪消えてなお咲き残る椿かな」。

「袴岳（1135m）」の頂上からは眼前に黒姫山や残雪の妙高山が聳える。山を下りる途中には、タニウツギやミズキが至る所に見える。「赤池」に着く。やがてロッジの主人が下駄やスリッパを持って迎えに見え、斑尾温泉に案内していただく。

入浴後 18：00 ロッジ到着。食堂からの眺望も素晴らしい。妙高山に夕日が沈みゆく。「妙高に沈む夕日や夏の星」。夕食はまずビールで乾杯。山菜のテンプラやこの地方独特の木の葉寿司も出る。この地は水が良いからだろう。お米がおいしい。野菜がおいしい。皆さんの食は進む。「お代わりを二度する夏の山の宿」。

2018 年 5 月 27 日、2 日目。5 時起床。本日も快晴だ。山の空気は清清しい。6 時朝食。朝食もおいしい。7：00 ロッジの車で赤池の近くまで送っていただき登山開始。本日の先頭は田村ＳＬ。みずみずしいブナの森を抜けると「沼の原湿原」。水芭蕉が僅かに残る。リュウキンカ、レンゲツツジ。「木漏れ日の眩しき光若葉森」。

峠を越えると「希望湖（のぞみこ）」。澄み切った鏡のような湖面だ。湖の脇のボート小屋から毛無山を目指す。春蝉の声は止むことない。青葉若葉の森は心地良い。ナルコユリ、ホウチャクソウ、姫スミレ、額アジサイ。女性陣が次々と見つけて教えてくれる。「姫すみれ小さき花は気品あり」

1 時間ほど登ると「毛無山（1022m）」の頂上。木々が繁り眺望は良くない。鶯の声が聞こえる。「夏うぐいす足も軽やか峠道」。頂上から 50m ほど下ると視界が開ける。眼下には千曲川が横たわり、遠くには志賀高原の山並みが広がる。

山を下り農道を涌井へ向かう。途中の山にはあちこちに藤の花。これまで見たことのない見事な山藤を見る。大木に藤がからまっているのではなく、藤が大木をからめて大木全体が藤の花のようだ。「大木をからめて垂るる山の藤」。山菜の季節は過ぎたが、路傍にはワラビが残る。「山ガール斑尾の野に蕨摘む」。

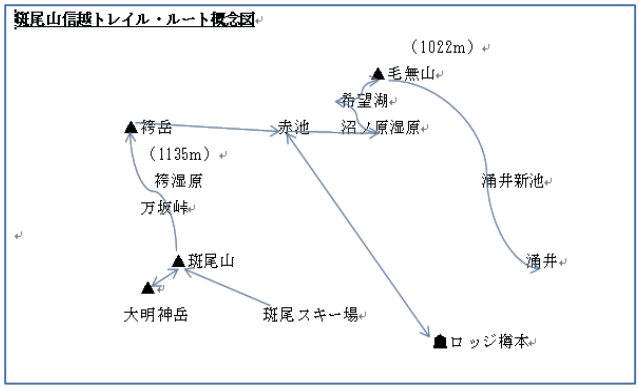
涌井新地からロッジの車で千曲川沿いの「湯滝温泉」に案内していただく。千曲川は雪解け水をたたえて滔々と流れる。「雪解けの水の早さよ千曲川」。

入浴後「道の駅・千曲川」に案内していただき、昼食。14：11 飯山から新幹線で帰京。上野を経て 16：36 我孫子着。

2 日とも天候に恵まれ、新緑の森の中、多くの花と出会えて楽しい山行だった。ロッジのご主人には大変お世話になった。ありがとうございました。

登山口や温泉への送迎そして山菜などの御馳走と大変お世話になった民宿

## 概念図



概　要

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 斑尾山～信越トレイル | | | |
| 月日 | 平成30年5月26日～27日(土日) | | | |
| 山域 | 信越 | 地形図 | 1/25000<br>斑尾山 | |
| 形式 | 1泊2日 | グレード | ２Ａ | |
| 目的 | 世界でも稀な豪雪地帯の自然を楽しみ、ロングトレイルを歩く | | | |
| 費用 | 約20,000円<br>(ジパング倶楽部) | 交通機関 | ＪＲ，新幹線<br>バス | |
| 日程 一日目 | 我孫子5:31→柏→上野6:04/34(新幹線)→飯山8:19/50バス→斑尾高原ホテル9:20（旅館車）→釜石岳登山口10:07⇒大明神岳11:10/30⇒斑尾山11:44/54⇒万坂峠13:13/23⇒袴湿原13:45/50⇒袴岳14:37/50⇒柏ヶ峠⇒赤池16:00(旅館車)→斑尾の湯(入浴)→ロッジ樽本(泊)<br>＜歩行時間　5時間＞ | | | |
| 日程 二日目 | ロッジ樽本7:00(旅館車)→赤池7:10⇒沼ノ原湿原7:40/8:00⇒希望湖8:35⇒毛無山9:33/53⇒涌井新池10:27/30⇒涌井11:30→湯滝温泉（入浴）→道の駅千曲川→飯山14:11→新幹線→上野15:46/16:04→柏→我孫子16:35<br>＜歩行時間　4時間＞ | | | |
| ルート状況 | ・初日は天気がよく暑い日であったため斑尾山へはスキー場側からではなく野尻湖側から入山したので暑さを避けることができた。<br>・里山歩きだがアップダウンのある山道となっている。<br>・沼ノ原から希望湖途中土砂崩れのため、う回路を歩いた。 | | | |
| 参加者 | 高橋芳L、田村SL、大畠、矢野貞)桐生、矢野朝、小島、一氏<br>男性２名　女性６名　計８名 | | | |

＜１０５６＞

## 佐渡　金北山縦走
(1,172m)

小野　泰子

### 花の島　佐渡紀行

5/27日晴れ。

佐渡汽船のデッキにてカモメに「えびせん」を投げ与えて楽しむ。次第に新潟市街が見えなくなり、弥彦山と角田山だけがそれと知れるくらいになると航路はもう既に半ばまできており、小佐渡大佐渡の姿が見え明日めざす大佐渡山脈の最高峰金北山(1172m)も白く輝く雪渓をいくつも残した姿で聳えている。

両津港着。出迎えてくださったK様と早速に「大佐渡　石名の天然杉」に向け出発する。アクセスマップにはいくつか注意事項がある。例えば、バスでの通行の際、屋根が枝にあたる恐れがあるため和木集落からは小型バス（車高2.6m）、石名集落からは中型バス（車高3.2m）を越える車両は通行が困難です、道路幅が狭いため脱輪に注意してください、電波状態が悪く全線携帯電話の使用が困難です、など。この日は南の両津湾側の和木集落からのルートが4日前の5/23日に開通したばかりで北側外海府の石名集落ルートは未開通だった。K様もこのルートは初めてということで和木からの約10Kmの道のりが長く感じられる。道路沿いのタニウツギが開花して歓迎してくれるようだ。無事駐車場に着き天然杉を目指し歩きはじめる。早速に目に飛び込んでくる。キクザキイチゲ　エンレイソウ　オオイワカガミ　ズダヤクシュ　カタクリ（佐渡のカタクリは葉の紫の斑がなく緑色）　ザゼンソウ　ヒトリシズカ　エチゴキジムシロ　エゾエンゴサク　ツバメオモト　ショウジョウバカマ　サンカヨウ　オオタチツボスミレ　スミレサイシン　ミヤマカタバミ　ヤグルマソウ　ニリンソウ　ヒメアオキ　オオカメノキ　タムシバ　オオバクロモジなど全て花を観察できる。すごい！嬉しい！素晴らしい！５月下旬とはいえいまだに残雪があちこちにあり雪解けと同時に開花する花々も多く見られた。さて目的の杉、標高900mのあたりに生育している。この天然杉の生育地は非常に厳しい環境で冬季には積雪3～4mにも達し、季節風も強く杉には過酷な場所と説明されている。ずっしりと重い雪に耐え忍んだ年月を重ねて数百年、枝が大きく下に曲がりさらに上に伸びようとした姿を見せてくれる。羽衣杉、象牙杉…樹型から名付けられている。頑

張ったんだねえ、これからも頑張れよ、とつぶやく。杉以外は高木はほとんどが落葉樹で新緑が素晴らしい。

佐渡にはシカやイノシシがいない。有名なのはタヌキくらい。タヌキはムジナともいわれ佐渡の民話にはよく登場している。特にシカがいないのが幸いし食害を受けていない貴重な日本本来の植生が残されていて本当にすごい。

感激！感動！感謝！佐渡は北緯38度線をまたいでいることにより北の地域で咲く花の「南限」、南の地域で咲く花の「北限」である種も多く、暖流の影響もあり非常に多くの植物たちを見られるので“花の島”とも言われるそうである。

天然杉の次は、大佐渡東端の外海府の二ツ亀を眺め大野亀を散策。打って変わって海岸の植生となる。花崗岩の大岩の大野亀、二ツ亀とも樹木は生育できず草本のみである。海からの強風ならびに貧栄養の土壌が主な原因である。

一面のトビシマカンゾウ（東北地方日本海側の飛島や佐渡に生育、ニッコウキスゲに似ているが大型で花序に15-30花つくものもある。ニッコウキスゲの島嶼型と図鑑にはある。）が３分咲きで待ってくれていた。爽やかな風とともに風衝草原をゆっくりと散歩する、絵になる光景である。大野亀を後にし今夜の宿に到着。明日の金北山登山に備え２台の車は下山場所の白雲台に向かい１台をおいてくる。入浴、夕食後、ホテルとK様亭に分宿。今回のプランはとてもよく考えられていたものでプランナーのご苦労がしのばれる。

5/28日曇り。

予報は晴れ。乗車前に運よくトキの舞う姿をみて金北山に向かう。車中にて積乱雲の下になり、いっときは大雨でワイパーが忙しく動く。登山口のドンデン山荘（890m）に到着の頃は小雨になりこの後、雨とは縁が切れ晴天の登山となる。ヤマシャクヤク　シラネアオイに励まされとにかく登り、稜線着。稜線からは南に小佐渡が大きく広がり、両津湾　加茂湖　国仲平野　真野湾の展望が一気に広がる。水田の多さにも改めて気づかされ、美味しいお酒ができることに納得。北側は茫洋と広がる日本海の眺望がとにかく見事。この眺望は好天に恵まれたこともあり登山中も眺められ、見飽きることはなかった。花々は昨日のものに加えあちらこちらで、シラネアオイ　ニシキゴロモ　ヤマシャクヤク　コシノカンアオイ　レンゲツツジ　ガクウラジロヨウラク　ミズバショウ　ミネザクラ　などなど“花の島”と呼ばれる所以を納得しつつ1172mの金北山山頂の神社にようやく到着。おつかれさま！下山開始！　しばらく防衛省管理道路（車道）を下る。車道の脇にまでシラネアオイが開花！なんとまあ！雪や登り下りに苦労もしたけれど花の見事さは言う事なし！

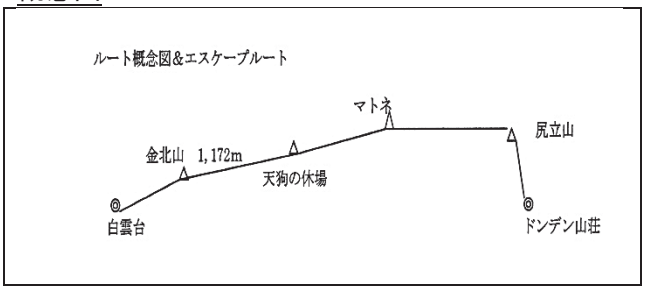
この日、ドンデン山荘→尻立山→マトネ→天狗の休み場→役の行者→あやめ池→山頂→防衛省管理道路→白雲台と皆よく頑張りました。昨晩置いておいた１台と、K様の車に分乗し宿舎に向かう。白雲台出発は18：00近くでした。

5/29日快晴。

朝、K様の案内で散歩する。海辺や集落の中を案内してもらいながら歩く。ハマナス　マルバシャリンバイ（ここが北限）ハマエンドウ　スカシユリ（イワユリ）　テリハノイバラ　ハマボッススナビキソウ　トビシマカンゾウ　アサツキミヤコグサなどなど海浜植物が見られる。途中、墓前に花を備えるお年寄りと会話をする。穏やかな言葉の中で4墓を守っておられるとのこと。優しさに頭が下がる。この後は佐渡観光へ。海産物購入、七浦、宿根木　国重要文化財の蓮華峰寺（拝観料不要、佐渡らしい）をまわり、両津港に向かう。途中、昼食。お寿司（美味しくて安い！）をいただく。船中の人となり、遠ざかる佐渡に別れを告げ新潟に向かう。

K 様、リーダーはじめ参加者の皆様、そして天候に恵まれた佐渡でした。残念ながら不参加だったプランナーと皆様に感謝です。ありがとうございました。

**概念図**



海をバックに佐渡おけさ

金北山山頂

カンゾウの花に囲まれて

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 佐渡　金北山縦走 | | |
| 月日 | 平成 30 年 5 月 27 日～ 5 月 29 日 | | |
| 山域 | 佐渡島 | 地形図 | 1/25000　相川、金北山・両津北部 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２A |
| 目的 | 大佐渡山脈縦走・佐渡歴史文化視察・石名天然杉・時期の花に出会う | | |
| 費用 | 約 40,000 円 | 交通機関 | JR・フェリー レンタカー・タクシー・借用車 |
| 日程 1日目 | 我孫子駅 5:10→上野 5:43/6:14→新潟 8:13→新潟港 9:20→両津港 11:50→和木登山口 12:55⇒石名天然杉遊歩道入口 13:17⇒和木登山口 14:14→二ツ亀 15:10 大野亀⇒15:50→ファミリーオ佐渡相川 16:55　→３人菊地邸へ | | |
| 日程 2日目 | 菊地邸→ホテル 6:50/7:30→両津港 8:30→ドンデン山荘 9:05/9:20⇒尻立山 9:45⇒金北山縦走登山口 10:20⇒アオネバ 10:40⇒マトネ 11:28(昼食)11:50⇒小股沢のコル⇒真砂の峰 13:04⇒イモリ平⇒天狗の休場 14:00⇒役の行者 14:55⇒金北山頂 15:55/16:15⇒白雲台 17:50→ホテル 18:30→5 人菊地邸へ ＜歩行時間 6 時間 30 分＞ | | |
| 日程 3日目 | 菊地邸→ホテル 7:30/9:00→相川市内→夫婦岩→七浦海岸→宿根木（廻船業の集落）→蓮華峰寺→まるいし寿司 13:30→両津港 16:05→新潟港 18:30→新潟駅 19:35→上野 21:46→我孫子 | | |
| ルート状況 | ・石名天然杉へは両津港より海岸沿いを 20 分走ると和木集落の青い天然杉看板を左に入って行く。交差する車がやっとすれ違う林道を 10 キロ（50 分)900m 登って行く。積雪の為 5 月中旬頃迄通行止め<br>・ドンデン山荘へのルートは、崖崩れで通行止めになっている所が数か所あるので、確認してから行くようにすること<br>ドンデン山荘前から 20 分位で尻立山に登ると、金北山へ続く山々が良く見えた。<br>一旦林道に下り金北山縦走登山口を入る。<br>・縦走路は天候が良ければ迷うことないが、霧で真っ白になると、下りで間違いやすいのでピンクのリボンや標識をよく確認すること。<br>・金北山直下には雪渓が残っていて腐っているが、急登でロープに捕まって足場をキックしながら登った。<br>・金北山頂から白雲台までの下山道は、防衛省の管理道路になっていて、事前に通行許可届を FAX で提出。<br>航空自衛隊佐渡分屯基地　0259-63-4111 | | |
| 参加者 | 本田 L、大山 SL、斎田、箕輪完、村越<br>石塚、小野、吉澤、箕輪カ、菊地<br>男 3 名　女 8 名　計 11 名 | | |

キクザキイチゲ

シラネアオイ

＜１０５７＞市民山行

大菩薩嶺～大菩薩峠
（2,057m）

やまたんより転載

絶好の登山日和　色鮮やかな花と新緑

大菩薩嶺にて全体写真

大菩薩嶺から富士山の眺望

## 大菩薩嶺市民登山を終えて

市民登山実行委員長・統括リーダー
室崎宏治

無事に大菩薩嶺市民登山を終えることができました。これもすべて参加者全員が安全、安心の登山を心がけていただいたお陰です。

天候に恵まれて素晴らしい、景色を楽しむことが出来ました。

市民登山は、毎年六月の第一週の日曜日におこなう様になっております。昨年の、安達太良山市民登山は強風の為、途中で引き返しました。昨年参加された方には格別なものと思われたでしょう

市民登山の計画から、ポスター作り、我孫子市役所の後援依頼、説明会会場予約、我孫子市広報、柏市公報掲載依頼、説明会参加者電話受け付け、説明会実施、現地下見二回、雨天時の対応、高速道路トイレ箇所、登山道トイレ個所、勝沼インターまでのトイレ個所確認、上日川峠駐車場バスターン個所確認、下山道バス駐車場が有るか無い、大型バスが入れるかどうか、観光バス会社との打ち合わせ等、一つ一つ確認しながら進めました。

市民の方々の感想文を読み、大変喜んで頂けたということを読み取ることができました。

参加者のみなさまが、自分の目と心で大自然を堪能されたことがなによりもうれしいです。自然がもつ顔は、こくこく変わります。富士山も時間と場所により、刻々と変わります。

当日無事故で帰宅出来たのが何よりの喜びです。ご協力ありがとうございました。実行委員会を代表いたしましてお礼申し上げます。Deep feeling.

第一驕人六月天。

## A班

### 展望楽しみながら登る

A班リーダー　　藤家一仁

・A 班メンバーは市民参加 5 名（水牧さん、東別府さん、塩原さん、川村さん、小板橋さん）、会員 5 名(藤家、高橋(芳)、新谷、深草、小野)の 10 名構成。

・大菩薩は今回で 3 回目となる。我孫子から上日川峠までは順調であったが、上日川峠の駐車場は大混雑であり、大勢の登山客が訪れていた。東京近郊の山として多くの人から親しまれていると感じた。

・まずは上日川峠から福ちゃん荘へ 30 分の登り。広葉樹林が新しく葉を広げ、軽やかに新緑に包まれる森の中へ。

・唐松尾根から大菩薩嶺へ。緑の光が差し込むカラマツの林内へ。登るにつれて傾斜がきつくなるが、展望が開けるため楽しみながら登ることができた。
・大菩薩の魅力である、雷岩から大菩薩峠までの稜線あるき。晴れて展望がよかったことから、富士山をはじめとした山並みの、上日川ダム（大菩薩湖）大パノラマを堪能することが出来た。
・帰宅時間を考慮したため、昼食時間、大菩薩峠で十分な時間を取ることが出来なかった。
・今回の市民登山は、大菩薩峠から上日川峠へ下らず、尾根道を進んだ。熊沢山の直下の明るい笹原・石丸峠も展望がよく、楽しんでいただけた。
・帰り道、高速の渋滞は有ったが、市民の皆様のご理解、ご協力に感謝しています。

《市民感想》

A班　水牧武夫

去年から市民登山に参加させていただき今回が３回目でした。
当日は天気もすばらしく、絵葉書のような富士山を眺めることができ最高でした。
バスが勝沼インターを降りて景徳院入口から山道に入り 新緑の斜面を縫うように登り始めると気分も高揚しはじめます。上日川峠でバスを降り、歩き始めるとすっかり登山モードです。気持ちのよいカラマツ林ではウグイスとセミがいっしょに鳴いていました。カラマツ林を抜けると富士山が見え始めます。斜面を登るにつれて、よく見えるようになります。ところどころにズミの花やツツジも咲いていて自然満喫です。雷岩から大菩薩峠への尾根歩きも眺めもよく快適でした。今回は、バス利用でアクセストラブルもなく、登山ルート、登山道もよく、非常に快適な登山でした。本当にありがとうございました。

## B 班

### 絶好の登山日和

B班リーダー　北田仁則

岳人あびこに入会して、今回の市民登山は４回目になる。
去年の安達太良山は、あいにくの天気で頂上を目前にして引き返しているだけに、今年はその無念の気持ちを晴らしたかった。その思いが通じたかのように、当日は絶好の登山日和となった。上日川峠はこの晴天を見込んで、マイカーで駐車場は満杯の状況、新緑の山道は大勢の登山客とセミの鳴き声とで大賑わいだった。
我々Ｂ班は、ラジオ体操、自己紹介等を済ませて出発したところ、すでに他のパーティは歩き始めていて、最後となった。しかし、先頭の本田さんはあせらず、じっくりとペースを保ち、市民参加者４名を含めた 11 名は誰一人遅れることなく、終始快調に歩くことができた。
大菩薩峠からの富士山の眺めは、何度見ても素晴らしい。さらに、稜線を吹き渡る涼しい風がなんとも心地よい、これだから、山はやめられない。今年の市民登山は実行委員が２回も下見に来ていたと聞き、改めて委員の準備の大変さとその熱意に感心させられた。こうして今年の市民山行を無事、楽しく終えることができ、委員の方々のご苦労に感謝します。

《市民感想》

### 大菩薩嶺への市民登山に参加して

B班　吉本真知子

平成 30 年６月３日の天気が１週間前からずっと気になっていました。
きちんと食べて、良い睡眠をとって、ウオーキングもしっかりやって、６月３日に備えようと思っていました。
そして当日、大菩薩嶺に足を踏み入れた登山初心者の私。
B 班の先頭を歩く本田愛子さんの足跡をトレースしながらの一歩一歩でした。
「大丈夫？速ければ遠慮なく言ってね」と気遣っていただき、全てが楽しめました。カラマツ尾根を過ぎたあたりから、振り返って富士山が見えた時は「わあー」「おー」体の一番深いところからの思いは言葉や文字で表現できない！
哀しいときも、嬉しいときも、不動の富士山がそこにあってくれると実感できる瞬間でした。
山を歩くということは、体の重さを地球の中心に流し込むようなイメージです。急がずとも、こういうことを繰り返していればいい、とゆったりとした気持ちを味わいました。
用意周到な準備、私のような体験の少ない参加者への心遣い、各役割を完璧に遂行された岳人あ

びこの皆様に改めてお礼申し上げます。
有意義な一日をありがとうございました。

## C班

### 好天に恵まれた

C班リーダー　高橋英雄

市民登山（大菩薩嶺 2057m～大菩薩峠）が６月３日（日）に実施されました。

今年度はバス２台（中型車、小型車）で、中型車にはＡ班とＢ班が、小型車にはＣ班とＤ班が分乗し、一路、上日川峠をめざしました。我孫子駅南口 5：40→北柏駅南口→柏インター→外環道→中央道と進み、談合坂 SA でトイレ休憩をとりましたが、車が満杯でした。

勝沼インターを下り、甲斐大和の駅前を通って景徳院あたりから山の中に入って行きます。道路が狭い上、カーブが多く、大型バスが通行できないのがよく分かります。

上日川峠（ロッジ長兵衛）に着くと、すでに車、登山者で一杯でした。トイレを済ませ、各班ごとに分かれて、注意事項やら自己紹介、任務の紹介、体操などをして出発しました。

福ちゃん荘から唐松尾根を登るにつれ、視界が開け、目には木々の緑、小鳥の声、絶景富士山まで揃いぶみです。何といっても好天に恵まれたことが一番です。

雷岩も多くの登山者で一杯でした。富士山を背景に全員で集合写真を撮り、山頂の大菩薩嶺に向かいます。ここでも班ごとに写真を撮り、雷岩に戻って昼食をとりました。次の休憩地点は大菩薩峠ですが、トイレを済ませて直ぐに出発しました。石丸峠から坂を下った車道にバスが待機しているからです。

市民の方々は良く歩いてくれましたし、怪我人もなく本当に良かったと思っています。帰りの高速道路は予想通り、大渋滞に巻き込まれましたが、事故もなく無事に帰途につきました。皆さま、ありがとうございました。

《市民感想》

### 大菩薩山行に参加して

Ｃ班　向　治男

朝４時前に起きて身支度を済ませて、成田線の１番電車で湖北駅から我孫子駅へ。昨年の市民山行は都合で参加できなかったので、約２年ぶりの山行でちょっと不安がよぎります。

我孫子からは、バスで北柏を経由して一路大菩薩嶺登山口のロッヂ長兵衛に向かいます。
私は、いつもサポート性の高いタイツを穿いて行くのですが、このタイツは締め付けが強くて、毎回バスで気持ちが悪くなります（食事をすると治るのですが、その食事がなかなか・・・）

ロッヂ長兵衛に到着すると、大混雑でバスを停車させるのも一苦労の状態です。梅雨前最後の晴天日曜と言う予報に誘われて、皆さん登山にやって来たのでしょう。ロッヂ長兵衛のトイレは混んでいたので、私は福ちゃん荘まで我慢することに。樹林帯をハルゼミの蝉時雨を聞きながら、気持ち良く進みます。ハルゼミも種類がありますが、自宅近辺にはいないので馴染みがありません。耳に残った鳴声を頼りにネットで調べると、どうもエゾハルゼミのようです。福ちゃん荘で一番にトイレを済ませ、雷岩へ唐松尾根を進みます。急登の途中、樹林帯の切れ間から富士山がきれいに見え、少し登る度に少しずつ景色が変わる富士山の写真を何枚も収めました。雷岩に到着すると開けた尾根で、これまた富士山が良く見えます。頂上の大菩薩嶺に登り、雷岩に戻ってから昼食を取りました。何て事の無いコンビニのおにぎりでも、こういう場所で食べると格別の味です。

昼食後は、介山荘まで眺望の良い稜線を歩き、富士山をずーっと眺めながら気持ち良く石丸峠に到着。ここから車道までの下りですが、バスの待ち合わせ時間が迫ってきており、ペースアップ。そろそろ膝がヤバイかなと思うところで、バスが待つ車道に到着して、ほっとしました。
今回も、妻と二人で大変お世話になりました。すごく楽しい山行であり、また今までで１番富士山を沢山眺めた日でした。どうもありがとうございました。

## D班

### 市民登山を振り返って

Ｄ班　外崎　蓮

３月早々に市民登山実行委員会を立ち上げ、委員７名で一連の作業に当たってきました。
大型バスはどこまで入れるのか、登山道に危険な箇所はないかなど下見は絶対に欠かせません。

1回目の下見は4月1日。あいにく上日川峠に通じる初鹿野線は冬季閉鎖中でした。折角なので、雨天時のための見学場所を2箇所ほど調査しました。

2回目は4月22日。石丸峠から林道に下る途中で、予期せぬ林道がもう1本現れたのにはびっくりしました。また、気がかりだった参加人数も手ごろに収まり、予算を組み立てる上でも事なきを得ました。あとはお天気です。二度も下見をしておいて、登山日が雨ではこの世に神も仏も絶対に居ないと思います。居ました。梅雨を前にして上天気にしてくれたのです。初鹿野線は大型バスが入れないので、中型と小型のバスに二班ずつ分乗することにしました。分かれたことにより、全員のお顔が見えないのが残念でしたが、仕方がありません。

上日川峠は予想通り、車と人で混雑していました。そんな中でも当会の四パーティは整然と出発していきます。林の中に入ると、市民の増田さんが、木漏れ日の空間が緑色に見えるとおっしゃるほど、木々の緑がきれいでした。半分ほど登ると、背後に冠雪した美しい富士のお出ましです。大菩薩嶺ではカメラの順番待ちができるほど。昼食もそこそこに大菩薩峠に向かいました。ここは中里介山の小説「大菩薩峠」で知られている所です。大半の人はここから下山して行きますが、私たちはもう一登りして、熊沢山の向こう側に下りました。広大な草原の石丸峠は別天地でした。ここに足を延ばさないのは損というものでしょう。小金沢連嶺と別れ、カラマツ林をどんどん下って、バス会社との約束時間すれすれに林道出合に下りることが出来ました。

喉はもうカラッカラ。席に着くと直ぐに、バスの冷蔵庫で冷やして頂いたビールとウーロン茶で喉を潤しました。坂道を下った景徳院前の公衆トイレで用を足すと、あとは居眠りが襲ってきます。ひとまず目が覚めたところで、市民の方々に感想を述べて頂きました。

中でも毎年参加して下さっている李さんが、「また来年も参加したいと思います」と宣言。大拍手が沸き起こりました。当会の会員も実行委員のメンバーも、この言葉だけで充分でした。また来年お会いしましょう。

《市民感想》

## 岳人あびこの市民登山に参加して

D班　伴田賢五

私が登山らしい登山を始めたのは4年前で、年齢は現在 70 歳を少し超えている。登山は学生時代の山好き「山男」の友人と二人で、またはその仲間達数人と、春から秋にかけ月に一回程度です。いつもリーダー・ガイド役を務めてくれているその友人が、今年に入って「足のかかとに痛みを感じるのだ」ということで、今年は5月までまだ一度も登山できず、うずうずしていたところ、5月1日付発行の「柏市広報」で市民登山募集の広告を発見、しかも登る山は「大菩薩嶺」。
日本百名山だし、登ってみたい山のひとつでしたから、早速応募しようと説明会に出席し、申し込んだ次第です。

6月3日登山当日は朝から一日中ほぼ快晴、気温も夏日の暑さ。登り始めて間もなく騒がしい春セミの声、そして山の中腹辺りではウグイスなど小鳥の歌声。2000m近い高地は微風で実にさわやか。いい天気に恵まれ峠からの眺めは、ガイドブックなどで「「晴れていれば富士山の展望は素晴らしい」と紹介されていた通りの絶景！！その富士山には二度登ったことがあるだけに一際感慨深く眺め、何枚か写真を撮りました。そして尾根歩きは本当に爽快でした。深田久弥の「日本百名山」やガイドブックには「峠はカヤト」（茅におおわれた尾根）と書いてあったから、茅葺き屋根の茅を想像していたのに、私の目には背丈の低い笹の群生にしか見えなかったのは意外でした。（でもあれを登山家たちは「カヤト」と言うのかな？）

私にとって今年初めての登山だったからか、下山の終り頃には少々足に来ていました。一方女性軍は人数の多さもさることながら皆元気そうで、改めて「山女」のパワーには正直驚かされました。これからも日々筋トレなどで体力作りに努め、あと数年は何とか高い山にも挑戦したいものだと考えています。皆様のお陰で、いい登山を楽しむ事が出来ました。有難うございました。

《市民感想》

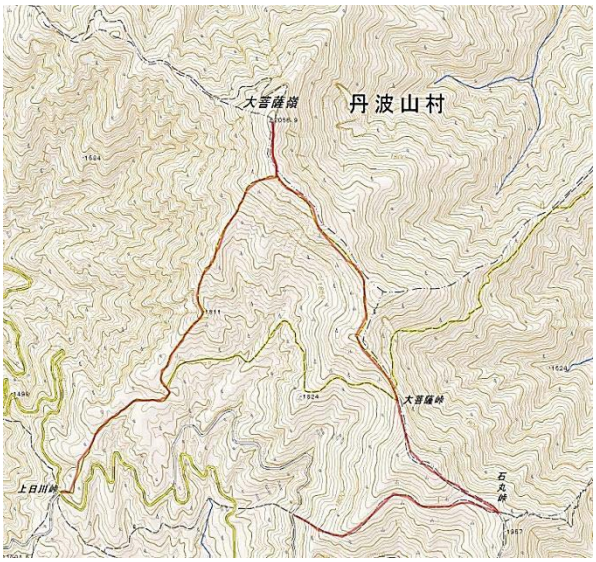
D班　増田なをみ

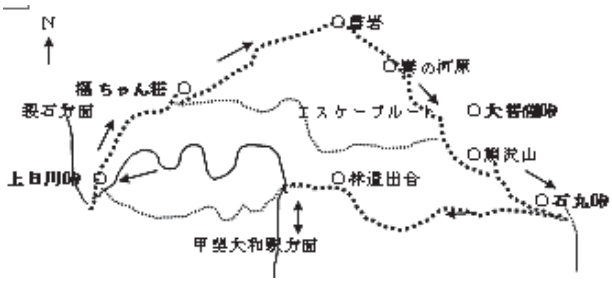
昨年の安達太良山に続いて二度目の参加です。バスの中では、DVD で山のノウハウや、素晴らしい山の景色が映し出され、早朝出発で睡魔と闘いながらも楽しませていただきました。上日川峠から新緑の中を、班の方に木々や花や鳥の名前を教えて頂きながら歩き、雷岩から大菩薩峠まで素晴らしい富士山の雄姿に感動し、石丸峠まで広がる笹原に開放的な気分に浸る。そしてまた、上日川峠までどこまでも続く新緑の唐松林の中を歩き、そのどれをとっても楽しく満足感でいっぱいでした。

実は大菩薩嶺には何度も行っているので、いつもの道、いつもの景色とあまり期待していませんでしたが、今回、いつもの逆コースで、季節を変え、一緒に行くメンバーにより、また新たな発見

と感動があるとつくづく思いました。
岳人あびこの皆さま、色々と有難うございました。

概念図




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 大菩薩嶺～大菩薩峠 | | |
| 月日 | 平成 30 年 6 月 3 日　（日） | | |
| 山域 | 大菩薩 | 地形図 | 1/25000　大菩薩峠 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | |
| 目的 | ①市民の方々と一緒に山に登る。　②富士山と南アルプスの展望 | | |
| 費用 | 8,000 円 | 交通機関 | 鎌ヶ谷観光バス 2 台(中型・小型) |
| 行程 | 我孫子駅南 5:40→北柏駅南 5:50→柏 IC→外環・中央道→談合坂 SA（トイレ休憩 15 分）→勝沼 IC→国道 20 号線→甲斐大和駅前→景徳院入口→（初鹿野線）→上日川峠（ロッジ長兵衛）⇒福ちゃん荘⇒（唐松尾根）⇒雷岩⇒大菩薩嶺⇒雷岩⇒大菩薩峠（介山荘）⇒熊沢山⇒石丸峠⇒車道降り口（上日川峠下）（バス）→勝沼 IC→談合坂 SA（トイレ休憩）→柏 IC→北柏駅南口→我孫子駅北口ふれあい広場前<br>＜行動時間：約 5 時間＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・上日川峠でバスを降りたらトイレを済ませ、班毎に簡単な自己紹介と体操を行って出発します。次のトイレのある福ちゃん荘まで登り 15～20 分です。<br>・唐松尾根を登って（約 1 時間）稜線上の雷岩に着いたら左手へ。大菩薩嶺（展望なし）を往復し、雷岩付近で昼食の予定です。（全員で写真撮影、第 1 候補）<br>・次の大菩薩峠（介山荘）までは、右手が開けた気持ちの良い稜線歩きです。介山荘でトイレを済ませて下さい。雷岩から大菩薩峠まで約 40～50 分です。<br>・その先の石丸峠は広大な笹原のＴ字路です（全員で写真撮影、第 2 候補）。ここから方向を変えて車道に向かって下山です。一つ目の林道を右手に行き、再び登山道へ。道が急なので、足元にご注意。<br>・車道にバスが待機しています。朝と同じバスに乗車。帰路、景徳院前の公衆トイレに寄ります。<br>**＊車道着 14：30 がバス会社との約束時間です。間に合わない場合は、大菩薩峠から下山します。** | | |

| | |
|---|---|
| 参加者 | 【統括リーダー】室崎<br>【Ａ班】藤家Ｌ、高橋芳 SL、新谷、一氏、深草、小野、【市民】水牧、東別府、塩原、川村、小板橋　計１１名<br>【Ｂ班】北田Ｌ、本田 SL、矢野貞、渡辺清、森岡、 小島洋、矢野朝、【市民】吉本、石神、福山、吉野　計１１名<br>【Ｃ班】高橋英Ｌ、村松 SL、桐生、田嶋、箕輪、蟹江、【市民】室崎育、向治、向智、北田　計１０名<br>【Ｄ班】外崎Ｌ、村越 SL、武内、石塚、板倉、小島徹、 飯合、【市民】伴田、李、何、増田　　計１１名<br>＜会員 26 名　市民 17 名　計 43 名＞ |

唐松尾根を登る

**市民登山実行委員**
室崎（委員長）、高橋英、外崎、森岡、藤家、蟹江、小野

＜１０５８＞

## 恵みの森（大滝沢）・山神杉

小林　安代
田嶋　まり

中の滝で記念撮影（恵みの森）

### 大滝沢

小林安代

恵みの森は、南会津郡只見町布沢地区に位置する標高約 610mにある面積約 900ha にも及ぶブナの森である。

新緑のブナ林とブナに囲まれたナメ沢を歩く自然探訪の旅に６月中旬の早朝､我孫子駅を出た。東北新幹線の新白河駅で降り、駅レンタカーを利用して「森林の分校ふざわ」まで行き、待ち合わせていた『ブナの山旅』著者の坪田和人氏（村松山行部長のご友人）にお会いする。坪田氏は、我孫子市在住でありながら、会津若松にも住処を持ちブナを長年観察研究し続けている方である。

分校から車で５分位行った所に、数台分の駐車場スペースと「恵みの森入口」がある。そこで長靴に履き替え、わくわくしながら大滝沢に降りた。坪田氏のガイドで、何度か沢を渡りながら沢沿いの道を上流に向かって進み、またナメ沢をじゃぶじゃぶ歩いた。両岸に適度な間隔のブナの木を見上げライトグリーンの光を浴びながら進んだ。途中の「下ノ滝」は、幅広い２段の滝で夏は水遊びができる。ここから「中ノ滝」までは、一枚岩の沢床が続くが、所々に水が渦を巻いて削り取るためにできる丸い甌穴に注意を払いながら、長靴でも滑る所もあるので気を付けて歩いた。終点の「中ノ滝」の滝は少し高さがあり気持ちが良かった。帰りには、来るときに気づかなかったイワナやヤマメが泳いでいるのが見つけられ、沢歩きの楽しさを大いに満喫した実に爽やかな『恵みの森』だった。今日の宿泊地へ向かう途中、滝沢温泉・松の湯で汗を流した。なんと入湯料１００円は今

時珍しい。宿泊地は、只見青少年旅行村『いこいの森』でキャンプ・バンガロー・バーベキューハウス等施設も充実している。団体にも対応しているバーベキューハウスを独占して、豪勢な夕食にお酒もすすみ、団欒の花を咲かせた後、翌日の山神杉探訪に思いをはせバンガローの床に就いた。

## 山神杉～ブナ平

田嶋まり

夜中にバンガローを叩きつける雨の音で目が覚めた。恵みの森２日目のブナ旅は、前日に引き続き坪田講師の案内で、入叶津登山口から山神杉～ブナ平までを歩き、より身近にブナを観察した。

深夜の雨も止み、標高差 320m の山を登る。途中、沢ぐるみやトチノキ、花びらに突起がある天狗スミレなどの説明を受けながら登っていくと、山肌がえぐられて岩が露出している所が何カ所かあったが、これはアバランチシュート（アバランチは「雪崩」、シュートは「氷塊の落下」の意）と呼ばれ、豪雪地帯の急峻な斜面で何度も雪崩を起こしてできる地形だそうだ。また、森林浴が気持ちがいいのは木からフィトンチッドという物質が出ているためで、フィトンはロシア語で「生き物（悪い菌）」、チッドは「殺す」と言う意味でこれは人間には良い作用を及ぼすとのこと。

山神杉に行く途中、江戸時代に作られた旧八十八里跡の石積み付近でブナの話を聞く。
ブナは根元に風呂桶一杯分の水を必要とする。葉で受けた水をまっすぐ幹を伝わらせて根元に行かせるため樹皮はなめらかで、その表面を流れる水を樹幹流という。当日は雨のお陰で、樹皮に一本の筋となって流れる樹幹流を見ることが出来た。斜面のブナの根元の幹が曲がっているのは雪の重みのため。曲がっている幹の下部にはトゲがたくさんついているが、これは斜面に生えるブナが自分の根元に水が来すぎると土が掘れて自分が倒れてしまうのでそれを防ぐため進化してトゲを作り、樹幹流の流れの方向を変え、根元から少し遠いところに落ちるようにしている、等とても貴重なお話を聞くことが出来た。山神杉から下っていった先のブナ平は素晴らしいブナの森でまさにフィトンチッドで浄化される思いがした。地面の落ち葉の深さを測ってみたら約２０㎝。１年間の落ち葉の堆積は約２ミリなので、２０㎝は 100 年分の堆積。普通に踏みしめている地面にも長い自然の歴史があるのだと感動した。ブナの巨木、通称ブナ次郎はその場での計測で幹周りが約 5m。その美しい立ち姿から、「ブナ次郎」より「ブナ姫」が相応しいとご自分の命名にご満悦の坪田さん。

2 日間に渡りブナ林を観察し沢山のブナのお話を聞くことが出来、また坪田さんのブナ愛にも触れられて、とても有意義な楽しい山行となりました。心より感謝申し上げます。

ブナ次郎の前で（山神杉）

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 恵みの森（大滝沢）・山神杉 | | |
| 月日 | | 平成 30 年 6 月 15 日(金)～16 日（土） | | |
| 山域 | | 只見 | 地形図 | 1/25000 只見 |
| 形式 | | ﾊﾞﾝｶﾞﾛｰ泊 | グレード | １Ａ |
| 目的 | | ブナ林探訪、ブナに囲まれたナメ沢を歩く | | |
| 費用 | | 18,000 円 | 交通機関 | ＪＲ（新幹線）レンタカー |
| 日程 | 一日目 | 我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:26（新幹線）→新白河駅 7:43/8:05（ﾚﾝﾀｶｰ）→289 号→道の駅きらら（休）9:45/10:00→森の分校ふざわ（坪田氏と合流）10:30/10:35→布沢川恵みの森入り口 10:40/10:50 恵みの森・大滝沢遡行⇒下の滝（一枚岩）11:50⇒でこ岩 12:30⇒中ノ滝 12:45/13:15（昼）⇒恵みの森入り口 14:25/14:30→森の分校（木の化石観察）→滝沢温泉 15:30/16:00→ﾌﾞｲﾁｪｰﾝ只見店（買物）→只見青少年旅行村いこいの森 16:50 着　バンガロー泊（４棟）＜歩行時間：3 時間 40 分＞ | | |

| | | |
|---|---|---|
| | 二日目 | いこいの森 6:00→浅草岳入叶津登山口 6:30/6:50（講師説明）⇒旧八十里街道跡 7:30⇒栃の木清水 8:20⇒山神杉 8:45/8:50⇒ブナ太郎 9:30⇒ブナ次郎 9:35/10:00⇒入叶津登山口 11:20/11:40→そば処八十里庵（昼）11:40/12:40→深沢温泉むら湯（浴）13:05/14:05→道の駅下郷 15:20/15:30（休憩）→新白河駅（ﾚﾝﾀｶｰ返却・反省会）16：20/17：47（新幹線）→上野駅 19:10/19:24→我孫子駅 20:03<br>＜行動時間：4 時間 30 分＞ |
| ルート状況 | | ①布沢川支流の大滝沢の下滝からの上流は一枚岩のナメ状になっており、とても歩きやすい。両側にブナ林が広がっている。<br>②山神杉へのルートは、明治以前に使われていた旧八十里街道とのことで、所々比較的広い道幅でジグザグに登っている。幕末、負傷した長岡藩の河合継之助がこの道を会津に向かって逃避したといわれる道。 |
| 参加者 | | 坪田（講師）<br>武内Ｌ, 村松 SL, 大平、北田、外崎、桐生、矢野貞、高橋冨、齋田、石塚、小林安、田島<br>男４名､女８名、合計 12 名＋講師１名 |

川のすぐ傍までブナ林が広がる（恵みの森）

**概念図**

＜１０５９＞

三ノ木戸山
（1,177m）

村越　百々代

山頂付近で

道迷いのルートをたずね、地図にない道を歩く三ノ木戸山は奥多摩駅から六ツ石山、雲取山に続く石尾根の道のわきにある山です。昭文社の地図によると三ノ木戸山の脇を通り過ぎてから戻るルートになっています。

今回は石尾根からまっすぐに山頂を目指す、地図にない道をたどっていくという計画です。
また、この山での道迷いの学習を以前、机上研修として行っていました。今回の山行は、実際にどこの地点で迷ったのかの検証も大事な目的の一つになっています。さらに、小島さんの提案で地図とコンパスの実践も行いました。

奥多摩駅を降りて細い路地に入り小さなお店の間を通って氷川大橋の手前に出ます。そこでまず、１回目の地図とコンパスの使い方をみんなで確認しました。目的地の方向を確かめ先に進みます。橋を渡って青梅街道を少し進み、右手に入ると私がよく出かける『むかしみち』の案内板があります。『むかしみち』に入ってすぐのところにある鳥居をくぐって石段を登って行く方が近道らしいのですが、最初から長い石段はきついというのでそのまま車道を進みました。内心ほっとしました。

舗装されたなだらかな林道を歩いた後、登山道に入ります。六ツ石山方面の道標に沿って歩きます。ずっと登りですがとても歩きやすい道です。尾根道に沿って昔の集落の跡がありました。小さな絹笠集落です。家は残っていないのですが、杉

林の中にしっかりと石垣が築かれていて、その上が平らになっていて１段に１軒ずつ家があったのがわかります。そのまま登って行くと古い小屋がありました。各家に水を配給するための貯水槽です。水の出口が７つあったので家は７軒だったことがわかりました。でも、こんな山深いところでの暮らしはさぞ大変だったでしょう。

杉林、檜林の道を登って行くと次に白樺などの明るい落葉樹の林に代わっていきます。そのまま登りきった所に六ツ石山と鷹ノ巣山に続く標識がありました。ここで地図とコンパスを使い、三ノ木戸山の方向を定めます。

地図にはない道があり、青いリボンが２本ぶら下がっています。コンパスの示す方向に進んでいるので、そちらの道を進みます。しばらく行くとあれっと思うほど広い場所につきました。あたりを探すと石が並べられたた上に、三ノ木戸山と書いてある白いプレートを見つけました。確かに山頂でした。

事前の下見ではこのプレートが見つからなかったそうです。広い山頂を進むと古い東屋のような場所があり、そこの柱にも三ノ木戸山のプレートがありました。標高が同じなのでこのあたり一帯が山頂なのでしょう。

キリが深くなり雨も落ちて来たのでそこで食事をとり、下山することにしました。

地図とコンパスで方向を確かめ石尾根に合流する方向に進みます。予想通り石尾根に合流することができ、気持ちの良い尾根道歩きです。六つ石山方面に進むと三ノ木戸集落へ降りる看板があり、そちらの道を進みました。しばらく降りていくとモノレールのレール？が下から登ってきて登山道に沿って続く道になりました。そのままレールに沿って進むと右手に作業小屋があり、レールはそのわきから暗い崖をそのまま降りて行きました。

作業小屋の前の登山道を少し上がると車がＵターンできる広場になっていて奥多摩駅を示す標識がありました。

迷った人はこの標識を見つけることができずにレールに沿って道のないところを降りて事故にあったのだと考えられました。

ここは三ノ木戸集落といい、廃屋が何軒かあるのみ。モノレールは鹿除けのものだという説もあります。でも作業小屋のモノレールは、谷底のワサビ田からワサビを運び上げるためのもので、事故者はこちらのモノレールに沿って下って転落したのでしょう。

それにしても、レールがあるとはいえ、こんな暗くて道のないところをなぜ降りて行ったのか。ありえない選択だと思いました。

私たちはそのまま林道を降り、城集落に着きました。ログハウス風の建物の空き地に車が二台止まっていましたが、近くの大きな家は空き家で静まり返っていました。行きには通らなかった羽黒山三田神社でお参りし、きつい石段を下りて無事に奥多摩の町に着くことができました。

今回の山行では深い霧の幻想的な景色、咲きそろったヤマボウシの花がとても素敵でした。

駅に向かう路地の小さなお店で食べたお蕎麦もおいしかったですよ。

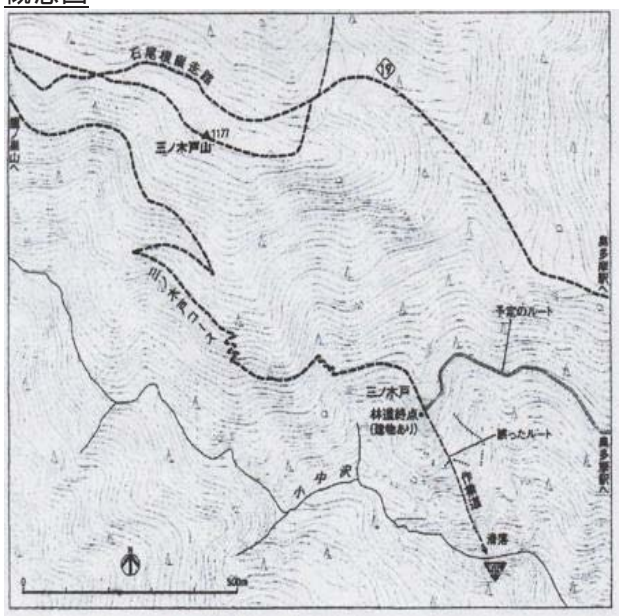
山頂ので標識

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 三ノ木戸山 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 6 月 23 日（土） | | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1/25000<br>奥多摩 | |
| 形式 | 日帰り | グレード | 2A | |
| 目的 | 机上研修（道迷いの事例）を活かし、実際に現場をたどってみる。 | | | |
| 費用 | 2,670 円 | 交通機関 | ＪＲ | |
| 行程 | 我孫子 5:31→日暮里→新宿 6:30/6:46（ホリデー快速）→奥多摩駅 8:21/8:40⇒氷川大橋⇒羽黒山三田神社下の車道を上がる⇒石尾根登山口 9:40/9：45⇒三ノ木戸山分岐 11:30⇒三ノ木戸山頂 11:35/12:20（昼食含む）⇒三ノ木戸山と六ツ石山との鞍部 12:30/12:40⇒モノレール出現 13:30⇒林道終点 13:50/14:00⇒羽黒山三田神社 14:55/15:00 ⇒ 奥多摩駅 15:15/16:17（ホリデー快速）<br>→立川→東京→上野→我孫子 19：05<br>＜歩行時間：約５時間＞ | | | |
| ルート | ・石尾根の登山口は、三ノ木戸林道右 | | | |

| | |
|---|---|
| 状況 | 手の入口に看板がある。羽黒山三田神社は、林道から仰ぎ見る高さにあり下山時に通過する方が楽。<br>・石尾根と三ノ木戸山との分岐には木の枝に、ブルーのリボンが２本あるのみで、三ノ木戸山の表示はなし。坂を上がると広い台地にあり、一角に「三ノ木戸山」と書かれた白いプレートがある。そのまま稜線をたどれば、石尾根に合流する。<br>・六ツ石山方面に進むと、三ノ木戸集落へ下る看板あり。地形図には「迷」とあるが、よく歩かれていて道もいい。途中からモノレールが出現し、三ノ木戸集落の作業小屋の横から谷底へ伸びている。<br>・苔むした長い林道を下り、下の集落からは近道をしながら奥多摩駅に戻る。 |
| 参加者 | 外崎 L、村越 SL、本田、小島洋、矢野朝<br>男1　女４　計5名 |

概念図




＜１０６０＞

**鳳凰三山（薬師岳～観音岳～地蔵岳）**
（2,780m）（2,841m）（2,764m）

**蟹江 和子**

**夜叉神峠にて**

昨年、雨のため中止になったので、今年はリベンジ！

今年も梅雨の真っただ中だったので、心配をしたのだが、実施ができ嬉しかった。

甲府駅の激安ホテルに前泊（甲府駅　徒歩６分＠２７８０円、安い割には快適で良かった。

（２日目・曇り）

５時出発、ジャンボタクシーで夜叉神峠の登山口に入り、６時に登山開始をする。

１時間ほどカラマツ林の樹林帯を歩き、夜叉神峠小屋に到着。西側が開けていて天気が良ければ、白峰三山が見えるのだが、どんよりした曇り空で、視界はなく残念。鉄パイプで組み立てられた珍しい標識の案内で、杖立峠～苺平まで針葉樹林帯を登り続け、南御室小屋に到着。登りが続いたので小屋で一休み。小屋の脇に南アルプスの天然水の水飲み場があり、美味しい水を飲んでひと息ついた。

砂れきの道の砂払岳を過ぎた頃に森林限界となり、今日　泊まる「薬師岳小屋」が見えた。直ぐ近くのように見えたのだが、大きな岩、石に阻まれ、なかなか思うように進まなく、難儀をしてたどり着いた。岩の間にピンクの可愛らしいイワカガミの花が頑張って咲いていて、癒され、勇気づけられた。薬師岳小屋は改修工事が終わったばかりで、木の香りが残る新しい小屋で、とても気持ちが良く、人も多くなかったので、ゆっくり寝ることができた。夕食のおでんが美味しかった。

（3 日目・快晴）

朝食のお弁当を持って５時出発。小さな樹林帯を抜け、薬師岳山頂に到着、朝日が出迎えてくれ、白峰三山（北岳、間ノ岳、農鳥岳）の雄大な山容が目の前に見えた時は、感激、歓声が上がった。雲海の中から富士山も見ることが出来た。南アルプスの大パノラマを楽しみながら稜線を歩き、最高峰の観音岳、鳳凰三山の象徴、地蔵岳のオベリスクに到着。目の前のオベリスクは大きかった。圧倒されるような圧巻を感じた。鞍部には、たくさんの小さなお地蔵さんが祭られていて、可愛くもあり、珍しい光景で、何となく手を合わせたくなった。地蔵岳から砂地を下り、鳳凰小屋で、休憩とお水の補給。南アルプスの天然水は本当に美味しかった。小屋の庭に珍しい「キバナアツモリソウ（絶滅危惧種）」が 2～３輪咲いていて、皆が驚き、感動していた。ここから青木鉱泉までドンドコ沢コースを下る。

アップダウンを何回も繰り返す急傾斜の下りは、膝に応え辛かった。五色滝は見たものの、白糸滝、南精進ヶ滝は横目で見ながら通り過ぎ、ひたすら下った。途中、立ち休憩の時に皆でやったストレッチは、身体がほぐれ、とても気持ち良かった。下りも限界に来た頃、青木鉱泉の案内が見え、ホッとした。青木鉱泉で汗を流し、リラックスした心地良いひと時は最高だ。

梅雨にも関わらずお天気に恵まれ、目の前に広がった南アルプスの大パノラマに感激、とても充実した山行に大満足で、メンバーの皆様に感謝の気持ちでいっぱい。

観音岳頂上にて

地蔵岳とその左に浮かぶ赤岳

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 鳳凰三山（薬師岳～観音岳～地蔵岳） | | |
| 月日 | | 平成 30 年 6 月 23 日（土）～25 日（月） | | |
| 山域 | | 南アルプス北部 | 地形図 | 1/25000 鳳凰山 |
| 形式 | | 山小屋泊 | グレード | ２Ｂ |
| 目的 | | ① 富士山と白峰三山をはじめ南アルプスの大展望を楽しむ<br>② 白砂の美しい稜線歩きを楽しむ | | |
| 費用 | | 25,000 円 | 交通機関 | ＪＲ　ﾀｸｼｰ |
| 日程 | 一日目 | 我孫子 14:56→新松戸→西国分寺 14→立川 16:20/23→甲府 17:27<br>（駅前ﾎﾃﾙ泊） | | |
| | 二日目 | 甲府（ﾎﾃﾙ）発 4:50（ﾀｸｼｰ）→夜叉神峠登山口 5:40/5:50⇒夜叉神峠 7:00/7:05⇒杖立峠 8:30/8:40⇒苺平 10:25/10:35⇒南御室小屋 11:10/11:35⇒薬師岳小屋 13:10<br>＜歩行時間　6 時間 30 分＞ | | |
| | 三日目 | 薬師岳小屋 4:40⇒薬師岳 4:50/5:00⇒観音岳 5:30/5:50⇒アカヌケ沢ノ頭 7:10/7:20⇒7：25 賽の河原 7:25/7:30⇒鳳凰小屋 8:15/8:25⇒白糸の滝 9:55/10:05⇒青木鉱泉 13:40/14:50→ﾀｸｼｰ →韮崎 15:30/16:53→立川 18:09/18:11→西国分寺→新松戸→我孫子 19:44<br>＜歩行時間　7 時間 0 分＞ | | |
| ルート状況 | | ・夜叉神峠登山口から峠まではカラマツ林の気持ち良い登山道で歩きやすかった。<br>・夜叉神峠から南御室小屋までの縦走 | | |

| | |
|---|---|
| | 路は立派な道標が設置されており問題なし。<br>・南御室小屋には豊富な水場があり、薬師岳小屋には水場がないので、必ずここで水の補給をしておくこと。<br>・薬師岳から地蔵岳までの縦走路は、花崗岩に赤丸印のペンキがついているので、見落とさないようにして歩くこと。<br>・地蔵岳からの下りは、最初は砂地をジグザグにおりていき、まもなく樹林帯に入る。<br>・鳳凰小屋からのドンドコ沢へ下るルートはかなり急傾斜で、登山道が一か所寸断されていて、数十メートル大きく高まく場所があるなど、予想以上に時間がかかった。<br>・このルートは5～6か所沢を横切る場所があるので、増水時は注意する必要がある。 |
| 参加者 | 北田 L、森岡 SL、矢野貞、蟹江、佐藤、石塚、小島徹<br>男４　女３　計７名 |

概念図

＜１０６１＞

蓼科山
(2,531m)

小島　洋子

山頂は霧の中　ご来光望めず（霧と強風の山頂）

蓼科山の計画書が配布されましたので是非参加したいと思いました。蓼科山に登頂が出来てとてもうれしいです。今回で２回目になります。岩山なので足に負担がかかりますが・・・。

さて、当日蓼科牧場を 10 時 10 分スタート。曇り空の中、ゴンドラリフトもありますが、草原の端を通り、急坂を登っていきました。ルピナスのピンクや紫の花がきれいに咲いておりました。ビジターセンターまで 40 分の歩程です。20 分で七合目一の鳥居。いよいよ石のゴロゴロ道です。馬返し、将軍平と足を進めていきました。この辺りから雨がポツリポツリと降ってきました。雨合羽を上だけ着用しました。花もイハカガミ、マイズルソウ、ゴゼンタチバナ、ウメバチソウの花々を見つけました。それらの花は足の重さを癒してくれました。蓼科山荘を経て蓼科山頂ヒュッテに 14.：50 到着。ヒュッテではピヤノが置いてありました。ステレオもあり、女性６人貸切でクラシック音楽とおしゃべりを楽しみました。

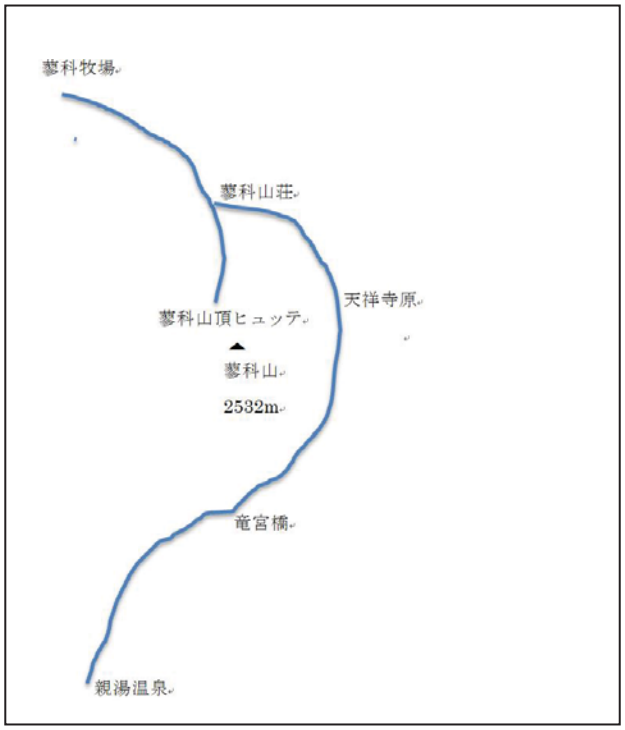
翌日、4 時起床。ご来光を仰ぐ予定でしたが、残念ながら叶いませんでした。残念。ヒュッテから空身で蓼科山頂に登頂しました。霧がかかっており、蓼科神社は目を凝らさないと見えないほどでした。ヒュッテから将軍平までは前日の雨でぬれており、慎重に降りました。その後は緩やかな下りとなり足の負担が軽くなりました。林の中、苔がとても美しいです。竜源橋に到着。林道に入

りました。カラマツの緑、シラビソの緑の中を歩いていますととてもいい気分です。ホテル親湯温泉に 13：00 到着。このホテルは老舗で本がたくさん置いてあり、とてもゆったりとしていてお風呂も素晴らしかったです。優雅にお茶を飲み、ホテルのバスで茅野まで送ってもらいました。予定通りに我孫子には 19：12 分に着きました。女性 6 名の参加で楽しい 2 日間でした。リーダーさん、参加のみなさま、ありがとうございました。

蓼科牧場から登山口までロープウエーの下を歩くがルピナスが綺麗

イワカガミ

**概念図**




**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 蓼科山 | | |
| 月日 | | 平成 30 年 6 月 29 日(金)～30 日(土) | | |
| 山域 | | 八ヶ岳連峰 | 地形図 | 1/25000 八ヶ岳 |
| 形式 | | 山小屋泊 | グレード | 2B |
| 目的 | | ゆっくり花とパノラマを味わう | | |
| 費用 | | 19,920 円 | 交通機関 | JR、タクシー、温泉宿送迎バス |
| 日程 | 一日目 | 我孫子 5:42→新宿 6:37/ 7:00（あずさ）→茅野 9:08 →タクシー→蓼科牧場 10:20⇒山頂駅 11:10⇒蓼科山 7 合目 11:40（昼）12:10⇒将軍平 13:45⇒山頂ヒュッテ 14:50<br>＜歩行時間　約 3 時間 40 分＞ | | |
| | 二日目 | 蓼科山頂ヒュッテ 7:00⇒ 山頂 7:10⇒将軍平 8:05⇒天祥寺原 9:40⇒竜源橋 11:50⇒親湯温泉 13:10/15:00→温泉宿送迎バス→ 茅野 15:50→新宿 18:07→我孫子 19:12<br>＜歩行時間　約５時間＞ | | |
| ルート状況 | | 天祥寺原から竜源橋までは沢沿いの道、そこから親湯温泉までの道は快適なカラマツ林。茅野駅までは温泉のシャトルバス（１５時発）を利用。<br>途中イワカガミ、ミツバオーレン、ゴゼンタチバナ、ツガサクラ、マイズルソウの可憐な花に何度も足を止める | | |
| 参加者 | | Ｌ新谷、ＳＬ高橋芳、斎田、本田、　小島、　吉澤　　女６名 | | |

＜１０６２＞

## 檜洞丸
（1,601m）

一氏　照美

バイケイソウの群落・ブナ林

檜洞丸山頂

記録的に早く梅雨の明けた６月３０日、お天気も快晴の中、檜洞丸への山行でした。

新松田からタクシーで檜洞丸ツツジ新道登山口へ。９時１０分登山開始です。はじめは小さな沢沿いを歩きます。両側の緑の中、プチ沢歩きを体験しました。木々の中をアップダウンの少ない穏やかな山道を歩きゴーラ沢出会いに到着。山頂に向かう人たちの休憩に混じって、沢登りの準備をする人たちもいて丹沢は沢登りのメッカだと知りました。

休憩後本格的な山登りが始まります。急登、岩交じりの登山道が始まります。山頂まで標高差が1,000mあるので長く疲れる山道です。11時10分頃展望台に着きました。特に展望が良いとは感じませんでしたが、ここからは、木の梯子、階段が多く出てきてきつさのピークです。なだらかな木道が出てくると、山頂はもうすぐです。

頂上は木々に囲まれた広場で、あちこちにベンチが用意されており多くの登山者が休憩していました。昼食後下山開始です。数多くの木の階段が現れ、滑らないように歩くので緊張の連続です。途中、ユーシン渓谷の分岐に丹沢特有のバイケイソウの群落があり、花が咲き乱れておりとてもきれいでした。すこし歩いていくと今度は、ブナの木々に囲まれた緩やかな道が現れ、少し霧も出て幻想的で心癒されるひと時です。

また、木の階段、岩、鎖場と気の抜けない山道を歩いて下山です。

17時25分筆沢公園橋が見えたときは，みんな一様に頑張ったと達成感でいっぱいです。

リーダーをはじめとする皆様のおかげで、楽しい一日を過ごすことができ感謝とお礼を申し上げます。

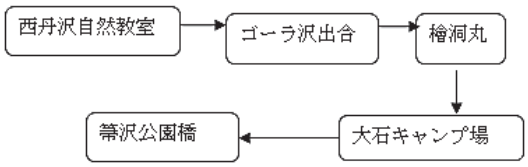
ブナ林を行く

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 檜洞丸 | | |
| 月日 | 平成30年6月30日 | | |
| 山域 | 丹沢 | 地形図 | 1/25000　中川 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2B |
| 目的 | 初夏の丹沢を楽しむ。 | | |
| 費用 | 5,000円 | 交通機関 | JR、小田急、ﾀｸｼｰ |
| 行程 | 我孫子 5:31/5:53→常磐線→北千住(千代田線に乗換)→代々木上原 6:36/6:37→新松田 8:09/8:20→タクシー→用木沢出会い/9:00⇒つつじ新道入口 9:10⇒ゴーラ沢出合 10:00/10:05⇒展望園地 11:10/11:20⇒石棚山稜分岐 12:35⇒檜洞丸 12:55/13:20⇒石棚山稜分岐 13:30⇒同角山稜分岐 14:00⇒石棚山⇒板小屋沢ノ頭⇒大石キャンプ場⇒箒沢公園橋 17:25⇒箒沢公園口 18:20/19:00→タクシー→新松田 19:47/21:02→代々木上原→我孫子<br>（歩行時間　７時間３５分） | | |

| | |
|---|---|
| ルート状況 | つつじ新道登山口からゴーラ沢出合までは比較的緩やかなアップダウンの繰返し1時間程。ゴーラ沢からは本格的な登り急登が始まる。1 時間程急登を登ると標高1,000mの展望園地に到着。展望園地からも急登が続き山頂の 1,601mまでの約 600mの登りはきつい。頂上近くでようやく木道のある平坦な場所に到着。ブナの立ち枯れが散見される。展望園地からは約 1 時間半で頂上に到着。下山路は頂上から 10 分ほど歩いた所にある案内板に沿って石棚山稜方面に進む。多少の登りはあるもののブナ林が良い雰囲気を醸し出している。テシロの頭、石棚山、ヤブ沢の頭、板小屋沢の頭などを通過。場所によっては急勾配が続き、滑りやすいルートとなるので注意しながら下る必要がある。渓流沿いに出るとロープは張ってあるが砂地を多少へつるようなところもあるので注意が必要。ここを過ぎれば大石キャンプ場までは気持ちのいい森林の中を歩いて行ける。大石キャンプ場（箒沢公園橋）からは 17：00 台のバスに間に合わなかったためタクシーを呼んで新松田に向かう。<br>下りでも 4 時間（登りとほぼ同じ）となったのは下山時の疲労と滑りやすい道のためだったと思われます。 |
| 参加者 | 北川 L、村松 SL、外崎、桐生、高橋富、小林安、蟹江、板倉、松下、一氏<br>＜男性 4 名、女性 6 名　計 10 名＞ |

**概念図**



＜１０６３＞

## チバニアン～大福山
（292m）

箕輪　完二

### チバニアン、地層の不思議を追う

チバニアンを背に

地元房総のレトロな鉄道に乗車し、夏の低山に登る。同時に最近話題のチバニアンを是非紹介したいと計画した。夏休みに入ると混雑が予想されるので７月の早い時期で、土日を避けて、計画してみた。浅い養老川の脇を越えてゆくので、雨天の場合も想定し、予備日を５日（金）とした。

当日は梅雨の季節にもかかわらず好天に恵まれた。しかし真夏日となり月崎駅からチバニアンへの往復と養老渓谷駅から梅ヶ瀬渓谷への入り口まではアスファルトで整備された道路を合計１時間３０分歩くことになり、炎天下で体力をかなり消耗した。

チバニアンについては２回ほど現地を見学、視察している。１回目は１年ほど前の秋に妻と、２回目は今年の３月に朝日カルチャーセンター主催の「房総を知る―チバニアン探検―」に参加し講師からいろいろと説明を受けた。その時は他の団体や親子連れにも会い、現地は混み合っていた。その内容については、まとめて後述することにする。感想では多くの人が初めての訪問でいろんな疑問も解けてすっきりしたとの声も聞かれ良かったと思う。チバニアンの帰りに永昌寺トンネルという将棋の駒型をした五角形で明治初期のトンネルを、体験見学をした。爽やかな通風もあり先人たちの工夫が詰まっていると感じた。

前半のチバニアンを少し飛ばし過ぎたこともあり、養老渓谷からの大福山への道のりは意外と

苦しんだ。養老渓谷の終点である日高邸跡地で食事をしたのち最終の登りで筋肉痛をおこし、途中で動けなくなってしまった。頂上へは３名で登ってもらうことにした。これらの反省として、朝食をしっかりとる。塩分を適切にとる。睡眠をとるである。猛暑の中、大福山とチバニアンに同行していただいた皆さんに感謝いたします。

**チバニアン**（ラテン語で「千葉の時代」）について｛「房総を知る－チバニアン－」参照｝

場所は千葉県市原市田淵。養老川に面する地層。地球の歴史（46 億年）は動植物の違い、氷河期や気候の変化などを基に分けられている。

大きくは三葉虫などがいた「古生代」。恐竜などがいた「中生代」。人類が誕生した「新生代」。に分けられる。さらにその中を 115 の時代に細分化をされている。

これらの細かく分けられた地質の名称はその時代の境界が最もよく観察ができる地層を世界で１ヶ所選び決定されている。その中で約 77 万年前から 12 万 6,000 年前にかけての時代名称がなく、代表的な地層も無かった。

チバニアンは海底で堆積した地層が隆起したもので、77 万年前に御嶽山が噴火し堆積した火山灰の層が見える。また地磁気の逆転現象が起きていたことがこの地層の土を採取，分析したことで判明した。地磁気の逆転は過去 360 万年だけを見ても 11 回確認されており、最後の逆転（写真赤色箇所）、から過渡期の磁極遷移帯（黄色箇所）を経て現在の正磁極（緑色箇所）に戻る様子が観察できる。

**概念図**

日高邸跡地

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | チバニアン～大福山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 7 月 2 日（月） | | |
| 山域 | 房総 | 地形図 | 1/25,000　　養老渓谷 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | １．夏の低山。レトロな小湊鉄道と房総の渓谷。2．チバニアン探索 | | |
| 費用 | 約 4,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、東武アーバン、小湊鉄道 |
| 行程 | 天王台 5:09→柏（東武アーバン）→船橋 5→千葉→五井(小湊鉄道)→月崎 8:02/8:12⇒チバニアン 8:50/9:10⇒永昌寺トンネル 9:43 ⇒ 月崎 9:55/10:04→ 養老渓谷 10:12/10:25⇒梅ヶ瀬渓谷分岐 10:45⇒日高邸跡 12:12/12:35(昼食)⇒大福山山頂 13:42⇒養老渓谷 16:23/17:23(反省会)→五井 18:25/18:36→千葉→船橋→柏→天王台 20:27<br>（歩行時間 4 時間 30 分） | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・梅雨の季節が過ぎ好天に恵まれた。しかし真夏日となり、チバニアンへの往復、梅ヶ瀬渓谷への入口までは、アスファルトの長い道のりとなり、炎天下で体力を消耗した。<br>・渓谷の登山道は比較的良好であった。しかし岩場も多く濡れていて滑りやすい部分も在ったので慎重に歩いた。 | | |
| 参加者 | 箕輪完Ｌ・中村育・村越・林・高橋富・室崎・箕輪カ（会友）<br>計７名　男性３名、女性４名（内会友 1） | | |

＜１０６４＞

# 美ヶ原～王ケ頭
（2,034m）

中村　八重子

## 「おもてなし」の山小屋と大草原

降り続く雨、西日本中心に集中豪雨に見舞われました。

美ヶ原高原の隣り、岐阜県でも大雨が･･･。
天気予報では、朝まで雨が残るが回復の兆しがあり、道路状況を確認し出発した。
松本駅に降り立った時にはすでに雨はあがっていました。迎えのバスを待つ間、松本城を見学した。アルプスの山々を背景に従え、真っ黒な外観が印象的でした。

三城登山口からの百曲がりコースは、敷き詰められた鉄平石が雨に濡れて滑るため、歩くことは出来ません。お世話になる山小屋のバスの人となる。旧式のバスは途中ガソリンを満タンにし、標高 2000 メートルの高原へと、ゆっくり進んで行った。風雨にあらわれた木々はあざやかでした。夕食までの間１時間散策する。小屋前の緩やかな道を 10 分程上ると牛伏山に出る。風が強い。東に下り、美ヶ原高原美術館の堀沿いの木道をあるく。夕食は心のこもった料理でした。

二日目、朝起きると窓の外は大展望です。朝食までの３時間散策する。美ヶ原高原随一の展望台、王ケ鼻を往復しパノラマを満喫した。コース上にはシンボルの美しの塔が鉄平石で作られていた。霧の中位置を知らせる鐘がつるされていた。かなり強い力でロープを引く。鐘の音が草原に響く･･･。道幅は広く歩きやすい。両脇には牧場のさくがどこまでも続いていた。
放牧されている牛がのどかさを物語っている。

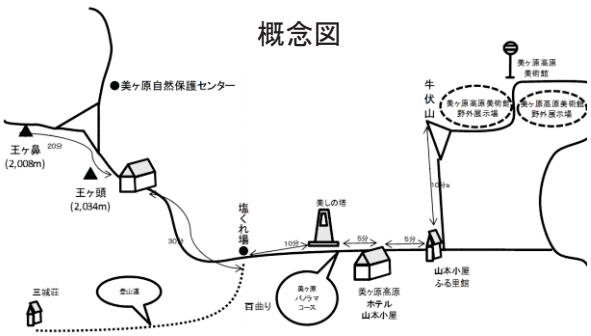
荒天のため、登山は出来ませんでしたが、おもてなしのある山小屋と大草原を満喫した山旅でした。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 美ヶ原～王ケ頭 | | |
| 月日 | 平成 30 年 7 月 8 日（日）～9 日（月） | | |
| 山域 | 北ｱﾙﾌﾟｽ前衛 | 地形図 | 1/25000 和田、山辺 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 花と北アルプスの大展望 | | |
| 費用 | 約 26,000 円（ジパング利用） | 交通機関 | JR、タクシー、山小屋送迎バス |
| 日程 | 一日目 | 我孫子 5:31→新宿 6:37/7:00(スーパーあずさ１号)→松本 9:36(市内観光)/14:10→送迎バス→山本小屋 15:40/16:15⇒牛伏山 16:30⇒山本小屋 17:30<br>＜歩行時間　約１時間＞ | |
| | 二日目 | 山本小屋ふるさと館 5:00～8:00（散策）朝食→10:10（送迎バス）→王ケ頭ホテル　10:25/11:05→ 松 本 駅 （ 昼 食 ） 2:20/14:49(スーパーあずさ 22 号）→新宿 17:26→我孫子 18:45<br>＜歩行時間　約３時間＞ | |
| ﾙｰﾄ状況 | ･美ヶ原は松本平の東に位置し北アルプスの展望台として人気の山。南北８ｋｍ、東西４ｋｍに渡って高原台地。<br>･百曲がりコースを除けば平坦な入門コース | | |
| 参加者 | 中村八 L、本田 SL、箕輪カ、渡辺清、箕輪完、石塚　　＜男性１名、女性５名　計６名＞ | | |

美しの塔

概念図



＜１０６５＞

湯ノ沢峠～ハマイバ丸～コンドウ丸
(1,640m)　　(752m)　　(392m)

～景徳院

吉澤　こう

大蔵高丸山頂

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 湯ノ沢峠～ハマイバ丸～コンドウ丸～景徳院 | | |
| 月日 | 平成 30 年 7 月 12 日(木) | | |
| 山域 | 大菩薩嶺 | 地形図 | 1/25000 大菩薩峠・笹子 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 初夏の花 | | |
| 費用 | 約 4,500 円 | 交通機関 | JR・タクシー |
| 行程 | 我孫子 5:34→新松戸→西国分寺→高尾 7:24/7:27→甲斐大和 8:33/8:40(タクシー)→湯ノ沢峠 9:15/9:30⇒大蔵高丸 10:15/10:20⇒ハマイバ丸 10:50/10:55⇒天下石 11:40⇒米背負峠 12:00⇒大谷が丸 12:20/12:40(昼食)⇒コンドウ丸 13:20⇒景徳院分岐 14:00⇒景徳院 15:15/15:50(タクシー)甲斐大和駅 16:15 発→高尾 17:14/23→西国分寺→新松戸→柏→我孫子 19:09<br>＜歩行時間約 5 時間半＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 未明の豪雨のため林道は雨でえぐられた箇所があった。ジャンボタクシーを予約していたので、車高が高く湯ノ沢峠登山口まで問題なく入ることが出来た。<br>登山道は滑りやすく特に下りは慎重に歩いた。 | | |
| 参加者 | 桐生 L、矢野貞 SL、林、小林安、蟹江、吉澤、箕輪カ(会友)<br>男性１名　女性６名　計７名 | | |

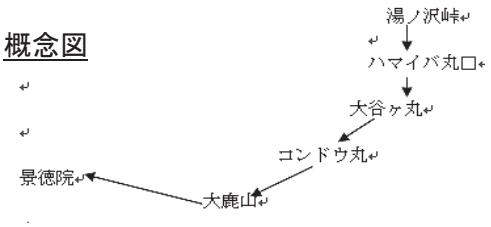
曇りか雨か登山目的地の天気が気になる出発でした。我孫子を５時３４分発、甲斐大和８時３３分着、ジャンボタクシーで湯の沢峠へ向かう道は雨で削り取られた溝があり、大きな岩も落ちていた。通行止めとなっていなかったので峠に着けました。鹿の親子の姿があり、可愛らしさに心が和みました。

峠を出るときは曇りで草原のピークへ出たが、富士山やアルプスの山々は見えずでしたが、花がたくさん咲いており、どの花の色も鮮やかに霧のせいか透明感のある澄んだ色に見えた。シモツケ、ヤマオダマキ、コウリンカ、タチフウロ、マルバダケブキ、フジイバラは白い花をたくさんつけひと際目立っていた。

大倉高丸のカメラポイントからも富士山は見えず、アップダウンを繰り返してハマイバ丸（破魔射場丸）何かの祈願所として矢を射った所かもしれない。米背負峠、大谷ヶ丸、コンドウ丸へ樹林帯が多く、白樺、落葉桜が目に入った。白や緑色が柔らかく優しい色に見えた。大鹿山へは行かず、分岐から影徳院へ向けて下る。

下山道はぬかるみ、滑りやすく慎重に歩いた。コースタイムは順調、甲斐大和の駅前はお店がないので、コンビニでビールとおつまみを購入、電車の中でお疲れさん会をして楽しい帰路につきました。

概念図



＜１０６６＞

大雪山（黒岳 ～ 旭岳） ・十勝岳
（1,984m）（2,290m）（2,077m）

石塚　あさ子
佐藤　清宏

北鎮岳からトムラウシ山

## 雄大な山容　黒岳～旭岳縦走

石塚　あさ子

ﾘｰﾀﾞｰ大平さんの過去30年の晴天の日の確率を信じて羽田より旭川空港に降り立ちました。
やはり天気は晴れ、さわやかです。途中スーパーで１人約２ℓの水を補給しタクシーで約２時間層雲峡に着きました。ラーメンで昼食をとり、重くなったザックを背負いﾛｰﾌﾟｳｪｲとﾘﾌﾄを乗り継いで一気に標高 1510mの７合目に上がります。ここが黒岳７合目の登山口になります。登山開始、最初から結構急登です。そして両脇には沢山の花畑が広がっています。

ﾁｼﾏｷﾝﾊﾞｲ、ｷﾊﾞﾅｼｬｸﾅｹﾞ、ｳｺﾝｳﾂｷﾞ、ｶﾗﾏﾂｿｳ等々、それぞれの花も大きく、色も鮮やかです。
さすがに人気の山なので、上から降りてくる人達と何人も擦れ違います。

花に癒され、励まされ約２時間半黒岳山頂に着きました。山頂からは雪渓の残る山々、スケールの大きな見事な展望です。石室の小屋はここから15分程下った所にあり、小さく見えます。

その間も両脇は一面広いお花畑で、写真担当の桐生さん､安代さんは大忙し､沢山シャッターを切って下さいました。石室到着。名前の通り石垣を積み上げて作った小屋です。寝袋と毛布を借り寝床を確保し、外で食事。背負い上げた2ℓの水は今日と明日の朝食で使い切ります。気温も低く寒いので暖かい食べ物、飲み物はうれしいです。

明日は天気も良さそうなので近くの桂月山にご来光を見に行く事になり早めに寝る事にしました。夜中外に出てみると、北斗七星、夏の大三角形、まるで手の届きそうな大きな沢山の星、見事な星空でした。翌朝は石室小屋を３時 40 分に出発して桂月岳にご来光を見に行きました。すでに2､3人カメラを構えて待っている人がいます。すばらしいご来光と雲海でした。そして２日目の出発、小屋の所に分岐点があり右側が北鎮岳方面、左側が北海岳方面、どちらも間宮岳分岐で一緒になります。私達は北鎮岳に向かって行きます。ここは雲の平、しばらく緩やかな道で、両脇にロープ張られていて広大な平原に沢山の花々、こまくさの花も見られます。お鉢平の展望台に着きました。目の前には大噴火によって作られた大きなカルデラ、今も有毒ガスが出ていると言うので立ち入り禁止です。北鎮分岐に荷物を置いて、北海道第２の高峰北鎮岳を往復しました。360°の展望でまだまだ雪が残る山々の展望を楽しみ、分岐に戻り、お鉢平を巻くように稜線を間宮岳へ向かいました。途中雪渓を登る所があり、雪はザクザクなので、アイゼンは履かないで登りきりました。振り返ると後ろには今歩いてきた平原が一望、まさに雲の平です。

お鉢平を眺めながら中岳を通って丘の様な所をひたすら登ると何もない平坦な所に出ます。さらに歩いていくと標識発見、ここが標高 2185 の間宮岳山頂です。とても山頂とは思えない。広すぎです。分岐を旭岳方面に向かい一旦下ります。そして前方に旭岳がやっと見えてきました。稜線脇にはまたお花畑、綺麗です。北海道最高峰の旭岳丸みをおびた大きな形をしています。道の両脇の雪渓の溶けて流れる水の音に癒されます。最後の登りは大きい急な雪渓の登り、アイゼンを履く事にしました。きついです。何とか雪渓を登り、アイゼンを外すとその先は靴が潜ってしまうほどのザレ場です。中々進みません何かの歌にある様に３歩進んで２歩下がる様な感覚です。それでも何とか登り切り旭岳山頂に着きました。ヤッター。頂上はﾂｱｰの人達等で賑わっていました。逆側からの登山者です。ガスがかかってきたが、晴れ間から雄大な大雪山系の山々が見られました。ここから姿見のﾛｰﾌﾟｳｪｲまで一気に下ります。ザレていて良く滑るので要注意。慎重に下ります。旭岳のこちら側は今までと全然様子が違い樹木のない絶壁です。下山途中、地獄谷と呼ばれる噴気口から白い噴煙が勢いよく出ています。単調な下りをひたすら下り、ﾛｰﾌﾟｳｪｲに乗り、タクシーにて美瑛の民宿たきがわに無事到着しました。北海道のスケールの大きな景色と沢山の花々に感動の山行でした。

## 沢山の「いっぱい」十勝岳

佐藤　清宏

３日目。美瑛町を出発したレンタカーは、十勝岳の頂上まで続いていそうな真っ直ぐな道を走る。途中、いっぱいの白樺の林が広がる。50 分で十勝岳望岳台防災シェルターに着く。これは突発的な噴火による噴石から身を守る緊急避難施設だ。十勝岳は活火山なのだ。望岳台からは、北に美瑛富士から南は富良野岳まで 2000m 級の十勝連峰が見渡せるのだが、今日は頂上部分にはガスがかかっていた。十勝岳からは盛んに噴煙が上がっている。緑は少なく花もあまり期待していなかった。赤茶けた火山礫や泥流跡の登山道を登り始めた。すると、白い花がいっぱい咲いている。エゾイソツツジとエゾノマルバシモツケだ。十勝岳避難小屋から左に急カーブする。直登はできない。登山禁止の前十勝岳コースには踏み込めないようにロープが張られている。雪渓からの小川を渡り、急坂のガレ尾根を登る。赤土の上に石がいっぱいゴロゴロしている。足元をみると、イワブクロが咲いている。田中澄江が『花の百名山』で十勝岳の花と紹介している。黄色い小さな花もいっぱい咲いていた。後で調べたらメアカンキンバイらしい。やがて植物はなくなり、黒い軽石がいっぱいの急登ののち、昭和噴火口の縁に出た。左に擂鉢噴火口、右にグランド噴火口の火山礫の中をすすむ。急に、のどが痛くなり目がチカチカしてきた。噴火活動が活発な 62－Ⅱ噴火口からの火山性ガスがいっぱい登山道に流れてきたのだ。あわててタオルで口を覆う。登り始めて３時間、やっと頂上直下にたどり着いた。ガスが切れて、初めて頂上を臨む。左は火山灰のなだらかな台地状になっており、浸食の跡が茶色に幾筋も流れ落ちている。右は赤土の上にいっぱいゴツゴツした灰色の岩が張り付き、ガスが流れてくる右側だけは黄色みを帯びている。こんな景色は見たことがない。登山路は右である。急坂を登り、稜線に出るといっぱいの風、そして、62－Ⅱからのいっぱいのガスの噴出が間近に見える。

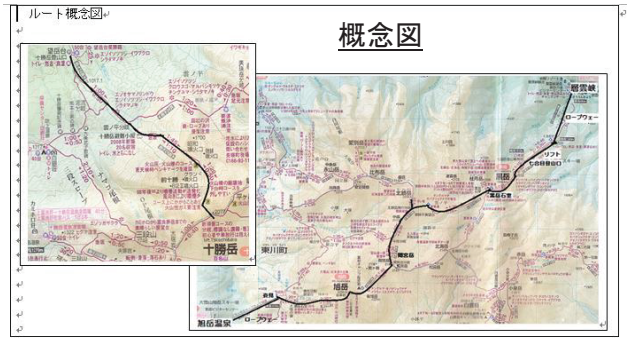
９時 45 分十勝岳頂上 2077m 百名山。頂上から、東側はなだらかな緑の傾斜、西側は噴火による崩壊の非対称な十勝連峰の姿をいっぱい眺めることができた。３時間で下山する。避難小屋下の雲ノ平分岐にいっぱいの高校生が休憩していた。武内 SL が話しかける。富良野からの高校生で、年に１度の学校登山とのこと。この日は関東では終業式だが、北海道の夏休みの始まりはまだなのだ。下山後、大平Ｌお勧めの白金温泉保養センター源泉かけ流しで汗を流し、しらひげの滝・青い池を観光する。外国人観光客がいっぱいだった。夜は、美瑛町駅前の居酒屋で反省会。いっぱいの北海道ビールといっぱいの北海道の海と山の幸でおおいに楽しんだ。北海道山行参加者９人は、いっぱいの笑顔だった。

旭岳にて

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 大雪山（黒岳～旭岳）・十勝岳 | | |
| 月日 | | 平成 30 年７月 18 日(水)～21 日（土） | | |
| 山域 | | 北海道 | 地形図 1/25000 | 層雲峡、愛山温泉、旭岳 |
| 形式 | | 避難小屋泊 | グレード | ３Ｂ |
| 目的 | | ・高山植物の大群落に彩られた尾根を縦走し、北海道最高峰日本百名山、旭岳に登頂、翌日十勝岳（日本百名山）も登頂 | | |
| 費用 | | 75,000 円 | 交 通 機関 | JR、空路、ﾊﾞｽ ﾛｰﾌﾟｳｪｲ、ﾚﾝﾀｶｰ |
| 日程 | 一日目 | 我孫子駅 5:31→日暮里→浜松町→羽田空港第一ﾀｰﾐﾅﾙ 6:50/8:10（JAL551）旭川空港 9:35/55（ﾀｸｼｰ）→層雲峡 11:30/12:15（ﾛｰﾌﾟｳｪｲ＋ﾘﾌﾄ）→黒岳七合目駅 13:05⇒黒岳 15:20/40⇒黒岳石室 16:10（泊）<br>歩行時間　約２時間 | | |
| | 二日目 | 黒岳石室 3:40⇒桂月岳 3:50⇒黒岳石室 4:20/5:10⇒北鎮岳 7:25⇒間宮岳 9:25⇒旭岳 11:10/45⇒姿見駅 14:00（旭岳ﾛｰﾌﾟｳｪｲ）→旭岳温泉駅 14:10/25(ﾀｸｼｰ)→美瑛・民宿たきかわ（泊）　歩行時間約７時間 | | |
| | 三日目 | 民宿 4:30（レンタカー）→望岳台 5:20/6:00⇒雲の平分岐 7:05⇒昭和火口 8:30⇒十勝岳 9:45⇒望岳台 13;20→白金温泉（入浴）→白ひげの滝→→青い池→民宿たきかわ（泊）<br>歩行時間　約７時間 | | |
| | 四日目 | 民宿→ﾌｧｰﾑ富田→かんのﾌｧｰﾑ→旭山動物園→四季彩の丘→美瑛駅→旭川空港 20:15（JL558）→羽田空港 22:00→浜松町駅→我孫子駅 24:00 | | |

| | |
|---|---|
| ルート状況 | ・黒岳～旭岳縦走コースは大雪山のメインルートで道標もしっかりあり迷う心配は無し<br>・道内は７月上旬から長雨が続いたので登山道の融雪が進み層雲峡から黒岳までの残雪が殆ど消えていた。北鎮岳と旭岳の登りには大雪渓が残り、一部の方はアイゼンを使用した。<br>・２日目朝、黒岳石室から１５分の桂月岳から雲海に浮かぶニセイカウシュッペ山からの素晴らしい日の出を見た。<br>・黒岳石室から間宮岳までは行逢う登山者もなく四囲の景観と高山植物を楽しみながらの歩行、間宮岳からは多くの登山者とすれ違った。<br>・北鎮岳からの展望は素晴らしく遠く阿寒の山々や利尻山が見え感動した。遥かなる山、トムラウシ始め大雪山系の山々も姿を見られた。<br>・旭岳頂上直下、雪渓後の急登はｻﾞﾗｻﾞﾗの火山礫に足を取られ難渋した。<br>・旭岳頂上では霧が湧き登山者で賑わっていた。下降は滑りやすく疲れもあり苦労した。<br>・十勝岳登山口の望岳台には立派な防災施設の建物があり駐車場も広かったが満車状態だった。<br>・十勝岳は雲が多かったが火山礫の道は比較的歩き易く頂上では富良野岳や美瑛岳も見られた。活火山であり硫黄臭ある噴煙もあった。 |
| 参加者 | 大平Ｌ　武内 SL　北田　佐藤　桐生<br>小林　小島　高橋富　石塚<br>男性４名　女性５名　計９名 |




＜１０６７＞

## 鳳凰三山

常井　猛

素晴らしい広葉樹林帯を登る

４月２５日から新しい勤務が始まった。場所は我孫子駅南口徒歩３分の“けやきプラザ”だ。７３歳になる私を良く採用してくれたと感謝し、遠慮しながら４連休を取った。北九州３泊４日のツアーに参加する予定であったが残念ながらツアー不成立となり、折角の４連休を如何に過ごすか・・・・・？

義娘にパソコンで“やまたん”を検索して貰ったらピッタリのモノが載っていた。７月２０日～２２日山小屋泊まりの登山が予定されていた。早速、７月４日のアビスタでの月例会で応募した。リーダーの大山さんに「私でも大丈夫ですか？」と確認したらＯＫそうな表情をして呉れた？ので希望が湧いてきた。

久しぶりの登山に備え、ケヤキプラザの１２階建て、３３０段の階段を午前、午後と登り下りの運動を重ねた。２０日当日、新宿駅西口の山梨交通の停留場がどこか判らないが東京モード学園前と云うことなので若者に訊きながら目指した。若者が指さす東京モード学園は西口の高層ビル群にあって非常に特異な外観の目立つ判り易いビルだった。迷わずに行けたら恐らく数分で行けたと思う。私達は安田生命ビルから大きく寄り道をしてしまった。バス停は東京モード学園ビルと新宿郵便局の間の大通りで小田急デパートが正面に見える場所で、山梨交通のバスが２台停まっていた。熱帯夜で暑い！受付で私達は２号車を指定された。この熱帯夜で、表で待つのはチョット辛いかな？なんて思っているとエアコンの効いたバスに乗って待つことがＯＫされた。有難い。バスはガラガラ、一人参加の皆さんが殆どで、それも若い女性が多いのにビックリ！殆どの皆さんが２坐席を一人で座っている。最後尾とその前

の坐席が空いていたので出発後、移動した。ゆっくりした座席間隔で登山靴を履いた足でも充分に伸ばせエアコン吹き出し口を塞ぎ、長袖シャツの袖まくりを伸ばし冷房に備えた。出発即消灯、睡眠モードに入った。２時間１５分で南アルプスの仮泊する旅館・樹園に到着した。眠るのに相応しい条件が揃ったにも拘わらず、私はいつものように全く眠ることが出来なかった。仮泊する旅館は男女に分かれて大広間だ。旅館に上がるのに皆さんは直ぐに靴が脱げるようにしていたのに私は靴を脱ぐのに手間取り、その間に大広間の寝心地の良さそうな場所は皆取られてしまい、大広間のど真ん中に座布団を敷き、小さい毛布を借りて０時２０分睡眠モードに入ることが出来た。モーニングコールのかかる４時迄は充分に時間がある。畳一畳を想像していたが大広間は一人で２～３畳の空間があった。それでも私は一睡も出来ないうちに、「おはようございます！４時です」の声を聞いた。

メキシコオリンピック・マラソンで活躍した君原選手の言葉、「前日は一睡も出来なかった」。それでも４２．１９５km を走り抜き、銀メダル獲得を思い出し、俺はいつもの事だと広河原行きの小型バスに乗り込んだ。睡眠不足の躰に栄養をと、サンドイッチ、おにぎりを頬張り、ペットボトルの水をガバガバ飲んだ。

夜叉神峠登山口５時４５分出発、蛇行している山道は歩きやすく整備され、６５分で峠小屋に到着した。快晴で素晴らしい眺望！遙か右奥に北岳、正面に間ノ岳が眺められた。即写真撮り。続々と後続の皆さんも来て歓声を上げながらカメラを出すが、アッという間にガスが覆い、連峰を隠してしまった。これが山の天気だ。私達はラッキーだった。

７時１０分、今夜の宿泊場所・南御室小屋を目指し歩き出した。２０分歩き５分休憩ペースで、単独走行の皆さんには抜かれながらも涼しい冷風を浴びながら気持ちよく歩いた。然し、今回の山行出発前に大山さんが云っていた。「熱中症で体調が芳しくない」が現れ、杖立峠あたりで引き返すことになった。時間は未だ、８時 30 分、未だ未だ早い時間。３時間登ったからあと３時間で目的地の南御室小屋に着く、然し私もフラフラの状態、人間楽な方を選んでしまう。思いを残し、標高 2,000m の冷気を暫し愉しみ夜叉神峠登山口駐車場に向かった。降ること１時間４０分、バス停に着いた。１０時１０分、バス亭の時間を見るとナンと１０時１１分発があった！バスは５分程遅れて到着、乗客は私達だけだった。北岳、間ノ岳、農鳥岳の大パノラマもラッキーであったが、バス時間もドンピシャリだったのはラッキーだった。熱波の照りつける甲府駅に着いた。

夜叉神峠から北岳バットレス

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 鳳凰三山（途中リタイア） | | |
| 月日 | 平成 30 年　7 月 20 日～21 日（金土） | | |
| 山域 | 南アルプス | 地形図 | 1/25000　仙丈ヶ岳、鳳凰山、間ノ岳 |
| 形式 | 夜行日帰り | グレード | ２Ｂ |
| 目的 | ①　カネビランジ、ホウオウシャジン等の高山植物観賞<br>②　黒富士　③白砂の稜線漫歩 | | |
| 費用 | 12,000 円 | 交通機関 | バス、ＪＲ |
| 日程　一日目 | 我孫子20:02→20:15→日暮里駅→新宿21:04/21:10⇒東京モード学園前21:20/22:00→山梨交通広河原行ﾊﾞｽ→ | | |
| 日程　二日目 | 南アルプス市樹園〔仮眠〕0:20/4:50→夜叉神峠登山口5:50/6:00⇒夜叉神峠登山口7:05/715⇒標高2,000m地点8:30/8:45⇒夜叉神峠登山口10:10/10:15→山梨交通→甲府11:45/12:45→高尾→立川→西国分寺→新松戸→我孫子駅16:34　　歩行時間３時間５０分 | | |
| ルート状況 | ・夜叉神峠登山口～鳳凰への道は良く整備されていて歩き易い<br>・夜叉神峠少し登った標高1800m位までは広葉樹林帯、その上は針葉樹林帯に覆われ、風は通らないが日陰でかなり涼しく気持ちが良い | | |
| 参加者 | 大山Ｌ、常井　　計　2名 | | |

＜１０６８＞

塩見岳
（3,052m）
佐藤　清宏

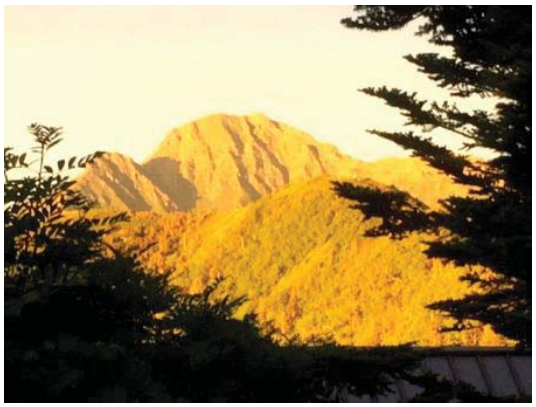
## “漆黒の鉄兜”塩見岳、赤く燃える

東峰にて

新宿発飯田行き高速バスは、予定通りに松川IC に着いた。ここから予約したタクシーで大鹿村に向かう。映画「大鹿村騒動記」の舞台だ。大鹿村から細い道をぐんぐん上る。鳥倉林道はよく整備されている。タクシーはゲートまで。舗装路は登山口まで続いているが、バスしか入れない。季節運行で１日２便。ゲートから歩き始める。黒い針葉樹の森に深く分け入っていくようだ。登山口から三伏峠小屋まで３時間。途中に、○/10 の標識があり進み具合の目安となる。カラマツ林を上り、足元に咲く一輪の黄色いホトトギスやマルバダケブキの大群落に癒される。苔むした樹林帯の中を、岩場や細い材木の桟道を何回か通過し、ほとけの清水でのどを潤す。やがて「小屋まで二百歩」。数えたら 230 歩。自分のコンパスの短さを悲しむ。16 時過ぎに小屋に着いた。小屋の前から樹林の間に塩見岳が見えた。深田久弥は“漆黒の鉄兜”と表現した。ザックを置くと、郷田Ｌと水場へ。往復 20 分とあったが 30 分位かかった。途中のお花畑から、青空をバックに塩見岳が間近に雄大に臨むことができた。カメラを持ってこなかったことを悔やむ。小屋に戻ると夕食が始まっていた。残念ながら名物のカレーではない。ビールで乾杯するが「ぬるい」。食後、皆でお花畑に。タカネマツムシソウの大群落とミヤマシシウドやホソバトリカブトも見られた。南側斜面は大崩落していて、南アルプスは今も造山運動が激しいことを実感する。塩見岳はすでに雲がかかっていた。夜Ｌより、「台風が関東に接近しており、３日目以降は雨予想なので予定変更して、明日塩見岳をピストンしてここにもう一泊して下山する」と発表がある。翌朝、５時に小屋を出発。快晴。三伏山からは 360 度の展望で、中央アルプス、御嶽山、荒川岳、遠くに槍穂高連峰、そして間近に大きく塩見岳。やがて右肩から太陽が昇った。本谷山の手前はお花畑になっていて、黒い頭の先に黄色い花弁はタカネコウリンカ？　立ち枯れの林から幼木の密生帯の中をすすみ、権右衛門沢の源頭を上ると塩見小屋に到着。小さいながら清潔そうな小屋だ。小屋を過ぎると天狗岩が目の前に立ちはだかる。三点確保の岩登りで、南アルプスの山としては緊張を強いられる。トラバースしてコルに下り、いよいよ本峰の上りだ。意外と高山植物が多い。イワギキョウ、イワベンケイ、シオガマ、イワツメクサ、イワオウギ、シコタンソウ・・・

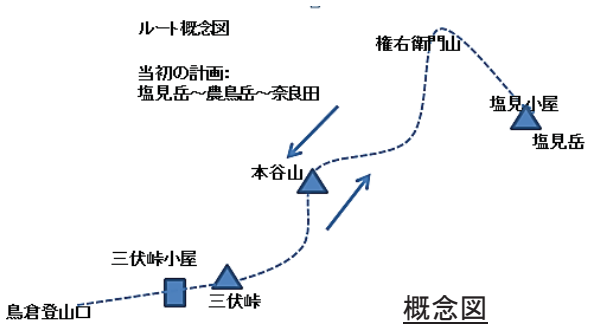
9:35 西峰 3047m に登頂。こちらに二等三角点があるが、３分で東峰 3052m へ。こちらの方が少し高い。憧れの塩見岳に登頂、これで 3000m 峰全 21 座を制覇する。頂上からは大パノラマであった。北に、農鳥、間、北、仙丈、甲斐駒岳。南に荒川、赤石岳。西に中央アルプス。そして東に富士山。深田久弥は「ここから眺めた富士山はどこの山から眺めるよりもすぐれている」『日本百名山』と書いた。台風の影響か、富士山頂上には雲がまとわりつき、東の空は雲が渦巻いている。当初の予定であった、北荒川から安倍荒倉、三峰、農鳥岳へのルートがはっきり見えている。このルートは宿題としよう。頂上でゆったりしているとガスが湧き上がってきた。落石に注意しながら下山する。同じルートを戻るので余裕でひたすら三伏小屋へ。待っているのは？Ｌが小屋で冷たいビールを求めるが、昨日と同じ。すると、Ｌは水場に下りていった。他のメンバーはお花畑で宴の準備をする。やがて、Ｌが水場で冷やしたビールを持って上がってきた。タカネマツムシソウと塩見岳に見守られながら乾杯する。小屋に戻りしばらくすると、急に外が明るくなった。塩見岳を見ると、なんと夕日に照らされて赤く燃えている。ほんの数分間の出来事だった。夜、小屋の客が従業員に「明日は何時に雨が降り出すか」と聞いていた。「3 時ころ」の返事。下山するまで降らないでほしいと願って 19 時半就寝。翌朝は従業員の言った通り、３時に降り出した。いよいよ台風襲来か。５時に小屋を出発。

うっすらと塩見岳が見えた気がした。小雨で風もまだ強くない。2時間のコースタイム通りで下山する。ゲートでタクシーを待つ間に雨はあがった。大鹿村経由で松川IC近くの、町営まつかわ温泉清流苑へ。松川IC発新宿行き高速バスを待つ間に、ゆったり温泉に浸かる。Lが昨夜のうちに、帰りのタクシー、温泉、高速バスの手配をしていたのだ。露天風呂からは頂上に白い雲をまとった南アルプスが遠望できた。高速バスは、伊那谷、八ヶ岳山麓、甲府盆地と進むが天気は晴れ。ところが新宿は大雨で風も強く、さらに柏は暴風雨だった。予定変更はあったものの、塩見岳の様々な姿を見ることができた。リーダーをはじめ、メンバーの皆さんの対応に感謝の山行であった。



“塩見岳“　赤く燃える

塩見岳山頂から見える仙塩尾根と間ノ岳




概念図

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 塩見岳 | | |
| 月日 | 平成30年7月26日(木)～28日(土) | | |
| 山域 | 南アルプス中部 | 地形図 1/25000 | 塩見岳 |
| 形式 | 山小屋泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ｂ |
| 目的 | 日本アルプス大展望 | | |
| 費用 | 約29,000円 | 交通機関 | 高速バス、ﾀｸｼｰ |
| 日程 1日目 | 7/26（木）：我孫子5:31→柏→日暮里→新宿6:30/6:55→バス→松川10:32/10:40→鳥倉駐車場 11:47/12:15⇒登山口12:55/13:05⇒休(5×4回)⇒分岐15:35(通過)⇒三伏峠小屋16:05<br>〈歩行時間：約3時間20分〉 | | |
| 日程 2日目 | 7/27（金）三伏峠小屋 5:00⇒休(5×２回)⇒本谷山 6:15/20⇒休(5×2 回)⇒分岐7:45(通過)⇒塩見小屋 8:02/8:15⇒休(5×1回)⇒塩見岳西峰9:35⇒東峰9:40⇒西峰 9:55/10:10⇒休(5×1 回)⇒塩見小屋11:10/11:30⇒休(5×2 回)⇒本谷山13:15/13:20⇒休(5×2 回)⇒三伏山14:27/33⇒三伏小屋14:45<br>〈歩行時間：約8時間30分〉 | | |
| 日程 3日目 | 7/28（土）三伏小屋5:10⇒休(5×3回)⇒登山口7:05⇒鳥倉駐車場7:45/8:10→松川温泉9:25/1105→コンビニ→松川バス停11:25/1135→新宿15:05/15:12→日暮里→我孫子16:06<br>〈歩行時間：約2時間30分〉 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ＜鳥沢ゲート～三伏峠小屋＞<br>・登山道入口まで40分ほど舗装路（バス専用）を歩く。登山道入口から小屋までは1/10～10/10 までの標識を頼りに歩く。途中丸太で作ったはしご数箇所を渡る、頼りなく見えるがしっかりしている。約６００ｍの登り、急登箇所もあり休みながら登る。途中の「ほとけの清水」は細いが十分美味しい。<br>＜三伏峠小屋～塩見岳＞<br>・標高２６００ｍほどの樹林帯をアップダウンを繰り返す。<br>・途中のピーク三伏山、本谷山から塩見岳を始めとする展望が素晴らしい。塩見小屋から山頂への道は、岩稜帯をのぼる。切れ落ちたところもあり注意が必要。<br>・山頂は、２つのピーク（東峰と西峰）からの眺望を楽しめる。 | | |
| 参加者 | 郷田L、矢野貞SL、中村育、室崎、佐藤<br>＜男性３名、女性２名　計５名＞ | | |

＜１０６９＞

# 会津駒ケ岳
（2,132m）

藤家　一仁

**燧ケ岳、平ケ岳、越後三山のパノラマと高層湿原に咲く花々をめでる**

会津駒ケ岳頂上にて

北田リーダ二年越しの会津駒ケ岳。尾瀬の北方にそびえる標高2133メートルの会津駒ケ岳は、会津を代表する名山として知られ、「日本百名山」にも選ばれた名峰で、たおやかな稜線の山頂付近一帯には広大な湿原が広がり、数々の地溏がちりばめられていることを知り、以前から登ってみたい山であった。近づく台風12号の動きも気になるなか参加した。尾瀬夜行を利用すれば、早朝に登山口にアクセス可能で日帰山行(会津駒ヶ岳のピークハント)が可能のようだが、今回は比較的ゆっくりできる山行という趣旨からも、山小屋宿泊を選択。駒の小屋は人気の小屋であるとともに、会津駒ケ岳に山小屋がひとつしかないためか満員で予約が取れないこともあるとのこと。仮予約の時点で3名分しか確保できないとのこともあり、2名でのプライベート感たっぷりの山行となった。団体に予約されると繁忙期以外でも予約困難になる可能性があるため、予約は早めに行ったほうが良いと感じた。初日は、天気に恵まれ、駒ケ岳登山口バス停まで予定通りに着いた。

登山口バス停では、10名ぐらいが降車。登山口方面に大きな道標が立っているので、迷うことはない。トイレもあるため、トイレの前で身支度を整え出発した。

初めは沢沿いの舗装道路を歩く。舗装道路をそのまま進んでも良いが、途中にある山道のショートカットを使ったほうが早い。ただ、いきなりの急登となる。今回はここでオーバーペースとなり後々がきつかった。また、後で知ったが、舗装道路をそのまま進んだ先に、竜ノ門の滝と呼ばれる滝の名所があるとの事。約20分程度で滝沢登山口へ、一息入れて急登に備える。まずは、中間地点となる水場のある小広場を目指した。コースには、距離の書かれた杭がいくつか打ち込まれている。長い急登を登りきったあとも、断続的に急登が続き、大半は樹林帯の単調な道であった。登山口から水場までの標準コースタイムは1時間30分。小広場から2分くらい下った場所に水場がある。今年は水量が少ないとの事で、水の調達に時間を要した。途中に休憩ポイントが少なかったこともあり、何組かの登山者がココで休憩をとっていた。結局ここまで標準コースタイムとほぼ同等の所要時間。久々の山行でもあったせいか、水場の休憩ポイントまでは想定外にキツかった。

水場の休憩ポイントから後半戦のスタート。頭上の開けた場所が多くなり、陽の光に照らされた登山道を歩く機会が多くなる。登山道の傾斜は前半戦より緩やかで登るのも楽になった。

山頂まで手前にはベンチがあり、遠くに駒の小屋・会津駒ケ岳から中門岳にかけての稜線を観ることが出来る。前半はキツかったが、後半はココまであっさり到着した感じであった。この地点以降は、湿原地帯に入り木道の上を歩くが、木道は老朽化が目立っている。檜枝岐村では木道整備については、クラウドファンディングによる寄付の取り組みをしている。

駒の小屋は、ひとりにつき1枚の布団確保が約束されており、山小屋であるが、満室となる。当日の駒の小屋は、台風が心配されるなかでも満室であった。

翌日は、台風の影響で天候が悪かったため、残念ながら山頂～中門岳・駒の小屋～大津岐峠の稜線歩を歩くことが出来なかった。早々に下山し公衆浴場駒の湯で汗を流した。　会津駒ヶ岳は我武者羅に登る山ではなく、景色や雰囲気を楽しむ山と感じた。是非、もう一度、登ってみたい山です。

**概　要**

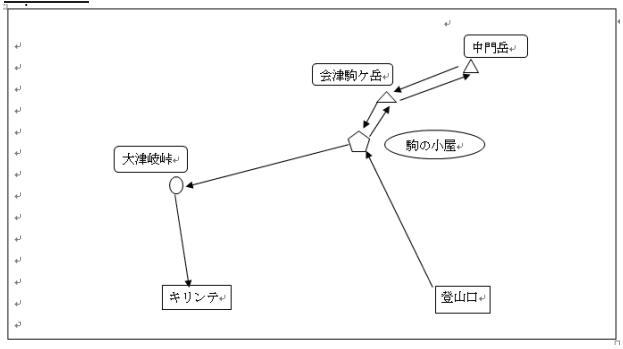
| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 会津駒ケ岳 | | |
| 月日 | 平成30年7月27日（金）～28日（土） | | |
| 山域 | 檜枝岐 | 地形図 | 1/25000 檜枝岐<br>会津駒ケ岳 |
| 形式 | 山小屋泊 | グレード | ２Ａ |
| 目的 | 燧ケ岳、平ケ岳、越後三山のパノラマ | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | と高層湿原に咲く花々をめでる | | |
| 費用 | | 15,000 円 | 交通機関 | JR,東武鉄道、野岩鉄道、会津バス |
| 日程 | 一日目 | 北柏 5:37→北千住 6:07/6:42（特急）→会津高原尾瀬口 9:22/9:50→バス駒ケ岳登山口 11:00/15⇒登山道入口 11:40/42⇒水場 13:10/40⇒駒の小屋 15:15⇒会津駒ケ岳 15:35⇒駒の小屋 15:55<br>＜歩行時間:３時間４０分＞ | | |
| | 二日目 | 駒の小屋 5:10⇒5:55/6:10⇒登山道入口 7:05⇒駒ケ岳登山口⇒駒の湯 7:35/9:00⇒檜枝岐役場前 9:10→バス→会津高原尾瀬口 11:07→（特急）→春日部 13:41/14:07→柏→北柏 14:57<br>＜歩行時間:２時間＞ | | |
| ルート状況 | | ・登山口バス停から登山道入り口までの舗装道路は途中で山道のショートカットがあり、時間的には 10～20 分程度短縮するが、かなりの急な登りとなるので、初日のワンピッチ目としては無理をしないでそのまま舗装道路を歩くほうがよい。<br>・中間地点の水場は、今年は水量が少ないとのことで水の補充に思った以上に時間を要した。<br>・森林限界を抜けると駒の小屋が間近に見え、その右手に会津駒ケ岳から中門岳のなだらかな稜線が眺められて、気分爽快になる。<br>・湿原のベンチ周辺には、ワタスゲが咲き乱れていた。<br>・駒の小屋は素泊まりで定員 26 名となっているので、早めに予約しておく必要がある。1 か月前に予約を入れたときには、7 月はほぼ満杯でこの日は空きが 3 名といわれた。<br>・小屋には夫婦の管理人がいて、部屋は小ぎれいで別棟のトイレも清潔に保たれていた。 | | |
| 参加者 | | Ｌ北田、藤家<br>男2名　合計2名 | | |

燧ケ岳

駒の大池から見た会津駒ケ岳

概念図



＜１０７０＞

## 蓮華岳～北葛岳～七倉岳～船窪岳
（2,799m）（2,551m）（2,509m）（2,459m）

## ～不動岳～南沢岳～烏帽子岳
（2,601m）（2,626m）（2,628m）

矢野　貞子

### 船窪小屋に泊まる

蓮華の大下り

数年前針の木小屋から見た山なみを何時か歩きたいと思っていました。

1 日目、朝一番の新幹線に乗り長野から扇沢行のバスに乗ったが事故渋滞にあい、到着が 40 分程遅くなった。4 時半到着を目標に、10 時前に扇沢から針の木雪渓を目指し歩き出す。以前来た時より雪渓尻はかなり上部だった。雪渓の登りはきつかった。それでも 4 時に小屋に着いた。針の木小屋前から昨年歩いた槍ヶ岳へ続く西鎌尾根の山なみを眺めながらのビールは最高だった。

2 日目コマクサの咲く道を登り蓮華岳頂上へ、休憩後、雷鳥親子を追いかけるように下ると徐々に険しい道になった。北葛乗越手前には崩れやすい岩場があり長い鎖の連続する急坂だった。鞍部から登り返し北葛岳を過ぎると七倉乗越への下りや登りは更に険しくなり、所々ワーヤーを頼りに歩く。鞍部からはハシゴとワイヤーを頼りに這い登り細い岩稜の道を更に数回登り下りすると七倉岳だった。頂上には蓮華岳から励ましあってきた男性が待っていてくれた。一休みして 10 分程下ると船窪小屋だった。

とても暑い一日で険しい岩場の登り下りの連続でＫさんは心が折れてしまい、ここで下山したいと切望した。船窪小屋で２名と合流し５人で先に進む予定だったので、下山の決断が出来ないでいると、道中励ましあってきた男性達が一緒に下山してくれるという。幸い携帯が繋がったので山行部長に事情を報告し、了解得て４人で先に行くことにした。

船窪小屋の夕食は外のベンチで景色を観賞しながら頂いた。雄山や針の木岳を眺めながらの夕食と夕焼けは格別だった。

3 日目　下山するＫさんは残し５時半に歩き出す。テント場を過ぎるあたりから徐々に険しさが増し、足元が崩れかけている道をロープ頼りに 400m 余り下る。鞍部からロープ頼りに登り返す。ある斜面で先頭なので、この先は大丈夫だろうと次の人にロープを明け渡したら、手掛かりはないうえ足元はざらざらで岩を抑えながらなんとか安全な場所まで登った事もあった。同様な場所を何か所か繰り返し船窪第二２ピーク着いた。そこから、時々樹林帯に入り暑さはしのげるが急坂ですぐに口がカラカラになった。水休憩したくても足場が悪く、場所選びに難儀した。片側が切れ込む急登の細いザレ場を目にした時は恐怖感と共に慎重に慎重にと言い聞かせ一歩を踏み出した。目印の大岩をよじ登ると開けた不動岳の端に着いた。不動岳で中食を取った。前沢岳へはせっかく登った標高をまた 300m 程ハイマツの中を転げるように下った。下りきるとお花畑があった。そしてまた 300m 程急登を登り返し、広い頂上の前沢岳に着いた。頂上では剱岳、雄山などの雄大な景色が楽しんだ。休憩後小屋を目指し下山、途中、池に映る烏帽子岳雄姿を見ながら四十八池のお花畑でコーヒータイムを楽しみながら、険しい道が終わった安堵感に浸った。コーヒータイムが最後の水補給と思っていたが偽烏帽子岳登りで、またのどがカラカラになり、皆で残りの水分け合いすべて飲みきった。全員が持ってきた 2ℓ以上の水を空にして烏帽子小屋に着いた。

4 日目下山、6 時過ぎに出発。12 に区切られた道標を、数回毎に休憩を取りながら下山した。高瀬ダム着くと堤防上に客待ちのﾀｸｼｰがあったので七倉山荘まで送ってもらった。七倉山荘で汗を流し、中食を取った後ﾀｸｼｰで信濃大町に出てバスに乗換長野へ向かった。このバスも渋滞に巻き込まれ 30 分程遅れた。今回はバスが遅れる山行の様だ。K さんも無事下山したことが分かりホッとした。

この４日間は何処を思い出しても険しい道の連続だった。誰もが一歩を慎重に進めたと感想を述べていた。幸いにも天気が良く無事に歩くことが

出来たのは同行してくれた仲間のお陰です。これで昨年の続きを無事終えることが出来ました。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 蓮華岳~北葛岳~七倉岳~船窪岳~不動岳~南沢岳~烏帽子岳 | | |
| 月日 | | 平成 30 年 8 月 2 日～8 月 5 日 | | |
| 山域 | | 北アルプス | 地　形図 | 1/25000<br>烏帽子岳、薬師岳 |
| 形式 | | 山小屋泊 | グレード | ３Ｃ |
| 目的 | | 船窪小屋に泊まる | | |
| 費用 | | 48,000 円 | 交通機関 | ＪＲ，バス、タクシー |
| 日程 | 一日目 | 我孫子 5:31→柏→日暮里 6:04/6:22→長野 7:38/7:50→バス→扇 10:05/10:20⇒大沢小屋 11:40/12:05⇒雪渓末端 12:50（アイゼン装着）⇒雪渓のど 13:05(通過)⇒針の木小屋 16:00<br>＜歩行時間 4 時間＞ | | |
| | 二日目 | 針の木小屋 6:00⇒蓮華岳 7:05/7:17⇒北葛乗越 9:00/9:15 ⇒北葛岳 10:30/10:55⇒七倉乗越 11:45/11:55⇒七倉岳 13:20/13:45⇒船窪小屋 13:55<br>＜歩行時間 6 時間 50 分＞ | | |
| | 三日目 | 船窪小屋 5:30⇒船窪岳分岐 5:35⇒船窪乗越 6:15/6:20⇒船窪岳 6:35/6:40⇒船窪岳第 2 ピーク 8:05(通過)⇒2600 ピーク 10:30⇒不動岳 10:45/11:10⇒南沢乗越 12:00⇒南沢岳 12:44/13:00⇒四十八池畔 13:25/13:50⇒烏帽子岳分岐 14:15⇒烏帽子小屋 14:45<br>＜歩行時間 7 時間 50 分＞ | | |
| | 四日目 | 烏帽子小屋⇒6:00⇒権田落し 8:20(通過)⇒登山口 9:00⇒高瀬ダム 9:20/9:25→タクシー→七倉山荘 9:45/11:45→タクシー→信濃大町 12:15/12:30→バス→長野 13:55/14:27→新幹線→上野 16:09/16:14→柏→我孫子 16:45<br>＜歩行時間 3 時間 00 分＞ | | |
| ルート状況 | | ・針の木雪渓の末端までは、橋、目印があり迷うことはない。上部水場付近にさるの　群れが石を落とすので注意が必要。<br>・蓮華の大下りは道が狭く険しい、北葛乗越手前では鎖場が連続するもろい岩場で、特に最後の鎖は迷いやすので注意が必要。<br>・北葛乗越からはしご、鎖で登返し、北葛岳を越えると険しい登り下りで七倉乗越へ、ワーヤーを頼りに登返し更に険しいやせ尾根の登り下りを繰り返し七倉岳に着く。<br>・船窪小屋から烏帽子小屋までは崩壊が進む尾根をワイヤー、ロープ、鎖を頼りに　300m余の急斜面の登り下りを何回も繰り返した。ロープを頼らないと支える手掛かりはない。<br>・片側切れた長い急なザレ場があり、今回は登りだったが、下りは最大限の注意が必要。<br>・不動岳からの前沢岳へはハイマツ帯の急斜面を転がり下り、鞍部から一気に登り返しだった。 | | |
| 参加者 | | 矢野貞 L、小島 SL、桐生、大畠、田村<br>女子5名 | | |

船窪小屋前にて

**概念図**

＜１０７１＞

# 平ヶ岳
（2,140m）

武内　勇二

平ヶ岳山頂にて

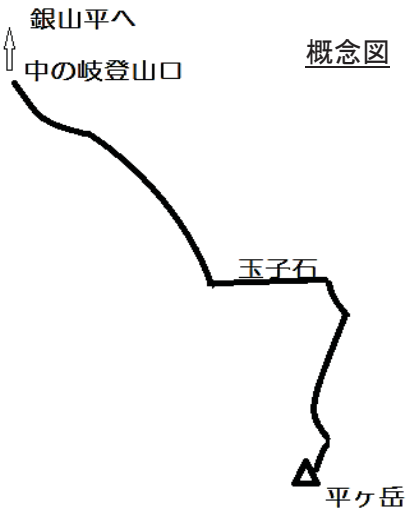
昨年登りたい山アンケートで「平ヶ岳」をリクエストしました。子供が小学生になった頃から夏休みに新潟まで家族で帰省する際、まず尾瀬に入り山、原、沼を楽しみ、平滑の滝、三条の滝を眺めてさらに下り「渋沢温泉小屋」に宿泊でした。翌朝小沢平まで下り会津バスに乗車。終点の尾瀬口からは船で銀山湖を渡り新潟県奥只見ダムに到着後越後交通のバスに乗車。小出駅から新潟を目指すという恒例の旅でした。会津バスに乗車してしばらくすると鷹ノ巣、平ヶ岳登山口というバス停があります。聞くたびに登ってみたいと思いましたが調べてみるとどうしてどうして簡単に登れる山ではないとわかり半分あきらめかけていました。

しかし、噂で簡単に登れる山ではないはずの平ヶ岳に簡単に登れるルートが存在するということを知り、機会があったら是非とも頂上に立ちたいと思っていました。今回「平ヶ岳」をリクエストして武内さんが引き受けてくださって登山できることになりました。思いがけず多くの方の参加希望があり１５人様御一行でした。

大変な一般コースとは異なる中ノ岐コースです。このコースは宿泊を条件に登山道入り口まで宿の車で送迎してもらえます。登山道入り口までの道路が途中から施錠されていて一般車は侵入禁止です。一般コースに比して短時間に登頂できるコースです。短時間といっても１２６０m の登山口から２１４１m の山頂まで約９００m の登りですのでそれなりに大変です。登り 4 時間下り 3 時間の予定です。まず、いきなりの急登が 2 時間、みなさん頑張りました。やがてアオモリトドマツの森林が低くなり木道が現れると傾きは緩くなり、渡る風が心地よくまさに「値千金」の心地よさでした。広い草原、池塘を眺めつつ歩みを進めるとついに頂きに到着。この日素晴らしい好天に恵まれ眺めも最高。周りは山、また山、はるかまで重なる山々、広い山頂、「平」ヶ岳が納得でした。湿った草原が広がっていました。積雪、強風のため泥炭層が発達しています。３０年来の念願だった平ヶ岳に武内様はじめ皆様のおかげで山頂に立てました。静かで深い思いが湧き上がりました。感謝です。

初日はバスの都合もあり浦佐で毘沙門堂観光。地元の方の接待がありとても穏やかな雰囲気でした。ゆっくりした時間が流れていた毘沙門堂でした。登山口までの送迎バスの都合もあり、宿は２箇所に分宿。わたしは民宿樹古里（きこり）でした。素敵な２階建てのログハウスです。雪に備えて基礎が高く造られ１階入り口まで階段を登る構造になっています。お風呂は数分歩いて公衆浴場「白銀の湯」を利用、広くて清潔で畳敷きの広間もありゆっくりくつろげます。食事も別棟ログハウスまで移動。親切で暖かできっぱりしたオーナー夫妻には再訪したいという気持ちを持たせられました。

出逢えた花々や実はツルリンドウ、ミヤマリンドウ、リンドウこれらの仲間はお日様が当たると花弁を広げるので見応えがありました。ソバナ、イワショウブ、アキノキリンソウなど。アカモノ、オオカメノキ、アカミノイヌツゲ、ゴゼンタチバナの赤い実。アオモリトドマツの紫のマツポックリ。見上げた空に運動会をしているかのようなトンボたち、秋はすぐそこにでした。



**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 平ヶ岳 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 8 月 19 日(日)～20 日（月） | | | |
| 山域 | 奥只見 | 地形図 | 1/25000　平ヶ岳 | |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ | |
| 目的 | 湿原と地塘 | | | |
| 費用 | 25,000 円 | | 交通機関 | ＪＲ、バス、民宿送迎車 |
| 日程 1日目 | 我孫子駅 5:41→上野駅 6:14/6:26(高崎線)→高崎駅 8:16/8:24（上越線）→水上駅 9:30/9:45→浦佐駅 11:03（浦佐毘沙門堂観光・昼食）/13:40（南越後観光バス）→（シルバーライン経由）→銀山平・白光岩バス停 14:43/14:45（宿泊先のマイクロバス）→伝之助小屋・民宿樹湖里へ 14:50 着<br>民宿樹湖里（７名）・伝之助小屋（８名）（２ヶ所に分かれて宿泊）<br>＜歩行時間なし＞ | | | |
| 日程 2日目 | 伝之助小屋・民宿樹湖里（それぞれの宿のマイクロバスで）3:50→中の岐林道ゲート 4:30→平ヶ岳登山口 5:10/5:30（中の岐コース）⇒玉子石分岐 8:40/8:45⇒平ヶ岳 9:35/10:00⇒たまご石 10:45/10:55⇒登山口 13:10/13:20（マイクロバス）→ゲート 14:00→銀山平森林公園内温泉センター14:40（入浴・休憩）/17:27（南越後観光バス）→浦佐駅 18:30/18:48（上越新幹線）→上野駅 20:03/20:35→我孫子駅着 21:23<br>＜歩行時間：約 6 時間 40 分＞ | | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・中の岐林道の通行はゲートの鍵を持つ旅館・民宿限られている。送迎車のキャパシティの問題あるため、大人数の場合は早めの予約が肝要。<br>・中の岐ルートは、台倉尾根コースに較べ距離は短いが、急坂が続く。登山路も雨で抉られ木の根がむき出しになっている箇所も多く、結構歩きにくい。特に下りは要注意。 | | | |
| 参加者 | 武内 L、村松 SL、佐藤、森岡、矢野朝、外崎、桐生、本田、村越、高橋冨、石塚、小林安、小野、吉澤、一氏<br>男性５名、女性１０名、合計１５名 | | | |

＜１０７２＞

## 燕岳 ～ 常念岳
(2,763m)　(2,857m)

外崎　蓮

### 北アルプスの入門コース、表銀座を歩く

燕岳山頂

＜8/26＞

眠れないのを覚悟で、燕岳登山口の中房温泉まで夜行バスを利用することにした。
竹橋駅から地上に出て、毎日新聞社 1 階の受付カウンターが集合場所である。ここから毎日アルペン号直通バスが深夜の 23:00 に出発する。このバスは足置き台と座席が後に倒れる意外は路線バスと何ら変わりがない。エア枕とアイマスクが必携だ。

＜8/27　晴れ＞

予定時間より早く中房温泉に着いた。今日は北アルプス三大急登の一つ、合戦尾根を登る。登山口の中房温泉から燕岳までの標高差が 1310m、尾根としては長いのであろう。後から来るハイカーに道を譲り、ゆっくりペースで登る。休みたいなーと思った頃に次々とベンチが現れるので、意外と楽に合戦小屋に着いた。ここで名物のスイカを食べた。喉が渇いていたので、欲張って一切れ 800 円也をほお張った。
樹林帯を抜けると辺りが開けてきて燕山荘が遥か上空に見え出した。見えていて遠い。休憩も入れて登山口から約 5 時間半かかった。チェックインが 12：00 なので、山荘にザックを置いて燕岳を往復した。白い砂と花崗岩とハイマツの美しい山だ。岩が積み重なった山頂からの眺めは正に圧巻。北には後立山連峰と剣岳が、目の前には鷲羽岳と野口五郎岳を中心にした

裏銀座の山々が、南には北鎌尾根と東鎌尾根を従えた槍ヶ岳と穂高連峰がくっきりと見えた。明日たどる表銀座の稜線の先には、ひときわ高い大天井岳も。

夕食時にはオーナーの赤沼健至氏が恒例の山の話とアルプホルンを聞かせてくれた。若者に限らず年配者にも人気の山小屋であることが肯ける。夜、外に出ると、安曇野付近の上空の雲が異様に光っていた。雷が発生しているようだ。

＜8/28　霧雨と風、夕方曇り＞

今回の山行の目的は、雄大な山々を眺めながら表銀座をルンルン気分で歩くことだった。残念なことに今朝は霧雨と風もある。とりあえず大天井荘をめざして出発することにした。右手の裏銀座方面から吹き付けてくる風が思ったより強く、谷底へ飛ばされないよう身を低くして歩いた。風の当たらない場所では雷鳥の親子に４組も遭遇。白い冬毛は腹部から生え変わるようだ。逃げもせず道端のハイマツの実をついばんでいた。

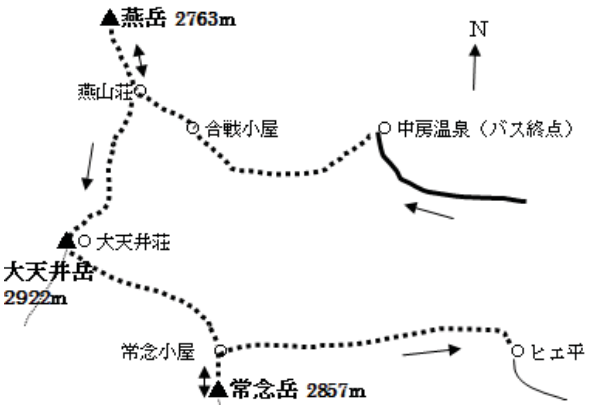
喜作新道と別れ、大天井荘をめざして大天井岳の山肌を斜めに登って行く。今回は燕山荘に宿泊したお陰で長い急坂がわりと楽に登れた。大天井荘は閑散としていた。軒下にザックを置き、山荘の裏手の大天井岳に登った。往復 15 分ほど。コース中で一番標高が高い。晴れていれば、槍も穂高も目の前なのに。大天井荘に戻り、ゆっくりとコーヒータイムをとった。身体が温まると元気が出てきた。幸い、常念岳方面は風の向きも変わり、飛ばされる危険もない。ゴロゴロした岩の斜面を長時間歩き、ハイマツ一色の横通岳を下った。ついに正面に三角錐の端正な常念岳が丸ごと姿を現した。底の方に常念小屋の赤い屋根も見えてきたというのに、なかなか辿り着けなかった。ぐっしょりと濡れて小屋に到着するや乾燥室に直行。ボイラーが凄まじく、雨具や衣類が短時間で乾いた。女性用更衣室があるのも有難い。夕方になって雨があがった。

＜8/29　時々霧雨、のち晴れ＞

朝食後、サブザックで常念岳へ。下ってくる登山者に問いかけたところ、3：30 に出発した二人連れは、暗がりで岩の赤いペンキ印を探すのに手間どったが、その甲斐あって槍と穂高に会えたと満足げだった。4：30 に出発したというグループは、ガスが濃く何も見えなかったとぼやいていた。5：30 に出発した我々は途中で何度か虹に出会い、山頂ではガスの切れ間から穂高の展望を楽しむことができた。その後も空模様は激しく変わり、霧雨が降ったり止んだり。小屋に戻り、南安タクシーに電話で迎えを頼んで下山をはじめた。下るに連れて晴れてきたが、山の上は相変わらず白いガスの中だ。胸突き八丁の急な木の階段の下は一ノ沢で、滑って転んだら沢底へ真っ逆さま。沢沿いの登山道は濡れていることが多く気が抜けない。

8 月末とはいえ、沢沿いにはトリカブトやトラノオ、シシウド、マルバダケブキ、シャジンなどが咲いていたが、今回のメンバーは誰一人として花は目に入らなかったようだ。

ヒエ平には５人乗りのタクシーが待機していた。昨年、同じコースを歩いたという大平さんから情報を頂いていたので、温泉は安曇野市穂高の「しゃくなげの湯」へ。ゆっくりと温泉につかり、食堂でささやかに打ち上げをした。穂高駅までタクシーで移動し、一日一本の特急で帰宅した。




概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 燕岳～常念岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年 8 月 26 日（日）夜行～29 日（水） | | |
| 山域 | 北アルプス | 地形図 1/25000 | 槍ヶ岳・穂高岳・上高地 |
| 形式 | 山小屋 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 3C |
| 目的 | ①北アルプスの表銀座を歩く　②槍・穂高連峰の雄姿を楽しむ | | |
| 費用 | 約 37,000 円 | 交通機関 | 夜行バス、タクシー、ＪＲ |
| 日程 1日目 | 我孫子駅 20:55（各駅）→大手町駅（東西線に乗り換え）→竹橋駅 21:52/23:00（毎日アルペン号夜行バス）→ | | |
| 日程 2日目 | 中房温泉 5:20/5:40 ⇒ 第一ベンチ 6:30/6:45（朝食）⇒第二ベンチ 7:20/7:25 ⇒第三ベンチ 8:00/8:10⇒富士見ベンチ 8:45/8:55⇒合戦小屋 9:30/9:50⇒燕山荘 11:10/11:40⇒燕岳 12:10/12:40⇒燕山荘 13:30（泊）　＜歩行時間:5 時間 50 分＞ | | |

| | | |
|---|---|---|
| | 3日目 | 燕山荘 5:30⇒蛙岩 6:00⇒切通岩 8:10⇒常念・槍分岐 8:20⇒大天荘 9:00/9:05⇒大天井岳 9:15/9:20⇒大天荘 9:25/10:00⇒東大天井岳分岐⇒横通岳（西山腹を巻く）⇒常念小屋 12:50（泊）　＜歩行時間:6 時間 20 分＞ |
| | 4日目 | 常念小屋 5:30⇒常念岳 6:45/7:00⇒常念小屋 8:00/8:35⇒第二ベンチ 8:50⇒最終水場 9:15/9:25⇒胸突き八丁 9:45⇒王滝ベンチ 11:15⇒古池 11:45⇒一ノ沢・ヒエ平 12:10/12:15（タクシー）→しゃくなげの湯 12:30/14:30（タクシー）→穂高駅 14:40/15:22（特急あずさ）→新宿駅 18:45→品川駅 19:32→我孫子駅 20:26 着 ＜歩行時間:5 時間 50 分＞ |
| ﾙｰﾄ状況 | | ・毎日アルペン号夜行バスは、竹橋を 23：00 に出発。よく眠れないのが難点だが、登山口の中房温泉に早朝に着き、一日ゆっくりと行動ができる。<br>・中房温泉から燕山荘まで標高差 1300m。合戦尾根は北アルプスの三大急登に数えられるが、合戦小屋までほぼ等間隔に 4 箇所にベンチが設けられ、疲れを癒してくれる。<br>・燕岳は燕山荘から往復 1 時間。緑のハイマツと白い岩と岩塔の美しい山。<br>・切通岩の鎖場は、足の置き場がしっかりしていて問題なく渡れる。はしごを登った先が分岐で、喜作新道を直進すれば槍ヶ岳方面へ。大天井岳は左手へ折れ、ひたすら登る。<br>・大天井岳は大天荘か往復 15～20 分程度。今回のコース中では最高峰（2922m）<br>・東天井岳、横通岳は山頂を踏まずに巻き道を歩くようになっているため、知らぬ間に通り過ぎてしまいがち。<br>・常念岳は山頂まで約 400m、ごろごろした岩を踏んで登る。赤いペンキ印を探してたどる。往復約 2 時間 30 分。横通岳との鞍部に常念小屋の赤い屋根が見下ろせる。<br>・胸突き八丁を下る際、木の階段が濡れている場合は要注意。足元の下方は一の沢。下山口のヒエ平まで、ずうっと一ノ沢に沿って下る。 |
| 参加者 | | 外崎 L、武内 SL、深草、森岡、常井 ＜男性 4、女性 1　計 5 人＞） |

＜１０７３＞

## 聖 岳
（3,013m）

渡邊　香奈子

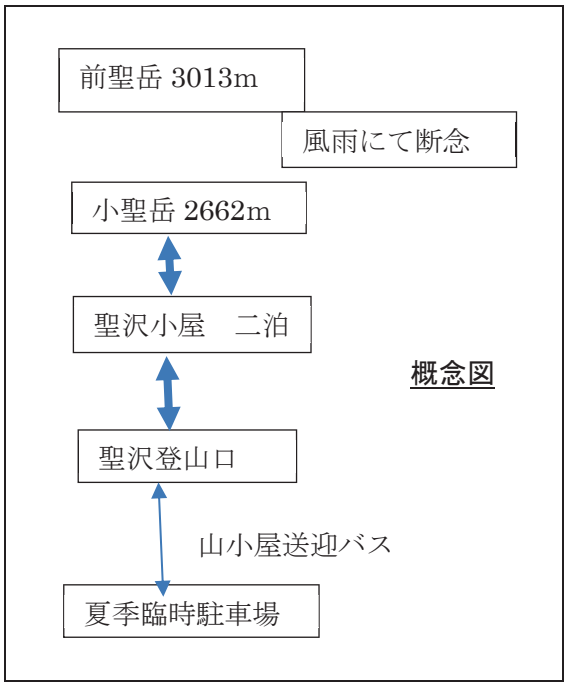
### 強風と雨、小聖岳で引き返す

夜行バス・貸し切りのマイクロバス等乗り継ぎ、一日がかりで聖平小屋への登山口に到着。登山口までの交通手段確保も行程の大切な部分と感じ、予約など綿密な計画を立てて下さったリーダーの林さんには感謝です。少々荒れた登山道を進むと、途中から雨が降りだし、カッパ・スパッツ・ザックカバー総動員で小屋を目指しました。足元も小川の様に雨水が流れ出し、山小屋が見えた時には『安堵』の一言でした。こんなに長い間雨に濡れながらの登山は初めてでしたので、低体温の怖さを肌で感じ、雨具や着替えの準備の大切さを実感しました。天気予報をにらみながら、濡れた靴・カッパ衣類をストーブで乾かしながら、明日の聖岳山行についての作戦会議。林さんが小屋のスタッフや宿泊登山者から様々な情報を集めて話し合われました。天気は一向に回復の兆しがなく、夜中は大きな雨音に目が覚めるほどでした。

翌朝は雨足が弱まるまで待って、青空が遠くに見え、昼過ぎに出発。ところが、時折小雨が降ったり、風が強くガスで視界も悪くなり、小聖で断念。途中、紫のトリカブトがふっくらと咲いていたり、足元のマツムシソウを発見したりしながら下山。小聖という一つのピークにたどり着けたことで達成感を味わえました。ところが、下山して間もなく青空とともに聖岳山頂が雲間から現れました。次回は登りたいな・・という、希望と情熱を持って帰ることができ、これも山行の醍醐味と思いました。

その夜には満月と満天の星が輝いて夜空を見上げ、感激しました。

翌日は晴天の中、びしょびしょになって登ってきた道をキビタキの声に見送られながら下山しました。苔むした岩や太い木々に、南アスプスの深さをほんの少し味わう事ができた貴重な山行でした。次回は小聖から、聖岳山頂へと足を運べるようにと、楽しみが増えました。帰りは温泉で汗や雨水？を流し、気持ちよく帰路につけました。乗り継ぎや、小屋の予約、丁寧な計画で安心して 3 日間過ごすことができました。ありがとうございました。




概念図

小聖岳

## 概　　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 聖岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年 9 月 20 日～ 9 月 23 日 | | |
| 山域 | 塩見、赤石、聖岳 | 地形図 | 1/25000 |
| 形式 | 山小屋 2 泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 2B |
| 目的 | 南アルプス最南端の 3000 座 | | |
| 費用 | 約 36,000 円 | 交通機関 | 夜行高速バス<br>山小屋送迎バス |
| 日程 1日目 | 東西線竹橋駅毎日新聞社一階　出発 23:00→毎日アルペン号→ | | |
| 日程 2日目 | →畑薙夏季臨時駐車場 5:40/6:50 聖平小屋送迎バス→聖沢登山口 8:00/8:15⇒聖平小屋 14:45 泊<br>＜歩行時間 5 時間 30 分＞ | | |
| 日程 3日目 | 聖平小屋　悪天候で待機 12:30⇒<br>小聖岳 13:40/13:50⇨聖平小屋 15:00 泊<br>＜歩行時間：2 時間 30 分＞ | | |
| 日程 4日目 | 聖平小屋 5:15⇒滝見下 6:15/6:45⇒吊り橋 8:15/8:55⇒聖沢登山口 11:10 /12:58 送迎バス→畑薙夏季臨時駐車場 13:50/14:00 毎日アルペン号→白樺荘 14:20/15:15→新宿駅西口 21:15→我孫子 22:45<br>＜歩行時間：4 時間 30 分＞ | | |
| ルート状況 | ・ルートは、整備されていますが三カ所の急登もあり、聖平小屋までは二か所の展望箇所があるだけで、5～6 時間の歩行。<br>・翌日も天候不順(強風)で小聖岳(小屋から 1 時間)で断念、悪天候もここまでは可能<br>・三連休の前日はすいていましたが、翌日からは山小屋は混雑<br>・下山時の歩行時間はバス待ちの時間は省いています | | |
| 参加者 | 林(L)、中村育、村越、渡邊香<br>男　1 名　女　1 名　計　4 名 | | |

＜１０７４＞

# 筑波山
（876m）

室崎　宏治

男体山山頂

丘の背に白馬を乗せて秋澄めり

読み人知らず

ホークスヘッドを詠んだ句だというが、イングランド全体の地形の特徴を彷彿させる句である。イギリスの人たちは晴れや雨や強風や旱(ひでり)というような一時的な天候の挨拶を日常実によくするが、日本人のような季節の挨拶はしないという。季語で言えば.『春惜しむ』や『行く秋』というような季語の実感をともなう理解はイギリス人には無理である。

地図を見て、日本と同じような大きさの島ではあるが、イギリスの大地は日本列島とまったく異なっている。天候も違うし、大地も安定していて大地震は起こることがない。活断層もないから、山あり谷ありの地形の日本と違って起伏も少ない。同じ地球の上にいても自然はさまざまの姿を見せる。

秋も徐々に深まり、紅葉のシーズンまであと少しであるが、人が多かった。花もあまり咲いてなかった。御幸ケ原コースから登り、登りは手頃な直登コースである。男山、回りやすい。女山、回りにくい。

白雲橋コースを降りる予定だったがバスの乗車から変更、屏風岩までが急であった、おたつ石コース、つつじケ丘は空が見えた。

下りコース、岩が多くゴツゴツ狭くすべやすがった昨夜の雨のせいで混雑して登りにくく下りにくい。改善が要。小さな子ども連れが多かった。バス臨時便のたいさくなし、祭日を外して登るのがいい。眺望は雨雲が垂れ込めていて、見晴らしはどんより、時より涼しい風が流れ込んでいた多勢の中の一人。

ロープウェイ乗り口駐車場までおりバス乗車場まで歩く。峠で薬王院コースが登ってきた東葛山の会の安彦さんにあった。病み上がりだとか、このコースもまた登って見たい。

東大地震研究所が近くにあった。地震の時の対策はどうなのであろうか。

筑波山神社の東側の集落（東山集落）を抜けて、少し山の中に入って行くと、「東京大学地震研究所」が案内の看板も無く、ひっそりと森の中に建っいる。

東大地震研究所の建物

国土地理院の1/25000地図には、この東大地震研究所の場所が載っているが、実際の場所には、案内の看板も全く有いから、なるべく人には来て欲しくないと、察しがつく。恐らく、こういう設備の建築物であるから、人の歩む振動でも、地震計が反応するかも知れない。

実際、こんな辺鄙（へんぴ）な場所に地震研究所を建設した理由は、車が走る道路の振動を避ける為だそうだ。相当する場所だと思う。

みかん園の上にあった、防災科学研究所の地震観測実験施設は、男体山の下の場所に相当するので、私の知る限りでは、筑波山には2箇所の大きな地震観測所が有ることになる。

資料によると、この施設のトンネルは50M程も有り、そこには直径数センチ、長さが50Mの細いガラス管の中に水が入っていて、地盤の傾きを常に計測しているそうだ。茨城県沖の海の潮位や、大気の気圧で、常にこの大地は西に東へと、傾いているそうだ。その傾きのデータから、色々と地震予知に繋がるのではないかと、観測を続けているそうだ。

「では、何故地震予知は、筑波山じゃないといけないのでしょうか？」

それは、筑波山自体が硬い岩で出来ているからです。山の中腹から下半分は、花崗岩（かこうがん）。上半分は、硬いハンレイ岩で出来ています。

よく間違われますが、筑波山は火山で出来た山ではありません。

太古の時代に、海の中でマグマの隆起によって盛り上がって出来た山です。

特にハンレイ岩は、とても硬い岩です（※　筑波石は、このハンレイ岩です）。花崗岩は、風雨で侵食されると案外もろいそうです。ですので、筑波山は上半分が硬い岩であったので風雨にも浸食されずに、今現在のように、美しい2つの峰の山となったそうです。もしも筑波山全体が、比較的柔らかい花崗岩で有ったならば、現在の山の姿は、もっとペッタリとした平べったい姿の、低い丘の様な山であったと私は想像します。

もっと驚く事には筑波山では、地震の前触れがはっきりと判るそうです。それは、地震が来る10秒位前に、山全体から“山鳴り”が轟（とどろ）くそうです。

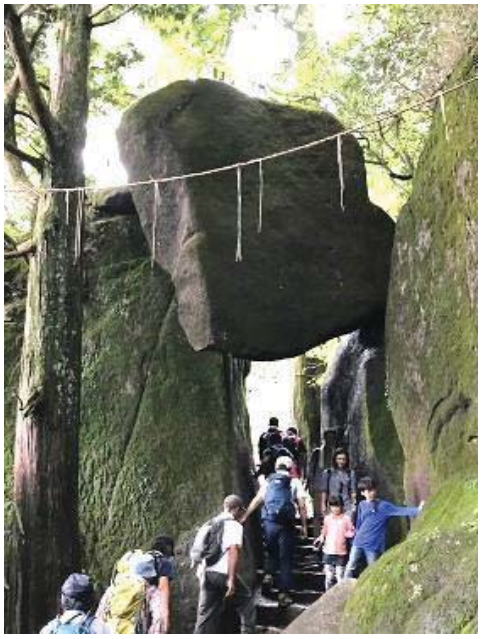
まるで新幹線が走ってこちらに来るような音だと言う人も居るそうです。

せきれい茶屋のご主人さんにも、お尋ねしましたが、実際にそういう事実だそうです。山全体が岩山で、地下の岩盤も硬い岩だからこういう珍しい現象が起こるようです。ですから、地震の観測には筑波山は最適だそうです。

筑波山での地震観測の結果で、今までの定説覆ったとの結果も出ているそうです。しかし不思議な事に、筑波山の山頂付近では、地震の前兆の鳴動は無いそうです。筑波山は不思議な神秘の山です。

行く春を近江の人とおしみける　　芭蕉

筑波山登山ルートはたくさんあるが、それぞれの趣がある。けして低山だからと侮るなかれ。けっこう厳しい。



弁慶七戻り

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **山名** | 筑波山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 9 月 23 日（日） | | |
| 山域 | 常磐線 | 地形図 | 1/25000 筑波・柿岡 |
| 目的 | 身近な百名山を知る | | |
| 費用 | 約 3､000 円 | 交通機関 | ＪＲ, TX, バス |
| 行程 | 我孫子駅 6:28→東武柏駅 6:42→TX 流山おおたかの森駅 6:47/6:56→TX つくば駅(7:155)→シャトルバス(7:45)→筑波山神社入口(8:45)　⇒御幸ヶ原（10:35/11:15）⇒男体山(11:30)　⇒女体山（12:30）⇒弁慶茶屋跡分岐(13:30)⇒おたつ石コース⇒登山口(14:05)⇒つつじヶ丘シャトルバス(15:00)→TX つくば駅（16:11）→TX　流山おおたかの森駅 16:43/17:25→柏駅 17:40→我孫 17:44〈歩行時間 3 時間 30 分　〉 | | |
| ルート状況 | ・トイレ、道標はキチンと整備されている。<br>・雨が続いていたこともあり、山頂連絡路はぬかるんで歩きづらかった。<br>・女体山から弁慶茶屋跡地までは、岩場が多く、連日の雨の影響もあり滑りやすかった。 | | |
| 参加者 | 藤家 L、箕輪、新谷、石塚、室崎　北田 SL 、一氏<br>〈男性　4 名:女性　3 名　計 7 名〉 | | |
| メモ | ・電車利用の場合、TX・シャトルバスの割引切符あり（筑波山あるキップ）<br>・シャトルバスは臨時便の運行あり<br>・当初計画では、白雲橋コースで筑波山神社へ下る予定であったが、登山客が多かったため、シャトルバス始発であるつつじヶ丘へ下山口を変更した。 | | |

**概念図**

＜１０７５＞

## 白馬鑓ヶ岳～白馬岳～小蓮華山

（2,903m）　（2,932m）（2,766m）

武内　勇二

### 雲一つない青空　白馬岳の大展望楽しむ

白馬岳山頂にて

NHK ドラマ「坂の上の雲」（原作、司馬遼太郎）のエンディングで山道を緩やかに登っていくシーンが映されている。どこの山の風景かと気になっていたが、ネットで検索したところ小蓮華山の稜線と分かった。この道はドラマ放映以前にも歩いたことがあるが、今一度歩いてみたいと計画した。

栂池から白馬大池に登り、その後小蓮華山、白馬三山縦走後、白馬鑓温泉に泊まり、猿倉へ下山するルートを計画し、「ゆっくり山行」のふれこみで参加者を募集したところ、8 名（最終的には 9 名）の参加申し込みを得た。しかし、山行計画書作成段階で鑓温泉小屋の営業が 9 月 26 日までと分かり、募集後であったため日程の変更はせず逆コースに変更し、下山地を蓮華温泉とした。結果的にはこの変更により、3 日目が素晴らしい天気だったので、山行のメインと考えていた小蓮華山の稜線を思い通りに歩くことが出来、そして登山の前後に山の温泉を楽しむ贅沢な山行になった。

出発前、秋雨前線が日本列島南にあり、また台風 24 号が沖縄の南海上で停滞していたこともあり、麓の白馬町の天気予報はあまり芳しくなかった。幸いにも日中の行動時間帯の雨は 0 ㎜の予報だったことと、しばらくは台風の動きもゆっくりの予報が出ていたので、山行を実行することに決めた。

初日、北陸新幹線で長野駅まで行き、白馬乗鞍行の路線バスに乗って白馬駅で下車、タクシーに乗り継いで 10 時前に猿倉に到着できた。昭文社のコースタイム 4 時間半ながら、9 名の大きなパーティであり年齢も考えれば、6 時間はかかるだろうと思いながら歩き始めた。

白馬岳雪渓コースを分けて、左の鑓温泉ルートに分け入る。林の中の道は緩やかな登りで歩きやすい。「ゆっくりゆっくり」と心に唱えながら歩いた。小さなアップダウンの繰り返しに歩きにくくなった道を 3 時間ほどかけて標高 1700m 付近に到達した。紅葉が始まっており見晴も良かったので昼食休憩とした。ここから小日向のコルまではまだ 30 分ほどの登りが続く。森林限界を超えたのか、低い灌木と草地は紅葉して美しい。小日向のコルを過ぎると下り坂となった。鑓温泉から猿倉に下山の場合は、ここが 100m の登りとなるので疲れた体にはきつく感じられるだろう。サンシロ（三白）平の鞍部にある小さな池を過ぎると登りとなり、サンシロ沢、杓子沢など何本かの沢をトラバースし、最後は沢沿いのルートを急登する。温泉のにおいがして岩が苔むしている所を過ぎれば、温泉小屋は近い。

温泉小屋は冬に向けて取り壊しが始まっていた。「温泉めぐり」の BSTBS のクルーが取材に訪れていた。(11 月 9 日 21:00 より放映予定)。天空の露天風呂は、湯加減バッチリ、「いい湯だナー！！」　霧のため展望がないのが残念だった。入浴後、食堂でのビールは 350㎜ 缶 600 円也。夕食準備のため食堂を短時間で追い出されたため、部屋に戻って 17:30 の夕食時間までささやかに二次会を楽しんだ。夜半、風と雨が強まった。行動中でなくてよかった。

2 日目朝には、雨は上がっていたが、上空は厚い雲に覆われ霧が出ていた。温泉小屋からの歩きだしは、いきなりの急登から始まる。斜面を横切る場合は滑らないよう、足を踏み外さないよう結構気を使う。危険な岩場には鎖がつけられているが、岩が濡れているので細心の注意が必要だ。短時間で岩場を乗り切ると、草紅葉の中に紅葉したナナカマド、チングルマが点在する美しい秋の風景が待っていた。大出原の草原である。標高差ほぼ 300m にわたる広大な草の斜面が続く。夏場は素晴らしいお花畑だろう。大出原の標識をみて、更に 300m のガレ場の急登を喘ぎながら登って、稜線上の白馬～唐松縦走路に立つ鑓温泉分岐に出た。稜線は風が強いので、標識の少し下の登山道で昼食休憩とした。霧の合間に白馬鑓ヶ岳の頂上が見える。

休憩後岩屑の中の踏み跡を辿り 40 分ほどで白馬鑓ヶ岳頂上に到着した。相変わらず展望は無か

ったが、登頂の握手を交わし記念撮影した。小鑓から杓子沢のコルまでは小さな岩場もある。強い風に悩まされながら滑り易い岩場を下り、杓子岳との鞍部を目指した。途中、雷鳥に出会った。天気が悪いとよく出会う。驚かせないように近づくと逃げないでじっとしていたが、やがて這松の中に姿を消した。

杓子岳はトラバース道を選んだ。雨・霙が降り出したので、一心に白馬岳頂上宿舎を目指した。高低差が少ない道だが、見通しも悪く疲れも重なってか、なかなかペースが上がらない。この山行中一番つらかった時間帯ではなかったろうか？丸山のピークを過ぎ、テント場が見えたときは、正直言ってほっとした。

白馬岳頂上宿舎（村営）は、まだ暖房が入っていなかったこともあり少し寒かった。しかし、着替えを済ませ、乾燥室で濡れた衣服・雨具を乾かすと少し落ち着いた。寒いので部屋に入らず乾燥室のストーブにかじりついている仲間もいた。男性２名はアルプスレストランで､お疲れドリンク。中生ジョッキ 500 円也。格段に安いのは、シーズンオフが近づいているせいだろう。オーダーストップ間際に、女性１名が合流したところで、追加でもう一杯。つらい１日を乗り切ったことで安堵感が溢れた。小屋は空いていて、男は大部屋（カイコ棚）１区画に２名、女性は貸切部屋２室でゆったりやすめた。白馬岳頂上宿舎の食事は、朝夕とも手の込んだ田舎料理のバイキングで、とても美味しかった。夏場の混雑を避けての北アルプスはなかなかいいもんだ。

３日目の朝は雲一つない快晴で明けた。張りつめた空気と陽射しでとても清々しい。雲海の向こうに秩父連山、その右に富士山が浮かんでいた。白馬岳頂上を目指す道端の草花や這い松は白く霜に覆われていた。白馬岳からの展望は素晴らしい。剣～立山～薬師～槍穂へと続く北アの山々、富山湾の海岸線、そしてこれから向かう三国境～小蓮華山のなだらかな稜線がくっきりと見渡せた。大展望を楽しんだ後、いよいよ三国境～小蓮華山～白馬大池の稜線歩きに出発した。稜線はとても歩きやすい。多少、雲が湧いてきたが眺望を妨げる程ではない。まさに､「坂の上の雲」。突然、ブロッケンが現れた。影が七色の虹をまとい谷間に現れた。一瞬の間だったが神々しい。

三国境で休憩後、いよいよ小蓮華山の登りになる。歩きやすい道が頂上目指して登っている風景に明治の日本人の気質を重ね合わせた。TV ドラマの画面は、小蓮華山の登りのどのあたりの場所だったのだろうか？　延々と続く稜線を歩きながら考えていた。

白馬大池は山に囲まれた広い草原の中にある。陽射しを浴びながら昼食休憩の後、蓮華温泉に下った。

白馬大池から天狗の庭までは、湿気を帯びた岩がゴロゴロして歩きにくい。天狗の庭から蓮華温泉は、比較的歩きやすくなるが、崩落地を避ける迂回路がまだ踏み固められておらず滑り易い箇所があった。。黄金湯の看板を過ぎると程なく蓮華温泉ロッジに到着した。明日朝は、糸魚川駅へ直行、駅で解散の予定だったので、夕食時に１日早く山行打ち上げの乾杯を行った。

４日目朝、男２名は５時前に旅館を出て、最上部の薬師の湯を楽しんだ。朝日岳が良く見えた。ここには仙気の湯、黄金の湯など４つの露天風呂があるが、いずれも脱衣場などの設備はなく、まさに自然のいで湯、山道からの見通しも良好過ぎて、薬師の湯以外女性にはやや入りにくいだろう。

昨夕に頼んでおいたジャンボタクシーに乗って、糸魚川駅へ直行し、駅で解散した。直帰組、フォッサマグナミュージアム見学、糸魚川市内観光、春日山城跡の散策とそれぞれの予定を楽しんだ後、全員無事に帰宅した。非常に強い台風 24 号襲来の１日前、まさに滑り込みの山行だった。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 白馬鑓ヶ岳～白馬岳～小蓮華山 | | |
| 月日 | | 平成 30 年 9 月 26 日(水)～29 日(土) | | |
| 山域 | | 北アルプス | 地形図 1/25000 | 白馬町　白馬岳 |
| 形式 | | 山小屋泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ３C |
| 目的 | | ①天空の鑓温泉に泊まる。②白馬三山の縦走　③小蓮華山の稜線を歩く | | |
| 費用 | | 約 47,000 円 | 交通機関 | JR(北陸新幹線)、路線バス、ﾀｸｼｰ |
| 日程 | 1日目 | 我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/6:34(はくたか 551 号)→長野駅 8:06/8:20(バス)→白馬駅 9:30/9:40(タクシー２台)→猿倉 9:53/10:10⇒1700ｍ付近(昼)12:15/12:40⇒杓子沢 14:20⇒白馬鑓温泉 15:50（泊）<br>＜歩行時間：約５時間＞ | | |
| | 2日目 | 白馬鑓温泉 7:30⇒大出原 10:10/10:25⇒鑓温泉分岐 11:15/11:35(昼食)⇒白馬鑓ヶ岳 12:20/12:30⇒杓子岳分岐 13:40⇒白馬岳頂上宿舎 15:30（泊）<br>＜歩行時間：約６時間 30 分＞ | | |

| | | |
|---|---|---|
| | 3日目 | 白馬岳頂上宿舎 7:15⇒白馬山荘 7:40/7:50⇒白馬岳 8:10/8:20⇒三国境 9:05/9:15⇒小蓮華山 10:15/10:30⇒船越ノ頭 11:35/11:40⇒白馬大池 12:25/13:00(昼食)⇒天狗ノ庭 14:25/14:35⇒蓮華温泉ロッジ 16:15（泊）<br>＜歩行時間：約 7 時間 20 分＞ |
| | 4日 | 蓮華温泉ロッジ 7:50（ジャンボタクシー）→糸魚川駅 9：00 解散 |
| ルート状況 | | ・猿倉から小日向のコルまでは緩やかな登り。コルから三白（サンシロ）平まで約 100m 下り、その後はサンシロ沢、杓子沢等何本かの沢を横切り、急な坂を登ると白馬鑓温泉に到着する。<br>・鑓温泉小屋を出るといきなりの急登だが、危険な岩場には鎖がつけられている。岩場を過ぎると、紅葉の美しい大出原の草原となる。草原を抜けガレ場の急登を登りきると、稜線上の分岐に出る。<br>・白馬鑓ヶ岳山頂付近は岩屑の道。小鑓から杓子沢のコルまでは小さな岩場もある。<br>・白馬岳頂上宿舎の食事は、朝夕とも手の込んだ家庭料理のバイキングで、とても美味しかった。<br>・晴天の下、白馬岳頂上からの展望は素晴らしい。剣～槍穂へ続く北アの山々、富山湾の海岸線、そしてこれから向かう三国境～小蓮華山のなだらかな稜線がくっきりと見渡せた。<br>・白馬大池から天狗の庭までは、湿気を帯びた岩がゴロゴロして歩きにくい。天狗の庭から蓮華温泉は、比較的歩きやすくなるが、崩落地を避ける迂回路がまだ踏み固められておらず滑り易い。 |
| 参加者 | | 武内 L、大平、外崎 SL、新谷、本田、高橋冨、石塚、小林安、小野<br>＜男性２名、女性７名、計９名＞ |

白馬岳より下山開始（右正面は雪倉岳

概念図

＜１０７６＞

天覧山～多峯主山～巾着田
（197m）　（271m）

矢野　朝水

## 曼珠沙華は赤い絨毯の海

多峰主山山頂

天覧山頂

500 万本の曼珠沙華が咲く巾着田が山行の主目的。だが、今年は開花が早まっているため、19 日にも計画された。当初予定の 28 日の参加者は中村育子リーダーと矢野朝水のみ。

5：38 天王台発。池袋を経て 7：35 飯能駅着。雨があがり、素晴らしい好天。入間川の河原を経て天覧山を目指す。途中、若山牧水の歌碑。「志ら々と流れて遠き杉山の峡のあさ瀬に河鹿鳴くな里」。

天覧山の麓には、「能仁寺」の古刹。境内は手入れが行き届き、清々しい。紅葉が始まる。本堂の裏山を経て天覧山を登り始めると岩場に「十六羅漢の石仏」。５代将軍綱吉の病気平癒のお礼に生母の桂昌院が奉納したものという。

9：50 天覧山の頂上（197m）。晴れ渡った青天のもと富士山をはじめ丹沢などの山々がくっきりと見える。天覧山は、かつて愛宕山→羅漢山と呼ばれたが、明治 16 年明治天皇が近衛兵の演習をこの山頂から統監したので天覧山と呼ばれるようになったという。

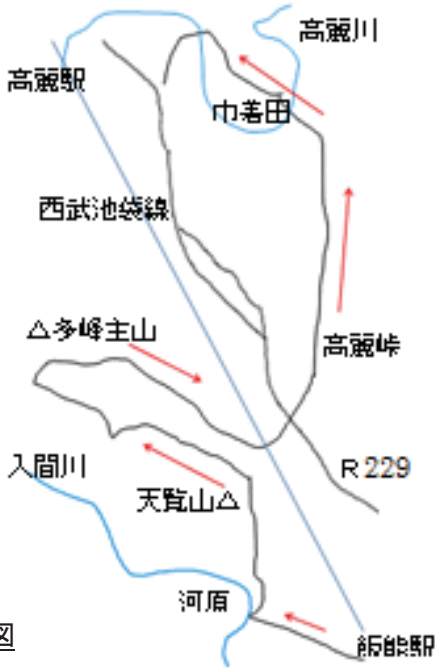
天覧山を下り、9；40 多峯主山（271m）の頂上。ここからの眺めは更に素晴らしい。雲取山、大菩薩嶺、富士山、大室山、高尾山、丹沢、大山の山々。更に、武蔵小杉、新宿、スカイツリー、池袋、大宮などのビル群。北には男体山。

多峯主山を下り、高麗峠を経て巾着田へ着く。だが、高麗川の水量が増し、ドレミファ橋が渡れないので、遠回りしてあいあい橋から 12：00 巾着田に入る。途中、柿が色づき、木槿、酔芙蓉、鶏頭、金木犀、白粉花、コスモス、シオン、セージ、紫式部、ホトトギス、タデの花、韮の花。

曼珠沙華は盛りを過ぎていたが、まだ十分見応えがある。赤い絨毯の海のようだ。人出が多い。屋台が出ている。きのこ蕎麦をもとめ、祭りテントの中で昼食。

巾着田から 20 分、14：00 高麗神社に寄る。山の斜面に建てられた壮麗な大寺院だ。1300 年前、高句麗の滅亡により日本に渡来した高句麗人のためこの地に高麗郡が置かれたが、その首長高麗若光一族の菩提寺。本堂の裏山に登る。秋空の下、豊かな山野が広がる。

バスに乗り 16：05 飯能駅着。池袋を経て 18：17 天王台着。天候に恵まれ、曼珠沙華もまずまず、秋の花々・・・萩、秋海棠、野菊、思草、露草、薄、桔梗などに迎えられて「残り物には福がある」山行でした。




概念図

＜１０７７＞

# 針ノ木岳
（2,799m）

深草　茂美
森岡　正和

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 天覧山～多峰主山 ～巾着田 | | |
| 月日 | 平成 30 年 9 月 19 日（水）・28 日（金） | | |
| 山域 | 奥武蔵 | 地形図 | 1/25000　飯能 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | ①．山頂の展望を楽しむ。②．彼岸花を楽しむ。 | | |
| 費用 | 約3,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、西武鉄道、国際興業バス |
| 行程 | 我孫子駅 5:42→日暮里駅→池袋駅→飯能駅 7:40/45⇒飯能河原 7:57/09⇒能仁寺 8:20/40⇒天覧山 9:00/07⇒多峰主山 9:40/50⇒高麗峠 11:08/15⇒巾着田<br>19 日巾着田 12:15/13:20⇒高麗駅 13:40/13:51→飯能駅 14:20/25→池袋駅 15:12/20→日暮里駅→柏 16 時（反省会）<br>＜歩行時間４時間３０分＞<br>28 日巾着田 12:25/13:30⇒高麗神社 13:50/20⇒栗坪バス停 14:40/15:31 ﾊﾞｽ→飯能駅 16:10/16→池袋駅 17:02/10→日暮里→我孫子駅 18:02<br>＜歩行時間５時間３０分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・危険箇所はない。<br>・標識・トイレは随所にあり、快適に歩くことが出来る。<br>・奥武蔵自然道も草花咲く雑木林の中にあり、管理が行き届いている。<br>・能仁寺、十六羅漢の石仏、歴史上の人物にまつわる解説板等見所がある。<br>・２８日の巾着田はﾄﾞﾚﾐﾌｧ橋が増水のため渡れず、あいあい橋から入った。 | | |
| 参加者 | 19 日：中村育Ｌ、高橋芳、小島洋、北田、林、箕輪完、室崎、箕輪カ（会友）<br>28 日：中村育子Ｌ、矢野朝<br>＜男性５名､女性５名　計１０名＞ | | |

針の木岳山頂付近

## 紅葉の針ノ木沢、雲海に浮かぶ北アルプス

深草　茂美

はじめに

当山行計画は信濃大町駅前の旅館に前泊し、2 日目は扇沢駅から針ノ木沢を登り針ノ木小屋へ、針ノ木小屋から蓮華岳を往復する。3 日目は紅葉の黒部湖、立山連峰、剱岳の景観を楽しみながら種池山荘まで後立山連峰の稜線を歩く。4 日目は種池山荘から柏原新道を下りて扇沢に戻る 3 泊 4 日の山行であった。

山行前日の天気図は、台風 25 号が日本列島に針路向け沖縄県に接近中で太平洋側には前線が横たわっていた。天気図から、前線の動きが早く台風の到達が遅ければ針ノ木沢の登りは雨となるが、前線通過後の稜線歩きの天候は良くなる。一方、台風の動きが早ければ台風が前線を抑止し針ノ木沢の登りは晴れるが翌日の稜線歩きは台風の動き次第となると天候を予測した。その為、荒天でない限り針ノ木沢を登り、後は台風と前線の動き次第で針ノ木沢を扇沢へ下るか、稜線歩きをするか、進退を針ノ木小屋で考える事にして山行を行う事とした。結果は 2 日目の蓮華岳登山を針ノ木岳登山に変更し、翌日扇沢に下る 2 泊 3 日の山行となった。残念ながら、稜線歩きは出来なかったが、紅葉の針ノ木沢を登り、針ノ木岳からは雲海に浮かぶ北アルプスの峰々を眺められた。そなりに秋の針ノ木岳山行を楽しむことが出来た。

1 日目（旅館前泊）

新宿 12 時発の“スパーあずさ”で松本を経由し、信濃大町駅前の旅館に向かう。台風の接近にキャンセルを懸念したのか柏駅で、旅館からの宿泊確認の連絡を携帯に受ける。時間通り旅館到着、天候は曇り、宿泊客は我々他１組。TV の天気予報で台風接近状況のニュースをみる。明日は雨がふり出しそうだが、台風の通過無い。計画通り扇沢から針ノ木沢を登ることにして夕食後早々に床に就く。

2 日目（扇沢→針ノ木小屋）

昨日用意してもらった握り飯を旅館で食べ、朝 5 時タクシーで、旅館から扇沢駅へ向かう。天候は曇り、いつ雨が降り出すか心配。扇沢駅に到着、通常であれば登山装備をした人達を数名は見かけるが、本日は見当たらない。山には黒い雲がかかり今にも雨が降りそうである。針ノ木小屋迄は雨が降らない様にと心で祈りながら、扇沢駅脇にある針登山道に入る。針ノ木小屋への登山開始である。ゴロゴロとした岩の上を五回程車道を横切り歩く。針ノ木自然歩道と書かれた標識のある道に入る。ここからはブナ林で道も整備されていて、歩きやすい。小さな沢を数回横断して橋の無い大きな川を渡る。その後少し林の中を歩き大沢小屋に到着する。時期的に閉鎖中である大沢小屋の前で休憩する。大沢小屋からは少し登りがきつくなる。ダケカンバの林を抜けると視界が開け、左側下方に大きな川の流れと、前方に針ノ木沢の一部が見える場所に出る。この辺りから一転し青空が見える様になる。針の木沢の岸壁に紅葉した木々と緑の常葉樹が点在する景色はまさに水墨画の世界を見る様である。左手に爺ヶ岳を望め、川の流れを下に見ながら、川と平行に、梯子やロープのかかった急な岩場を登る。暫く進むと針ノ木沢の全景が見える場所に到着する。夏場であればこのあたりから雪渓であるが、この時期は、雪は融けていて、細い沢の水が流れる急なガレ場となっている。この沢を数回横切りながらジグザグに登ると両岸が迫った岩場に到達する。この岩場を登り切ったところから、丸太で土留めした急な砂地の登山道を登ると、やっと針ノ木小屋の立つ針ノ木峠に到着する。途中何度も休憩して、その都度振り返り、登ってきた沢の景色を眺める。紅葉した木々がある谷と青空の間に爺ヶ岳や後立山連峰のやまなみが見える景色が急な登りの疲れをいやしてくれる。

針の木峠の標識から数歩登り針ノ木小屋の玄関に回る。小屋の前に置いてあるベンチに腰をかけて沢と反対側の景色を眺める。展望は大きく開け、近くは野口五郎岳、水晶岳が、その先に槍、穂高岳の峰々が、風に流され刻々と型を変える雲海の上に見える。この景色を暫く堪能した後、小屋に入り宿泊の手続きをする。昼食をしながら、小屋の TV とスマホの気象情報をもとに今後の進退をメンバーと相談した。明日の午後日本海側を台風が通過するため、予定コースの稜線は強風が予想された。その為、本日予定の蓮華岳登山を針ノ木岳登山に変更し、明日午前中に針ノ木沢を扇沢に下りることにした。

（針ノ木小屋→針ノ木岳）

昼食後サブザックに雨具と水を詰めて針ノ木岳山頂を目指す。テント場を過ぎ岩場の斜面を登ると針ノ木岳が見えてくる。そこからは当初計画していた、針ノ木岳から岩沢岳迄の稜線がはっきり見えた。少し残念な思いが募る。急な岩の斜面を登りきると、我々以外誰もいない、針ノ木岳山頂に到着する。ここからの展望は絶景であった。刻々と変化する雲海の流れの上に北アルプスの峰々が見えた。正面に立山連峰、剱岳、右手に白馬岳、鹿島槍に続く後ろ立山連峰の稜線、さらに視界を左に移せば薬師岳、黒部五郎岳、鷲羽岳、水晶岳、その先に槍、穂高連峰等々。また山裾を見れば緑の黒部湖が雲の合間から見える。この展望をゆっくり楽しみ集合写真をセルフタイマーで撮影した後針ノ木小屋に戻り 2 日目の山行を終える。

針ノ木谷大沢小屋へ向かう岩場を下りる

槍と穂高連峰、針の木小屋から

3日目

## 朝日に照らされた紅葉

森岡　正和

（針ノ木小屋→扇沢）

山行三日目は針の木岳からズバリ岳、赤沢岳、鳴沢岳、種池山荘までの縦走計画であったが台風２５号接近に伴う午後からの天候悪化と強風見込みにより計画を変更し、一日予定を短縮し前日登って来たルートで扇沢に下山する事になる。当日朝は晴れで針の木小屋からは北アルプス全体を眺望出来、槍ヶ岳、富士山も美しく望める事が出来、その場を離れるのが惜しい気持ちになる。

６時７分に小屋を出発し下り始めると、濃い緑の混じった紅葉の山肌に目をとられる。

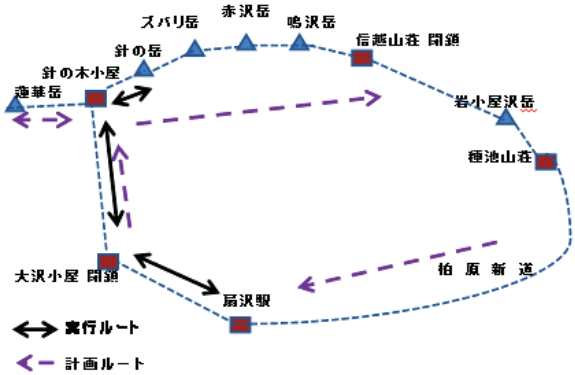
登りにも同じ場所を観ているが、晴れた朝の光が前日とは異なった色付きになっている。

予定変更で時間的な余裕が出来、景色を楽しみながら比較的ゆっくりとしたペースで下山するが登り同様、鎖り場、渡渉箇所が数か所あり注意が必要。扇沢までの下り標高差約 1100mを約５時間楽しみながら下ったが、天気は終始晴れていた。

扇沢から針の木岳付近の稜線を眺めると黒い雲がかかっており計画変更は正解であったと皆で納得しながら帰路に就いた。

以上-

概念図




概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 針ノ木岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年 10 月 4 日(木)～10 月 6 日(日) | | |
| 山域 | 後立山連峰 | 地形図 | 黒部湖 1/25000 |
| 形式 | 山麓・山小屋 | グレード | ２Ｂ |
| 目的 | 紅葉の北アルプスの展望を楽しむ。 | | |
| 費用 | 約 32,000 円 | 交通機関 | JR、ﾀｸｼｰ、ﾊﾞｽ |

| | | |
|---|---|---|
| 日程 | 1日目 | 柏駅 10:39→日暮里経由→新宿駅 11:42/12:00→ｽｰﾊﾟ あずさ 15 号→松本駅→信濃大町駅 16:1⇒七倉荘 16:15<br>（歩行時間　前泊日の為歩行時間無し） |
| | 2日目 | 七倉荘 05:00→ﾀｸｼｰ→扇沢駅 5:40/5:50⇒大沢小屋 7:25/7:35⇒針ノ木小屋（宿泊手続きと昼食） 11:30/12:36⇒針ノ木岳 13:38/14:00⇒針ノ木小屋 14:58（泊）<br>＜歩行時間:休憩時間含む:7 時間＞ |
| | 3日目 | 針ノ木小屋 6:07⇒大沢小屋 9:35/9:50⇒扇沢駅 11:15/11:30→ﾊﾞｽ→信濃大町駅 12:05⇒七倉荘（入浴） 12:08/12:50⇒信濃大町駅前付近（昼食） 13:00/13:45→信濃大町駅 14:13→松本駅 15:25→あずさ 24 号→新宿　18:30/18:35→日暮里→柏　19:30<br>＜歩行時間:休憩時間含む:約 5 時間＞ |
| ﾙｰﾄ状況 | | *雪渓の雪が融けていたため大沢小屋から針ノ木小屋まで岩稜ルート（夏道）を歩いた。<br>**＜扇沢駅～大沢小屋＞**扇沢駅の左脇側に登山道入り口がある。登山道に入った後 5 回車道を横切る。車道の横断箇所は全て標識があるので標識に沿って横断する（約 0.5H）。その後、大沢小屋まではブナの樹林帯を歩く。橋のある沢を 3 回、橋の無い沢を 2 つ渡ると大沢小屋に到着する（登り約 1.0H）。<br>**＜大沢小屋～針ノ木小屋＞**大沢小屋から雪渓尻迄、沢沿を歩き、急な傾斜の岩場を 5 回程登ると雪渓の尻にぶつかる（登り約 1.0H）。この時期は雪渓の雪が融けている。沢を数回横切りながら、沢に沿ってジグザグにガレ場を登る（登り約 1.0H）。沢が切れたところからザレ場を登り切ると「針ノ木峠」の標識が立つ峠に到着する（登り約 1.0H）。そのすぐ後ろに針の木小屋がある。<br>**＜針ノ木小屋～針ノ木岳＞**針ノ木岳は針の木小屋から西へ向かう登山道を行く。まずザレバ場を約 30 分、そしてその後ガレ場を約 30 分登ると針ノ木岳頂上に到着する。頂上は正面に立山連峰と剣、右手には鹿島槍、白馬、左手には槍、穂高連峰、と北アルプスの峰々の全景を見渡せる。山裾を見れば、黒部湖が見える絶景ポイントである。 |
| 参加者 | | 深草 L、小林安 SL、森岡<br>〈男性 2 名、女性 1 名　計 3 名＞ |

＜１０７８＞

那須岳(茶臼岳)
（1,915m）

吉澤　こう

## 山の天気は気難しい
## 運良く登れた時はラッキー

１０月７日（月）

長年行きたかった三斗小屋温泉に入れることと、最高の紅葉がみられることに胸を躍らせ家を出ました。上野から新幹線で１時間、那須高原駅へ着いた。タクシーでロープウエイ山麓駅へ向かい順調に走っていたが、渋滞に入ったらほとんど動かない状態なのにメーターだけは動いて料金が気になっていた。

外では歩いている人が多く、降りて歩くことも考えていた時に運転手さんがトイレによると言い車を止めた場所が大丸温泉、山麓駅までは歩いて２０分、ここでタクシーを降り、車道を横切りながら山麓駅に着いたが、強風のためロープウエイは運転中止だった。

峠の茶屋から峰の茶屋跡へ向かい、中の茶屋跡までは樹林帯なので風が吹いてはいても歩けた。その先吹きさらしの中へ出たとたん体が飛ばされる強風が吹き荒れていた。ストックで体を固定し歩いてはみたが、危険なので三斗小屋へは無理と判断して山麓駅まで下りた。峰の茶屋付近の風速は４０ｍ、３ｍ滑落した人がいると聞き、下山をして良かったです。

ここで本日帰宅するか宿を探して見つかれば明日登山をするか話し合い、宿が見つかれば明日登山をすることで意見がまとまり、当日のことなので心配をしながら連絡をいれたらペンションが二部屋(ツイン)があり、明日の登山に向けて大黒屋ではなくペンションに向かうことになった。

茶臼岳山頂にて

湯元温泉の鹿の湯で入浴。乳白色で硫黄のにおいが有り、浴槽は女性が５つで４１度から４６度、男性の浴槽が６つで４１度から４８度の設定で、好みの温度で楽しめます。私は４４度まで入れました。

１０月８日（月：祝日）

昨日の夕食がとてもおいしく、コーヒーも豆を自分たちで挽いて入れた味がとてもおいしかった。朝食は８時半からとのことで、早く出発をしたかったので持参した個人食ですませた。

タクシーで昨日同様山麓駅までだが、祝日であり紅葉を求める人が多く渋滞は昨日同様。三本槍の登頂が目的だが往復の時間を考えると難しいので茶臼岳のみにした。この日は風のない曇りであり、日が差す時間も時々あり、登山にはちょうど良い天候だった。峰の茶屋跡からの景色はとても良い眺めで朝日岳、三本槍岳に向かっている人、帰ってくる人、眼下には紅葉の中に沢山の人々が見えた。この先５０分歩けば三斗小屋へ行けるのに、本日も断念。山の天気は気難しい。運良く登れた時はラッキー、三斗小屋、三本槍岳にはまた来たいと心を残して帰路につきました。リーダーの村越さん、本田さん、板倉さんお世話になりました。ありがとうございました。

茶屋跡から見える茶臼岳の山頂

概念図

＜１０７９＞

# 仙丈ヶ岳
(3,033m)

桐生　恭子

茶屋跡から見える茶臼岳山頂

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 那須岳(茶臼岳) | | |
| 月日 | | 平成 30 年 10 月 7 日～10 月 8 日 | | |
| 山域 | | 那須 | 地形図 | 1/25000 那須岳<br>那須湯本 |
| 形式 | | ペンション泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２B |
| 目的 | | 紅葉の那須連山を縦走する<br>ランプの宿　三斗小屋温泉に泊まる | | |
| 費用 | | 26,000 円 | 交通機関 | JR,タクシー,<br>ロープウエイ |
| 日程 | 1日目 | 我孫子駅 5:31 発→上野 6:04/6:26→那須塩原 7:32/7:40→大丸温泉駐車場 8:55⇒峠の茶屋駐車場 9:20/9:35⇒那須岳登山口 9:45⇒中の茶屋跡 10:10（強風の為下山）⇒ロープウエイ山麓駅 11:00/12:13→湯元温泉 12:40⇒鹿の湯 12:50/13:48→サファリパーク入り口 14:00⇒14:45/16:00 ハーミテイジ白い雲　　＜歩行時間：3 時間＞ | | |
| | 2日目 | ハーミテイジ白い雲 8:45→10:15/10:25 ロープウエイ山麓駅→山頂駅 10:30/10:45⇒茶臼岳山頂 11:30/12:00⇒峰の茶屋跡 12:35/12:45⇒中の茶屋跡 13:10 ロープウエイ山麓駅 14:08→那須塩原駅 18:02→上野 19:10/19:24→我孫子 19:59<br>＜歩行時間：3 時間 30 分＞ | | |
| ルート状況 | | ・台風の影響で強風が吹き、峰の茶屋跡に向かう。稜線に出るとものすごい強風で、吹き飛ばされそうになる。<br>・茶臼岳はざらざらした小石がたくさんあり、滑らないように注意して歩いた。<br>・道標、ルートを示すマークが黄色いペイントで書かれていて迷うことはなかった。 | | |
| 参加者 | | 村越(L)、本田(SL)、板倉、吉澤<br>男 1 名、女　3 名、　計　4 名 | | |

小仙丈ヶ岳にて（バックは雲海上の甲斐駒ケ岳）

12 日

出かけるとき柏は今にも雨が降りそうな朝でした。あずさでも甲府近くまで雨が降っていました。駅に降りると幸いなことに雨は止んでいました。

北沢峠に早く到着できるようにリーダーが甲府駅→広河原のタクシーを予約してくれていました。お陰で広河原発北沢峠行の 10 時半のバスに乗ることができ北沢峠に 10 時 55 分に着きました。少し休憩をし、11 時 20 分に歩き出しました。時間と気持ちに余裕ができ、ゆっくり歩く事ができました。リーダーに感謝です。

時期的に紅葉は終わっていると思っていましたが、バスの中から対岸の山肌が輝いているのが見えました。また北沢峠も標高 2000mほどあり、丁度このあたりまで紅葉が下りてきていましたので、諦めていた紅葉も楽しむことができ得をした気分になりました。大平山荘の前から沢筋（藪沢重行新道）ルートを選び、南アルプスらしい原生林の中を所々紅葉が残っていた登山道を 2 度程渡渉し沢沿いを登っていきました。ざれた急登を登り、登り切ったところに「馬の背ヒュッテ」が建っていました。北沢峠から 3 時間ほどかかりました。この小屋は前から泊まってみたいと思っていた小屋です。清潔な居心地の良さが感じられる小屋でした。明日 13 日が小屋閉めとのことでした。

日本一の富士山と二番の北岳

13 日

6 時 10 分出発。朝一番の急登をゆっくり登りました。今日は雲海がほんとうにすばらしかったです。登りきると藪沢カール全体とその中に仙丈小屋と山頂が見えてきました。南アルプスの女王と言われる、たおやかな山容を見ることが出来ました。

風の強い仙丈小屋を過ぎ、仙丈ヶ岳の山頂に到着。雲海の中に360度のパノラマを楽しみました。富士山、北岳、間ノ岳、はもちろん北アルプス、中央アルプス、八が岳、地蔵岳、甲斐駒ヶ岳・・・山々が雲海の中にぽっかり浮かんで見える様は幻想的で、そして圧倒されて言葉が出ませんでした。山頂は朝早かったので他の登山者がいなく、私達グループの独占状態でした。仙丈ヶ岳は 3 つのカールを擁しているとのことですが本当に澄んだ空気中のそのすばらしい景色を十二分に堪能できました。頑張って登ってきたご褒美をたくさんもらった感じがしました。

今日は土曜日ということもあって、小仙丈ヶ岳を過ぎたあたりから、どんどん人が登ってくるのが見えるようになりました。また雲もわいてきて、後 1 時間山頂到着が遅かったらあの景色を見ることが出来なかったと思うと、早朝頑張って登って本当によかったと思いました。

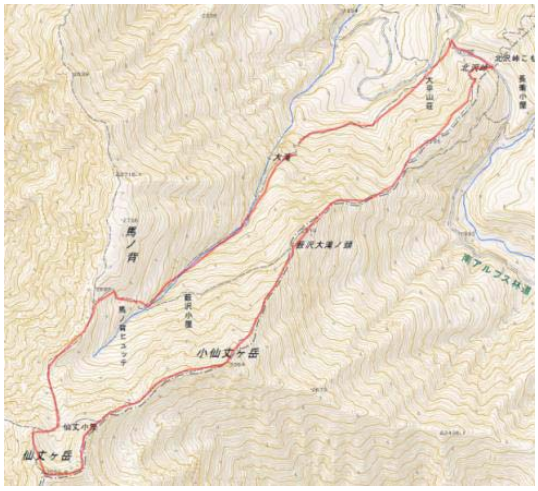
小仙丈ヶ岳でも景色をゆっくり楽しみ、北沢峠を目指して原生林を慎重に下りました。北沢峠は昨日より季節が一つ進んだようで寒く感じられました。

出発時雨の心配もありましたが、終わってみれば天候に恵まれ、リーダー、仲間に恵まれた山行となりました。長年の希望であった「南アルプスの女王」と言われる仙丈ヶ岳の山頂に立てましたし、小屋泊でゆっくり縦走でき、こんなうれしいことありませんでした。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | | 仙丈ヶ岳 | | |
| 月日 | | 平成 30 年 10 月 12 日～13 日（金土） | | |
| 山域 | | 南アルプス | 地形図 | 1/25000 仙丈ヶ岳 |
| 形式 | | 山小屋泊 | グレード | ２B |
| 目的 | | 南アルプスの紅葉を楽しむ | | |
| 費用 | | 25,000 円 | 交通機関 | JR、ﾀｸｼｰ、バス |
| 日程 | 一日目 | 我孫子 5:31→柏→日暮里→新宿 6:30/700→甲府 8:28/9:10→ﾀｸｼｰ→広河原 10:25/10:30→北沢峠 10:55/11:20⇒大平小屋⇒馬の背ヒュッテ 14:20 ＜歩行時間 2 時間 40 分＞ | | |
| | 二日目 | 馬の背ヒュッテ 6:10⇒仙丈小屋 7:05/7:10⇒仙丈ヶ岳 7:40/7:50⇒小仙丈ヶ岳 8:50/9:00⇒五合目分岐 9:45/9:50⇒北沢峠 11:15/13:30→広河原 13:55/14:00→甲府 15:55/1610→新宿 17:10/17:59→日暮里→柏→我孫子 18:51 ＜歩行時間 3 時間 30 分＞ | | |
| ルート状況 | | ・広河原~北沢峠間の交通手段は市営バスのみ、本数が少ないので注意。定員オーバーの場合は増便あり。<br>・登山道はよく整備されていて、特に問題なし。<br>・仙丈小屋から上は風が強いので注意が必要。 | | |
| 参加者 | | 矢野貞 L、小島 SL、郷田、桐生 参加者4名（男１、女３） | | |

**概念図**



＜１０８０＞

# 硫黄岳
（2,760m）

高橋　富美子

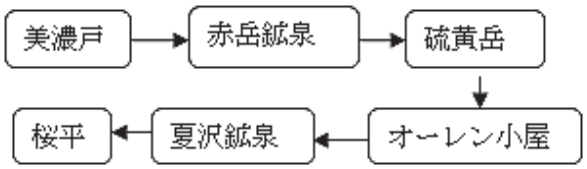
## 山頂目指すが、雨･･･

硫黄岳山頂にて

美濃戸より入山、唐松の黄葉を観ながら赤岳鉱泉を目指し登ります。台風２４号の影響で登山道が流された為、山沿いの道を行きました。赤岳鉱泉は若い人が多く、夕食はステーキ、赤ワインで乾杯しました。

**２日目**　硫黄岳を目指すのですが、あいにくの雨午前中には晴れる予報でしたので出発しましたが、途中で頂上を断念した人が下山してきました。私たちは予報を信じて頂上まで行きました。雨の為何も見えず、写真を撮って直ぐに下山しました。本沢温泉方面に下山する予定でしたが、登山道がかなり荒れているので夏沢鉱泉方面に変更しました。下山道は針葉樹林で風の影響も少なく、倒木も岩も苔むして一面緑色、静かで潤いに満ち、心が清められるようでした。
途中オーレン小屋でｺｰﾋｰブレイクを取ると、身体が軽くなり軽快に桜平まで下山しました。

**概念図**




**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 硫黄岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年 10 月 13 日（土）～14 日（日） | | |
| 山域 | 八ヶ岳 | 地形図 | 1/25,000　八ヶ岳西部、八ヶ岳東部 |
| 形式 | 山小屋 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ｂ |
| 目的 | 秋の八ヶ岳を楽しむ。 | | |
| 費用 | 25,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、タクシー |
| 日程 1日目 | 我孫子駅 5:31→新宿駅 6:30/7:18（あずさ 51 号）→茅野駅 9:47/9:50（タクシー）→美濃戸口　10:20/10:30⇒美濃戸山荘 11:30/11:50（昼食）⇒林道終点 12:50⇒山手の道（北沢が崩壊）⇒赤岳鉱泉 14:10（宿泊）霧雨のち曇り<br>＜歩行時間:3 時間 10 分＞ | | |
| 日程 2日目 | 赤岳鉱泉 6:30⇒赤岩の頭 8:10/8:15⇒硫黄岳 8:40/8:50⇒赤岩の頭 9:05/9:10⇒オーレン小屋 10:00/10:45（コーヒータイム）⇒夏沢鉱泉 11:25/11:40⇒桜平駐車場 12:10/12:25（タクシー）→茅野駅 13:00/14:19（あずさ 20 号）→新宿駅 16:34→東京駅→我孫子駅 17:45<br>＜歩行時間:4 時間 20 分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 先日の台風 24 号の影響で美濃戸口からすぐの登山道は車が通れる橋が流されていて工事中となっていました。歩行者は簡易的な橋で通行はできます。赤岳鉱泉までの登山道は特に問題なく歩けますが、やはり台風 24 号の影響で倒木や崩壊している箇所が多々見受けられました。<br>また、途中、通常ルートが旧道を通るルートに変更となっていました。赤岳鉱泉から硫黄岳へのルートは特に問題ありませんでした。硫黄岳からの下山ルートは当初、本沢温泉方面に下山する予定でしたが、登山道がかなり荒れているとのことでオーレン小屋、夏沢鉱泉方面へ変更しました。この下山ルートは樹林帯の中を歩くため風の影響をあまり受けずに歩くことができました。台風 24 号の影響で全体的に登山道が荒れている場所が多々あるのでルート状況は山小屋等に確認する必要があると思います。 | | |
| 参加者 | 北川 L、武内 SL、外崎、高橋富<br>＜男性２名、女性２名　計４名＞ | | |

＜１０８１＞

## 奥久慈男体山
（653m）

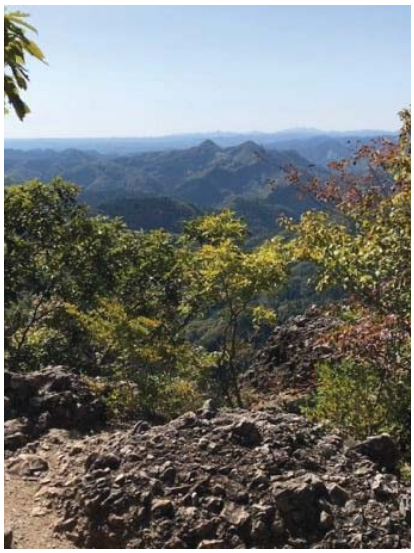
小島　徹

### 遥か日光・那須連山の山々望む

Ａ班集合　↑　　Ｂ班集合　↓

8 月以降悪天候で中止になった山行が多くありましたが、当日は久々の快晴でむしろ少し蒸し暑い位でした。常磐線は日曜日の早朝の電車にも関わらず割りと乗客がいて、参加者は 2 名、3 名ずつ等に分散して乗車しました。行きも帰りも水戸駅で 20 分程度の待ち合わせ時間があり、ときわ路パスを利用し下車して駅周辺を散策した人もいました。登山口の西金駅まで水郡線で約 1 時間かかるローカルの単線区間でした。

西金駅でトイレ、班分け（各 10 名、2 班）してメンバーとの顔合わせ、屈伸などの準備体操を行った後登山を開始しました。大円地までは広い舗装路をゆっくりと歩きました。湯沢より先は道が狭く、たまに通る自動車に注意しながら進みました。大円地手前の駐車場に併設されている公衆トイレで小休止して、いよいよ本格的な山道に入りました。大円地山荘（そば屋）を見送り、左側の健脚コースに進みました。標高約 200mの大円地から、一気に頂上までの約 450mを鎖の付いた岩登りとなりました。20 分ほどで南側の展望の良い小ピークで小休止して筑波山等を望みました。先に上られていた地元の夫婦から、これからさらに登りがきつくなると言われました。この夫婦の後について登りましたが、たしかにきつい登りの連続で頂上に着く頃には息も絶え絶えの状態でした。頂上手前で西側に展望の開けたところでは、日光、那須方面の山々を見ることが出来て疲れも吹っ飛びました。山頂到着が予定より 30 分ほど遅れていたため、急いで昼食をとりグループ写真を撮って、下山を開始しました。登りのような鎖や岩場はありませんが、ところどころに急な個所があるので注意しながら下山しました。健脚コースとの分岐を過ぎ、そば屋に付いたのですが、既に 13 時半を過ぎていたこともありそばは売り切れだったので、立ち寄らずに登りで休憩した駐車場で休憩しました。予定していた西金発の上り列車には間に合わないことはそば屋に着く前に分かっていたのでトイレを済ませて湯沢まで行き、ここで足湯入浴が出来ることが分かり、立ち寄りました。元は近くに温泉宿があったのですが廃業してしまい、現在は有志により源泉から引いた源泉（27℃ほど）を加熱して足湯として設置しているとのことです。一部の方は缶ビールを飲みながらの足湯が思いのほか心地良く、また登山の疲れやこれまでの山行を振り返ることが出来ました。足湯を出発し西金駅に着いたのは 15 時 30 分頃で、次の列車の出発時間 16 時 9 分までは無人駅の周りをぶらぶらしたり、ストレッチをしたりして時間をつぶしました。

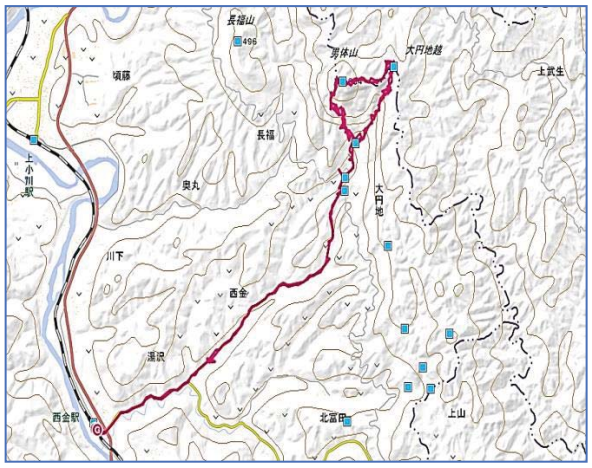


好天に恵まれて

＜１０８２＞

# 宮之浦岳
（1,936m）

林　敏生

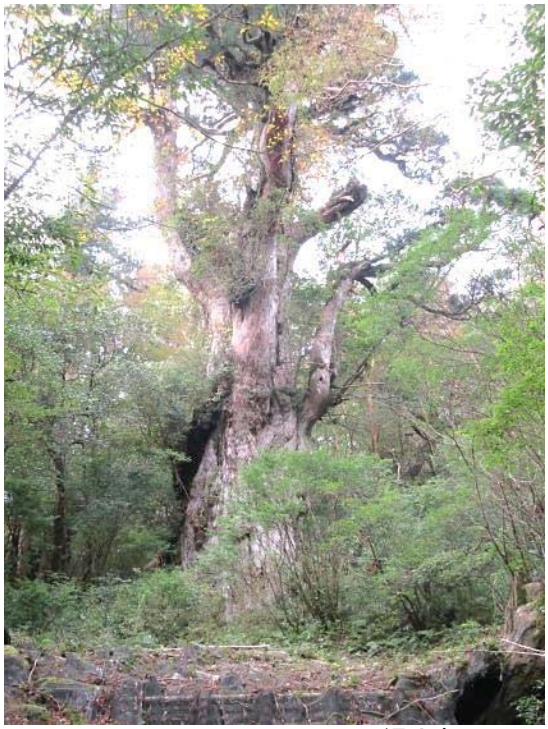



概念図

## 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 奥久慈男体山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 10 月 21 日（日曜） | | |
| 山域 | 奥久慈 | 地形図 | 1/25000　大中宿 |
| 目的 | ①　奥久慈の名峰を歩く<br>②　岩登りを経験する | | |
| 費用 | 約 25,00 円 | 交通機関 | ＪＲ |
| 行程 | 我孫子駅 5:42→水戸駅 6:58/7:28→西金駅 8:34/8:50⇒湯沢⇒大円地 9:55/10:05⇒男体山山頂 11:35/12:10⇒大円地越 12:30⇒大円地 13:30/13:40⇒湯恵足湯⇒西金駅 16:09→水戸駅（17:14/17:34）→我孫子駅 19:01<br>〈歩行時間 3 時間 20 分〉 | | |
| ルート状況 | ・トイレ、道標はキチンと整備されている。<br>・バス等が無いため、電車利用の場合は、登山口まで約 4.2Km の道路を歩くこととなる。<br>・コースは、登りは鎖場の練習に健脚コース、下りは一般コースを選ぶ。鎖場も足場がきちんとしており、三点確保で慎重に登れば問題はない。 | | |
| 参加者 | A 班：藤家 L、外崎、武内 SL、矢野貞、郷田、高橋冨、田嶋、小野、矢野朝、森岡<br>B 班：村越 L、中村八 SL、箕輪、大平、小林安、板倉、松下、小島徹、佐藤、小島洋<br>〈男性 11 名：女性 9 名　計 20 名〉 | | |

## 三度目の正直



縄文杉

まず最初にひとこと、やまなみの感想文をリーダーから指名を受けておりましたが、完全に忘れており第 17 号完成間近に慌ててパソコンに向かいました。

タイトルの三度目とは、社会人になりたての時、五月の連休を利用して計画したが、天候不順で断念、二度目は十数年前で、健脚の者だけが、東京から二泊三日で〈縄文杉〉から宮之浦へ足を延ばすプランであり、強行軍で登頂するムードがグループになく引いてしまった。

今回は四泊五日で、屋久島の島内観光も最終日に予備として確保してあり余裕もあった。

第一日目は成田から鹿児島への移動のみで、空港近くの宿泊所へも送迎込み、素泊まり 2000 円とはびっくりしました（内容は参加者に直接どうぞ）。

第二日目は、鹿児島空港から屋久島空港、食料を確保して本日の宿泊所淀川小屋へ（歩行 50 分）。この日もゆったりした工程だが、朝一便の飛行機が欠航し、二便の飛行機が一便に比べ定員が少な

く乗れるか不安になったが、搭乗して感じたのは一便の乗客が少なすぎて、わざと欠航したのではないかと勘繰った。鹿児島から屋久島までは 40 分程度で、種子島が間近に見れたが、意外とフラットな島には驚いた。

第三日目 淀川小屋を 5:00 に出発し、花之江河、投石平までは杉や照葉樹の森林を歩き、投石平に出ると森林限界を抜けて、急に視界が開けた。宮之浦岳までの登りはややきつくなったが、あちこちに点在する花崗岩の奇岩・巨岩と〈ヤクサザ〉が楽しませてくれた。5 時間で九州最高峰の宮之浦岳に到着。登山書にはこの山は女性的と紹介されているが、私にはわからなかった。屋久島には九州最高峰の宮之浦岳以外に 8 番までの高山が集中しているのには驚いた(知らなかった)。ここからは本日の宿泊、新高塚小屋へ、途中三名が永田岳へ寄り道。この日は登山客が縄文杉を目指して、小屋が満杯になると聞いていたが、ガイド付きの登山者が後から到着して満杯になった。

第四日目　新高塚小屋から縄文杉へは一時間の歩行で到着、登山客は我々以外にいなくてゆっくり眺められた。最近は縄文杉の近くには寄れないように柵もあったが何とも言えない雰囲気が漂っていた。ここからの下山ルートは世界遺産に登録されていることもあり、木道も結構あり整備が行き届いていた。

夫婦杉、ウィルソン杉を通って、大株歩道入り口へここからは整備されたトロッコ軌道の上を歩き、楠川分かれから今回最後の目的地白谷雲水峡へ。ガイドブックには白谷川の流れが生んだ峡谷を中心に、鬱蒼と茂る屋久島杉と照葉杉の原始林は深く苔むした太古の森。宮崎駿監督がイメージを作り上げた〈もののけ姫の森〉もスポットもありました。

しかし、ゴール間近で足は自然にタクシーの待つ駐車場へ。入山時に環境保全協力金 2000 円・人支払うところがなく自主的に下山時に支払った。

縄文杉と合わせて天候の話は切ってもも切れないと思いますので、地元で聞いた話を　1)一か月に 35 日は雨が降る　2)一日の天気を雨、曇り、晴れといってもはずれはない　3)誰でも天気予報官には屋久島ではなれる。

縄文杉は、屋久島杉は樹齢 1000 年以上のものをいい、江戸時代にはすでに発見されており、切り出しても大きすぎて搬出が困難であり今に至ったとの事。今後植林しても屋久島杉となるまで成長しないとのことだった。

第 5 日目は予備にとっておいた日でもあり、飛行機の待ち時間に島内観光をレンタカーを借りて行った。まず〈平内海中公園〉での入浴は、タイミングよく干潮時の二時間(この時以外は水面下に沈む)にあたりラッキーではあったが、脱衣所もなく足湯の観光客と一緒に入浴はせわしなく恥ずかしい温泉。女性二人は近くの温泉へ。

〈千尋(センビロ)の滝〉　落差は 60m　屋久島に降る大量の雨がこの滝を演出しているが、ここは降雨の後が必見だと思われる。

〈地浸温泉〉は鹿児島空港近くで、坂本龍馬新婚旅行の地　竜馬がお竜さんと日本最初の新婚旅行を行ったときに立ち寄った場所の一つと説明があった。規模の小さい温泉であったが訪れる人が多いのにはびっくりした。

帰路は予定通り、成田空港に到着、成田線への最終電車への接続をあり今回一番の速足で移動。何と思い出多き屋久島宮之浦岳。リーダー北田さんご苦労様でした。

紀元杉にて

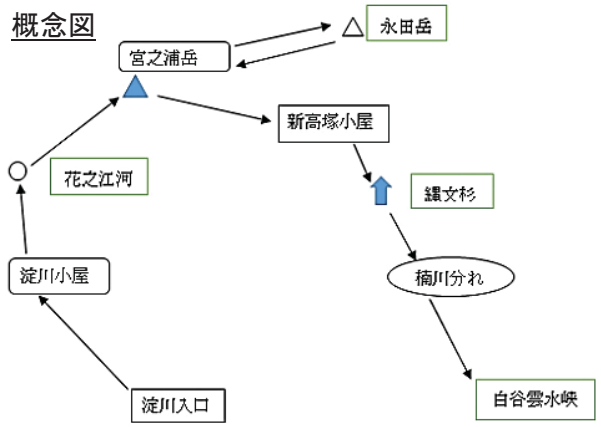
宮之浦岳山頂

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 宮之浦岳 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 10 月 30 日(火)～11 月 3 日(土) | | | |
| 山域 | 屋久島 | 地形図 | 1/25000　屋久島 | |
| 形式 | 山小屋泊・山麓泊 | | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | 3B |
| 目的 | ①　日本列島最南の百名山に登る<br>縄文杉の生命力に触れる | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ヒヨウ | | 約　70,000円 | 交通機関 | ＪＲ、飛行機、タクシー、レンタカー |
| 日程 | 1日目 | 我孫子 10:47→11:28 成田 11:32→11:43 成田空港 13:45（ジェットスター）→鹿児島空港 16:10（宿の迎車）→宿屋山一（素泊） | | |
| | 2日目 | 宿 7:00（宿の車）→鹿児島空港 10:15（JAC）→10:55 屋久島空港 12:00（タクシー）→（途中買物）→淀川登山口 13:20 ⇒14:15 淀川小屋（泊）（歩行時間:50 分） | | |
| | 3日目 | 淀川小屋 5:00⇒7:00 花之江河 7:10⇒8:00 投石平 8:10⇒10:25 宮之浦岳 11:00⇒11:25 焼野三叉路（ここから 3 名は永田岳の空身往復 1 時間半）11:30⇒平石岩屋 12:20 ⇒ 14:10 新高塚小屋（泊）（歩行時間:7 時間 30 分） | | |
| | 4日目 | 新高塚小屋 6:30⇒7:40 高塚小屋 7:50⇒8:10 縄文杉 8:30⇒夫婦杉 9:05⇒ウイルソン杉 10:10⇒10:35 大株歩道入口 10:50⇒12:00 楠川分れ 12:10⇒13:20 辻峠 13:25 ⇒15:00 白谷雲水峡（タクシー）→民宿屋久島（歩行時間:6 時間 30 分） | | |
| | 5日目 | 民宿→屋久島空港 14:10（JAC）→14:45 鹿児島 19:55（ジェットスター）→22:05 成田空港 22:40→23:40 我孫子（午前中は島内をレンタカーにて平内海中温泉（男）、湯泊温泉（女）に入浴及び千尋の滝見学、午後は鹿児島空港から付近の温泉入浴） | | |
| ルート状況 | | ・世界遺産に登録されているせいか登山道は至るところに木道が敷かれているなど整備が行き届いていて歩きやすかった。<br>・雨の多い地域なので、小屋周辺の水場状況は良好。また、縦走路にも水場が多い。<br>ただし、今回は雨が少なかったせいで、水量が思っているほどなかった。 | | |
| 参加者 | | 北田 L、佐藤 SL、林、本田、小野<br>男性３名、女性２名、合計５名 | | |

**概念図**




＜１０８３＞

## 日の出山～御嶽山～大岳山～馬頭刈尾根

(902m)　(929m) (1,267m)

矢野　朝水

紅葉の奥多摩三山をビスターリに歩こうという計画どおり、好天に恵まれ紅葉の奥多摩を堪能できました。

**1日目**　2018 年 11 月 2 日、5：34 我孫子発。新松戸、西国分寺、昭島を経て 7：36ＪＲ武蔵五日市駅に到着。快晴。爽やか。絶好の登山日和だ。8：17 西東京バスに乗車する。バスは秋川渓谷に沿って登る。柿紅葉や銀杏黄葉が所々に見え、紅葉の季節を実感する。8：40 上養沢に到着し、登山開始。　「渓流の所々に色づく紅葉かな」

メンバーは高橋芳恵Ｌ，田村光子ＳＬ，中村育子、小島洋子の皆さんに矢野朝水。杉の森を抜けると桜やクヌギの紅葉、コウヤボウキ、リンドウ、センブリ、アザミ、野菊の花。田村さんは花に詳しく、見つけて教えてくれる。　「竜胆の花咲く崖を登りけり」　山頂近くの岩場をよじ登り、10：50 日の出山（902m）山頂に到着する。眼下には青梅、八王子、所沢の町並みが広がる。左手の山頂には御嶽神社が鎮座する。昼食の後 11：25 山頂を下り、紅葉の林を抜け御嶽神社に向かう。「紅葉の木漏れ日を行く乙女かな」

12：10 本日の宿、「御師」の宿坊「宝寿閣」に到着する。柴犬のタロウが吠えて迎えてくれる。宿坊は築 130 年の萱葺き。歴史を感じる。休憩の後荷物を預け、12：35 御嶽神社にお参りする。御嶽神社は紅葉の盛りで、紅や黄の葉が照り映えて美しい。神社の裏手が「御岳山」山頂（929m）。日を浴びて紅葉輝く御岳山　「紅葉の映える御嶽の社かな」12：55「奥の院」へ向かう。「天狗の腰掛」と呼ばれる老杉のある杉の森を抜ける。奥多摩三山の杉の森は手入れが行き届いて真っ直ぐな杉が林立し美しい。「奥の院」は紅葉真っ盛りの山頂にある。岩場を登り 13：45「奥の院」に到着する。　「秋空に伸び行く杉の美林かな」「紅葉の海に浮かぶや奥の院」休憩の後 14：00 下山し、宿坊に戻る途中、14：45「天狗岩」と呼ばれる大きな岩に登る。15：00「天狗岩」を出発、宿坊への帰路、田村さんがシモバシラを見つけて教えてくれる。白い花が霜柱に似ているからでは

なく、枯れた茎に霜柱が出来るのが命名の理由だという。紅葉と眺望の素晴らしい「展望台」を経て 16：00「宝寿閣」に到着する。柴犬のタロウは我々をお客さんと認識したようで吠えず、じゃれてくる。ジャグジー付きのたっぷりのお風呂に入り、夕食。栗とムカゴのご飯が出る。山の夕食がおいしいのは水が良いせいだろう。夕食の席で高橋芳恵さんが「生涯登山」を宣言。「山、高きが故に貴からず。1Aの山もいい。ゆっくり歩き、温泉に浸かり、おいしいものを食べる。生きている限り登山だ！」。余ったご飯は、翌日のためお握りにしてもらう。

「ありがたや栗とむかごの飯の宿」

幽遠な奥の院（御岳山頂から40分）

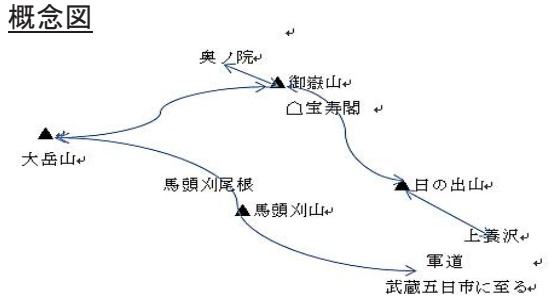
**２日目**　11 月 3 日　本日も快晴。7：00 朝食。7：40「宝寿閣」を出発し、「大岳山」に向け杉や紅葉の森を歩く。木漏れ日が眩しい。　「真青なる空に輝く紅葉かな」やがて右手に「大岳神社」。左手に荒廃した山荘。かつて賑わっていただろうに。痛々しい　「廃屋や日当たりながら紅葉散る」「大岳神社」の鳥居をくぐり、岩場を登り、10：04「大岳山」（1266m）山頂に到着。眺望が素晴らしい。手前には「御前山」などの奥多摩の山々、「大菩薩嶺」「三峰山」「雲取山」、左には「大山」などの丹沢の山々が連なる。「秋天に連なる多摩の峰また峰」昨夜の栗とムカゴの握り飯を食べた後、10：30 下山し、「馬頭刈尾根」を歩く。「馬頭刈尾根」は、紅葉や黄葉の舞い散る中、登り下りが続く。「黄葉のハラリホロリと散りにけり」

11：55「富士見台」に到着。富士は生憎見えない。ススキが揺れる。東屋で食事を摂り一息入れる。「奥多摩や薄の揺れる山の嶺」尾根を登り下りして進むと巨大な岩の「つづら岩」。クライミングの練習をしている人を見かける。格好の岩登りの場所なのだろう。「鶴脚山」（916m）を経て 14：12「馬頭刈山」（884m）に到着する。「紅葉散り靴紐締める高嶺かな」小休止の後、峰を登り平坦地に出たところ、登山道の左手に「高明山」の板切れを発見。ここが「高明山」（798 m）の頂上と知る。ここからは下り坂が続く。かつて山頂近くに「高明神社」があったが、山麓の集落に移転し、今は苔むし壊れた礎石や石段、鳥居が残るのみ。「礎石のみ残る社や枯葉散る」1 時間ほど山を下ると「軍道」という集落に出る。「軍道」とは旧日本陸軍の兵士が大砲を引いて訓練したところから名付けられたという。山の斜面に人家が点在し、庭にはゆず、南天、菊などが夕日に輝く。「奥多摩や夕日に映える柚子の黄」16：00「軍道」バス停に到着し、47 分待ってバスに乗車。武蔵五日市、拝島、立川、西国分寺、新松戸を経て 20：01 我孫子着。感謝！感謝！感謝！

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 日の出山～御嶽山～大岳山～馬頭刈尾根 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 11 月 2 日（金）~3 日（土） | | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 1/25000 | 五日市　武蔵御岳 | |
| 形式 | 宿坊泊 | グレード | ２Ｂ | |
| 目的 | 紅葉最盛期の山をビスターリに歩く | | | |
| 費用 | 約 13,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、バス | |
| 日程 | 一日目 | 我孫子 5:34→新松戸→西国分寺→川辺→武蔵五日市 7:36/8:17　西東京バス→上養沢 8:40⇒日の出山 10:50/11:25⇒宿坊 12:10/35⇒御岳山 12:55 ⇒奥ノ院 13:45/14:00⇒天狗岩 14:45/15:00⇒展望台 15：35⇒宿坊 16：00　　歩行時間 約 5 時間 30 分<br>行動時間　7 時間 | | |
| | 二日目 | 宿坊 7:40 出発⇒天狗の腰掛杉 8:00⇒大岳神社 9:40⇒大岳山 10:04/30⇒大岳神社⇒富士見台 11:55（昼食）⇒つづら岩 12:40⇒鶴脚山 13:48⇒馬頭刈山 14:12⇒光明山 14:43⇒軍道バス停 16:00/16:47→武蔵五日市 17:30/44→立川・西国分寺→我孫子 20:00　　歩行時間　約 6 時間 40 分<br>行動時間 8 時間 20 分 | | |
| ルート状況 | ・多くの登山客が訪れるルートだけあり、よく整備されて危険な個所はない<br>・日の出山は名の通りのご来光や美しい夜景が望める絶好の山であった。 | | | |
| 参加者 | 高橋芳Ｌ　田村 SL　中村育　小島洋矢　野朝　　計５名（男１、女４） | | | |

**概念図**



＜１０８４＞

# 桃山公園ゲレンデ

村松　敏彦

## 真剣かつ和やかに研修

ブルージック

エイト環

＜学んで実技で修得したこと＞

１．ロープの基本の結び方：エイトノット〈8 の字結び、ダブルエイトノット、〉フィシャーマン結び、プルージック、簡易ハーネスの作り方、
２．3 点確保の登り、降り。ロープで確保しながらの昇り降り、
３．懸垂下降の修得.
４．リーダーとしてのロープの使い方。
５．体とロープを連結するシステム。支点の種類と使い方〈木、岩、その他〉　６．悪場のトラバース〈支点を作るロープを張る〉
７．フィシャーマンでの登り方。
８．確保による登り方（視点を作る、自信を確保する、エイト管又はムンターピッチで登り、降りする。

以上真剣にかつ和やかに実技を修得して、今後の山登りに生かすことを誓った。

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 桃山公園ゲレンデ | | |
| 月日 | 平成 30 年 11 月 3 日（土） | | |
| 山域 | 手賀沼周辺 | 地形図 | 1/25,000　取手 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ｂ |
| 目的 | ロープの使い方。危険個所の安全な通過の仕方 | | |
| 費用 | 自家用車代 | 交通機関 | 自家用車 |
| 日程 | 我孫子駅北口ふれあい公園 9:00→桃山公園ゲレンデ到着 9：30⇒12：00 午前の部 13：00 午後の部⇒14：30 午後の部⇒14：50 装備撤収解散 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・計画では岩山でのトレーニングでしたが、リーダーの都合で手賀沼近くの桃山公園の斜面に場所を移した。<br>・人目に付かず、適当な斜面があり、近場でのロープの使い方の講習は出来るのではないだろうか。 | | |
| 参加者 | 村松Ｌ，武内ＳＬ，白崎、村越<br>石塚、藤家<br>男性４名、女性２名　　計６名 | | |

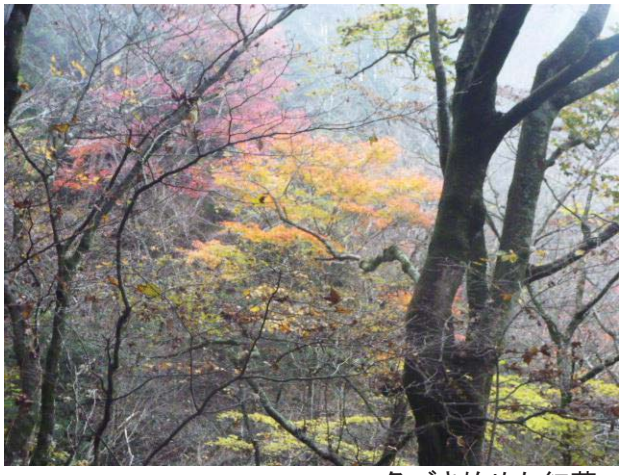
急斜面を登る

懸垂下降

＜１０８５＞

**明神ヶ岳・湯坂路**（鎌倉古道）
（1,169m）

**齊田　記代美**



**色づき始めた紅葉**

今回の山行は、リーダーから天候次第でコースを変更するかもしれない、小田原についた時点で決めたいとのことでした。参加者は気楽である。リーダーの決断に従うまでである。上野駅で乗り換え小田原までのんびり車窓をたのしみながら、朝食を摂ったりおしゃべりをしたりしていた。小田原駅でリーダーから１日目と２日目を入れ替え、今日は湯坂路を歩くと告げられ、計画とまったく逆コースをいくということになった。箱根登山鉄道に乗って箱根湯本へ。リーダーの後をついて早川に沿って歩いていると、ようやく湯坂路からの行程がわかってきた。

道の左側に「湯坂路（鎌倉古道）」の標識がみえ、見逃しそうな小さな登山口だ。箱根湯本駅から１０分程で、鬱蒼として、石がゴロゴロした細い急坂になる。ほとんど行きかう人はなく、静かな山道をゆっくり登っている。次第に登りも緩やかになり、その後きれいに並べられた石畳になる。

湯坂路は平安時代から使われた。鎌倉時代から室町時代の旅人がよく往来したという。

「入鉄砲出女」と取り締まりの厳しかった江戸時代はどうだったのか。箱根は厳しい関所があり、この道は正規の街道だったのか、それともひょっとして抜け道になっていたかも・・。いろいろ想像するとなかなか面白い。その同じ道を私たちが歩いているというのも楽しいなと思いながら歩を進める。

杉並木の根っこが自然の階段になった登山道になり、常緑樹に広葉樹が加わった。

今年は残念ながら、葉が色づくというより枯れている部分も多かった。それでも黄色や紅色の木々を見つけながら、枯葉を踏み分けていくのは楽しい。

浅間山にもう一息で着くというところで、急に雨脚が強くなる。道を外れ林の中で急いで昼食を摂ったあと、今夜のお風呂と夕食を楽しみに下山した。宿は期待通の、とてもリッチな時間を過ごせました。

翌日の宮城野から明神ヶ岳への登山は、天候も回復し快調であった。しかし、なかなかの急登で、私は何度も「休憩を取って！」とリーダーに頼んだ。しかし、もっと大変だったのは最乗寺（道了尊）への下山でした。今年の台風で道が流されたのか、人の高さほどもえぐられたところもあり、脇道がつくられているほどでした。前方を歩いている仲間からは「ワクワクする下山道だったね」という言葉も聞かれましたが・・・。歴史を感じながら歩く楽しさ、自然の美しさと脅威を感じさせられる山行になりました。

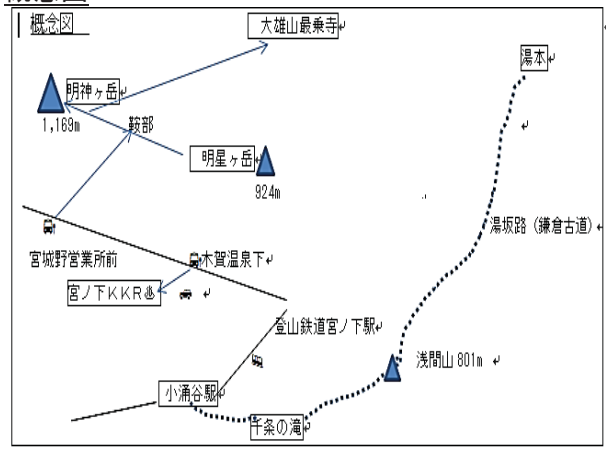
**明神が岳頂上**

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 明神ヶ岳・湯坂路（鎌倉古道） | | |
| 月日 | 2018 年 11 月 9 日（金）～10 日（土） | | |
| 山域 | 箱根 | 地形図 | 1/25000 |
| 形式 | 保養所泊 | グレード | ２Ａ |
| 目的 | 紅葉の箱根（山と鎌倉古道）を歩く | | |
| 費用 | 15,000 円 | 交通機関 | ＪＲ・箱根登山電車・バス |

| | | |
|---|---|---|
| 日程 | 一日目 | 我孫子駅 5:31→上野 6:04/6:17→小田原 7:45/7:54 →湯本 8:22/8:30 ⇒湯坂路登山口 8:40⇒城山 11:20/11:40（昼）⇒浅間山 12:00/12:10⇒千条の 12:40/12:50⇒小涌谷駅 13:00/13:12 登山鉄道→宮ノ下駅 13:20/14:00 送迎車→ＫＫＲ宮ノ下 14:10<br>＜歩行時間　３時間 30 分＞ |
| | 二日目 | ＫＫＲ宮ノ下 8:20⇒木賀温泉下 8:30/8:40→バス→宮城野営業所前 8:50/9:00⇒明神ヶ岳登山口⇒鞍部 10:50/11:00⇒明神ヶ岳山頂 11:50/12:30（昼）⇒神明水 13:55/14:05⇒見晴小屋 14:25⇒最乗寺 15:30⇒道了尊バス停 16:05→大雄山駅 16:20/16:46→小田原駅 17:32→品川 18:48/18:54→我孫子 19:44<br>＜歩行時間　５時間１０分＞ |
| ルート状況 | | ・湯坂路は湯本から小涌谷まで緩やかな登りが続いて、もみじや桜の大木の中を歩いて千条の滝に下りてくる癒される古道。<br>・明神ヶ岳は箱根側からは稜線までは急登だったが、崩れはなく多くの人が登っているので、確りした登山道でした。<br>・最乗寺へ下ったが、崩落した道が滑りやすく、悪路を避けて迂回路を通り急斜面を木に捕まりながら慎重に下りた。<br>・下りのルートは眺めの良い場所から相模湾や小田原の街並みが見えた。 |
| 参加者 | | 本田Ｌ・斎田 SL・箕輪完・大平・新谷・渡辺清・吉澤・一氏・箕輪カ（ゲ）<br>参加者　9名（男2・女７） |

**概念図**




＜１０８６＞

## 本仁田山
（1,225m）

佐藤　清宏

### “急登をのぼり隊”

本仁田山山頂

本仁田山　奥多摩駅の北側にそびえる円錐形の山で、愛称は奥多摩富士。山名の由来は、

イノシシが泥浴びをするヌタ場があったからとの説がある。奥多摩駅と隣の鳩ノ巣駅から直接登れる人気の山。とガイドブックにある。小林安代リーダーがこの山行を計画した目的は、「奥多摩三大急登に登る」である。

ホリデイ快速おくたま１号は新宿駅ですでに満席。途中から多くの登山客が乗り込んで、奥多摩駅の下車はラッシュアワー並みだった。8時35分、9人は登山口に向けて歩き始め、40分で安寺沢の登山口に着く。山ガール２人組が先行していたが、後続組は見えなかった。

頂上まで 2.2ｋｍの標識を横目に、サブリーダーを先頭に杉林に入っていく。杉林の次は黄葉した広葉樹、また杉林と、急斜面が連続している。ぐんぐん登っていくと汗が噴き出てきた。40分で尾根に出る。風が通り汗が急に冷えて肌寒い。ここからが奥多摩三大急登のひとつ、大休場尾根だ。勾配は他のふたつ（稲村岩尾根・ヌカザス尾根）よりも急だそうだ。右に杉の植林、左に落葉広葉樹をはさんで細い尾根が上へ上へと伸びている。登山道にはたくさんの木の根が見える。ところどころ岩も。急登をひたすら登る。途中で下山する人に「まだ急登は続きますか？」と問うと、「これからがもっと急登ですよ」。杉林と広葉樹林の中を、足元ばかり下を向いて黙々と登る。時々顔

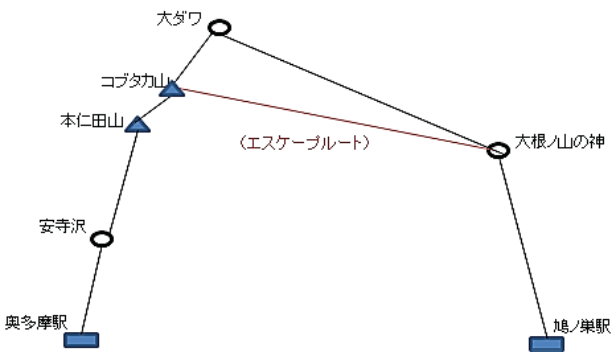
を上げて紅葉をながめるが、今年は猛暑と台風で枯れたような紅葉だ。少し明るくなった気がすると、そこは花折戸尾根の分岐で、そこから間もなくが頂上だった。尾根を 70 分で登ってきたのだ。頂上は開けていて、南に御前山、北東に棒ノ折山を眺める。北にカラマツ林越しの川乗山付近は白くガスっていた。頂上で昼食をとっていると我々の後から次々に登山者が上がってきた。やはり人気の山なのだ。鳩ノ巣駅に向けて下山を始める。カラマツ林を抜けたあたりから広葉樹の黄葉が鮮やかになってきた。やがて小ピークに立つ。左へ川乗山大ダワ・右へ鳩ノ巣駅の標識があり、ここがコブタカ山の分岐点のはずだが。よくみると石に黒字で書いてあった。ルートを左にとる。ここも黄葉が盛りだった。大ダワからは再び杉の植林の中を下る。杉林の中は日光が遮られてうす暗いのだが、この山は枝落としや間伐をして十分に管理された植林地のようで、低木が育っている。この低木が見事に黄葉して黄金色に輝き、森を明るくしていた。この低木は葉の様子から、コアジサイだと思われる。5 月大霧山で白い花をつけたコアジサイをたくさん見た。本仁田山もコアジサイの多い山のようだ。大根ノ山ノ神で小休止。ここから先頭はリーダーにかわり、一気に鳩ノ巣駅に下山した。13 時 45 分着。コースタイムよりも早かった。駅前の小さな店の丸太椅子に座り、生ビールで乾杯する。青く晴れわたった空と、針葉樹の緑・広葉樹の紅葉の森に囲まれ、「次の急登はどこにしようか？」と、“急登をのぼり隊”のメンバーは、奥多摩の山々を見回していた。

大休場尾根の急登はいつまで続くの？

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 本仁田山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 11 月 11 日（日曜）　日帰り | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1/25000　奥多摩湖<br>武蔵御岳 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２Ａ |
| 目的 | 奥多摩三大急登に登る | | |
| 費用 | 約 3,000 円 | 交通機関 | ＪＲ |
| 行程 | 我孫子駅 5:31→ 日暮里駅→ 新宿駅 6:30/6:46(特別快速ホリデーおくたま 1 号)→ 奥多摩駅 8:21/8:35 ⇒安寺沢 9:20 ⇒大休場 10:05/10:10　⇒本仁田山山頂 11:10/11:30 （昼食）⇒コブタカ山 11:55 ⇒大ダワ 12:10 ⇒大根ノ山ノ神 13:05/13:10⇒鳩ノ巣駅 13:50/15:13→青梅駅 15:42/15:46→西国分寺→新松戸駅→我孫子駅 17:52<br>〈歩行時間約 5 時間　〉 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ・奥多摩駅から車道を 50 分位歩くと安寺沢に着き、登山口がある。<br>・分岐の道標は分かり易く、見落とさなければ道迷いはない。<br>・急登が続くが、危険な個所はない。<br>・コブタカ山から鳩ノ巣駅に下山するコースが多く本に出ているが、少し登って大ダワから鳩ノ巣駅に下山するコースも良かった。 | | |
| 参加者 | 小林安 L、外崎 SL、矢野貞、村越、藤家、田嶋、佐藤、板倉、小島徹、<br>〈男性 4 名：女性 5 名　計 9 名〉 | | |

**概念図**



＜１０８７＞

# 岩殿山
（634m）

中村　八重子

## 山城跡に
## 戦国時代の歴史をしのぶ

大月駅北側にそそり立つ岩山が岩殿山だ。６３４ｍと小粒だが自己主張の強い山。武田氏ゆかりの小山田氏の居城である。急な石段をジグザグに登っていく。心拍数が乱れる・・・。

一休み。大月市街を全景に富士山が大きく見える。大月市秀麗富嶽十二景の一つだ。桜の木は葉を落とし、イチョウの葉は黄金色に輝いている。丸山公園は桜まつりの春は、多くの人で賑わうとのことです。山頂へと石段は続く。山城跡があちこちに見られる。残念ながら夏の台風で登山道が崩落し立ち入り禁止のところがありました。

見晴台を後に山頂手前から、北西へと縦走する。スリル満点の兜岩、鎖場、稚児落とし。

昼食は稚児落としを背にひだまりでいただく。後続に場所を譲り浅利の里に下山したときは、緊張がほぐれ、ホットしました。桜の咲く春に又訪れてみたい。

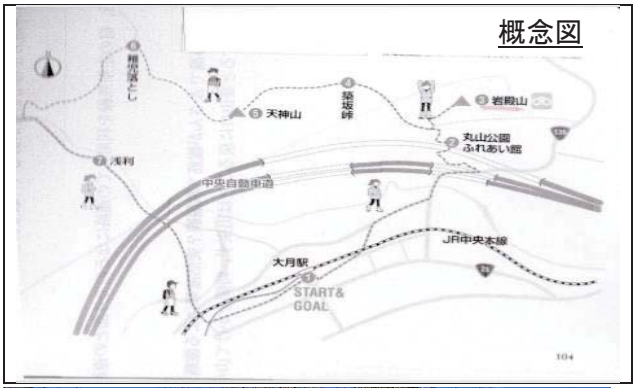
大月周辺は、桃太郎伝説が残る。昔　岩殿山に赤鬼が住んでいました。九鬼山には９匹の青鬼。一緒に遊んでいましたが、赤鬼が乱暴者だったので、九鬼山から追い出されてしまい里の人を苦しめていました。一方東側に　百蔵山（桃倉山）があります。桃の木がたくさん生えていたのでこの名前で呼ばれていたそうです。ある日　たわわに実った桃の実がポトリと川に落ち、下流の鶴島に住むお爺さん、お婆さんに拾われました。その後鬼退治に犬目（上野原）の犬、鳥沢の鳥、猿橋で猿を家来にした桃太郎伝説です。

山頂から富士山とススキ

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 岩殿山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 11 月 17 日（土） | | |
| 山域 | 中央線沿線 | 地形図 | 1/25000 大月 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 山城跡から鎖場へ　ツメレンゲを見る | | |
| 費用 | 約3,000円 | 交通機関 | ＪＲ |
| 行程 | 我孫子 6：01→高尾 7：50/8：10→大月 8：46/9：00⇒丸山公園 9：30/35⇒岩殿山展望台 10：10/20⇒築坂峠 10：35⇒稚児落とし 11：45/12：10⇒浅利 12：50⇒大月 13：30/13：45→柏→我孫子 | | |
| ルート状況 | ・台風 24 号の被害で丸山公園は工事中トイレは使用禁止（山中にはトイレ無し）<br>・登山道は数箇所で大きく崩れ、進入禁止のトラロープが張られていた。<br>・兜岩は崩落のため進入禁止。林道に迂回<br>・稚児おとしへの縦走は変化があり楽しいが、岩場・クサリ場があり程よい緊張です。 | | |
| 参加者 | 中村八Ｌ、北田ＳＬ、矢野朝、小島洋、外崎、深草、林、小島徹、大平<br>（男性６名、女性３名　計９名） | | |

**概念図**



山頂にて

＜１０８８＞公開登山

高川山
（976m）

森岡　正和
やまたんより転載

山頂

## 心地よい空気　紅葉の名残楽しむ

森岡正和

公開登山山行としてゲストの方３名を迎え総勢１２名で高川山に向かう。

秀麗富嶽十二景の一つとして中央線沿線の山の中でも、展望の良さに加え、よく整備された登山道、手頃な歩行時間、駅と駅とを結ぶコースなど、条件の良さで人気の山となっているとの由。

コースとしては中央本線初狩駅から富士急線田野倉駅へのルートがポピュラーであるが、公開登山の趣旨より、リーダーは露岩の多い急斜面での下りを避ける為、田野倉駅側からの登山ルートを選択された。　田野倉駅を８時４０分にスタートし車道を歩き中央高速の下をくぐり約３０分で登山口に到着。サブリーダーを先頭にゲストの方３名が続き、樹林の中をいよいよ登山開始。ひんやりとした心地良い空気と紅葉の名残を楽しみながら落ち葉の柔らかい登山道をゆっくりとしたペースで歩き始める。途中登山道ではイノシシのものと思われる掘り返した後や糞があり、そうこうしていると一匹の猿と遭遇。登山口の標識に熊出没注意の表示を思い出したが賑やかな団体登山なのでその心配はなさそう。登山道は評判通り良く整備されており歩きやすいが馬頭観音の石碑が並ぶ上観音を過ぎたあたりから露岩の多い急斜面が出始める。慣れると岩場の急登も変化があって楽しいが初心者には緊張のポイントであろう。ここの下りを避けたリーダーのルート選択は経験と下見に基づくものと思うが、流石と納得できる。露岩帯を超え暫くすると高川山への道標があり１０分程で１１時１０分山頂に到着、登山口から約２時間半の略標準タイムであった。

山頂は先客も多く、その後もボーイスカウトの子供たち、親子づれ等が到着し賑わっている。
曇りの天気は時々陽ざしが入るが期待の富士山眺望は残念ながら望めない。けれども登頂のすがすがしさ、満足感を損なうものではなかった。更に準備して頂いたみんなで味わう熱々のお汁粉はその気持ちを更に高揚させて呉れる。仲間（特に女性陣）から回して頂くお裾分けのおつまみも、何時もながらの気持ちに感謝。
急登で少し息が上がった方もいたがゲスト参加の皆さんも、それぞれに山頂の雰囲気を楽しんでいる様子でこちらも嬉しくなる。

頂上で４５分間の休憩の後、１１時５５分に下山開始。緩やかな巻き道となる女坂コースを残った紅葉や狂い咲きのツツジを愛でながら整備された登山道を更に下っていく。

広葉樹の樹林を抜け、初狩駅に略予定通り１３時１５分に到着、大月駅前の予約済の反省会会場（濱野屋）にて豪華な食事と共に打ち上げる。休日の為か大月駅前も登山客も多く、濱野屋も予約がなければ席が確保出来なかった。リーダー、サブリーダーの事前準備の周到さに感謝。

ゲスト参加の皆さんも、「岳人あびこ」の今回の山行に満足された様で３名とも次回の集会に参加の意思を示され楽しんで頂けたものと思う。この公開登山参加が入会のきっかけとなれば我々も嬉しい。富士山の眺望はなかったが晩秋の登山日和に恵まれた楽しい山行であった。

## 初心者に絶妙な気遣い

土田義二

「岳人あびこ」さんの公開登山で高川山登山に初参加させて頂きました。
事前に綿密な「山行計画」がメールで送られて来て、早朝 5 時 38 分柏駅発の千代田線で予定の 12 名が合流、新松戸で武蔵野線、西国分寺で中央線に、高尾で電車を乗り継いで、更に大月駅で富士急線に乗り換えて 8 時半少し前に田野倉駅で降りて、登山口へ。

佐藤さんが初心者に絶妙な気遣をしながらゆっくりとした足取りで先頭を歩き、リーダーの武内さんが殿（しんがり）を務められ、無事予定通りの時間で登り下りする事が出来ました。

曇り空で、お目当ての富士山は見ることが出来ませんでしたが、残り少ない秋を惜しむように、

道いっぱいの落ち葉を踏みしめ、紅葉を愛でながら、それなりに長い登りと適当な岩場もあって楽しい１日でした。更に、山頂で思いもかけない温かいお餅の入ったお汁粉をご馳走になり感激、用意して荷物を背負って頂いた方々に改めて感謝です。

帰りには大月駅前の料理屋さんが予約されていて、反省会と銘打った懇親会を体験して、全員で同じ方向の帰路につきました。

私はこの春から登山に目覚め、旅行社の企画する「登山教室」に参加して４月から７回の企画全てに参加し、この10月からは、更に上のクラスに申し込み参加しています。ガイドさん、添乗員さん、生徒さんまで、何時も初対面の方々との山登りをして来た身では、参加者全員がフレンドリーな雰囲気での登山の楽しさを、充分に堪能させて頂いた山行きでした。これを機に是非入会させて頂き、山登りの楽しさと同時に近隣の友人が出来たらと今から楽しみです。宜しくお願いします。

## お汁粉　最高のほど良い甘さ

川村あき子

高川山は、初めての山でした。お天気も曇りのち晴れで寒くもなく、紅葉を眺めながら落ち葉を踏みしめて、又右に左に眼下の景色を眺め、汗をかきながら登った岩山。リーダーの適切な言葉掛けと足運びの下で頂きに到着出来ました。

頂上には、沢山の人がいました。そこで会長さんはじめ会の皆さんで持参した物を取り出してお汁粉を作り振る舞って下さいました。最高に良い甘さが、五臓六腑にしみわたり大満足でした。十分堪能して元気をいただき下山しました。リーダーのぶれないリズミカルな足運びに誘われながら下山中、武内さんより良いお言葉をいただきました。

帰りは、大月駅前にて反省会を催して頂き参加者全員で、顔合わせでき、大変嬉しかったです。きめ細かな指導により登山を終えることが出来ました。学ぶことが沢山の充実した実りある登山でした。皆様に御礼申し上げます。大変お世話になりまして、有難うございました。

## 何度も声かけていただいた

飯塚秀子

この度は、「岳人あびこ」の皆様方には大変お世話になりました。
あびこ広報にて「大菩薩山嶺市民山行・参加募集」が目に留まり以後、HPを時々訪問し皆様の活動を拝見していました。

登山の経験は一度もなく不安もありましたが、まぁ大丈夫だろうと軽く考えていました。登山口からすぐに（あれれ・・ちょっと急だぞ！）と思っているうちに息が上がってきましたが何度も休憩を入れて頂きながら頂上へ到着。お汁粉を頂き少し回復。下りは少し楽でした。ルートが逆であったのがよかったです。この日の為にリーダーさんが下見してくださったとのこと等をみてもしっかりと計画された山行であることが伺えました。

あいにく富士山は見れませんでしたが、猿の出現や季節はずれのつつじを見たり。紅葉のきれいなこの時期に山をこんなに近くでみたのは久しぶりでした。

この場をお借りして・・・皆様のペースに合わせられずにすみませんでした。そして声掛けありがとうございました。

馬頭観音

お汁粉
（お餅たっぷり）

**概　　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 高川山 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 11 月 18 日(日) | | | |
| 山域 | 中央線沿線 | 地形図 | 1/25000　大月 | |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ | |
| 目的 | （公開登山）　　富士山の展望を楽しむ。 | | | |
| 費用 | 交通費＆懇親会費用<br>会員　約 5,000 円、<br>ゲスト　約 6,000 円 | 交通機関 | ＪＲ、<br>富士急 | |
| 行程 | 我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→高尾→大月 8:14/8:18（富士急）→田野倉 8:23/8:40⇒松葉登山口⇒馬頭観音⇒高川山 11:10/11:55⇒初狩駅 13:15/13:27→大月 13:37（反省会）/15:19→立川→西国分寺→新松戸→柏→我孫子<br>＜歩行時間：３時間４０分> | | | |
| ﾙｰﾄ状況 | コースはよく踏まれており歩きやすい。馬頭観音～山頂にかけて、露岩急坂の難所あり。(逆コースは初心者にはおすすめできない) | | | |
| 参加者 | 武内 L、佐藤 SL、森岡、高橋英、板倉、高橋芳、桐生、矢野貞、高橋冨、<br>ゲスト：土田、、川村、飯塚<br>男６名（内ゲスト１名）、女６名（内ゲスト２名）　計１２名（内ゲスト３名） | | | |

**概念図**

＜１０８９＞

**飯盛山**
(1,643m)

板倉　淳一

飯盛山山頂

小淵沢駅からジャンボタクシーに乗り込み飯盛山登山口がある平沢集落に到着。早々に準備を整え登山口へ歩を進める。しばらくすると「飯盛山登山口(最短コース)」の標識が目に入る。標識の標高は 1255mを示している。標高差約 400mの山登りである。標識に導かれまずは幅 2 メートルほどの遊歩道が続く。まったく急なところもなく、なだらかな樹林帯を進む。静けさと空気の清涼感が実に心地よい山道だ。しばらく登り続けると尾根筋の東屋に到着。ここで小休止。牛止めのゲートをくぐり抜け、しばらく登ると視界が開け、茶碗に盛られたご飯のように整った美しい山容の飯盛山が見えてきた。

頂上は、牧場の敷地内で、木もなく３６０度の展望が開けた場所。まじかに大きくすそ野を広げた八ヶ岳の雄峰が横一列に並ぶ。鳳凰三山越しの北岳と間ノ岳に続く稜線や富士山、浅間山などが遠望できる大パノラマ。写真撮影後、飯盛山を下り、隣接するなだらかな丘のような平盛山で展望を楽しみながら昼食を摂る。平沢山までは 30 分ほどで途中、牛止めのゲートや横に敷かれた柵を慎重に超え、三等三角点のある平沢山山頂へ。標高は１６５３ｍでこちらのほうが１０ｍ高い。下りは八ヶ岳を見ながら獅子岩方面の尾根ルートを歩き、登山口のある平沢峠の方向に下山。「獅子岩」で小休止。獅子岩からバリエーションルート(普通の山道）を下りウシ止めの柵を越えたら車道に出る。しばらく歩くと国立天文台野辺山宇

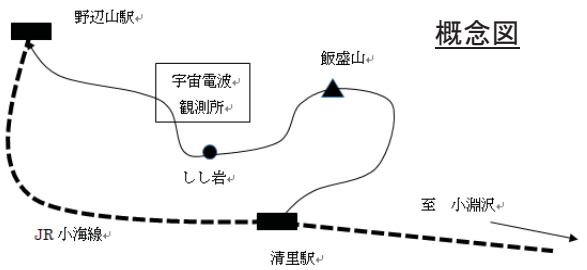
宙電波観測所に到着。ここで小休止を兼ねた自由時間を取る。施設には見学コースがあり、自由に見学することがでる。野辺山駅に到着後徒歩３分の中華八宝園で反省会をして帰路に着く。

この度の飯盛山山行は、最高の天候にも恵まれ、360 度の大パノラマを満喫することができました。齊田Ｌはじめ、ご一緒された皆様に改めて感謝を申し上げる次第です

。

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 飯盛山 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 11 月 25 日（日） | | | |
| 山域 | 八ヶ岳 | 地形図 | 1/25000<br>八ヶ岳　東部 | |
| 形式 | 日帰り | グレード | １Ａ | |
| 目的 | 霧氷の山道を歩いて八ヶ岳、富士山、南アルプスを望む大パノラマを楽しむ | | | |
| 費用 | 10,000 円 | 交通機関 | 電車、ﾀｸｼｰ | |
| 行程 | 我孫子駅5:31→新宿6:30/7:00→小淵沢8:54→（ﾀｸｼｰ）→飯盛山登山口9:50⇒飯盛山山頂11:10⇒平沢山12:10⇒獅子岩登山口13:00⇒国立天文台野辺山宇宙電波観測所（見学）⇒野辺山駅15:00/15:39→小淵沢16:12/16:35→新宿18:40→我孫子<br>歩行時間　　＜約３時間＞ | | | |
| ルート状況 | ・清里駅から飯盛山登山道入口までは徒歩1時間位だが11月になると小海線の本数が減るので、ジャンボタクシーを利用。<br>・登山口には、駐車場と、きれいなトイレがあった。<br>・山頂からは360度の眺望。八ヶ岳、富士山、秩父、南アルプス、浅間山などが一望でき、眼下に清里の街、特に目の前の赤岳は圧巻でした。<br>・平沢山からは飯盛山の名前の由来が納得できる山だった。しかし分岐は牛の侵入を防ぐため人が入れる程度に柵が切れているだけで、案内がなく見逃しやすい。 | | | |
| 参加者 | 齊田Ｌ　林 SL　本田　村越　板倉<br>男性2名・女性3名　計5名 | | | |




**概念図**

＜１０９０＞忘年山行

宇都宮アルプス
（榛名山～男体山～本山）
（524m）（527m）（562m）

やまたんより転載

小春日和の山行＆ＢＢＱ楽しむ

本山山頂にて

## 無事終了し、ホッとした山行行事

全体リーダー　林敏生

今年初めの山行で、初めて宇都宮アルプスを登ったが、まさか忘年山行でリーダーとしてやるとは思いもしなかった。

宇都宮市冒険活動センターは、近年自然とのかかわりや実体験の不足している子供たちが、自然の中での生活を体験でき、又、余暇時間の増大に伴うアウトドア志向に対応出来るように整備された施設です。

当日のコースは、秋の台風で倒木が多く、登山ルートの変更を余儀なくされた。榛名山～男山～本山を回る三時間余りの山行は、岩場、急登も何カ所もあり、低山ではあるが満足されたメンバーは多かったと思います。

塩害台風の影響もあり例年に比べると紅葉がいまいちであったと感じたが、天候に恵まれたことは心から感謝したい。

メイン行事は、三班に分かれてのＢＢＱ、場所は宇都宮市管理の野外炊飯場で、食材持ち込み禁止、当日食材及びアルコールの追加は出来ず、予約後は増減無しとの事なので、〈足りなかったら〉と想像すると、数人の怒ったメンバーの顔が浮かんできたものです。

結果、食材は丁度の量、アルコールは二割程度多く余って持ち帰り、自分の酒量を基準にしたことは大いに反省しました。とにかく忘年山行は無事に終了、帰路も予定通りの時間に到着できた。

参加された皆さんは、いかかでしたでしょうか。本文を書いている今も気になっています。

我々は食べるだけ

ここが一番おいしいよ

## 変化に富んだコース、全山紅葉

２班　郷田進

今年の忘年山行は、宇都宮アルプス＆BBQ である。麓の冒険活動センターと合わせ、家族づれやハイカーに人気のコースである。１２月と思えない暖かさの小春日和の中、急登あり岩場ありの変化に富んだコースと宇都宮市街や日光連山の眺めが楽しめるが、この時期のお勧めは、やはり全山一面の紅葉の素晴らしさを堪能できたことである。

わが班は、男×５名、女性×３名の健脚ぞろい、足並みに特段心配はない。新人２名（渡辺さん、小島さん）のアシストを佐藤さんが懇切丁寧に行ってくれていた点が、当会の素晴らしさと感じた。

山行終了後の懇親会は、班ごとのＢＢＱである。３個班が並ぶと不思議と火加減や調理の出来具合の競争になってしまうのが、ほほえましい。新人もベテランも協力して一つの仕事を成し遂げるところに会の団結力を感じる。矢野火加減担当のほか、全員率先の調理活動のおかげで、大変美味しいＢＢＱを楽しむことができた。

今年一年の締めの山行も終了した。今年も楽しい仲間と楽しく山の登れたことに感謝し、また来年もごいしょしましょう。本山行を企画・運営にあたってくれた林さん、石塚さん、本当にありがとうございました。

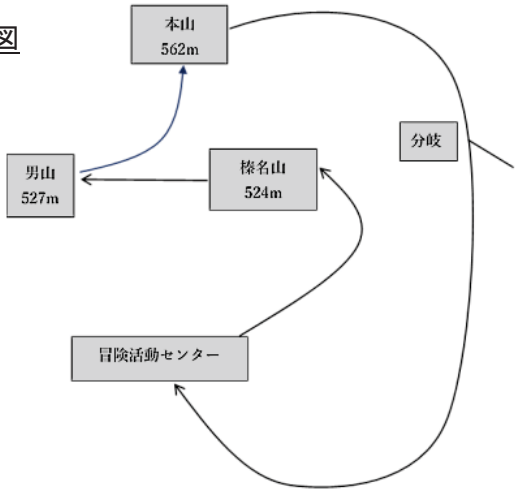
## スリル味わえる面白い山

３班　外崎蓮

宇都宮アルプスは、１月に小島リーダーが実施した山で、忘年山行の候補地として参加者の間から声が上がっていた。当日は大型バスに 26 名。ゆったりと座れたことを喜ぶべきか否か。バス山行は参加人数によってバスや予算が決まるので、企画担当の林さんと石塚さんはどんなにか気を揉まれたことと思う。

宇都宮アルプスは小さな山がいくつも連なっていて、岩がちでちょっとしたスリルを味わえる面白い山であった。我が３班は９名。お互い声を掛け合って、ゆっくり歩いた。最高峰の本山を一周しても３時間半ほど。時間的にも良かったと思う。昼にはセンターハウスに下山し、バーベキュー会場へ直行。3 班では、火起こし名人の高橋英さんと、焼きソバ作り名人の板倉さんが光り輝いた。いつもは控えめな板倉さんだが、鉄板の前では顔が違って見えた。行事の度に何かしら新発見があって楽しい。お陰で肉も野菜も焼きソバもきれいに平らげた。かまどの煙を全身にたっぷり浴びて、晩秋の子供の森公園をあとにした。

**概念図**



出発前　冒険活動センターまえにて

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 宇都宮アルプス（榛名山～男山～本山） | | |
| 月日 | 平成 30 年 12 月 2 日（日） | | |
| 山域 | 奥多摩 | 地形図 | 1／25000 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | この一年を振り返っての忘年山行 | | |
| 費用 | 約 8,500 円 | 交通機関 | 貸し切りバス |
| 行程 | 我孫子駅北口公園 5:45→8:15 子供の森公園・宇都宮市冒険活動センター/登山口(あづま屋)8:35⇒展望台 9:00⇒9:25 榛名山 9:30⇒9:45 男山 9:50⇒⇒10:15 本山 562ｍ10:30⇒11:00 本山、飯盛山分岐 11:05⇒11:40登山口/センターハウス→12:10野外炊飯場・懇親会 14:40→東北道、外環、常磐道→17:20 我孫子駅解散<br>歩行時間　3 時間 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 低学年の小学生からも利用されており、標識、コースも整備されている。但しアルプスという名称もありところどころ急登、岩場もある。<br>今回は秋の台風の影響で倒木が多く登山ルートが制限されている。 | | |
| 参加者 | 一班：林総Ｌ　高橋芳　武内　小島洋　中村八 渡邊清　森岡　白崎　吉澤<br>二班：郷田Ｌ　北田　田村　矢野貞　村越　小島徹　佐藤　渡邊香<br>三班：石塚総Ｌ　外崎　高橋英　箕輪完　桐生　中村育　本田　板倉　蟹江<br>＜男 11 名　女 15 名　　計 26 名＞ | | |

＜１０９１＞

## 手賀沼クリーンハイク

松下　寿男

### 今年も拾いました

手賀大橋手前の土手にて

今年の手賀沼クリーンハイクで集めたゴミの量は、空き缶　９４０グラム、ペットボトル　９２０グラム、ビン１０５０グラム、その他のゴミ７０００グラムで合計１０キログラムという結果でした。

昨年は約７キログラムでしたが、昨年の参加者は１１名、今年は２０名弱ですので、参加者一人当たりの観点で見た場合、今年は一人当たり５００グラム、昨年は６４０グラムと、昨年より１４０グラム位少ないという結果です。昨年も参加された参加者から、今年はゴミが少ないというコメントがありました。

そこで、何故今年はゴミが少ないのか調べてみると、一週間前の１２月２日に、「美しい手賀沼を愛する市民の会」主催で第 16 回 手賀沼統一クリーンデイという清掃活動、６３名参加・我孫子市環境経済部手賀沼課による第２８回手賀沼ふれあい清掃、２５０名参加・手賀沼カヌークラブによるふれあい清掃という三つの団体で清掃活動が実施された実績があること分かりました。

さらに、2018 年の手賀沼周辺にて、手賀沼花火大会の翌日・ボランティア清掃活動、８月５日の中央学院大学自治会による清掃活動等各種の清掃活動が 2018 年に開催されていることを調べました。このように近年は多くの団体等で手賀沼周辺の清掃活動が活発に行われています。ゴミが少なくなったのは、これが要因でしょう。

そこでこれら清掃活動が、手賀沼の水環境に影響しているかどうか調べたところ、手賀沼水環境

保全協議会のホームページで昭和５０年からの水質のデータありました。確認したところ、昭和から平成１０年の間はばらつきはありますが、ほぼ横ばいの値に対し、平成１０年頃から徐々に改善しており、平成２０年以降はピーク時の３割くらいまで改善されているデータでした。

清掃活動が水質改善に直接つながっているかどうか、これまでの調査ではまだ接点はありませんが、何かしら影響があると信じております。今後も清掃活動を継続することで更なる水質改善を望みます。

概　　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 手賀沼クリーンハイク | | |
| 月日 | 平成 30 年 12 月 9 日（日） | | |
| 山域 | 我孫子市・柏市 | 地形図 | 1/25000 取手 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 地元手賀沼に親しみ、自然環境に思いを寄せる。 | | |
| 費用 | 0 円 | 交通機関 | 徒歩 |
| 行程 | 水の館 8:00⇒子の神社神⇒志賀直哉邸跡⇒杉村楚人冠邸園⇒アビスタ 9:15⇒旧武者小路実篤邸跡⇒北柏ふるさと公園 10:15⇒北千葉導水第２機場（ビジターセンター）⇒沼南道の駅（昼食）11:30/12:00⇒フィッシングセンター13:15⇒滝の下公園 14:15(回収物仕分け計量)/反省会<br>行動時間約 6 時間 | | |
| 参加者 | 新谷 L, 外崎 SL, 高橋英, 箕輪, 本田, 村越, 中村育, 石塚, 林, 室崎, 藤家, 蟹江, 飯塚, 吉澤+家族, 小野, 松下, 小島徹+家族 2 人,<br>〈男性７名　女性 13 名　計 20 名〉 | | |

十キロの収穫　頑張りました

＜１０９２＞

金時山
（1,213m）

渡辺　清子

11

かねてより希望していた金時山

金時山山頂

石塚さんに計画して頂きました。

前日からの雨は午前３時頃には上がり，その後は晴れて「登山に適する」という予報だったが、現地箱根は終日小雨模様だった。東京駅から小田急箱根高速バスを利用して金時登山口まで行く。

途中停車地の御殿場駅では乗り合わせていた５～６人のビジネスマンが下車して行った。私には意外な光景でした。

我孫子を発つ時、雨はすっかり上がっていたのに箱根に近付く頃にはバスのフロントガラスが濡れ、ワイパーが動いていた。車中で雨具を纏う。定刻より１０分遅れで登山口バス停に到着。
気温はさほど低くはなく霧雨の中、まずは矢倉沢峠へ向かう。

登り始めは緩やかだったが徐々にきつくなっていった。えぐられてＵ字にくぼんだ道の両側にはハコネササが生い茂っていた。寒さ対策の衣服だった為すぐに汗ばんでしまう。

矢倉沢峠を過ぎると目指す金時山が見える筈だったが真っ白で何も見えない。岩がゴロゴロ、木で土留めした階段、勾配も結構あり私にはきつい登りである。「本来ならここから仙石原が見えるのよ」と言われた場所でもやはり見えない。金時神社分岐で小休止。霧雨も降ったり止んだりの繰り返し、ゴロゴロ岩や土留めの急登は濡れているので一層慎重になる。分岐から４５分、先頭の

本田さんが「着いたよ～」と声をかけてくれ、見上げると金時山山頂にある建物が見えた。金時娘さんに会いたかったが「茶屋」は閉まっており山頂には誰もいなかった。やはり眺望ゼロ！足元にふわ～と雲が寄せてくる。２匹の猫が遠慮がちに近寄って来た。誰かがお弁当のお裾分けをすると更に３匹がやって来た。ファミリーかな？空腹とみえエサの取り合いになる。暫しフィーディングタイム。

乙女峠方面へ下山開始。登山道から見下ろす斜面には葉を落としたブナの木々が白い霧の中に立ち並ぶ様はちょっと幻想的でもある。見とれていると危険なのですぐ足元に目を落とす。コースタイムをはるかにオーバーし長尾山山頂に到着。展望はなく、更に乙女峠を目指す。10～20 ㎝程の浮いた石に足を取られぬよう気を引き締めて下る。乙女峠からも富士山は見えなかった！

金時山からの下山開始より１時間５０分、無事に乙女峠バス停に到着。路線バスで移動し温泉会館の「箱根の湯」で疲れを癒し帰途に着いた。
今回は生憎の天気で私には手強い「金時山」でしたが、晴れた日にもう一度登ってみたい山です。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 金時山 | | |
| 月日 | 平成 30 年 12 月 12 日（水） | | |
| 山域 | 箱根 | 地　形図 | 1/25000　箱根 |
| 形式 | 日帰り | グレード | 1A |
| 目的 | 富士の展望 | | |
| 費用 | 約 5,000 円 | 交通機関 | 小田急高速バス、ＪＲ |
| 行程 | 我孫子駅　5:31→上野駅→東京駅 6:18/6:50 小田急箱根高速バス→金時登山口 8:46/9:10⇒矢倉沢峠 9:50/10:00 公時神社分岐　10:25 ⇒ 金時山山頂 11:10/11:35 長尾山 12:30⇒乙女峠 12:50 ⇒乙女峠バス停 13:30/14:09→温泉会館 14:25（入浴）/16:00→御殿場 16:20→松田⇒新松田 17:56→代々木上原→我孫子 20:25<br>〈歩行時間：3 時間 30 分〉 | | |
| ルート状況 | ・金時登山口のバス停にはトイレもあり大きな看板の案内図がある。<br>・バス停の向い側が登山口で小さな看板がある。<br>・天気が良く無く霧雨の中の山行になり頂上よりの下りに注意した。<br>・小田急箱根高速バスは東京駅南口出発で窓口は朝 6 時より開いている。<br>待合所にはトイレもあり便利。 | | |
| 参加者 | 石塚Ｌ　村越 SL、林、佐藤、本田、小島洋　渡辺　吉沢　　計 8 名 | | |

**概念図**

＜１０９３＞

鍋割山
（1,273m）

小島　徹

## 晴れ時々曇

前日までの北寄りの風も収まり、当日はそれまでの寒さも緩んで絶好の登山日和になりました。

当初の計画では北千住駅での乗換時間が３分しかないことから大事をとって、千代田線（各停）で代々木上原行きに乗車して渋沢には８：07 に着き、バスで大倉には 8:30 頃に着きました。リーダーの北川さんとは渋沢駅で合流しました。トイレ等を済ませて、８：40 に大倉を出発にてゆっくりと林道を進み、二股を過ぎミズヒ沢出合からは登山道になりました。5名のうち1名だけ恒例（？）のペットボトルのボッカに挑戦しました。後沢乗越を過ぎてからは、雲の合間から富士山が見えるようになり、また時々自衛隊の砲撃演習と思われる地響きが聞こえていました。鍋割山までの２つ目のピークに差し掛かった頃に、リーダーの北川さんに鍋割山荘での鍋焼きうどん注文のために先行して頂きました。しかし思いのほか山荘まで時間がかかり、山荘の方に全員が揃ってからうどんは注文するように注意されたと伺いました（すみませんでした）。山荘に駆け込むようにしてうどんを食べましたが、その温かさと野菜類の甘さが感じられてたいへんおいしく頂くことが出来ました。うどんを食べ終えて山荘前に出てみるとわずかに雲のかかった富士山を眺めることが出来、ようやく登頂した気持ちになれました。

山荘を後にして金冷シに着いたのは午後２時前だったので、塔ノ岳への往復は諦めて大倉尾根から下山することにしました。花立山荘に着いた頃は上空の雲も富士山にかかっていた雲もとれて、しっかり眺めることが出来ました。大倉尾根は初めてでしたが、下りが長々と続き最後には膝や足が痛くなってきました。見晴茶屋を過ぎた頃から東側の山々が夕日を受けて赤く染まっている風景に会えたのも良かったです。大倉バス停に着いたのは午後 4 時 20 分ごろで、バスを待つ間にライトアップ点灯があり、バスに乗り込むころには薄暗くなって明かりがきれいに見えていました。

鍋割山は２度目でしたが、前回は二股までタクシーで行き、帰りは後沢乗越経由でそのまま栗ノ木洞方面に下山したのでそれほどではきつくはありませんでした。大倉尾根の下山は大変でしたが天候にも恵まれて楽しく過ごせて、リーダーを務めて頂いた北川さんにはお礼を申し上げます。是非来年も丹沢方面のすてきな山行を計画して頂きたいと思いました

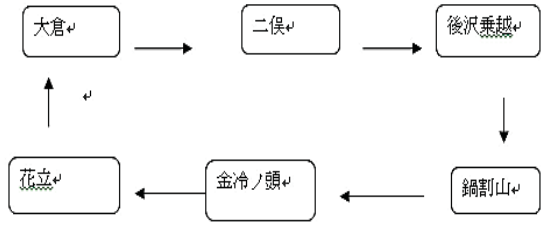
頂上にて

**概　要**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山名 | 鍋割山 | | | |
| 月日 | 平成 30 年 12 月 15 日（土） | | | |
| 山域 | 丹沢 | 地形図 | 1/25000 大山、秦野 | |
| 形式 | 日帰り | | グレード | ２Ｂ |
| 目的 | 秋の丹沢を楽しむ。 | | | |
| 費用 | 5,000 円 | 交通機関 | JR 小田急､ﾊﾞｽ | |
| 行程 | 我孫子 5:42→代々木上原→渋沢 8:07/8:16（神奈川中央バス）→大倉 8:26/8:40⇒二俣 9:55/10:00⇒登山口 10:20⇒後沢乗越 10:45/10:50⇒鍋割山荘 11:55/12:45（昼）⇒金冷ノ頭 13:45⇒花立山荘 14:00/14:10⇒堀山の家 14:45/14:50⇒見晴茶屋 15:30⇒大倉バス停 16:20/16:38（バス）→渋沢 16:50/18:14→代々木上原 9:30/19:34→我孫子 20:45<br>＜歩行時間６時間 20 分＞ | | | |
| ルート状況 | 大倉バス停から鍋割山の登山口へ 10 分程歩く。登山口から二俣まではほとんど登りのない平坦な道のりである。二俣から本格的な登りが始まる。<br>天気は多少雲があるものの問題ない晴れで快適に高度を上げていく。山頂近くになると多少きつく感じられる登りとなるがそこを越えれば山小屋が見え | | | |

| | |
|---|---|
| | てくる。<br>今回、鍋割山の名物であるなべ焼きうどんを食べることがサブ目的でもあり、山小屋に到着早々山頂にも行かず、なべ焼きうどんを注文する。それ程待つこともなくなべ焼きうどんを食べることができた。名物なだけあって、大変おいしかった。<br>この時から参加者の間では、鍋割山が**なべ焼き山**となったのでした。<br>うどんを食べ終わってから山頂で集合写真を撮って休憩をする。<br>一息ついたところで塔ノ岳方面に向かう。天気も良くブナ林の中を快適に歩く。1 時間程歩くと塔ノ岳と大倉へ向かう分岐である金冷やしに到着する。ここからは下山路となり 2 時間 30 分程で大倉バス停に到着する。<br>大倉からバスで渋沢駅に向かい、駅前の居酒屋で打ち上げを行う。<br>登山道は特に危険な場所もなく日帰り登山としては適度な山行であったと思います。 |
| 参加者 | Ｌ北川　ＳＬ外崎　矢野貞　郷田<br>小島徹<br>（男 3、女 2）計 5 名 |

鍋割山ルート概念図＆エスケープルート



雲の中の富士

＜１０９４＞

曲岳　・　茅ヶ岳
（1,642m）（1,703m）

矢野　貞子

創立以来毎年続けられてきたＸｍａｓ山行。村松山行部長の体調が悪く初めて欠席なのでご本人も私達参加者も少し寂しい山行になりました。

一日目傘マークがある天気予報でした。甲府駅からレンター. で観音峠に向かった。1 時間余りで冬期通行止めになっている地点に着いた。峠の 2 キロ位手前だと思われる。既に 2 台の車が止まっていた。身支度をして曲岳を目指し歩き出した。所々雪が残っている林道を 30 分程登ると登山口に着いた。少し前から雨も降ってきたのでカッパを着て、きつい登りを詰めるとロープの掛かった一枚岩着いた。それを登ると両側が切れた尾根に苔のついた滑りそうな岩の先に、めまい岩がそびえていた。登山道はその岩の横を巻くが、道は狭く大木が絡んで登りにくい。岩に取り付き進んでみたが、残雪と雨で滑りそうだ。メンバーも危険を冒したくないとのことでリーダー武内さんが「大胆な撤退」とコールした。下山もかなり緊張した。車に戻り昼食をとった後、少し早いが食材やアルコールを仕入れキャンプ場に向かった。

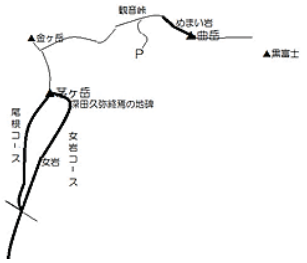
キャンプ場はよく整備されていて、私達は甲斐駒や鳳凰三山が望める林にテントを張った。雲が厚く山容は綺麗にみせてくれなかったが夕日に浮かぶオベリスクを眺めた。後日、白崎さんがオレンジに染まったオベリスクの写真を送ってくれたものには、肉眼で見ることができなかった、美しさを見ることができた。

キャンプ場の炊事場はお湯が出るしトイレは温水便座で快適だった。若いおしゃれなキャンパーが沢山いて、山テントは異質な感じだ。夕食は外崎さんお薦めの鍋で味噌と牛乳入りスープで鶏肉野菜を煮た飛鳥鍋だ。口当たりがやさしく山

もりの野菜を沢山たべられた。〆はうどんでお腹いっぱい。夕食時には恒例の「きよしこの夜」を歌いながらプレゼント交換した。「やまなみ」と「食担」が直前に体調不良で欠席になったため、やまなみ担当がプレゼントに忍ばせてあった。私が大当たりでやまなみを書くことになってしまった。

翌日はどんよりした天気の中を茅が岳を目指し出発。駐車場には既に数台の車が止まっていた。深田久弥の記念碑のある公園に寄ったが、目の前の山がソーラーパネルに埋め尽くされていてがっかりした。数年前来た時にはなかったのに。
女岩まではゆるやかに登っていく。以前は女岩の脇を登ったが、岩が崩れるらしく、今は右側を巻いて登っていくがかなりの急登だ。更に落ち葉が深く足首まで埋まってしまう。北田さんが「落ち葉岳」に改名したほうが良いねとつぶやいていた。稜線に出てしばらく登ると深田久弥終焉の地の碑があった。軽く手を合わせて頂上を目指す。頂上は曇天で見晴らしはなかった。頂上で休憩していると、毎日のように茅が岳に登っているという男性が、下山は違うルートの方が楽だよと声を掛けてくれた。尾根伝いの下山道を薦めてくれたうえ、道案内をしながら我々の足並みに合わせて歩いてくれた。当初は登って来た道を下山するつもりだったが、急坂で深い落ち葉を踏んでの下山は大変だなと思っていたが、お陰で安全で楽しく下山できた。このルートはお薦めのルートだと感じた。さらにお薦めの日帰り温泉の情報も教えてもらって湯めみ丘温泉で汗を流し甲府駅前で反省会をして無事Ｘｍａｓ山行を終え　　た。雪は無かったが楽しい山行でした。

**概念図**



**茅ケ岳山頂**

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 曲岳　・茅ヶ岳 | | |
| 月日 | 平成 30 年 12 月 22 日(土)～23 日(日) | | |
| 山域 | 山梨 | 地形図 | 1/25000 茅ヶ岳 |
| 形式 | 茅ヶ岳 | グレード | ２Ｂ |
| 目的 | ① ントの中でクリスマスと一年の無事を祝う　②深田久弥氏終焉の地で業績を偲ぶ | | |
| 費用 | 約 16,000 円(ジパング利用) | 交通機関 | ＪＲ、レンタカー |
| 日程 一日目 | 我孫子 5:31→日暮里→新宿 6:30/7:00 あずさ→甲府 8:28/8:50（レンタカー）→大野山線ゲート（駐車）9:40/9:50⇒観音峠登山口 10:20/10:25⇒めまい岩 10:50⇒観音峠登山口 11:00⇒ゲート 11:45/12:10（昼）→スーパー（買物）→キャンピカ明野ふれあいの里 13:30 着（テント泊）<br>＜歩行時間：2 時間 20 分＞ | | |
| 日程 二日目 | 明野ふれあいの里 8:00→深田公園入口駐車場 8:20/8:30 ⇒ 深田公園 8:35/8:45 ⇒ 水場 9:30/9:35 ⇒ 女岩 10:00/10:05⇒コル 10:50/10:55⇒深田久弥氏終焉の地 11:00 ⇒ 茅ヶ岳 11:20/11:35⇒（尾根コース）⇒林道 12：45 ⇒ 深田公園駐車場 13:10/13:25→湯めみの丘（入浴）13:50/14:45→甲府 15:15（反省会）/17:02（あずさ）→新宿→日暮里 19:05→我孫子 19:35<br>＜歩行時間：４時間 10 分＞ | | |
| ルート状況 | ・曲岳登山路のめまい岩付近はちょっとした難所。尾根の濡れた岩の通過とめまい岩のトラバース道は細い上に木の根が濡れていて、足元が滑り易く緊張を強いられた。<br>・茅ヶ岳の女岩コースは、落ち葉で足元が隠れ歩きにくい。落ち葉が深いため、下山の場合はルートを踏み外さないよう注意が必要と感じた。<br>（下りは、尾根コースをとったので、トラブルはなかった）<br>・キャンピカ明野ふれあいの里はよく整備されており快適。炊事場も冬季はお湯が出るので嬉しい。利用料金：テント1張（6人まで）休日料金 2,900円 | | |
| 参加者 | 武内Ｌ、北田、白崎、外崎、矢野貞<br>男３名、女２名、計５名 | | |

＜１０９５＞

丸山
（960m）

中村　育子

## 奥武蔵随一の展望の山

明るい展望台にて

丸山は「奥武蔵随一の展望」とガイドブックにあり、いつかいってみたいと思っていた。山は県民の森の中にあり、日向山一帯は季節に応じて様々な花が咲き、果樹が実り、観光客の訪れるなにやら楽しげな場所のようだった。

当日の参加者は 22 人。天気は晴れ。心配していた積雪はなく、気温も思ったほど低くない。貸切バスは予定より 30 分遅れて芦ヶ久保道の駅に着いた。丸山山頂へは果樹公園村からのスタートである。集落外れの倉掛からの道は太陽に照らされ、すぐに汗ばんでくる。登山口に入ると鹿よけの柵がある。縛ってある紐を解いて中に入る。冬の朝の、ひんやりと澄んだ空気を気持ちよく吸いながら雑木林の中を歩く。枯れ葉が道の真ん中のへこんだところにたまっている。途中から杉・檜の植林帯が混在し、青空が見えたり、林に覆われたり。他に登山者のいない、冬の静かな山だ。山頂直下は急坂になり、枯れ葉の下が凍結しているところがあるが、途中は危険箇所のない、単調な登山道が続く。約２時間、午前 10 時 45 分山頂に到着。

山頂には１組の夫婦がいた。コンクリートの展望台があり、登ると 360 度遠望することができる。武甲山が真正面に見える。石を切り出した跡が痛々しい。両神山、男体山、浅間山、八ヶ岳などが見え、素晴らしい眺めだが、期待したほどでもなかったのは、山の向こうに既に雲が沸いていたからだろうか。時間が早ければ澄んだきれいな山並みを見ることができるのか。山頂のベンチで昼食をとる。風のない、穏やかな日。

昼食後、日向山めざして下山開始。慎重に降りようと声をかけて出発するが、下山直後、一人が転倒して足を骨折してしまった。枯れ葉の下が凍結していた。すぐに高橋芳恵さんを中心に参加者が適切な応急処置を施してくれた。救急車が怪我人を乗せて去るまでおよそ１時間半。登山道に立ち続けていた参加者はすっかり冷えてしまった。温まって疲れをとろうと、予定通り温泉に寄る。病院に付き添っていた方から無事応急処置が終わったとの連絡が入り、全員バスで帰ることができるとわかって、一同ホッとした。怪我をした方も付き添っていた方も、どんなにか疲れたことだろう。そう思うと私達だけが温泉に入るのは申し訳なかった。

枯れ葉に覆われた道が凍結している時は、より慎重に歩く。参加者にはそのことを徹底する必要があったと反省する。

怪我人も一緒に全員、バスで我孫子まで帰ることが出来たのは本当に有り難かった。参加者のみなさんのご協力に感謝すると共に、怪我をされた方の早い回復を祈るばかりだ。

### 概念図

### 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 丸山 | | |
| 月日 | 平成 31 年 1 月 12 日（土） | | |
| 山域 | 奥武蔵 | 地形図 | 1/25000 正丸峠、安戸、皆野 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １A |
| 目的 | 陽だまり山行と展望 | | |
| 費用 | 5,800 円 | 交通機関 | 貸切バス(小型) |

| | |
|---|---|
| 日程 | 我孫子駅 5:45→外環･関越・圏央道（狭山日高 IC）→道の駅果樹公園あしがくぼ 8:20/30→フルーツガーデン（バス下車）8:40/50⇒丸山山頂 10:45/11:20⇒（参加者怪我 11:25/病院へ 12:15）⇒林道 12:25/45⇒山の花道駐車場 13:45/52（バス乗車）→武甲温泉 14:10/14:52→秩父市立病院 15:15/20→→コンビニ→寄居皆野有料道・関越花園 IC・→外環・みよしＳＡ→我孫子駅 18:15 |
| ﾙｰﾄ状況 | ・道の分岐には道標があり、迷うことはない。<br>・登山道は山頂に近づくにつれ、落ち葉の下が凍結しているところがあった。凍結は落ち葉に埋もれて分かりにくい。<br>・丸山は県民の森の中にあり、山頂直下まで林道が走っている。 |
| 参加者 | 1 班　中村育 L、村越 SL、箕輪完<br>桐生、 石塚、 蟹江、板倉、室崎育<br>2 班　佐藤 L、 矢野貞、齊田、高橋芳、<br>室崎宏 、矢野朝、渡邉香<br>3 班　本田 L、北田 SL、小島洋<br>小林安、 森岡、松下、小島徹<br>＜男性 9 名　女性 13 名　計 22 名＞ |

360 度見渡せる山頂から
（眼前の山は採掘された無残な武甲山）

ひと汗かきました

＜１０９６＞県連房総ロングハイク

チバニアン～養老渓谷・東大演習林
（烏帽子山～鶏毛山）
（278m）（228m）

箕輪　完二
本田　愛子

真高寺山門（波の伊八彫刻）の前で

## チバニアン見学と養老の滝散策（1 日目）

箕輪　完二

房総ロングハイキングは東葛地域からバス１台が出て、ほぼ一杯となった。今回１日目にはチバニアンの見学が含まれており、疑問点もいくつかあったので、期待をもって参加した。途中、夜の炉端焼きの食材であるアジ、ホッケ、イワシ等の新鮮な海産物や飲み物をスーパーで調達する。そして高滝神社参拝や真光寺山門の見学、手彫りの永昌寺トンネルなどを見学した。

その後チバニアンに向かったが、ここについては特に説明者はいないということで、何回か見学した私が、急拠、説明者に祭り上げられてしまった。説明した内容は人間にも歴史と名前があると同様に①地層にも歴史と名前がある。77 万年前～12 万６千年前までの地層と名前について、今まで適切な地層候補がなかった。しかしここにはかなり明確な地層がある。②理由は 77 万年前の御嶽山の噴火によるもの火山灰（数センチ）と南北・地磁気逆転の地層がある。この２つの理由で、チバニアンと仮に命名され、世界の地理学会で注目されている。と説明したが私の疑問としては 12 万６千年前には何があったのか。又、南北・地磁気逆転はどのようにして調べるか等疑問として残っている。それは今後の課題としようと思っている。

その後、養老渓谷の遊歩道を滝見しながら１時

間ほどハイキング。宿となる七里川温泉に着く。すぐ温泉に入り、その後、岳人あびこ９名による炉端焼きに舌鼓を打った。スーパーで調達した新鮮な海産物を炭火で焼くことがこれほど美味しいとは。

夕６時頃から全員が広間に集合し、全体会議と宴会が行われた。会長あいさつ、翌日のコース説明、乾杯、各会代表の報告。海外登山の報告や募集等を聞いた。様々な活動や海外での活動も活発に取り組んでいる様子が印象に残った。最後は恒例のビンゴゲームで盛り上がった。

後ほど岳人あびこの定例会で県連役員の室崎さんが、千葉県連の報告として「県連は会員減少で頭を痛めている。しかし、岳人あびこは会員を増やしている」趣旨の発言があった。最近の岳人あびこの充実ぶりは目を見張るものがある。山行の多さのみならず、多くの人が持ち場、持ち場で活動し、中身の充実ぶりが素晴らしい。私にとっては、何より房総ロングハイキングで２日間を通して、無事に歩けたことが嬉しい。もうしばらく岳人あびこで山を頑張ってみることにしようと思う。県連役員の深草さんや高橋会長はじめ参加した皆さんに感謝します。

チバニアンの断層を解説する箕輪さん

## 清澄寺～東大演習林（2 日目）

本田　愛子

今年は房総ロングハイキング 35 回目です。昨年は一昨年の台風により倒木、崩壊箇所などがあり麻綿原までで時間オーバーになり、清澄駐車場で解散になりました。今回は後半の東大演習林コースを歩きます。

9:30 清澄寺でお参りしてから一杯水林道を少し戻って、ツクバネ樫（Ｗ０）地点から山道に入ります。コースにはW0～W48 まで目印があります。道幅も狭くなり、所々荒れている道を、桑原委員長を先頭に松戸山の会の後を岳人あびこが歩きました。20 分位行くと前が詰まって立ち止りまってしまいました。少し先に崩落した地点があり足を滑らせると片側は深い谷底で、一人ずつ慎重に通り過ぎていたためです。手つかずの樹林帯の中、何度か難所を渡り、ロープに捕まったりして緊張しながら歩きました。厳しい自然環境の中で逞しく生きてきた樹木たち、岩のすき間から生えている樹木や珍しい枝ぶりの木などは目を楽しませてくれます。

W15 地点から烏帽子岳山頂へは急登になっ

清澄寺駐車場の前で

ています。下の巻道もありますがが、私たちは山頂の方へ直登しました。あっという間に 277m 烏帽子岳山頂に着きました。山頂は狭く展望はありませんでした。桑原委員長の山頂からの指示で、そこから少し下った処で、会ごとに纏まって昼食をとり、お弁当のちまきを食べました。昼食後、まだまだ変化のある自然道が続いている道を進みました。この辺りは隆起した地層が見られ、大きな岩が段々に積み重なって巨大な鏡餅の様な岩山になっています。また、木の根が網目になって覆い被さっている岩や硯の形の硯石（Ｗ３３地点）など巨岩があります。これらを観賞しながら荒れた道に足を取られない様に気を付けて歩きました。少しあるくと、ようやく明るいマテバシイの樹林が続いている尾根道となりました。その尾根道を気持ち良く進んでいくと道端に窪んだ穴を見つけました。そこはヌタバという猪の水浴び場で、へこんだ穴には枯葉が溜まっていました。W40～42 の目印を探しながら進むと、地味な鶏毛山（220,1m）に着きました。W45～48 を経て鶏毛山を下山し民地に出しました。のどかな里道に蝋梅の黄色い花や水仙が咲いている、本沢林道の広い道路に出るとバスが待っていました。

房総の東大演習林ロングコースお疲れ様でし

た。このコースは変化があっておもしろいが、気も抜けない所も多く多くありました。しかし手付かずの自然道を延々と歩くと、珍しい巨木や奇岩などが観賞できて楽しみながらの山行でもありました。また県連の桑原委員長からは 88 歳の高齢にもかかわらず、要所、要所でのご配慮をいただきました。有難う御座います。振り返れば、感謝、感動のロングハイクでした。

２日目　清澄寺本殿前階段にて

概念図

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 県連主催「第 35 回房総ロングハイキング」チバニアン・養老渓谷・東大演習林（烏帽子山～鶏毛山） | | |
| 月日 | 平成 31 年 1 月 26 日(土)～27 日（日） | | |
| 山域 | 房総 | 地形図 | 1/25000　上総中野　安房小湊 |
| 形式 | 山麓泊 | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | ２A |
| 目的 | ①千葉労山参加山岳会メンバーとの交流<br>②房総の山々の景観を楽しむ。 | | |
| 費用 | 12,000 円 | 交通機関 | 貸切バス |

| | | |
|---|---|---|
| 日程 | 1日目 | 我孫子駅北口 7:00→鎌ヶ谷市役所 7:48→幕張ＳＡ8:45/8:57→ｽｰﾊﾟｰｶﾞｯﾂ馬立店（買物）9:40/10:00→高瀧湖 10:23/10:39（高瀧神社）→真高寺山門（波の伊八彫刻）10:51/11:20→永昌寺（手彫りﾄﾝﾈﾙ）11:27/11:37→ﾁﾊﾞﾆｱﾝ 11:40/12：23→水月寺前（昼）12:42/13:20→幻の滝（小沢又の滝）駐車場 13:20⇒養老渓谷遊歩道（遊歩道）栗又の滝 14:05⇒駐車場 14:35→七里川温泉 15:00<br>＜歩行時間　ﾁﾊﾞﾆｱﾝ：43 分、養老渓谷：1 時間 10 分＞ |
| | 2日目 | 七里川温泉 7:56→清澄寺駐車場・清澄寺（参拝）9:00/9:28⇒一杯水林道⇒分岐⇒W0 入口（ﾂｸﾊﾞﾈ樫目印）10:10/10:18⇒東大演習林⇒W9 付近（休）11:12/11:20 大平歩道入口⇒W15 烏帽子山山頂 12:02⇒烏帽子岳直下（昼）12:10/12:32⇒W33 硯石分岐手前（休）13:28/13:36⇒向峰林道⇒W45 鶏毛山 14:25⇒W48 付近（休）14:43/14:48 ⇒ 民 地 ⇒ 本 沢 駐 車 場 ）15:18/15:27→鎌ヶ谷市市役所着 18:37→我孫子北口着 19:15<br>＜歩行時間 5 時間 50 分＞ |
| ﾙｰﾄ状況 | | 1 日目：観光地をバスでの周遊。チバニアンは養老渓谷の川沿いの崖にあり少しぬかるみを歩くのみで問題無し。<br>２日目：・演習林コースには方向を明示した標識は無く、番号（Wnn）を記した小さな杭が定間隔で道沿に打たれているだけである。この杭をたどって歩けば目的地につくが、杭の打たれている場所が分りづらい。目印となる目標物も少なく演習林内の歩行に慣れていないと道迷となる可能性は大。<br>・道は一般的なハイキングコースと異なり整備は不十分である。倒木、崖崩れ等が放置されている箇所や、樹木の根が多数露出している歩きづらい道が数ヶ所ある。 |
| 参加者 | | 深草Ｌ　高橋芳 SL、外崎、本田 齊田 新谷 高橋英、箕輪 佐藤<br>（男４名、女５名　計９名）<br>＜全体＞１日目　東葛地区４団体３２名/２日目　１０団体　５６名 |

＜１０９７＞

幕山～南郷山
（626m）（610m）

新谷 直恵

## 早春をいち早く満喫した幕山・南郷山

幕山山頂

２月１３日、湯河原までのアクセスは上野東京ラインができてからより便利になった。上野から熱海行きの電車に乗り換えると、通勤エリアを過ぎる頃から空きはじめ車内で朝食、トイレ（１号車）を済ませることができた。

湯河原駅前からは梅まつりの期間中、箱根登山バスが直行運転をしている。梅は５部咲きと報じられ、ザックを背負った登山客が大型バスに乗り込む。９時過ぎとあって花見客はまだ少なく、菜の花が咲く登山入口から、梅林をジグザグしながら登っていく。白梅、紅梅、枝垂など、可憐な梅の芳香に幾度も立ち止まりながら登攀。梅林を過ぎてしばらく行くと休憩用の東屋があるため一休み。

連休中に千葉では降雪があり、残雪がないか心配したが、さすが湘南は梅の蕾膨らむほど暖かく、整備された道はとても歩きやすい。途中、巨大な岩が点在し、ロッククライミングの練習をする人たちの光景に目を奪われる。

幕山頂上は平らに開け、一面カヤト原が広がり、そこから相模湾が一望できる。初島、大嶋、伊豆半島を指差しながら、集合写真にも歓声が混じる。一休みした後、左側に下り、今度は南郷山への標識へと進む。

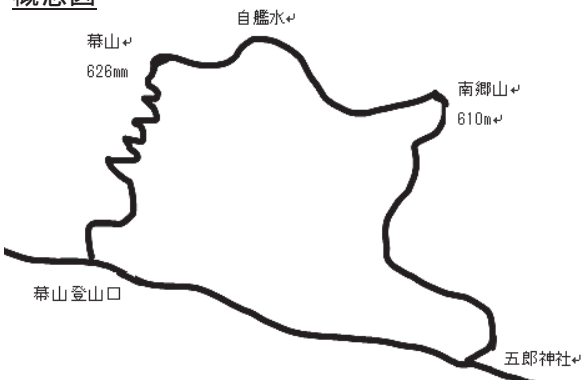
白銀林道に入るとすぐに自鑑水の標識があり、笹の道を進むと枯れかかった小さな池が「出現。かつて敗走中の源頼朝が自分の姿を映して絶望し、自害を望んだと言い伝えられている。それほどハンサムだったに違いない。そこから南郷山への道を探すが、倒木が多くて道を見つけにくい。登山アプリ yamap を持っていた仲間の助けを借りてその誘導に従う。笹の道を抜けるとやがて南郷山山頂へたどり着く。そこで眼下に真鶴半島を見下ろしながらゆっくり昼食をとる。

そこから白銀林道へ降りる道はさらに青い海と空が一面に広がり、実に気持ちがいい。白銀林道に出ると少し戻って左折すると、雀のお宿を思わせる笹林が続き、湯河原カントリーの脇に出、さらにみかん畑を通って終着の五郎神社へと下山。

２時１分発のバスで湯河原駅に戻り、さらに奥湯河原へとバスを乗り継いで癒しの温泉に入浴。帰りは真鶴で下車して地元寿司で反省会。今回は男性２人のキャンセルがあったため、女性だけ８人の山行となったが、たまにはこんな女子会もいいなぁと話しながら降りてきて、幸せ感に浸りながら帰宅した。

幕山登山口の菜の花

**概念図**



＜１０９８＞

## 長瀞アルプス　宝登山
（497m）

矢野　朝水

概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 幕山～南郷山 | | |
| 月日 | 平成 31 年 2 月 13 日（水） | | |
| 山域 | 箱根･湯河原 | 地形図 | 1/25000　　箱根 |
| 形式 | 日帰り | グレード | １A |
| 目的 | 早春の梅林を歩き、相模湾の展望を楽しむ。 | | |
| 費用 | 3,500 円 | 交通機関 | JR、バス（あるいはタクシー） |
| 行程 | 我孫子駅 6:12→上野 6:45　6:54(上野東京ライン熱海行き)→湯河原着 8:53　箱根登山バス 9:00→幕山公園 9:18　9:30⇒あずま屋 10:10⇒幕山山頂 1-:55　11:10⇒自鑑水 11:30⇒南郷山山頂 11:55　12:30⇒五郎神社（鍛治屋）13:45）　箱根登山バス 14:01 →湯河原駅 14:10　奥湯河原温泉に立ち寄り､真鶴駅前のお寿司屋さんで反省会<br>真鶴発１５：１５（上野東京ライン）→我孫子着 19:12<br>歩行時間約４時間半 | | |
| 参加者 | 外崎蓮　高橋芳恵　本田愛子　中村育子　斎田記代美　小野泰子　一氏照美　新谷直恵　（女性８名） | | |
| 状況 | ・湯河原梅林は５部咲きだったが、木々の間に見え隠れする相模湾も美しく、早春をいち早く満喫できた。<br>・連休中の降雪の影響を心配したが、残雪はなく道も整備されていて歩きやすかった。<br>・南郷山山頂への道は錯綜する林道に伐採した倒木が多く、道を見つけにくく、スマホの YAMAPU を携帯してくれている人がいて役立った。赤いテープは道しるべと伐採予定の木にもつけられていて判別しにくかった。 | | |

はるかなる
　　秩父の峰や霞立つ

空は晴れ、田植えに備えて耕された田圃が広がる。遠くの山々は霞み、陽は眩しい。春の訪れを感じる。車内には蠟梅（ろうばい）の写真に「蠟梅の名所　長瀞宝登山」とあり、これから登る宝登山への期待が高まる。

秩父鉄道にはＳＬが走る。ＳＬは石炭の臭いや煤が嫌われたが、今やＳＬに乗るには割り増し運賃が必要。世の中変わったのだ。

野上駅では登山客が多い。ここ数日寒い日が続いていたのに今日に限り陽気で絶好の登山日和だからだろう。「日頃の行いが良いから」と皆さん囁きあう。

野上駅には宮沢賢治の歌碑が立つ。「盆地にも今日は別れの本野上駅に引かれるたうきびの穂よ」。宮沢賢治は、大正 5 年（1916 年）9 月、盛岡高等農林学校 2 年、20 歳の時、地質調査研究のため、先生、学友と秩父地方を訪れた。そのときの歌という。

準備体操の後、9：23 野上駅スタート。9：35 白梅香る「万福寺」を経て「長瀞アルプス」に入る。杉林を抜け、クヌギやコナラの落葉林の登山道を登り降りする。天狗山分岐、氷池分岐、野上峠、小鳥峠を経て奈良沢峠から宝登山への急坂を登る。

**秩父路や白梅匂ふ山の寺　　寒林や山並み続く奥秩父　　用心し一歩一歩と落葉坂**

11：25 宝登山山頂に到着。斜面には、蠟梅の林が広がる。季節を過ぎているのではと危ぶまれたが、まだまだ見頃だ。宝登山の蠟梅は 3000 本という。眼下には秩父の町が広がる。遠くには左手の武甲山から右手の両神山まで奥秩父の山々が連なり、霞立つ。

**陽を浴びて蠟梅香る宝登山　はるかなる秩父の峰や霞立つ　ＳＬ走る秩父盆地や春霞**

多くの登山客に混じって蠟梅の林の中で昼食。蠟梅の林の下には梅林が広がり、白梅や紅梅が咲き始めている。梅は 500 本という。

**蠟梅の林に座して握り飯　　蠟梅の林抜ければ梅ひらく**

長瀞町によると「宝登山は大正時代から杉や檜の植林が行われ、山のほとんどを占めて単調な生態系となっていた。これらの植林木が伐採時期を迎えたのを機に多くの人から再び杉や檜を植林するのではなく、広葉樹林化と眺望を確保してほしいとの声が寄せられた。このような声を踏まえ、伐採地の広葉樹林化と遊歩道の整備を行った」とある。

杉や檜の植林後、間伐などの手入れが行われず放置され（木材価格の下落によるものだが)、花粉症の震源となり、水源地としての機能も低下している。困ったものだ。長瀞町の取組が普及することを期待したい。

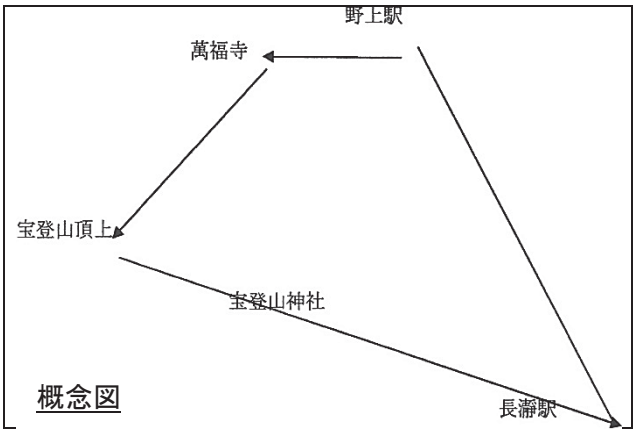
12：05 梅林を抜け、下山開始。13：00 宝登山の中腹にある「宝登山神社」にお参りする。「宝登山神社」は秩父神社、三峯神社とともに秩父三社のひとつ。鬱蒼とした森の中に鎮座し、荘厳な雰囲気が漂う。　**春光に大樹輝く社かな**

参道を下り、13：15 享保 13 年（1728 年）創業の酒蔵「長瀞蔵」で試飲する。試飲は数滴のため、お酒の味や香りがイマイチ味わえない。

13：42 荒川に突き当たるとそこは「岩畳」。隆起した結晶片岩が畳のように重なり広がっている。別名「地球の窓」という。荒川の水量は少なく、風が出てくる。長瀞ライン下りは営業しているが、寒そうだ。　**長瀞の頬うつ風や春浅し**

荒川を早々に切り上げ、蕎麦屋に寄る。天候に恵まれ、蠟梅や梅を楽しむことができたことに乾杯し、蕎麦を食べる。

15：13 長瀞駅発。各駅停車で羽生へ。春日部を経て 18：10 柏着。何よりも天候に恵まれ、蠟梅と梅を堪能できて良かった。小島洋子さん、ありがとうございました。



概念図

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 長瀞アルプス　宝登山 | | |
| 月日 | 平成 31 年 2 月 16 日(土) | | |
| 山域 | 秩父 | 地形図 | 1/25000 鬼石 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １A |
| 目的 | 1. 梅の観賞　2. ロウバイを愛でる。 | | |
| 費用 | 3, 400 円 | 交通機関 | JR、東武線、秩父鉄道 |
| 日程 | 我孫子駅 6：18→柏→春日部→羽生→野上駅 9:11/9:23⇒萬福寺 9:35/9:40⇒野上峠 10:26/10:31⇒宝登山 11:25/12:05⇒宝登山神社 13:00/13:10⇒長瀞駅→羽生→春日部→柏→我孫子 18:20 | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 野上駅から萬福寺を通り長瀞アルプスと呼ばれるコースです。今年は残雪や凍っているところが全くなく安心して歩くことが出来ました。 | | |
| 参加者 | 小島洋 L、森岡 SL、矢野朝、田嶋、小島徹、箕輪、蟹江、佐藤（男子５名、女子３名　計８名） | | |

山頂にて

陽を浴びて蠟梅香る宝登山

＜１０９９＞新人卒業山行

権現山～弘法山
（243m）（235m）

松下　寿男

## 新人研修終え、無事卒業

弘法山山頂

新人卒業山行ということで、山登りというよりも、この一年、毎月の定例集会の前３０分間受けた新人教育研修を、この山行にてどれだけ修業確認し卒業に値するかどうかという視点で報告したいと思います。

さてこれら研修がどれだけ身についたのか振り返ってみますと、４月の服装・装備、５月の水の飲み方と栄養補給、６月の山の歩き方はこの山行で研修内容を実施し修業と判断します。７月の地図の読み方は、同じ山行仲間と地図の読み合わせしOK。１０月の山の天気は、当初の山行計画日程は２月２３日（土）でしたが、雨の予報で次の日に順延、結果悪天候によるリスクは回避でき、修業。１１月の山行計画書作成は、今回のリーダーである小島さん中心で計画書を作成、計画書に基づき実行、結果修業と判断します。

しかしながら今回の山行で修業できたと判断できていないのは、９月の山の食事全般、１２月山行中のアクシデント対応、１月雪山の衣類と装備、２月の山でのケガでの応急手当。この中で山の食事全般に関しては、田嶋さん、一氏さん、佐藤さんが料理してくれた温かいラーメンが、冷えた体に適合しとてもおいしかったです。わたしは何もお手伝いできず食べる専門でした。個人的にはこの食事全般は未修業で、この先の自分の課題としていきたいです。

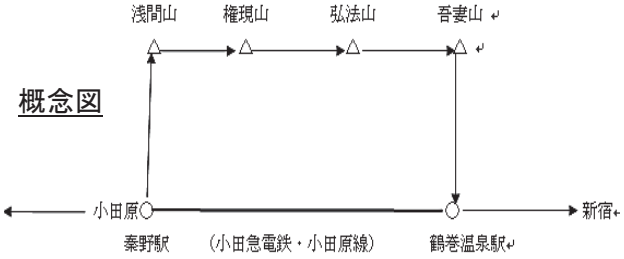
最後に、大平さんからこの山行を終え新人卒業の認定をいただき、ありがとうございました。今回修行できなかった項目を修業できるよう意識して今後の山行に臨みたいと思います。

テントの前で

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 権現山～弘法山 | | |
| 月日 | 平成 31 年 2 月 24 日（日） | | |
| 山域 | 丹沢 | 地形図 | 1/25000　秦野 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １A |
| 目的 | 新人卒業山行　（テント設営と昼食炊飯の実習） | | |
| 費用 | 3,740 円 | 交通機関 | JR、小田急 |
| 行程 | 我孫子駅（6:18）（千代田線）→代々木上原（7:28/7:31）（直通）→向ヶ丘遊園（7:46/7:55）（小田原行きに乗換）→秦野駅（8:43/9:00）⇒弘法山公園入口（9:18）⇒ 権 現 山（10:01）⇒　弘 法 山（10:20/12:27）（テント準備・撤去）（昼食の準備・昼食休憩）⇒吾妻山（13:24）⇒鶴巻温泉駅（13:50）→反省会（卒業試験）（14：00/15：10）→代々木上原→我孫子駅（17：31）<br>＜歩行時間：3 時間＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | 弘法山公園入口から権現山までがやや急登ですが、ルートはよく整備されていました。また、善波峠から吾妻山への下山道は短いですがやや急なので注意が必要です。 | | |
| 参加者 | 小島徹 L・松下 SL・矢野朝・一色・田嶋佐藤・大平<br>男性５名、女性２名　計７名 | | |

**概念図**



＜１１００＞

# 黒檜山
（1,828m）

小林　安代

## 雪を楽しみ、谷川・日光白根を遠望

雪を被った谷川の山なみ

前橋駅からタクシーに乗りおのこ駐車場で降りると、大沼でワカサギ釣りのカラフルなテント群が遠くに見えた。そこから 20 分ほどのところにある黒檜山登山口でアイゼンを装着し、雪山もベテランの矢野リーダーと雪山大好きの桐生さんと雪山は数回目の私と女子三人で意気揚々と歩き始めた。

間もなく急登になり私はキックして登っていた。ところが斜面にフラットに足を置いて体重がかかれば、アイゼンの 6 本爪が雪に固定されるから滑らないと教わった。なるほど。アイゼンを装着したのに使えていなかった。急登では結構難しい。所々凍っていたり、岩が出ていたりする中を黙々と歩いた。

稜線に出てＴ字路を左に行くと黒檜山頂上だ。更に北へ 5 分ほどで開けた展望地に出る。視界は広がり、眩しさが増し、雪はキュッキュと気持ちいい感触。真っ青の空に真っ白な山脈がくっきり見えた。晴れの日曜日だからだろうか、大勢の登山者が絶景スポットでカメラを片手に武尊山・谷川岳・日光白根山・尾瀬の山々等をゆっくり眺めていた。お天気に恵まれ、絶景が目に飛び込んできた時の感動は、いつも新鮮だ。山に登る目的の一つだと思った。

概念図

防寒着を着る事もなく、昼食をゆっくりとり、歩き出すとぽかぽか陽気のせいか雪が少しゆるんできたように感じた。駒ヶ岳経由の下山道は登りに比べれば緩やかで、かかとから押し体重をかけて歩いた。だが急斜面になると、横に向きたくなる。これもダメで足をまっすぐ向けるよう教わった。

途中、長い鉄の階段が出てくるが両脇に手摺があるので危険はないが慎重に降りた。雪山を楽しみながら歩くとってもいいコースだった。次の雪山はレベルアップしてまた行きたいと思った。

**概　要**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 黒檜山 | | |
| 月日 | 平成 31 年 2 月 24 日(日) | | |
| 山域 | 赤城 | 地形図 | 1／25000　赤城山 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １C |
| 目的 | 雪山を楽しむ | | |
| 費用 | 7, 720 円 | 交通機関 | ＪＲ・ﾀｸｼｰ |
| 行程 | 我孫子 5:41→柏 5:35→上野 6:14/6:26→前橋 8:33/8:40→ﾀｸｼｰ→あかぎ広場前 9:30/9:37⇒黒檜山登山口 9：55/10:05⇒分岐 11：20⇒黒檜山頂上 11/23 見し広場散策 11:35⇒御黒檜天神前 11:40（昼）/12:05⇒駒ケ岳 12:40/12:45⇒駒ケ岳登山口⇒あかぎ広場前→バス→前橋 14:49/16:13→上野 18:33/19:39→柏→我孫子 20:20<br>＜歩行時間 3 時間 00 分＞ | | |
| ルート状況 | 冬期は土日バスが運行されている。乗客が多いと増便もある。（片道 1500 円）<br>登山道は良く踏まれていて不安なし<br>積雪は深い所で 30 ㎝、駒ケ岳からの下山道、鉄ハシゴ付近の一部で雪が消えるが先には凍っている所もあり、登山口付近にはかなりの残雪があるので最後までアイゼンを装着した。 | | |
| 参加者 | 矢野Ｌ　桐生 SL　小林　　3 名(女 3 名) | | |

黒檜山山頂

＜１１０１＞

# 高松山
（801m）

室崎　宏治

## なだらかな馬の背歩く

お汁粉を作りました

不順な天候を気にしながら行程を組んだ。不思議な御殿場線に乗り、尺里峠（ひさり峠）までタクシーで第六天 550 メートルまで行く。馬の背を歩く。ちょうど馬の尻尾から頭までなだらかに歩く。日差しは強くなく風も柔らかい。

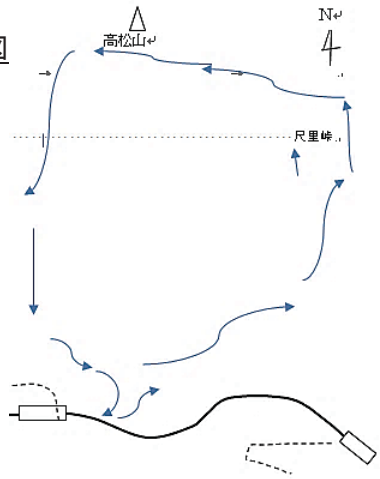
背の河津桜はまだ咲いてなかった。気温が低いのであろう。あまりすれ違う人は少なかった。参加者数 12 名である。富士山がよく見えたが時間とともに靄が垂れ込めではっきりは見えなくなった。お汁粉を作り、食べて、村越の餅が絶妙に美味しい。長い長い急な坂を下り桜湯に入り帰路に着いた。坂道では柑橘類の畑には果実がなっていた。過疎化が進んでいた。寂しい限りである。また第二の東名高速道路の高松山トンネルを掘る準備をしていた。

山北駅近くのさくら湯で入浴を楽しんで疲れをとった。

### 概　要

| | | | |
|---|---|---|---|
| 山名 | 高松山 | | |
| 月日 | 平成 31 年 2 月 24 日（日） | | |
| 山域 | 丹沢 | 地形図　1/2.5万 | 山北 |
| 形式 | 日帰り | ｸﾞﾚｰﾄﾞ | １Ａ |
| 目的 | 陽だまり山行<br>御殿場線に乗る冬の低山を歩く。 | | |
| 費用 | 3,810円 | 交通機関 | JR、タクシー |
| 行程 | 我孫子6:12→上野→国府津8:17/8:31→→山北8:56→尺里峠9:30⇒高松山山頂10:25/11:30⇒ビリ堂11:55/12:00⇒高架下12:20/12:25⇒山北駅13:55(入浴)/15:47→国府津→上野→我孫子18:20<br>＜歩行時間3時間20分＞ | | |
| ﾙｰﾄ状況 | ルートは標識がはっきりしていてわかりやすい。<br>下りは急坂が多かった。 | | |
| 参加者 | 室崎 L、外崎 SL、郷田、齊田、板倉、藤家、蟹江、村越、箕輪、小島洋、石塚、矢野裕、<br>＜男性５名、女性７名　　計 12 名＞ | | |

**概念図**



# 資料

山行一覧表(2017 年 3 月～2019 年 2 月)

活動の記録(2017 年度～2018 年度)

山行(山名)検索

1996 年～2019 年 2 月

山行一覧表　　平成29年度定例・準定例山行実績　　2017年3月～2018年2月

| No. | 山名 | 山域 | 月日 | 山行形式 | G | リーダー | 参加者 | 会員 | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 989 | 谷川岳 | 谷川岳 | 3/12 | 日帰り | 2C | 大山 | 大山L、田村SL、小林隆、本田、齊田、矢野貞 桐生 | 7 | |
| 990 | 扇山～百蔵山 | 中央沿線 | 3/18 | 日帰り | 2A | 郷田進 | 郷田L、桐生SL、北田、小島、深草、小林安、蟹江、<br>高橋富 村松、田嶋 | 10 | |
| 991 | 権現山～ミツバ岳 | 丹沢 | 3/20 | 日帰り | 1B | 矢野裕 | 矢野裕L、矢野貞、本田SL、齊田、大山、矢澤、<br>石塚、林、北田、吉澤 | 10 | |
| 992 | 樋曽山～角田山 | 上越 | 3/29 | 日帰り | 1A | 大山 | 大山L、石塚SL、矢野裕、高橋富　高橋潔 | 4 | 1 |
| 993 | 身延山 | 身延 | 3/29 | 日帰り | 2A | 大平 | 大平L、武内SL、外崎、林、板倉、吉澤 | 6 | |
| 994 | 甲州高尾山　新人歓迎山行 | 笹子 | 4/2 | 日帰り | 1A | 村越・室崎 | A班室崎L、武内SL、中村八 林 北田 小林安 高橋富 小野<br>B班郷田L、外崎SL、本田、大山、小島、横尾、吉澤、佐藤<br>C班高橋英 L、高橋芳 SL、矢野裕 矢澤 渡辺 藤家 深草 森岡<br>D班村越L、村松SL、齊田、石塚、大平、小林隆、板倉 | 31 | |
| 995 | 愛宕山～難台山～吾国山 | 茨城 | 4/16 | 日帰り | 2A | 藤家 | A班藤家L、外崎SL、田村、齊田、大山、大平、小林安、<br>森岡 箕輪完<br>B班小島洋L、桐生SL、村松、　高橋芳、本田、高橋富　室崎　箕輪カ、矢野貞 | 17 | 1 |
| 996 | 御正体山 | 道志 | 4/22 | 日帰り | 2A | 北川 | 北川L、外崎SL、矢野貞、矢野裕、林、小林安、蟹江、<br>田嶋 佐藤、横尾 | 10 | |
| 997 | 三頭山 | 奥多摩 | 4/23 | 日帰り | 2B | 高橋芳 | 高橋芳L 本田SL 中村八 矢澤 大山 石塚 箕輪 | 7 | |
| 998 | 蕎麦粒山 | 奥多摩 | 4/29 | 日帰り | 3C | 矢野貞 | 矢野L、大畠SL、桐生、 高橋芳 | 4 | |
| 999 | 身延山・下部温泉～毛無山～朝霧高原 | 富士周辺 | 5/7～8 | 日帰り | 3B | 高橋芳 | 高橋芳L　田村SL　大畠　本田　高橋富　北田　小島　箕輪 | 8 | |
| 1000 | **高水三山　高水山～岩茸石山～惣岳山** | 奥多摩 | 5/14 | 日帰り | 1A | 林 | 林L、蟹江、森岡、村松、桐生、矢野貞、飯合、箕輪カ | 6 | 2 |
| 1001 | 雲取山 | 奥秩父 | 5/21～22 | 小屋泊 | 2A | 本田 | 本田L、矢野裕SL、箕輪、斎田、村越、大山、石塚、<br>小林安、深草、蟹江、板倉、室崎育 | 11 | 1 |
| 1002 | 岩山 | 前日光 | 5/27 | 日帰り | 1B | 村松 | 村松L、武内SL、藤家、深草、小島、横尾 小林安、蟹江 | 8 | |
| 1003 | 平標山・飯士山 | 谷川 | 5/27～28 | 旅館泊 | 2A | 小林隆 | 小林隆L、外崎SL、高橋富、矢野裕 | 4 | |
| 1004 | 雲取山～酉谷山 | 奥多摩 | 5/29～30 | 小屋泊 | 3B | 大畠 | 大畠L、田村SL、高橋芳、矢野貞 | 4 | |
| 1005 | 男体山 | 奥日光 | 5/31 | 日帰り | 2B | 大山 | 大山L,蟹江SL、横尾、森岡、小野 | 5 | |
| 1006 | 安達太良山　市民山行 | 福島 | 6/4 | 日帰り | 1A | 室崎 | A班武内L、桐生SL、森岡、矢野裕、林、佐藤、<br>＜一般＞徳井、北田、千葉、渡邉<br>B班高橋英L、中村八SL、渡辺、矢野貞、深草<br>＜一般＞常井、室崎育、水牧、増田<br>C班田村L、北田SL、田嶋、石塚、吉澤、<br>＜一般＞大井、小林、堀尾<br>D班藤家L、高橋芳SL、齊田、小林安、本田<br>＜一般＞内藤、松下、加藤、田中<br>E班外崎L、村松SL、箕輪完、村越、高橋富、<br>＜一般＞岡、小板橋、後藤、李、何 | 27 | 20 |
| 1007 | 切込湖～刈込湖(泊)　1000回達成記念山行 | 日光 | 6/17～18 | テント泊 | 2A | 武内 | 武内L、郷田、矢野裕、高橋富、北田、藤家 外崎L、村松、<br>桐生 矢野貞、齊田、石塚、小島、小林安 | 14 | |
| 1008 | 切込湖～刈込湖　1000回達成記念山行 | 日光 | 6/17 | 日帰り | 1A | 大畠 | 大畠L、高橋芳SL、田村、本田、中村育、村越、林、渡辺<br>清、　横尾、吉澤、田嶋、森岡、小野 | 14 | |
| 1009 | 釈迦ヶ岳～黒岳 | 御坂山塊 | 6/24 | 日帰り | 2B | 北川 | 北川L、郷田SL、矢野貞、石塚、大平 | 5 | |
| 1010 | 上州武尊山 | 上州 | 6/24～25 | 民宿泊 | 2B | 村越 | 村越L、本田SL、箕輪、藤家、小林安、森岡、板倉 | 7 | |
| 1011 | 薬師岳・早池峰山 | 北上山地 | 7/5～7 | 小屋泊 | 3A | 大山 | 大山L、本田SL 北田 高橋富 蟹江 横尾 小野 佐藤 板倉 | 9 | |
| 1012 | 南八ヶ岳 | 八ヶ岳 | 7/7～8 | 小屋泊 | 2B | 村松 | 村松Ｌ、外崎SL、武内、矢野貞、藤家、深草、小林安 | 7 | |
| 1013 | 霧ヶ峰・車山 | 霧ヶ峰 | 7/14～15 | 小屋泊 | 2A | 齊田 | 齊田L,矢澤SL,箕輪完, 箕輪カ, 本田, 渡辺清,吉澤,　田嶋 | 、 | 1 |
| 1014 | 玉原湿原～鹿俣山 | 上信越 | 7/22 | 日帰り | 1A | 小島 | 小島L、郷田SL、桐生、石塚、林、高橋富 | 7 | |
| 1015 | 森吉山・赤水渓谷・秋田駒ケ岳 | 秋田県 | 7/28～30 | バンガロー泊 | 2A | 外崎 | 外崎L、村松SL、武内、本田、斉田、石塚、大平、高橋富、<br>藤家、小林安 | 10 | |
| 1016 | 雪倉岳～朝日岳 | 北アルプス | 7/30～8/1 | 小屋泊 | 3C | 大山 | 大山L、蟹江、小野 | 3 | |
| 1017 | **烏帽子岳～水晶岳～鷲羽岳～槍ヶ岳** | 北アルプス | 8/2～7 | 小屋泊 | 3C | 矢野貞 | 矢野貞L、小島SL、桐生 | 3 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1018 | 赤石岳～聖岳 | 南アルプス | 8/10～13 | 小屋泊 | 3C | 室崎 | 室崎L、郷田SL | 2 | |
| 1019 | 利尻山・礼文岳 | 北海道 | 8/23～26 | 民宿泊 | 3B | 北田 | 北田L、武内SL、佐藤、高橋富 | 4 | |
| 1020 | 鳥海山 | 鳥海山 | 8/24～26 | 小屋泊 | 2B | 矢野貞 | 矢野L、外崎SL、深草 | 3 | |
| 1021 | 飯士山・巻機山 | 南魚沼 | 9/23～24 | 小屋泊 | 2A | 矢野裕 | 矢野裕L、北田SL、蟹江、小林安、佐藤、森岡、 板倉 | 7 | |
| 1022 | 南岳～槍ヶ岳 | 北アルプス | 9/29～10/2 | 小屋泊 | 3C | 武内 | 武内L、桐生SL、大平、森岡 矢野貞 高橋冨 小林安 高橋重 | 7 | 1 |
| 1023 | **立山三山 雄山～大汝山～富士の折立** | 立山 | 10/1～2 | 温泉泊 | 2B | 林 | 林L 室崎SL,外崎,矢澤,中村育, 吉澤、村越、蟹江 | 8 | |
| 1024 | 鈴ヶ岳～地蔵岳 公開登山 | 上州 | 10/8 | 日帰り | 2A | 外崎 | 外崎L、藤家SL 村松 高橋芳 武内、小林安、 田嶋、<市民>松下・常井・渡邉・水牧・大井 | 7 | 5 |
| 1025 | 榛名 相馬山 | 上州 | 10/9 | 日帰り | 1A | 新谷 | 新谷L 高橋英SL 箕輪完 箕輪カ 本田 斉田 矢野裕 小島洋 林 渡辺 | 9 | 1 |
| 1026 | **出湯温泉～五頭山～村杉温泉** | 越後 | 11/3～4 | 旅館泊 | 2B | 高橋芳 | 高橋芳L、大畠SL、田村SL、本田、小島、矢野裕、石塚、小野、小林安、吉澤 | 10 | |
| 1027 | 手賀沼クリーンハイク | 柏 | 11/5 | 日帰り | 1A | 林敏生 | 本田CL、矢野裕SL、林L 外崎、高橋英、中村八、桐生、村越 郷田、北田、小林安、蟹江、佐藤、箕輪完 室崎、矢野裕 | 18 | |
| 1028 | 三ツ峠山 | 富士周辺 | 11/11 | 日帰り | 2A | 中村八 | 中村八L 高橋芳SL 齊田 小林安 本田 箕輪完 田嶋 箕輪カ 石塚 | 8 | 1 |
| 1029 | 三頭山 | 奥多摩 | 11/19 | 日帰り | 1A | 村越 | 村越L、渡邉 | 2 | |
| 1030 | 高山不動尊～顔振峠 | 奥武蔵 | 11/26 | 日帰り | 2A | 田村 | 田村L、高橋芳SL,大畠,大山、林、高橋富、小林安 | 7 | |
| 1031 | 巣雲山、万二郎岳、万三郎岳 | 伊豆 | 11/26～27 | 保養所泊 | 2A | 齊田 | 齊田L・室崎SL・外崎GL・矢野貞GL・本田GL・矢野裕・村越・石塚・小野・郷田・矢澤 北田GL・藤家・箕輪・森岡 | 15 | |
| 1032 | 石割山 忘年山行 | 富士周辺 | 12/3 | 日帰り | 1A | 新谷・大平 | A班：新谷L、外崎SL、矢野裕、高橋芳、箕輪完、常井<br>B班：大山L、武内SL、北田、本田、吉澤、田嶋<br>C班：村越L、村松SL、小林安、石塚、佐藤<br>D班：大平L、中村八SL、小島洋、矢澤, 渡辺 | 22 | |
| 1033 | 堂平山～笠山 | 奥武蔵 | 12/17 | 日帰り | 1A | 本田 | 本田Ｌ・斎田ＳＬ・高橋英・箕輪・矢野貞・矢野裕・矢澤 大山・林・石塚・渡辺清・藤家・蟹江・小島・小野・箕輪カ | 15 | 1 |
| 1034 | 安戸山・高原山 | 日光 | 12/23～24 | テント泊 | 2B | 村松 | 村松L、外崎SL 武内 北川 桐生,矢野貞 斉田、小林安 | 8 | |
| 1035 | 両神山 | 奥秩父 | 12/24 | 日帰り | 2B | 大山 | 大山L、高橋芳SL 本田 石塚 蟹江 高橋富 佐藤 森岡 藤家 | 9 | |
| 1036 | 百蔵山 | 中央沿線 | 1/6 | 日帰り | 1A | 中村育 | 中村育L、林SL、箕輪完、室崎、蟹江 | 5 | |
| 1037 | 篠井富屋連峰（宇都宮アルプス） | 栃木 | 1/13 | 日帰り | 2A | 小島 | 小島L、外崎SL、高橋芳、本田、郷田、林、石塚 | 7 | |
| 1038 | 不老山 | 丹沢 | 1/20 | 日帰り | 2A | 北川 | 北川L、村松SL、外崎、武内、箕輪、桐生 矢野貞、斉田、石塚 林、小島、小林安 佐藤、 森岡、常井、 | 15 | |
| 1039 | 鋸山・石尊山～麻綿原高原 房総ロングハイク | 房総 | 1/27～28 | 旅館泊 | 2A | 深草 | 深草L、大畠SL、本田 渡辺清 郷田 高橋秀 外崎 室崎 | 8 | |
| 1040 | 北八ヶ岳 天狗岳 | 北八ヶ岳 | 1/28～29 | 小屋泊 | 3C | 大山 | 大山L、北田SL、矢野裕、齊田、小林安 蟹江、 田嶋、 | 7 | |
| 1041 | 乗鞍高原・上高地 | 北アルプス | 1/30～31 | ペンション泊 | 1A | 桐生 | 桐生L、矢野貞SL、外崎 | 3 | |
| 1042 | 塔ノ岳～丹沢山 | 丹沢 | 2/22～23 | 小屋泊 | 3B | 高橋芳 | 高橋芳L、矢野貞SL、大山（講師）矢澤 本田 斎田 高橋富 | 7 | |
| 1043 | 仏果山 新人卒業山行 | 西丹沢 | 2/24 | 日帰り | 1A | 森岡 | 森岡L、板倉、小野、大平（講師）大畠（講師）、 | 5 | |
| 1044 | 伊東アルプス・真鶴半島 | 伊豆 | 2/24～26 | 保養所泊 | 1A | 室崎 | 2泊組 室崎L、箕輪完SL、箕輪カ 室崎育<br>1泊組 外崎GL、村越、松下、林、蟹江 、 | 7 | 2 |
| 参加者数（延べ）489名 | | | | | | | | 483 | 37 |

| | | |
|---|---|---|
| | | |

#VALUE!

山行一覧表　　**平成30年度定例・準定例山行実績**　　**2018年3月～2019年2月**

| No. | 山名 | 山域 | 月日 | 山行形式 | G | リーダー | 参加者 | 会員 | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1045 | 白馬乗鞍岳 | 白馬 | 3/3～4 | 民宿泊 | 3C | 小林隆 | 小林隆L、北田SL、郷田、齊田、村越 | 5 | |
| 1046 | 棒の折山～岩茸石山～惣岳山 | 奥多摩 | 3/18 | 日帰り | 2B | 矢野貞 | 矢野貞L 村越SL 森岡 大畠 石塚 渡邊 箕輪、<br>高橋英、北田、田村、蟹江、高橋芳 | 12 | |
| 1047 | 火打石岳～明神ヶ岳 | 箱根 | 3/24 | 日帰り | 2B | 外崎 | 外崎L、林SL、本田、新谷、矢澤、高橋富、森岡、<br>渡辺清 板倉、小野、松下、常井 | 12 | |
| 1048 | 神成山 新人歓迎山行 | 上州 | 4/8 | 日帰り | 1A | 北田・小島 | 【A班】北田L、小林安SL、武内、中村八、矢野朝、蟹江、 小島徹<br>【B班】大畠L、 外崎SL、大山、本田、矢澤、林 常井、<br>一氏<br>【C班】村越L、 田村SL、深草、室崎、村松、高橋富、白崎、佐藤 【D班】小島洋L、 高橋芳SL、 矢野貞、郷田 高橋英、箕輪、森岡 渡辺加 | 32 | |
| 1049 | 宝篋山 県連ウイークデー山行 | 筑波 | 4/12 | 日帰り | 1A | 深草 | 深草L、本田SL、渡辺清、小島洋、吉澤、 村越 | 6 | |
| 1050 | 鳴虫山 | 日光 | 4/22 | 日帰り | 2A | 石塚 | 石塚L、北田SL、林、高橋富、森岡,吉澤、高橋芳、箕輪完、<br>小島徹、 ｹﾞｽﾄ 箕輪ｶ | 9 | 1 |
| 1051 | 棒ノ折山～蕎麦粒山 | 奥多摩 | 4/22 | 日帰り | 3C | 矢野貞 | 矢野L 大畠 桐生 田村 佐藤 板倉 | 6 | |
| 1052 | 南大菩薩縦走 | 大菩薩 | 4/28 | 日帰り | 2B | 高橋芳 | 高橋芳L、大畠SL、田村SL、矢野貞、松下、小島、北田、<br>蟹江、深草、佐藤、矢野朝、 小島徹、 | 12 | |
| 1053 | 大杉谷（日出ヶ岳）～大台ケ原 | 大台ヶ原 | 5/6-8 | 小屋泊 | 2B | 大山 | 大山L、高橋芳SL、矢澤、本田、 石塚、蟹江、小野、白崎 | 8 | |
| 1054 | 天城越え・幕山 | 伊豆 | 5/13～14 | 旅館泊 | 2A | 室崎 | 室崎宏L、斉田SL、村越、森岡、箕輪完、箕輪カ（会友）、<br>室崎育（ゲ）坂本（ゲ）小島徹（13日のみ） | 6 | 3 |
| 1055 | 斑尾山～信越トレイル | 信越 | 5/26～27 | 旅館泊 | 2A | 高橋芳 | 高橋芳L、田村SL、大畠 矢野貞 桐生 矢野朝 小島 一氏 | 8 | |
| 1056 | 佐渡 金北山縦走 | 佐渡 | 5/27～29 | 民宿泊 | 2A | 本田 | 本田L、大山SL、斎田、箕輪完、村越 石塚、小野、<br>吉澤、箕輪カ、菊地 | 8 | 1 |
| 1057 | 大菩薩嶺～大菩薩峠 市民山行 | 大菩薩 | 6/3 | 日帰り | 1A | 室崎 | 統括L 室崎<br>【A班】藤家L、高橋芳SL、新谷、一氏、深草、 小野<br>【市民】水牧、東別府、塩原、川村、小板橋<br>【B班】北田L、本田SL、矢野貞、渡辺清、森岡 小島洋、 矢野朝 【市民】吉本、石神、福山、吉野<br>【C班】高橋英L、村松SL、桐生、田嶋、箕輪、蟹江、<br>【市民】室崎育、向治、向智、北田<br>【D班】外崎L、村越SL、武内、石塚、板倉、小島徹、飯合合<br>【市民】伴田、李、何、増田 | 27 | 17 |
| 1058 | 恵みの森(大滝沢)・山神の杉 | 只見 | 6/15～16 | バンガロー | 1A | 武内 | 坪田（講師）武内L,村松SL,大平、北田、外崎、桐生、矢野<br>貞、高橋富、齋田、石塚、小林安、田島 | 12 | 1 |
| 1059 | 三ノ木戸山 | 奥多摩 | 6/23 | 日帰り | 2A | 外崎 | 外崎L、村越SL、本田、小島洋、矢野朝 | 5 | |
| 1060 | 鳳凰三山（薬師岳～観音岳～地蔵岳） | 南ア北部 | 6/23～25 | 小屋泊 | 2B | 北田 | 北田L、森岡SL、矢野貞、蟹江、佐藤、石塚、小島徹 | 7 | |
| 1061 | 蓼科山 | 八ヶ岳 | 6/29～30 | 小屋泊 | 2B | 新谷 | 新谷 L 、高橋芳SL 斎田、本田、小島、 吉澤 | 6 | |
| 1062 | 檜洞丸 | 丹沢 | 6/30 | 日帰り | 2B | 北川 | 北川L、村松SL、外崎、桐生、高橋富、<br>小林安、蟹江、板倉、松下、一氏 | 10 | |
| 1063 | 大福山 チバニアン | 房総 | 7/2 | 日帰り | 1A | 箕輪 | 箕輪完L・中村育・村越・林・高橋富・室崎・箕輪カ（会友） | 6 | 1 |
| 1064 | 美ヶ原～王ケ頭 | 北ア前衛 | 7/8～9 | 小屋泊 | 1A | 中村八 | 中村八L、本田SL、箕輪カ、渡辺清、箕輪完、石塚 | 5 | 1 |
| 1065 | 湯の沢峠～景徳院 | 南大菩薩 | 7/12 | 日帰り | 2A | 桐生 | 桐生L、矢野貞SL、林、小林安、蟹江、吉澤、箕輪カ(会友) | 6 | 1 |
| 1066 | 大雪山・黒岳～旭岳・十勝岳 | 北海道 | 7/18～21 | 小屋泊 | 3B | 大平 | 大平L 武内SL 北田 佐藤 桐生 小林 小島 高橋富<br>石塚 | 9 | |
| 1067 | 鳳凰三山 | 南ア北部 | 7/20～21 | 夜行 | 2B | 大山 | 大山L、常井 | 2 | |
| 1068 | 塩見岳 | 南ア中央 | 7/26～28 | 小屋泊 | 2B | 郷田 | 郷田L、矢野貞SL、中村育、室崎、佐藤 | 5 | |
| 1069 | 会津駒ヶ岳 | 南会津 | 7/27～28 | 小屋泊 | 2A | 北田 | 北田L、藤家 | 2 | |
| 1070 | 蓮華岳～烏帽子岳 | 北アルプス | 8/2～5 | 小屋泊 | 3C | 矢野貞 | 矢野貞L、小島SL、桐生、大畠、田村 | 5 | |
| 1071 | 平ヶ岳 | 奥只見 | 8/19～20 | 民宿泊 | 3B | 武内 | 武内L、村松SL、佐藤、森岡、矢野朝、外崎、桐生、本田、<br>村越、高橋富、石塚、小林安、小野、吉澤、一氏 | 15 | |
| 1072 | 燕岳～常念岳 | 北アルプス | 8/26～29 | 小屋泊 | 3C | 外崎 | 外崎L、武内SL、深草、森岡、常井 | 5 | |
| 1073 | 聖岳 | 南アルプス | 9/20～23 | 小屋泊 | 2B | 林 | 林L、中村育、村越、渡邊 | 4 | |
| 1074 | 筑波山 | 常磐 | 9/23 | 日帰り | 1A | 藤家 | 藤家L、北田SL 、箕輪、新谷、石塚、室崎 一氏 | 7 | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1075 | 白馬鑓ケ岳～白馬岳～小蓮華岳 | 北アルプス | 9/26～29 | 小屋泊 | 3C | 武内 | 武内L、大平、外崎SL、新谷、本田、高橋冨、石塚、<br>小林安、小野 | 9 | |
| 1076 | 天覧山～多峰主山 ～巾着田 | 奥武蔵 | 9/19　9/28 | 日帰り | 1A | 中村育 | 19日：中村育L、高橋芳、小島洋、北田、林、箕輪完　室崎、<br>箕輪力（会友）　28日：<br>中村育子L、矢野朝 | 9 | 1 |
| 1077 | 針ノ木岳 | 北アルプス | 10/4～6 | 小屋泊 | 2B | 深草 | 深草L、小林安SL、森岡 | 3 | |
| 1078 | 那須岳(茶臼岳) | 那須 | 10/7～8 | ペンション | 2B | 村越 | 村越L、本田SL、板倉、吉澤 | 4 | |
| 1079 | 仙丈ヶ岳 | 南アルプス | 10/12-13 | 小屋泊 | 2B | 矢野貞 | 矢野貞L、小島SL、郷田、桐生 | 4 | |
| 1080 | 硫黄岳 | 八ヶ岳 | 10/13～14 | 小屋泊 | 2B | 北川 | 北川L、武内SL、外崎、高橋富 | 4 | |
| 1081 | 奥久慈男体山 | 奥久慈 | 10/21 | 日帰り | 1B | 藤家 | A班：藤家L、外崎、武内SL、矢野貞、郷田、高橋冨、田嶋、<br>小野、矢野朝、森岡　B<br>班：村越L、中村八SL、箕輪、大平、小林安、板倉、松下、小<br>島徹、佐藤、小島洋 | 20 | |
| 1082 | 屋久島　宮之浦岳 | 屋久島 | 10/30～11/3 | 小屋・民宿 | 3B | 北田 | 北田L、佐藤SL、林、本田、小野 | 5 | |
| 1083 | 日の出山～御嶽山～大岳山～馬頭刈尾根 | 奥多摩 | 11/2～3 | 宿坊旅館泊 | 2B | 高橋芳 | 高橋芳L　田村SL　中村育　小島洋　矢野朝 | 5 | |
| 1084 | 桃山公園ゲレンデ | 取手 | 11/3 | 日帰り | 1B | 村松 | 村松L, 武内SL, 白崎、村越 石塚、藤家 | 6 | |
| 1085 | 明神ヶ岳・湯坂路（鎌倉古道） | 箱根 | 11/9～10 | 旅館泊 | 2A | 本田 | 本田L斎田SL・箕輪完・大平・新谷・渡辺清・吉澤・一氏<br>・箕輪力（ゲ） | 8 | 1 |
| 1086 | 本仁田山 | 奥多摩 | 11/11 | 日帰り | 2A | 小林安 | 小林安L、外崎SL、矢野貞、村越、藤家、田嶋、佐藤、<br>板倉、小島徹、 | 9 | |
| 1087 | 岩殿山 | 中央沿線 | 11/17 | 日帰り | 1A | 中村八 | 中村八L、北田SL、矢野朝、小島洋、外崎、深草、林、<br>小島徹、大平 | 9 | |
| 1088 | 高川山　公開登山 | 中央沿線 | 11/18 | 日帰り | 1A | 武内 | 武内L、佐藤SL、森岡、高橋英、板倉、高橋芳、桐生、<br>矢野貞、高橋冨　　ゲスト：土田、、川村、飯塚 | 9 | 3 |
| 1089 | 飯盛山 | 八ヶ岳 | 11/25 | 日帰り | 2B | 齊田 | 齊田L　林SL　本田　村越　板倉 | 5 | |
| 1090 | 宇都宮アルプス（榛名山～男体山～本山)忘年山行 | 下野大野・大谷 | 12/2 | 日帰り | 1A | 林 | 一班：　林総L　高橋芳　武内　小島洋　中村八 渡邊清<br>森岡　白崎　吉澤　二<br>班：郷田L　北田　田村　矢野貞　村越　小島徹　佐藤　渡邊<br>香　三<br>班：石塚総L　外崎　高橋英　箕輪完　桐生　中村育　本田<br>板倉　蟹江 | 26 | |
| 1091 | 手賀沼クリーンハイク | 我孫子 | 12/9 | 日帰り | 1A | 新谷 | 新谷L, 外崎SL, 高橋英, 箕輪, 本田, 村越, 中村育,<br>石塚, 林, 室崎, 藤家, 蟹江, 飯塚, 吉澤＋家族,<br>小野, 松下, 小島徹＋家族2人 | 17 | 3 |
| 1092 | 金時山 | 箱根 | 12/12 | 日帰り | 1A | 石塚 | 石塚L　村越SL、林、佐藤、本田、小島洋　渡辺　吉沢 | 8 | |
| 1093 | 鍋割山 | 丹沢 | 12/15 | 日帰り | 2A | 北川 | 北川L　外崎SL　矢野貞　郷田　小島徹 | 5 | |
| 1094 | 曲岳・茅ケ岳 | 南ア前衛 | 12/22～23 | テント泊 | 2B | 武内 | 武内L、北田、白崎、外崎、矢野貞 | 5 | |
| 1095 | 丸山 | 奥武蔵 | 1/12 | 日帰り | 2A | 中村育 | 1班　中村育L、村越SL、箕輪完　桐生、石塚、蟹江、板倉、<br>室崎育(一般)　2<br>班　佐藤L、高橋芳、矢野貞、齊田　　室崎宏 、矢野朝、渡<br>邊香　3班<br>本田L、北田SL　小島洋　小林安、森岡、松下、　　小島徹 | 21 | 1 |
| 1096 | チバニアン・烏帽子山、鶏毛山　房総ロングハイク | 房総 | 1/26～27 | 旅館泊 | 2A | 深草 | 深草L　高橋芳SL、外崎、本田　齊田　新谷　高橋英、<br>箕輪　佐藤 | 9 | |
| 1097 | 幕山～南郷山 | 湯河原 | 2/13 | 日帰り | 1A | 新谷 | 外崎蓮　高橋芳　本田愛　中村育　斎田　小野　一氏　新谷 | 8 | |
| 1098 | 長瀞アルプス＆宝登山 | 秩父 | 2/16 | 日帰り | 1A | 小島洋 | 小島洋L、森岡SL、矢野朝、田嶋 小島徹 箕輪 蟹江 佐藤 | 7 | |
| 1099 | 権現山～弘法山　　新人卒業山行 | 丹沢 | 2/24 | 日帰り | 1A | 小島徹 | 小島徹L・松下SL・矢野朝・一色・田嶋 佐藤・大平 | 7 | |
| 1100 | 黒檜山 | 赤城 | 2/24 | 日帰り | 1C | 矢野貞 | 矢野貞L　桐生SL　小林 | 3 | |
| 1101 | 高松山 | 富士周辺 | 2/24 | 日帰り | 1A | 室崎 | 室崎L、外崎SL、郷田、齊田、板倉、藤家、蟹江、<br>村越、箕輪、小島洋、石塚、矢野裕、 | 12 | |
| 参加者数（延べ）534名 | | | | | | | | 499 | 35 |

# 活動の記録

| | 年 | 月 | 日 | 行　　事 | 場　所 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1期 | 1996年<br>平成8年 | 10 | 2 | 定例集会 | 市民プラザ | 会則の立案等 |
| | | 10 | 12～13 | 創立記念山行 | 会津朝日岳 | テント泊 |
| | | 10 | 17 | 県連理事会 | 千葉弁天会館 | 県連加盟の承認 |

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

会の創立から平成21年（2009）2月までの活動の記録はやまなみ第10号に

平成21年（2009）3月から平成29年(2017)2月までの活動の記録はやまなみ第１６号に記載

| | | 年 | 月 | 日 | 定例集会 | 日 | 運営委員会・山行部会議 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22期 | 会議 | 2017年<br>平成29年 | 3 | 5 | 湖北台近隣ｾﾝﾀｰ | 21 | 市民プラザ | |
| | | | 4 | 5 | アビスタ | 18 | 市民プラザ | |
| | | | 5 | 10 | アビスタ | 16 | 市民プラザ | |
| | | | 6 | 7 | アビスタ | 20 | 市民プラザ | |
| | | | 7 | 5 | アビスタ | 18 | 市民プラザ | |
| | | | 8 | 2 | アビスタ | 22 | 市民プラザ | |
| | | | 9 | 6 | アビスタ | 19 | 市民プラザ | |
| | | | 10 | 4 | アビスタ | 17 | 市民プラザ | |
| | | | 11 | 1 | アビスタ | 21 | 市民プラザ | |
| | | | 12 | 6 | アビスタ | 19 | アビスタ | |
| | | 2018年<br>平成30年 | 1 | 10 | アビスタ | 16 | アビスタ | |
| | | | 2 | 7 | アビスタ | 13 | 市民プラザ | |
| | | | 2 | | | 18 | 市民プラザ | （拡大委員会） |

| | | 年 | 月 | | 行　　事 | 場　所 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22期 | 行事 | 2017年<br>平成29年 | 3 | 8 | 第22回総会 | 湖北台近隣センター | |
| | | | 4 | 2 | 新人歓迎山行 | 甲州高尾山 | |
| | | | 5 | 14 | 定例準定例山行１０００回達成 | 高水三山 | |
| | | | 5 | 21 | 市民登山説明会 | 市民プラザ | |
| | | | 6 | 4 | 市民登山 | 安達太良山 | |
| | | | 6 | 7 | 山行文集「やまなみ」第16号発行 | | |
| | | | 6 | 14 | １０００回達成記念イベント | 奥日光キャンプ場 | |
| | | | 11 | | 登山時報１１月号に当会の活動が掲載される | | |
| | | | 12 | 3 | 忘年山行 | 石割山 | |
| | | 2018年<br>平成30年 | 2 | 14 | 入会説明会 | 市民プラザ | |

| | | 年 | 月 | 机上研修 | 実技研修 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22期 | 教育研修 | 2017年<br>平成29年 | 3 | オリエンテーション | | |
| | | | 4 | 山行に向けて地形図を知る | 新人歓迎山行 | **甲州高尾山** |
| | | | 5 | 山行の準備（持ち物、パッキング他） | | |
| | | | 6 | 山登りのための体力づくり | 切込湖・刈込湖 | テント泊を楽しむ |
| | | | | | 上州武尊山 | 春の花を楽しむ |
| | | | 7 | 緊急時の対応（ﾂｴﾙﾄの張り方、登山道具が壊れた時） | 赤石岳～聖岳 | 山小屋泊を楽しむ |
| | | | 8 | 国立登山研究所の研修を終えて | 利尻岳 | 最北端の山に登る |
| | | | 9 | 三点確保とロープワーク | | |
| | | | 10 | 山の天気（山に行く日の天気を予想する） | 立山三山 | **最高所の温泉に浸かる** |
| | | | 11 | 写真を楽しむ（足元の小宇宙） | 手賀沼ハイク | **ロープワーク** |
| | | | | | 天城連山 | **ブナの原生林と紅葉を楽しむ** |
| | | | 12 | 花を楽しむ（山行で見つけた花） | | |
| | | 2018年<br>平成30年 | 1 | 山のなりたち（地震と火山に関連して） | 百蔵山 | 陽だまり山行＆富士の展望を楽し |
| | | | 2 | 一年を振り返って(グループ討議) | | 新人による山行計画と山行の実施 |
| | | | 3 | | 白馬乗鞍岳 | 山スキー及び雪山登頂 |

# 活動の記録

| | | 年 | 月 | 日 | 定例集会 | 日 | 運営委員会・山行部会議 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第23期 | 会議 | 2018年<br>平成30年 | 3 | 11 | 湖北台近隣ｾﾝﾀｰ | 21 | 市民プラザ | |
| | | | 4 | 4 | アビスタ | 18 | 市民プラザ | |
| | | | 5 | 9 | アビスタ | 16 | 市民プラザ | |
| | | | 6 | 6 | アビスタ | 20 | 市民プラザ | |
| | | | 7 | 4 | アビスタ | 18 | 市民プラザ | |
| | | | 8 | 1 | アビスタ | 22 | 市民プラザ | |
| | | | 9 | 5 | アビスタ | 19 | 市民プラザ | |
| | | | 10 | 3 | アビスタ | 17 | 市民プラザ | |
| | | | 11 | 7 | パレット柏 | 21 | 市民プラザ | |
| | | | 12 | 5 | アビスタ | 19 | 市民プラザ | |
| | | 2019年<br>平成31年 | 1 | 9 | アビスタ | 16 | 市民プラザ | |
| | | | 2 | 6 | アビスタ | 13 | 市民プラザ | |
| | | | 2 | | | 17 | 市民プラザ | （拡大委員会） |

| | | 年 | 月 | | 行　　事 | 場　所 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第23期 | 行事 | 2018年<br>平成30年 | 3 | 11 | 第23回総会 | 湖北台近隣センター | |
| | | | 4 | 8 | 新人歓迎山行 | 神成山 | |
| | | | 5 | 20 | 市民登山説明会 | 柏・我孫子各会場 | |
| | | | 6 | 3 | 市民登山 | 大菩薩嶺 | |
| | | | 12 | 2 | 忘年山行 | 宇都宮アルプス | |
| | | 2019年<br>平成31年 | 2 | 16 | 入会説明会 | パレット柏・我孫子市民プラザ | |

| | | 年 | 月 | 机上研修 | 実技研修 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第23期 | 教育研修 | 2018年<br>平成30年 | 3 | オリエンテーション | 神成山 | **新人歓迎** |
| | | | 4 | 三点確保とロープワーク | ドンデン山～金北山 | **佐渡の地形、花の特徴を学ぶ他** |
| | | | 5 | 山行に向けて地形図を知る | | |
| | | | 6 | 山登りのための体力作り（筋肉と関節について | 三ノ木戸山 | 道迷いの事故の現場を訪ね、防止策を議論 |
| | | | 7 | 山の天気を知る（天気の急変と雷も含めて） | 大福山・梅が瀬渓谷 | チバニアン探索、日本列島成立ちを知る |
| | | | 8 | 登山時の体の異常と事故対策 | | |
| | | | 9 | 緊急時の対応(山での搬送法) | | |
| | | | 10 | 日本の火山とその注意点 | 奥久慈男体山 | 岩登りを経験する |
| | | | | | 御岳山～大岳`御前山 | ビスター登山(宿坊に泊まる) |
| | | | 11 | 山行の装備 | 桃岩公園ゲレンデ | 三点確保とロープワークの訓練 |
| | | | 12 | 私の写真撮影術 | 飯森山 | **カラマツの樹氷を観察(樹氷無し)** |
| | | 2019年<br>平成31年 | 2 | 新人卒業山行 | 新人 | **新人による山行計画と山行実施** |

## 編集後記

バックナンバーの「やまなみ」を読むのは面白い。まだ現役で山に登っていたころの先輩方はエネルギーにあふれ、写真の中の若々しさは青春そのもの。健脚への自信と自然への敬意と共に山を駆け、谷に分け入って「よいトレーニングになった」とこともなげにつぶやく、その清清しさがまぶしく、羨ましい。後年、今号も岳人あびこの仲間をまぶしく懐かしく思い出しながら読み返すことだろう。そう思うと、巻末資料も感想もまるごと「貴重な会の財産」に違いない。編集長を引き受けられた林さんには、深く感謝せずにはいられない。　中村育子

初めて、編集に携わりました。私の作業はほんの少しの作業でしたが大変さが良く分りました。16号まで出版に携わった仲間達に改めて感謝します。編集の仕事で、一足早く感想文を読める楽しさも味わいました。読み応えのある物ばかりでした。皆様も楽しめると思います。　矢野貞子

今回もやまなみの編集にかかわることができました。会員から送られてくる感想や記録、写真などを編集しながら、都合で参加できなかった山行では「この次は是非自分も行きたい。」と思ったり、参加した山行では楽しかった思い出やつらかった場面がよみがえってきます。

自分がリーダーとして計画する山行では、必ずバックナンバーを調べて計画づくりの参考にしています。やまなみは岳人あびこの「宝」だといつも思います。これからもやまなみの発行が続けられていくことを願います。　村越百々代

17号の編集にあたって、パソコンが二回にわたってトラブルが続き、買い替えと長期修理で延べ三か月以上何も出来ず本当に焦りました。こうして17号が発刊できたのは、中村育子さん、矢野貞子さん、村越さんの無言の力強いバックアップだと感謝しています。1996年からの山行も今回(2019年2月)で1101回を数え、毎回大勢の会員の方の投稿で作り上げていくこのやまなみ編集に携われたことは感慨無量です。　林　敏生


千葉県勤労者山岳連盟
岳人あびこ

山行文集　**やまなみ第１７号**

発行日　平成３１年６月７日
発行者　岳人あびこ　会長　高橋芳恵
千葉県我孫子市白山 2-19-20
編集者　会報部　やまなみ編集係　矢野貞子　村越百々代
中村育子　林　敏生
表紙　箕輪完二氏　中央アルプス　宝剣岳
裏表紙　室崎宏治氏　塩見岳の夕日
印刷所　太平洋印刷株式会社　（会員限り　非売品）

ホームページ　gakujin-abiko.com